
防災・減災に関するアンケート調査

平成 28 年 2 月

広 島 県

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 有効回答件数・回収率	1
4. 調査の方法	1
5. 調査の期間	1
6. 調査依頼機関	1
7. 調査報告書の読み方及び注意事項	1
II 回答者の属性	2
1. 居住している市区町	2
2-1. 住まいの地域	2
2-2. 住まいの場所や周囲の状況	2
3. 年齢(平成 27 年 4 月 1 日時点)	2
4. 性別	2
5. 主たる生活形態	3
6. 住まいの状況	3
7-1. 同居の家族について	3
7-2. 同居人のうち自力避難困難者の有無	3
8. 地域での防災活動への関わり	4
9. 町内会・自治会への加入有無、親密度	7
III 調査結果	10
1. 自然災害についての考え	10
2. 特に関心のある災害	13
3. 想定される災害の危険性	16
4-1. 災害の危険性を知ったきっかけ	19
4-2. 災害の危険性を知ろうと思ったきっかけ	22
4-3. 災害の危険性を確認した方法	25
5. 災害の危険性はないとした理由	28
6. 災害の危険性を知らない理由	31
7. 避難場所の確認	34
8. 避難場所が対応可能な災害	36
9. 災害の種類に応じた避難場所の確認	39
10. 避難場所の確認方法	41
11. 災害の種類に応じた避難経路の確認	44
12. 避難場所・経路を確認していない理由	50
13. 気象情報の名称とその意味の認知度	53
14-1. 避難情報の名称の認知度	63
14-2. 避難情報が発令された際に必要な行動の認知度	73
15. 土砂災害の前兆現象の認知度	83

16. 気象情報と避難情報の意味を知った手段	93
17. 大雨や台風の際に情報を入手する手段	96
18. 防災情報メールの認知度	99
19. 防災情報メールに登録しない理由	101
20. 避難行動を開始するきっかけ	104
21. 避難行動についてわからない・行わない理由	107
22. 避難行動のうち知っているもの	110
23. 災害時に地域で避難を呼びかける体制の有無	114
24. 防災活動の参加有無	118
25. 防災活動の参加内容・参加意向	121
26. 防災活動に参加しなかった理由	125
27. 防災活動の有効な告知方法	128
28. 「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」への参加有無	131
29. 「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」への参加をきっかけに取り組んだこと	134
30. 「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」への参加しなかった理由	137
31. 「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」の実施を知っていたら参加したか	140
32. 災害に備えて行う事柄の重要度	142
33. 災害に備えての準備を行っていない理由	153
34. 自宅の耐震診断の実施の有無	168
35. 自宅の耐震診断の結果を受けた対策について	170
36. 平成 26 年 8 月 20 日の土砂災害以降、備えの有無	173
37. 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度	175
38. 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけ	177
IV 調査票	180

I 調査の概要

1. 調査の目的

広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の成果目標の達成度を把握するとともに、県民が防災・減災に関する行動に移る動機や行動内容、情報の入手手段等の実態を把握・分析し、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の次年度以降の具体的な取り組みに反映することを目的とする。

2. 調査対象

広島県内在住の満 20 歳以上の男女 10,000 人
抽出法：層化 2 段階無作為抽出法（選挙人名簿により抽出）

3. 有効回答件数・回収率

調査対象件数	10,000 件
有効回答件数	5,562 件
回収率	55.6%

4. 調査の方法

郵送にて調査票を配布、回収。（督促状 1 回送付）

5. 調査の期間

平成 27 年 10 月 9 日～10 月 26 日

6. 調査依頼機関

株式会社東京商工リサーチ

7. 調査報告書の読み方及び注意事項

- 図表中の構成比率は、小数点第 2 位以下を四捨五入している。
- 複数回答の設問は、回答が 2 つ以上ありうるため、合計は 100%を超えることもある。
- 図表中の「N」とは回答件数の総数のことで、100%が何件の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 無回答の母数が 0 だった場合はグラフ・表に表示していない場合がある。
- 問 4-1、問 4-2、問 16、問 25、問 37 で、上位 3 項目は無回答を除いて表示している。
- 一部の設問について、分類別のグラフでは選択肢を省略して表示している。

Ⅱ 回答者の属性

1 居住している市区町

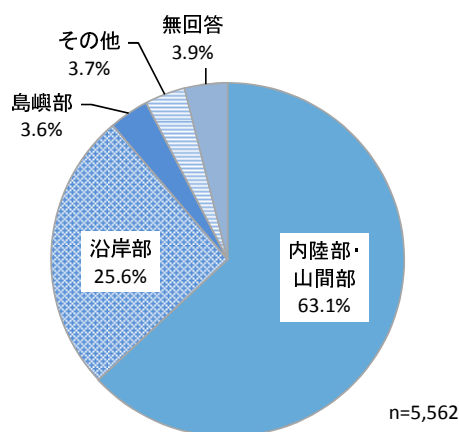
	回答件数	計
全体	5,562	100

広島市計	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
1,926	212	227	246	285	367	252	133	204
34.6	3.8	4.1	4.4	5.1	6.6	4.5	2.4	3.7

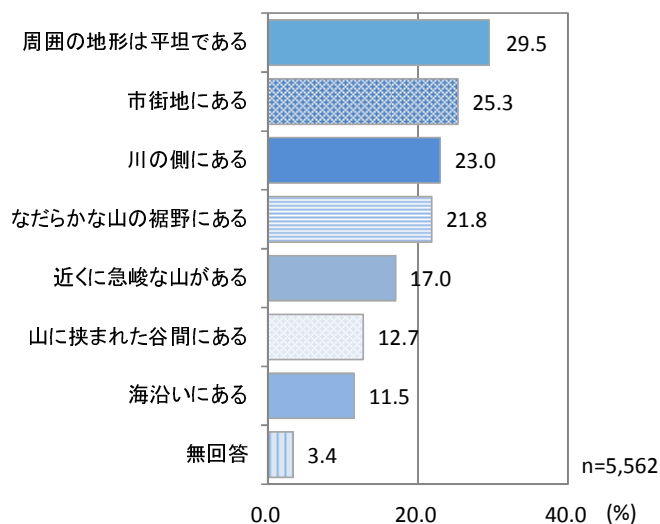
呉市	竹原市	三原市	尾道市	福山市	府中市	三次市	庄原市	大竹市	東広島市	廿日市市
407	69	220	264	815	83	297	197	52	314	217
7.3	1.2	4.0	4.7	14.7	1.5	5.3	3.5	0.9	5.6	3.9

安芸高田市	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町	安芸太田町	北広島町	大崎上島町	世羅町	神石高原町	無回答
65	57	94	43	39	32	28	34	38	42	43	186
1.2	1.0	1.7	0.8	0.7	0.6	0.5	0.6	0.7	0.8	0.8	3.3

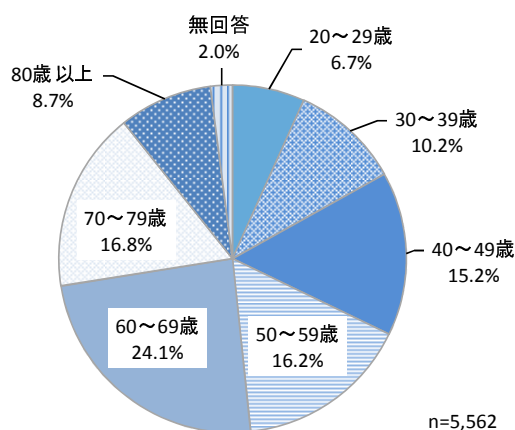
2-1 住まいの地域



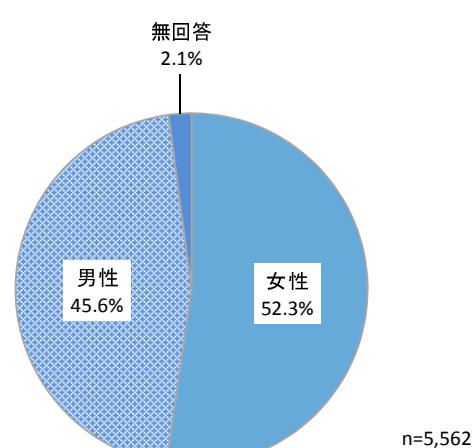
2-2 住まいの場所や周囲の状況



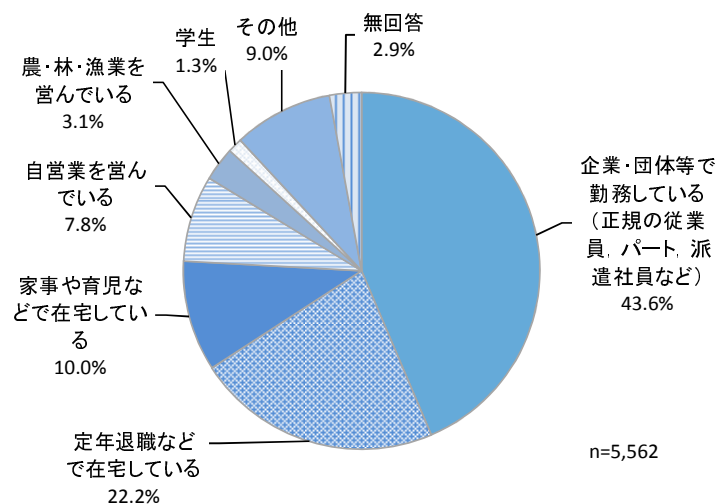
3 年齢（平成27年4月1日時点）



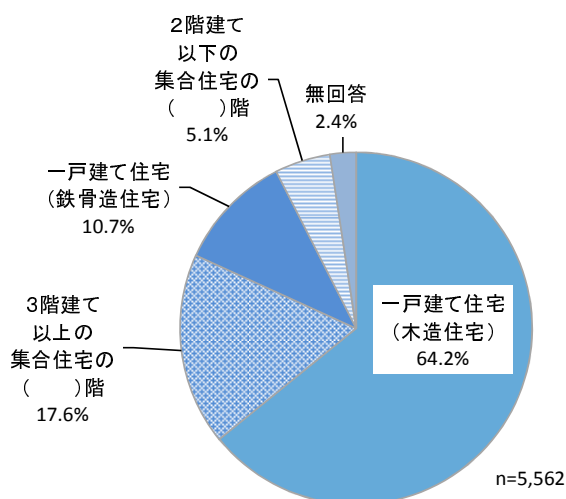
4 性別



5 主たる生活形態

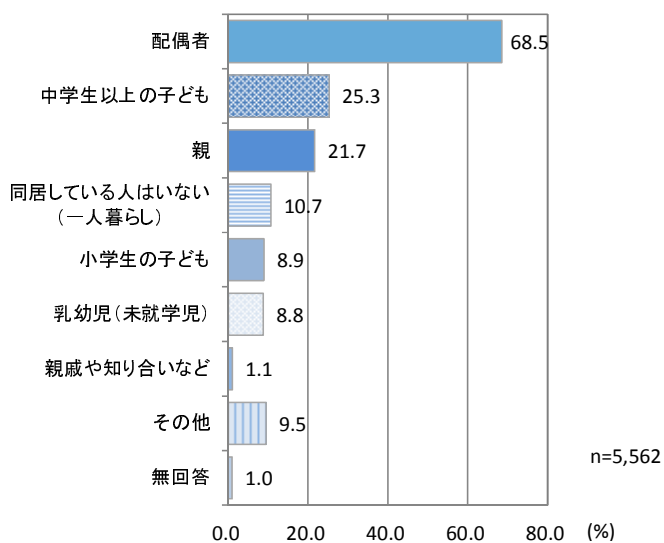


6 住まいの状況

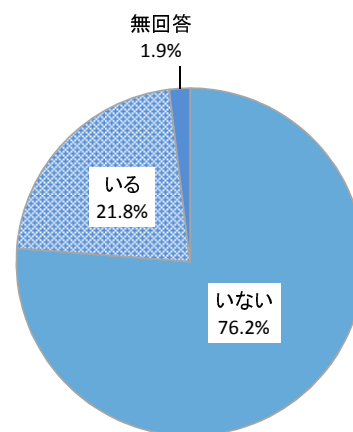


	2階建て以下の集合住宅	3階建て以上の集合住宅
1階	115	89
2階	148	165
3階		186
4階		140
5階		94
それ以上		295
無回答	21	12

7-1 同居の家族について

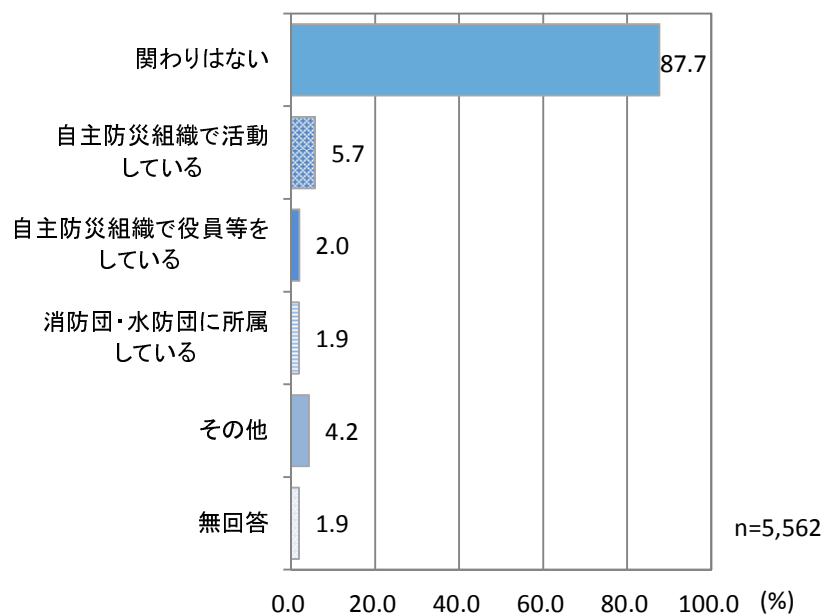


7-2 同居人のうち 自力避難困難者の有無



8 地域での防災活動への関わり

「関わりはない」(87.7%)が最も多く9割弱となっている。防災活動へ参加している人の中では「自主防災組織で活動している」(5.7%)、「自主防災組織で役員等をしている」(2.0%)、「消防団・水防団に所属している」(1.9%)の順に多い。



その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・町内会・自治会等（79件）
- ・家族が自主防災組織・消防団・水防団に所属している（18件）
- ・以前自主防災組織・消防団・水防団に所属していた（17件）
- ・高齢、学生、病気のため所属できない（9件）等

<年代別>

「関わりはない」が全ての年代で最も多く 8 割～9 割となっている。「自主防災組織で活動している」、「自主防災組織で役員等をしている」は「70～79 歳」で多くみられた。

		回答 件数 計	自主 防災 組織 で活 動し て い る	自主 防災 組織 で役 員等 をし て い る	消 防 団・ 水防 団に 所 属 し て い る	関 わ り は な い	そ の 他	無 回 答
全体		5,458	312 5.7	107 2.0	101 1.9	4,784 87.7	231 4.2	104 1.9
年代別	20～29歳	374	7 1.9	1 0.3	9 2.4	353 94.4	7 1.9	1 0.3
	30～39歳	564	8 1.4	2 0.4	15 2.7	537 95.2	6 1.1	2 0.4
	40～49歳	843	29 3.4	0 0.0	22 2.6	776 92.1	22 2.6	4 0.5
	50～59歳	900	47 5.2	17 1.9	23 2.6	794 88.2	31 3.4	1 0.1
	60～69歳	1,318	103 7.8	45 3.4	10 0.8	1,127 85.5	55 4.2	25 1.9
	70～79歳	905	83 9.2	33 3.6	7 0.8	727 80.3	72 8.0	28 3.1
	80歳以上	450	26 5.8	3 0.7	9 2.0	384 85.3	35 7.8	34 7.6

<男女別>

「関わりはない」が最も多いが、「女性」より「男性」の方が「自主防災組織で活動している」、「自主防災組織で役員等をしている」、「消防団・水防団に所属している」の回答が多い。

		回答 件数 計	自主 防災 組織 で活 動し て い る	自主 防災 組織 で役 員等 をし て い る	消 防 団・ 水防 団に 所 属 し て い る	関 わ り は な い	そ の 他	無 回 答
全体		5,458	312 5.7	107 2.0	101 1.9	4,784 87.7	231 4.2	104 1.9
性別	男性	2,510	167 6.7	73 2.9	76 3.0	2,134 85.0	96 3.8	28 1.1
	女性	2,841	136 4.8	28 1.0	19 0.7	2,562 90.2	132 4.6	67 2.4

<生活形態別>

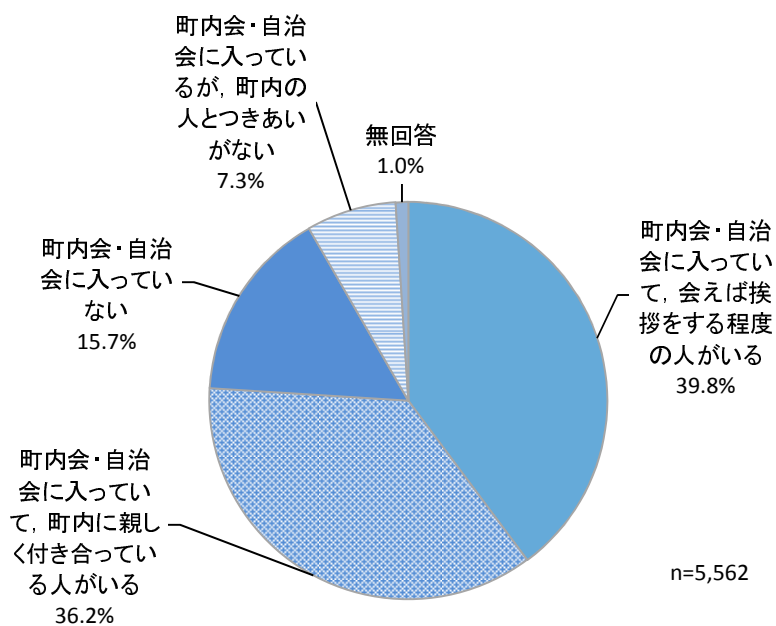
「関わりはない」が全ての分類で最も多いが、「農林漁業」では「自主防災組織で活動している」が13.8%と唯一1割を超えた。

		回答 件数 計	自主 防災 組織 で活 動し てい る	自主 防災 組織 で役 員等 をし てい る	消 防団 ・水 防団 に所 属し てい る	関 わり はな い	そ の 他	無 回 答
	全体	5,458	312 5.7	107 2.0	101 1.9	4,784 87.7	231 4.2	104 1.9
生活 形態 別	企業・団体勤務	2,414	100 4.1	36 1.5	57 2.4	2,179 90.3	71 2.9	11 0.5
	自営業	423	30 7.1	12 2.8	13 3.1	360 85.1	12 2.8	12 2.8
	農林漁業	167	23 13.8	5 3.0	10 6.0	116 69.5	18 10.8	4 2.4
	家事や育児で在宅	544	24 4.4	3 0.6	2 0.4	509 93.6	10 1.8	14 2.6
	学生	73	3 4.1	0 0.0	0 0.0	69 94.5	1 1.4	0 0.0
	定年退職などで在宅	1,209	99 8.2	37 3.1	8 0.7	1,021 84.4	64 5.3	28 2.3
	その他	482	21 4.4	8 1.7	5 1.0	407 84.4	51 10.6	20 4.1

9 町内会・自治会への加入有無、親密度

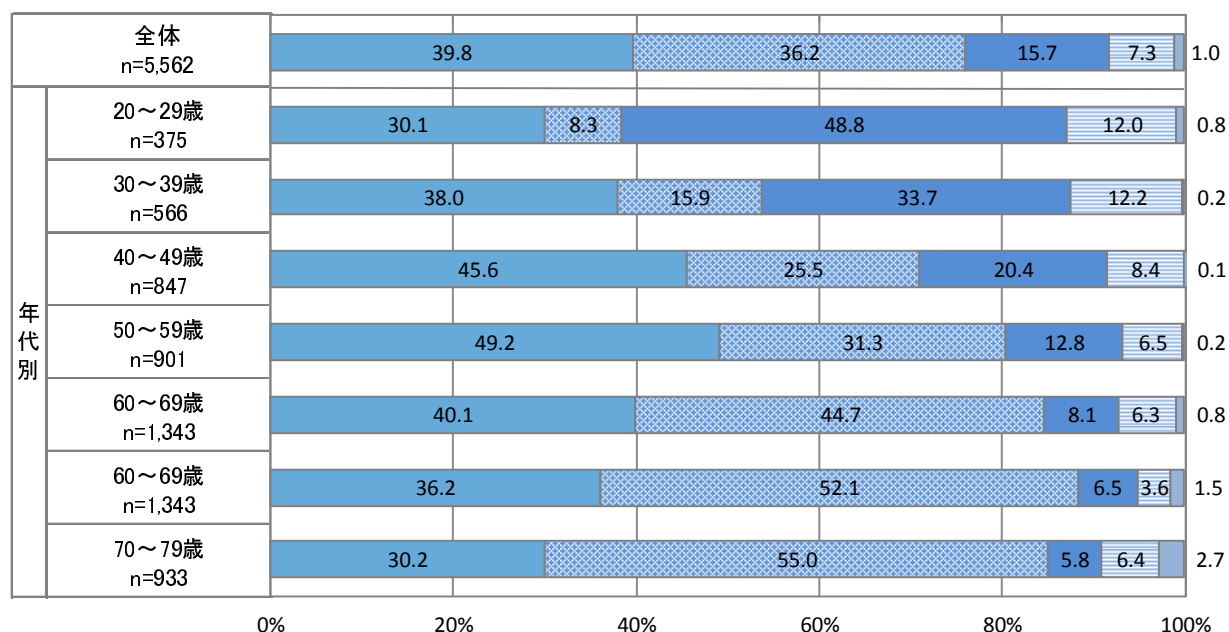
「町内会・自治会に入っている」は83.3%となっており、そのうち、「町内会・自治会に入っていて、会えば挨拶をする程度の人がいる」(39.8%)、「町内会・自治会に入っていて、町内に親しく付き合っている人がある」(36.2%)の順に多い。

「町内会・自治会に入っていない」は15.7%となっている。



<年代別>

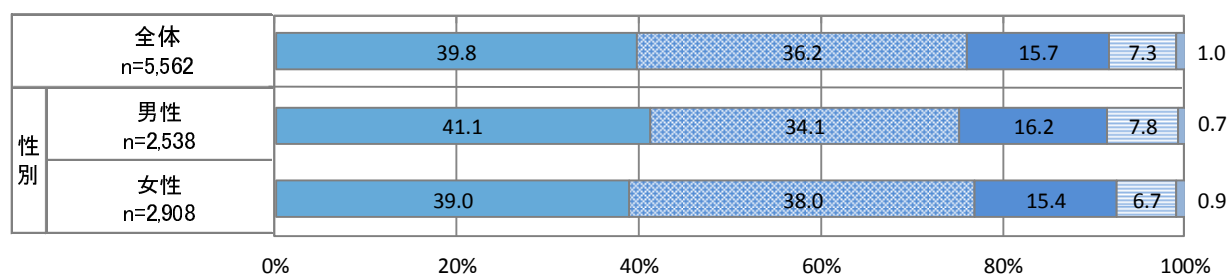
『町内会・自治会に入っている』は「50～59 歳」以上の年代で 8 割を超えている。



■ 町内会・自治会に入っている
 ■ 町内会・自治会に入っていて、
会えば挨拶をする程度の人がいる
 ■ 町内会・自治会に入っていない
 ■ 町内会・自治会に入っているが、
町内の人とつきあいがない
 ■ 無回答

<男女別>

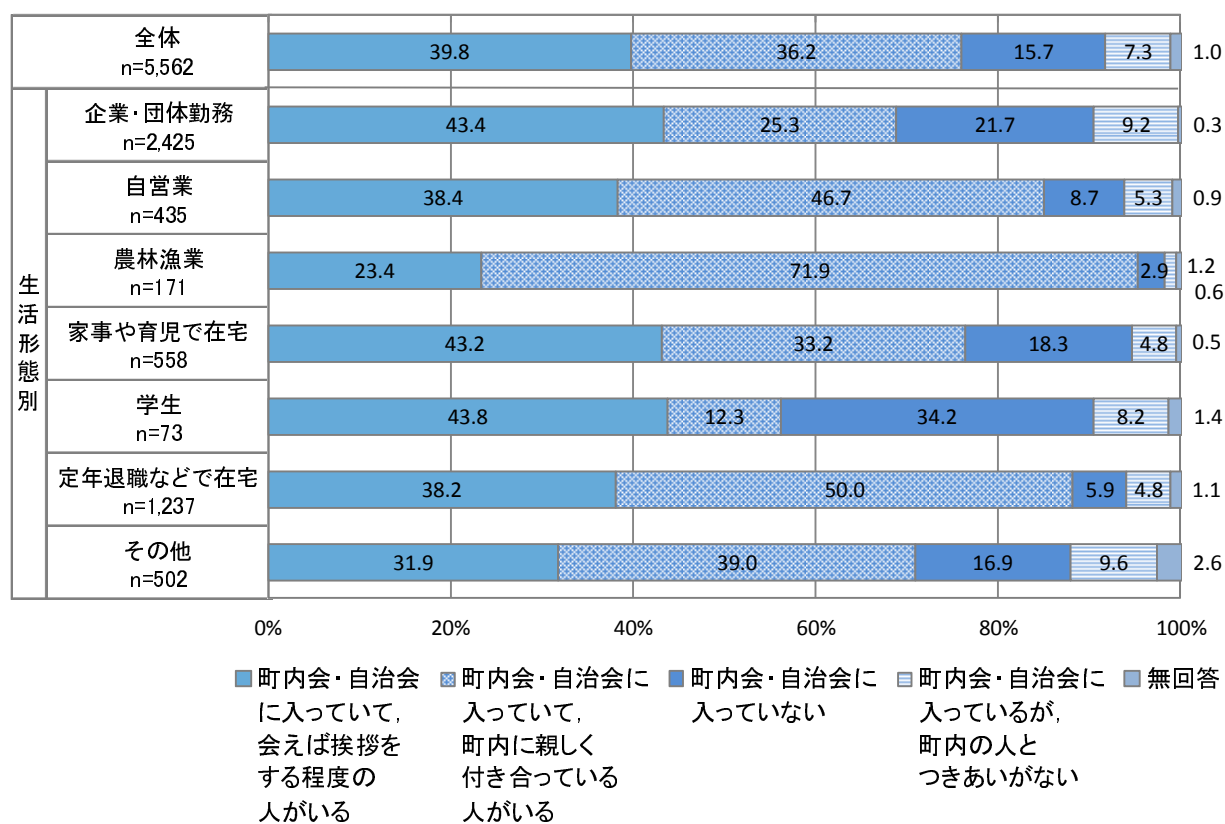
男女とも『町内会・自治会に入っている』は 8 割を超えている。



■ 町内会・自治会に入っている
 ■ 町内会・自治会に入っていて、
会えば挨拶をする程度の人がいる
 ■ 町内会・自治会に入っていない
 ■ 町内会・自治会に入っているが、
町内の人とつきあいがない
 ■ 無回答

<生活形態別>

『町内会・自治会に入っている』は「農林漁業」で最も多く 96.5%となっている。「自営業」、「定年退職などで在宅」では 9 割台となっている。



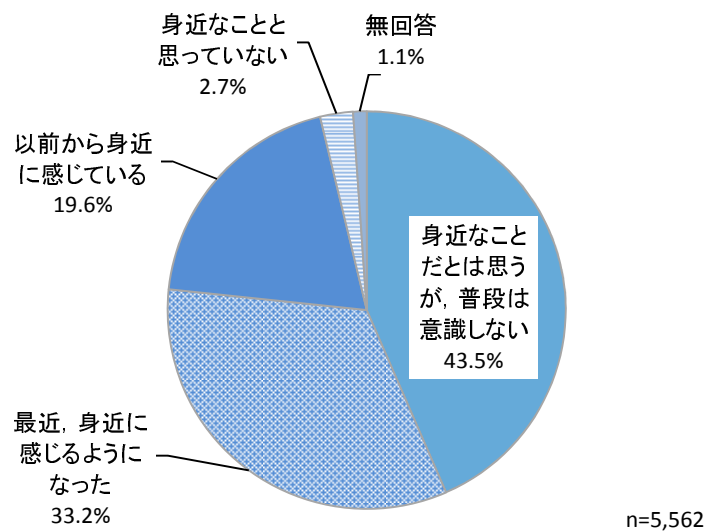
Ⅲ 調査結果

災害への関心について

自然災害についての考え

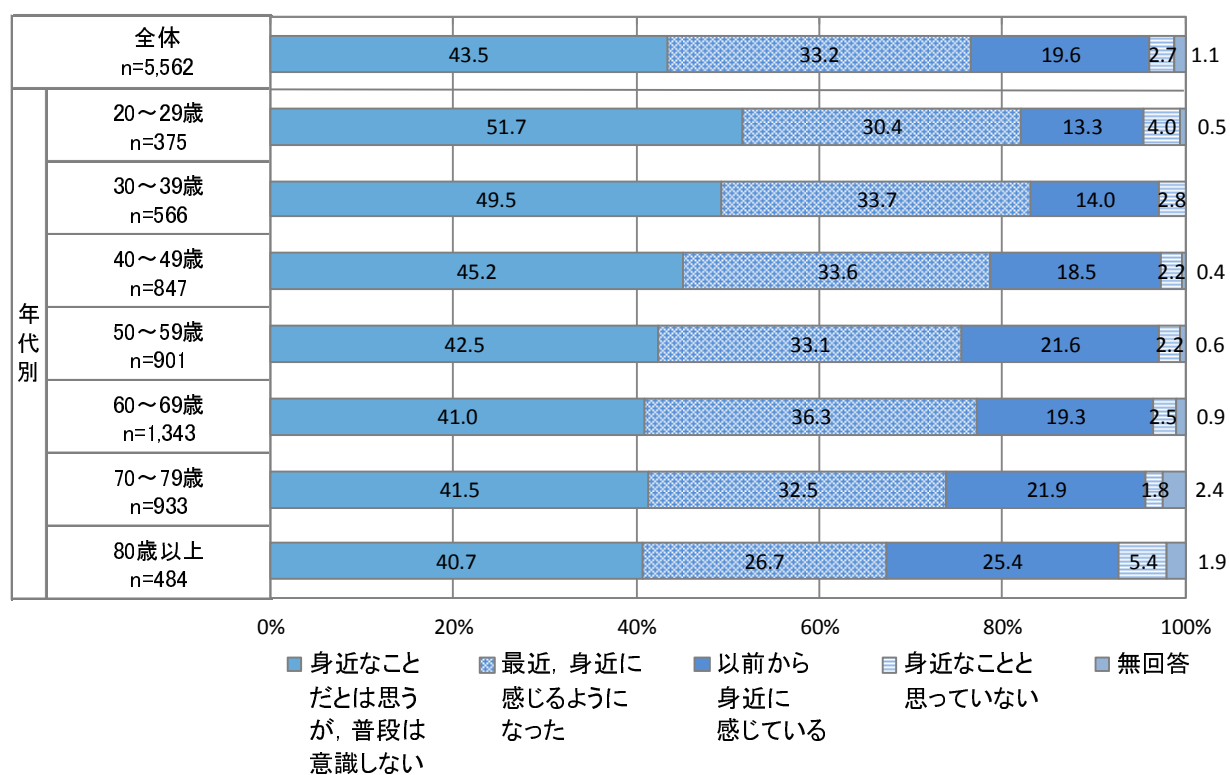
問 1. 自然災害についての考えをお答えください。（単一回答）

「身近なことだとは思うが、普段は意識しない」（43.5%）、「最近、身近に感じるようになった」（33.2%）、「以前から身近に感じている」（19.6%）の順に多い。



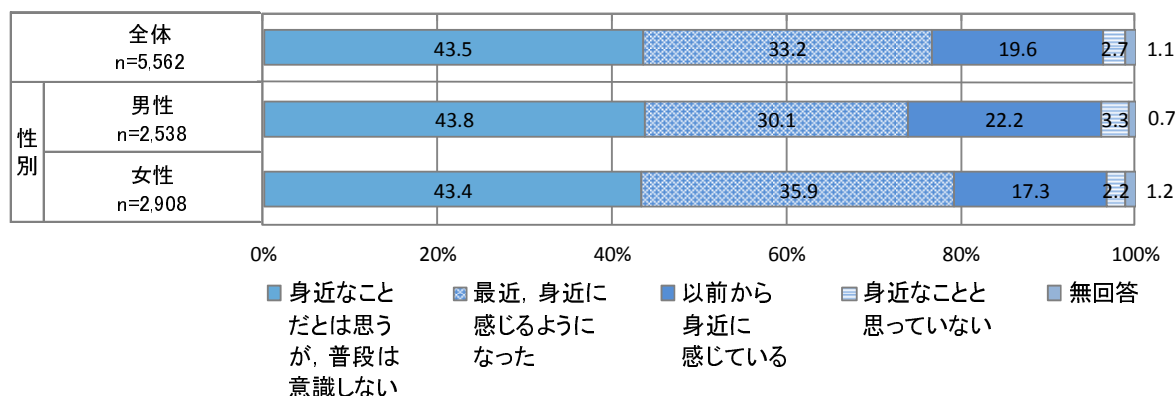
＜年代別＞

「60～69 歳」を除き、年代が上がるにつれ「以前から身近に感じている」の割合が高くなっている。



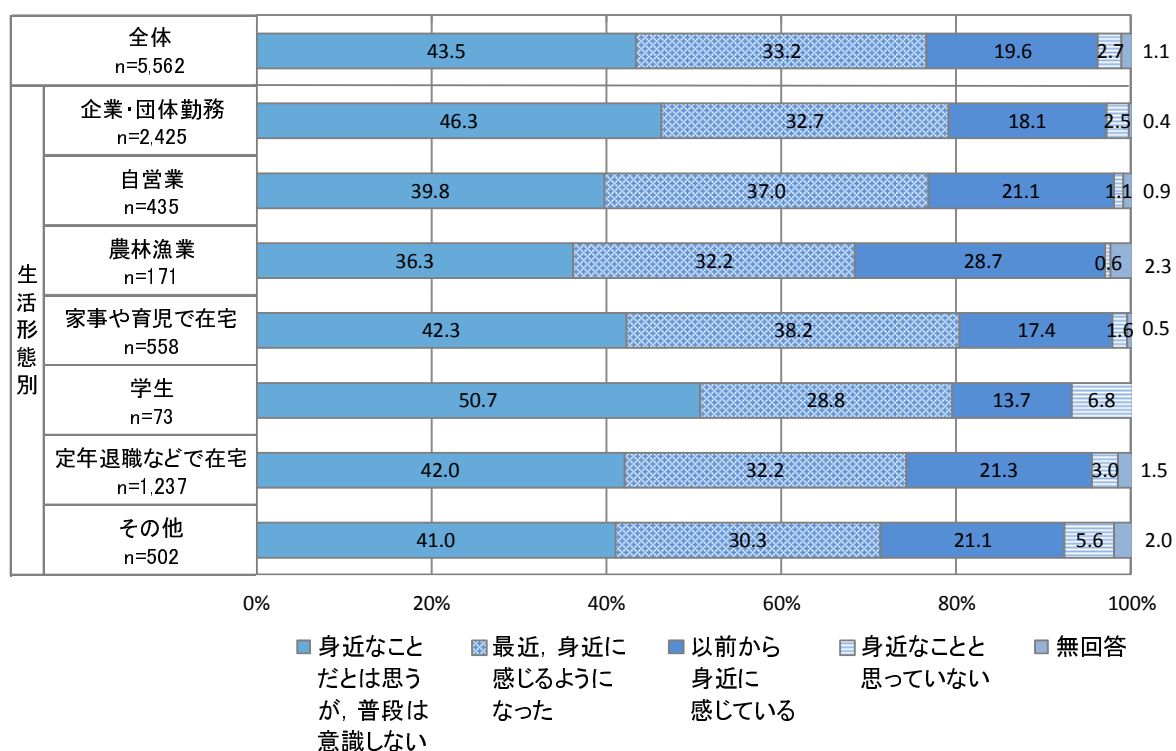
＜男女別＞

「以前から身近に感じている」の割合は「男性」が「女性」を 4.9 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

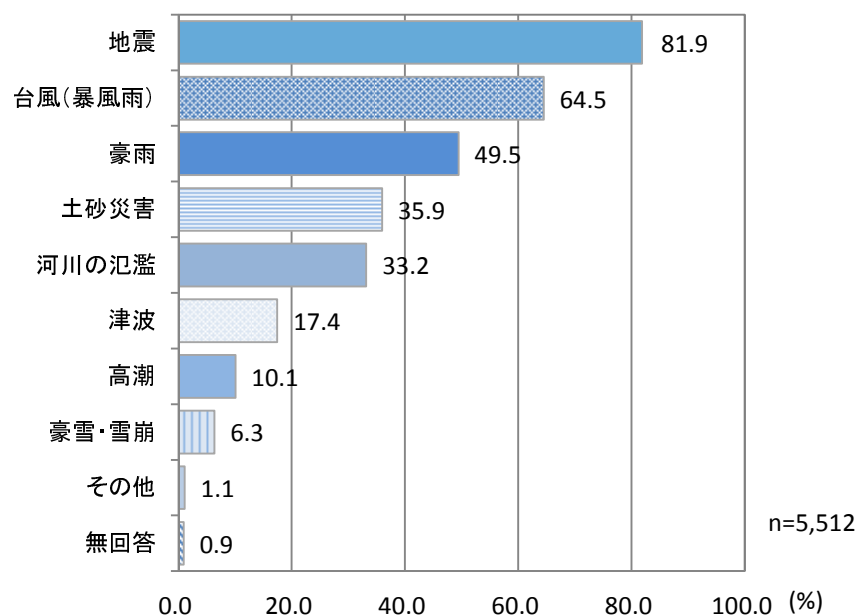
「農林漁業」で「以前から身近に感じている」の割合が高く、他の割合が 1 割～2 割強となっているのに対し 3 割弱となっている。



特に関心のある災害

問 2. あなたは、どの災害について特に知りたいと思っていますか。（複数回答）

「地震」81.9%、「台風(暴風雨)」64.5%、「豪雨」49.5%の順に多い。

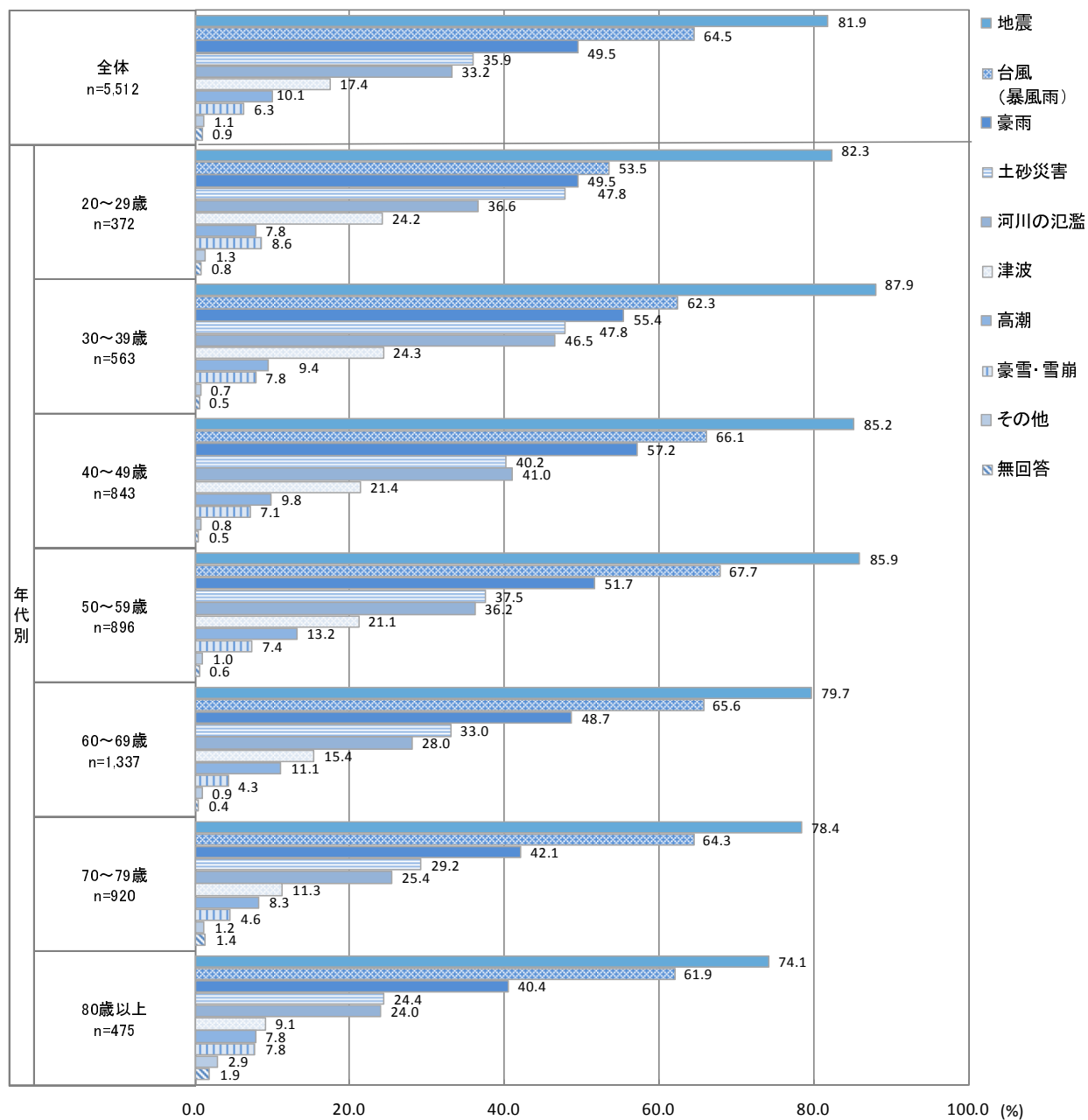


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・ 竜巻・雷（9 件）
- ・ 噴火・山くずれ（8 件）
- ・ 火災（6 件）
- ・ 項目全て（4 件）
- ・ 溜池の氾濫
- ・ 原子力発電所の事故
- ・ 水不足 等

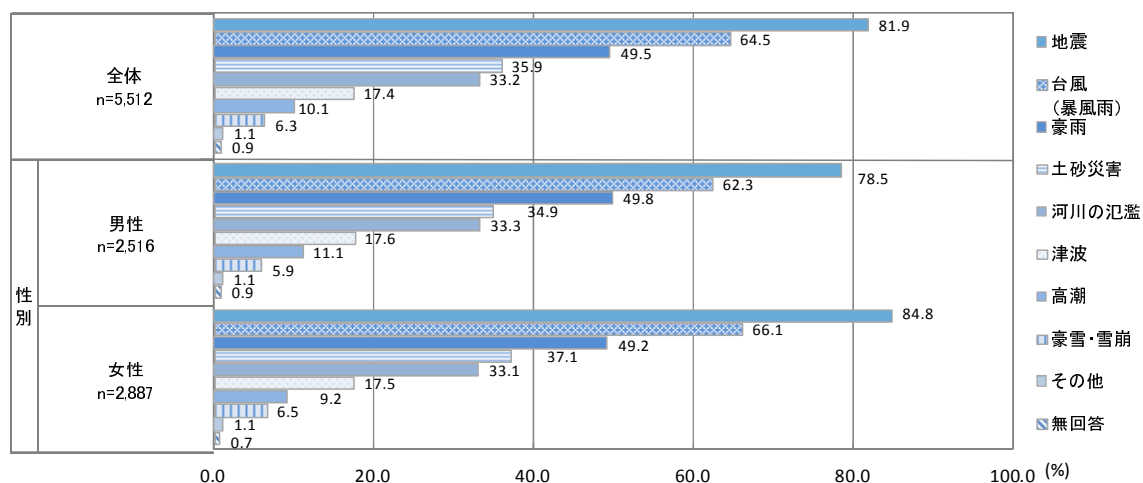
<年代別>

年代による差はあまりみられない。



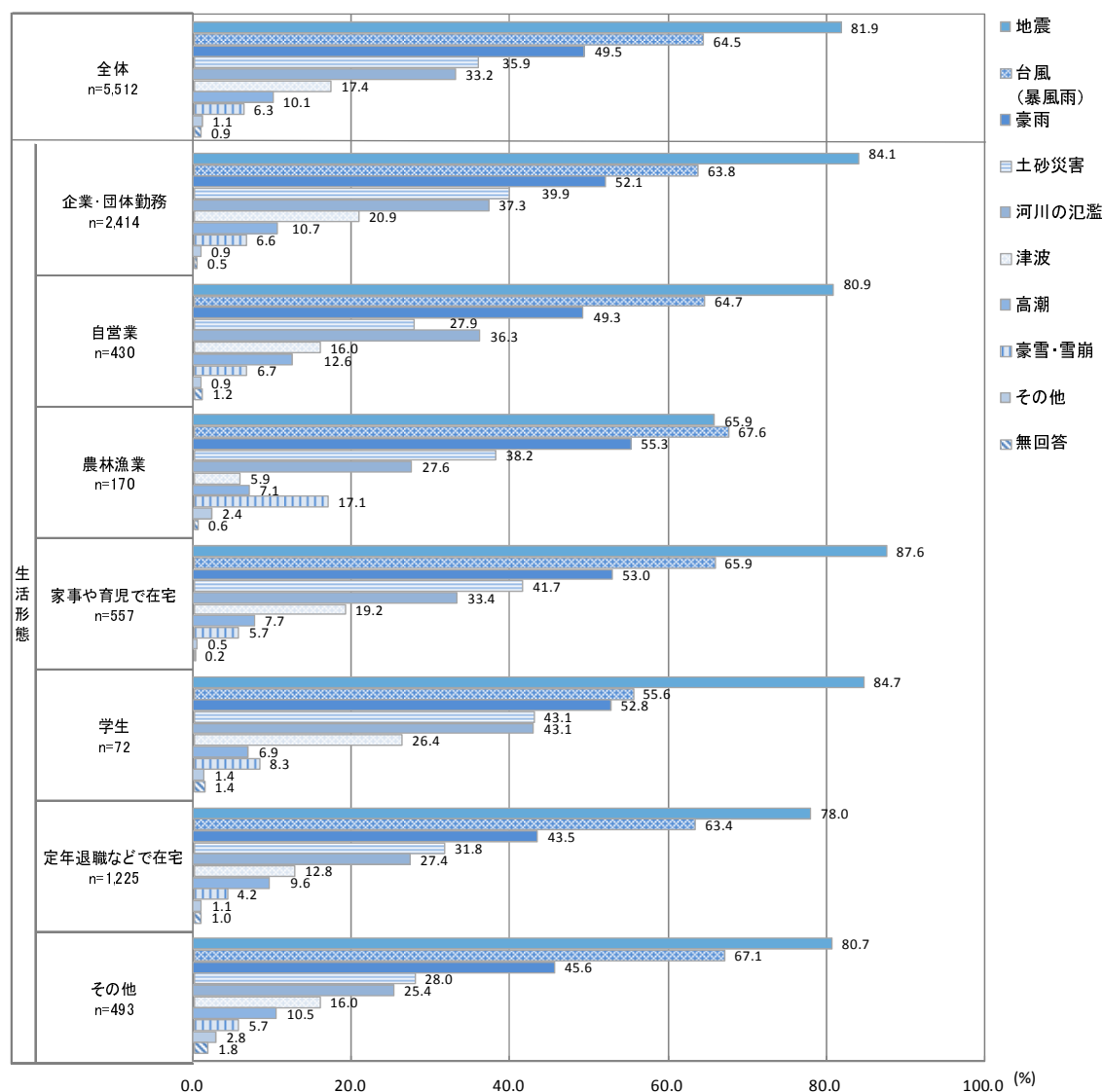
<男女別>

「地震」で男女の差が最も大きく、「女性」が「男性」を 6.3 ポイント上回っている。



<生活形態別>

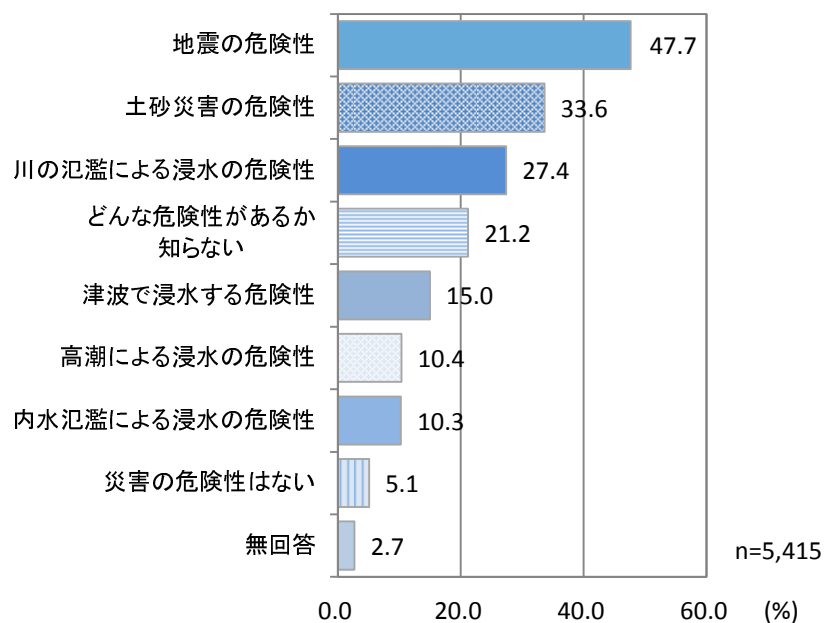
「家事や育児で在宅」で「地震」への関心が 9 割弱と最も高く、最も低い「農林漁業」の 6 割台半ばとは 21.7 ポイントの差がみられる。



想定される災害の危険性

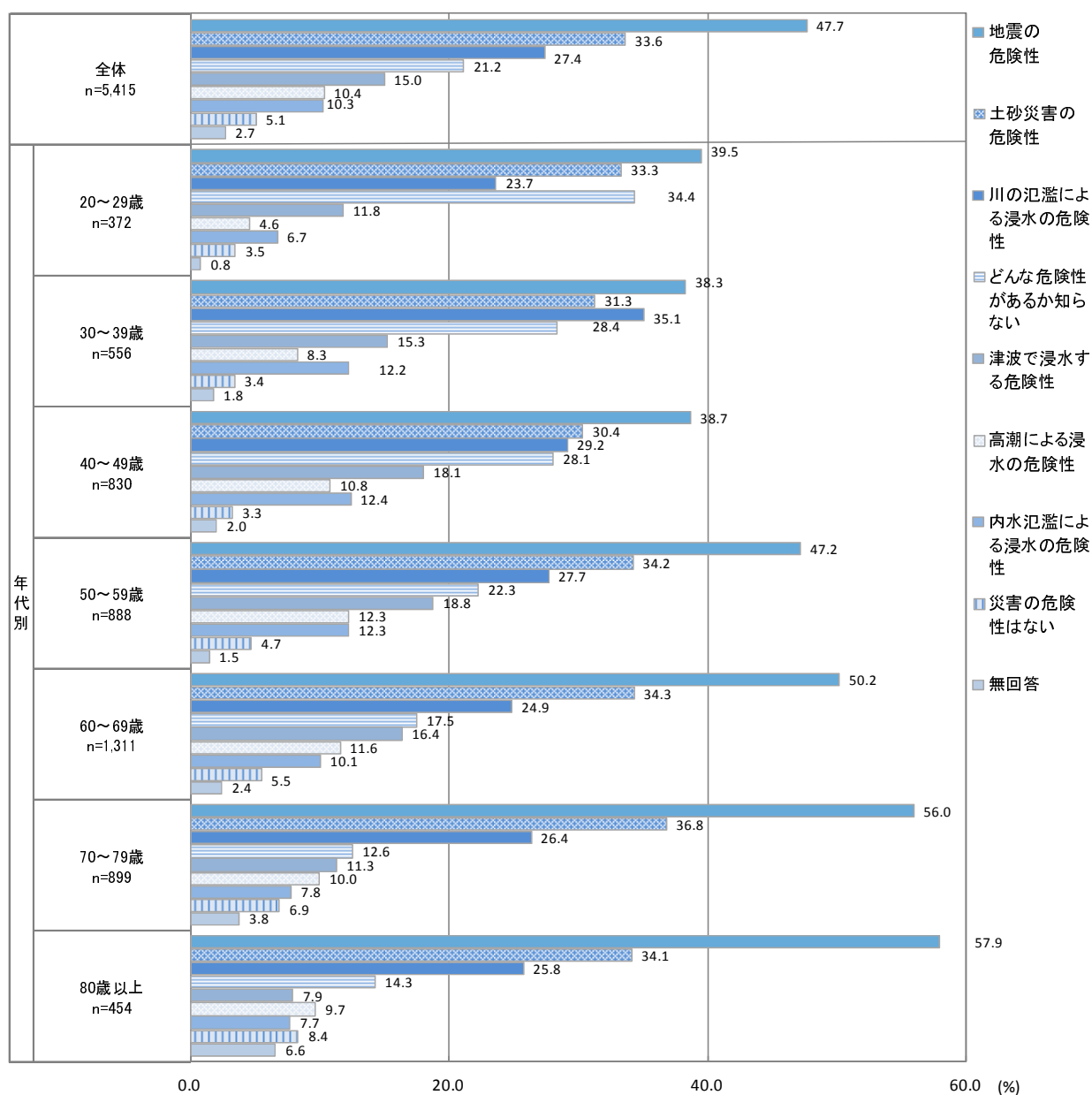
問 3. あなたの身の周りで、どのような災害の危険性が想定されているか御存知ですか。
(災害の危険性はない又はどんな危険性があるか知らない以外は複数回答)

「地震」(47.7%)、「土砂災害」(33.6%)、「川の氾濫による浸水」(27.4%)の順に多い。なお、「どんな危険性があるか知らない」は21.2%で、身の回りでどのような災害の危険性が想定されているか認知されていない割合は2割強となっている。



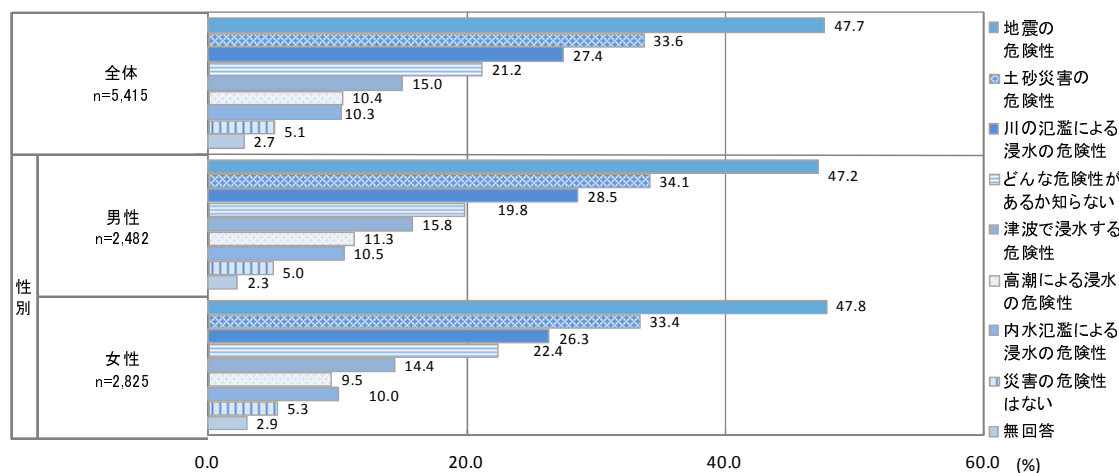
＜年代別＞

「どんな危険性があるか知らない」は「20～29 歳」で 34.4%と最も多いが、年代が上がるにつれ少なくなっており、「80 歳以上」では 14.3%となっている。



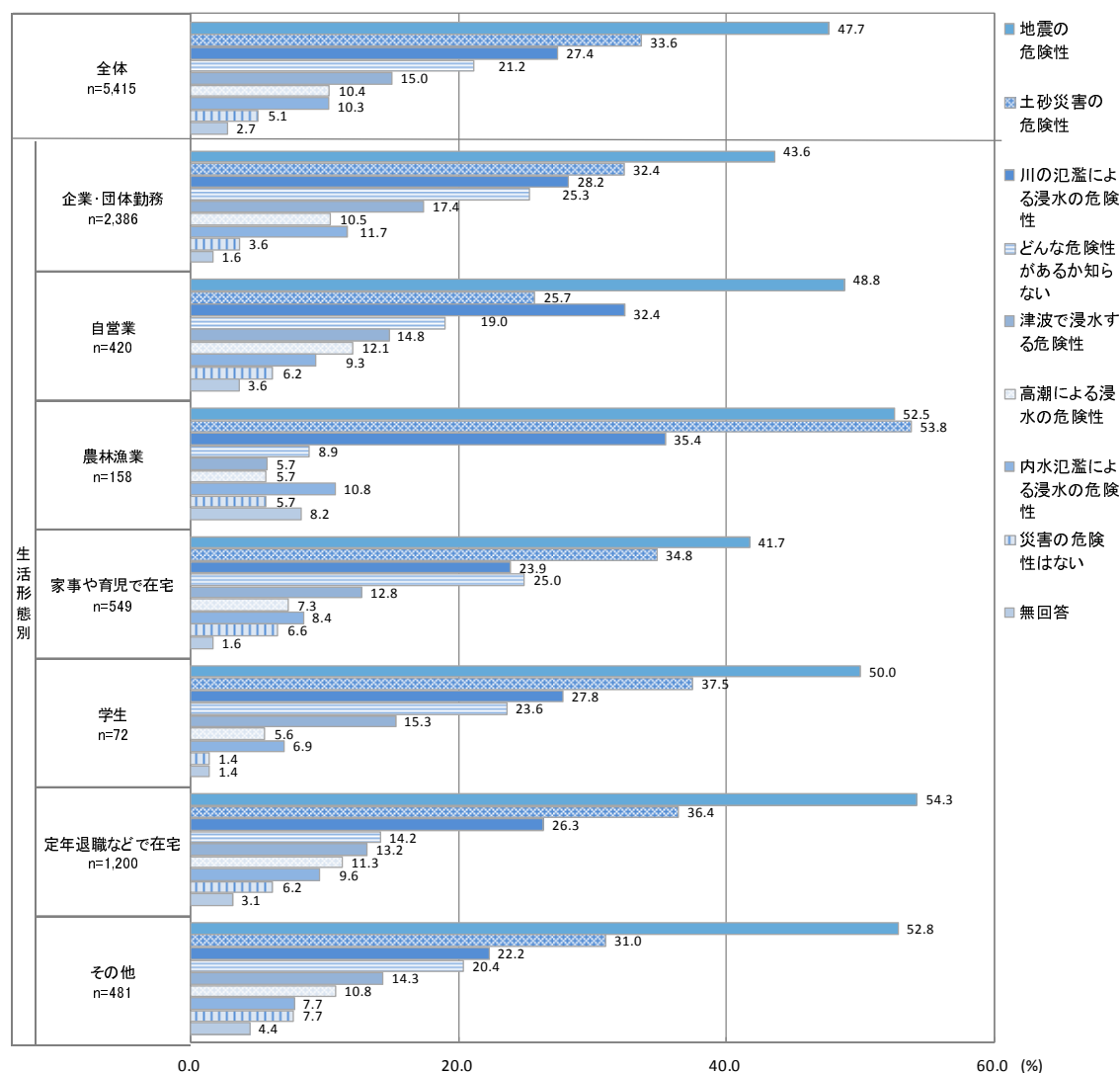
＜男女別＞

「どんな危険性があるか知らない」は男女ともに２割前後となっており、女性が男性を2.6ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

「どんな危険性があるか知らない」は「企業・団体勤務」(25.3%)、「家事や育児で在宅」(25.0%)の順に多い。「農林漁業」は１割弱(8.9%)となっており、他の分類に比べ少ない。



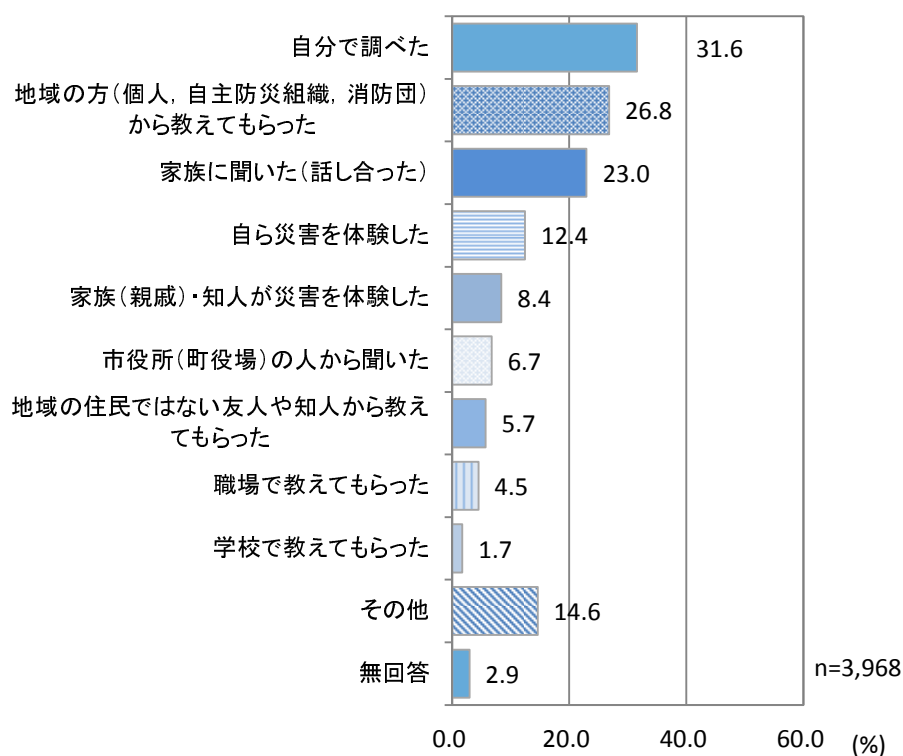
災害の危険性を知ったきっかけ

問 4-1.問 3 で「1～6」を回答した人にお尋ねします。

災害の危険性は、どのようなきっかけで知りましたか。（複数回答）

「自分で調べた」（31.6%）、「地域の方（個人、自主防災組織、消防団）から教えてもらった」（26.8%）、「家族に聞いた（話し合った）」（23.0%）の順に多い。

自発的に調べた以外では、地域や家族といった身近な人からの情報をきっかけとした回答が多くなっている。



その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・メディア（190 件）
- ・居住環境から（80 件）
- ・ハザードマップ（74 件）
- ・市町の広報（68 件）
- ・過去の経験から（50 件）
- ・仕事柄知っている
- ・自分で考えた 等

<年代別>

「30～39 歳」から「50～59 歳」では「自分で調べた」が 3 割台半ば～4 割強となっており、自発的に調べた人が最も多い。「20 歳～29 歳」では「家族に聞いた（話し合った）」が 4 割弱、「60～69 歳」より上の年代では「地域の方（個人，自主防災組織，消防団）から教えてもらった」が 3 割台と最も多く、身近な人からの情報をきっかけとした回答が多い。

	回答 件数 計	自分 で調 べた	家 族に 聞い た（話 し 合 つ た）	地 域の 方（個 人，自 主防 災組 織）	地 域の 方（個 人，自 主防 災組 織）	市 役所 （町 役場） の	職 場 で 教 え て ら つ	学 校 で 教 え て ら つ	自 ら 災 害 を 体 験 し た	家 族 （親 戚） ・知 人	そ の 他	無 回 答
全体	3,968	1,254 31.6	911 23.0	1,063 26.8	226 5.7	267 6.7	178 4.5	69 1.7	493 12.4	333 8.4	579 14.6	117 2.9
年 代 別	20～29歳	230 27.4	88 38.3	20 8.7	8 3.5	5 2.2	19 8.3	32 13.9	21 9.1	12 5.2	38 16.5	2 0.9
	30～39歳	381 41.2	102 26.8	67 17.6	18 4.7	10 2.6	21 5.5	10 2.6	21 5.5	28 7.3	56 14.7	1 0.3
	40～49歳	566 39.4	118 20.8	120 21.2	34 6.0	14 2.5	38 6.7	16 2.8	62 11.0	38 6.7	87 15.4	8 1.4
	50～59歳	649 34.1	138 21.3	161 24.8	35 5.4	38 5.9	39 6.0	4 0.6	75 11.6	45 6.9	108 16.6	5 0.8
	60～69歳	1,007 29.4	212 21.1	302 30.0	53 5.3	86 8.5	48 4.8	7 0.7	144 14.3	99 9.8	131 13.0	23 2.3
	70～79歳	710 27.0	146 20.6	259 36.5	46 6.5	73 10.3	10 1.4	0 0.0	98 13.8	64 9.0	100 14.1	43 6.1
	80歳以上	344 22.7	86 25.0	104 30.2	28 8.1	33 9.6	1 0.3	0 0.0	61 17.7	38 11.0	43 12.5	32 9.3

<性別>

男女とも上位 3 項目は同様であるが、「男性」では「自分で調べた」（36.9%）という自発的な行動が、「女性」では「地域の方（個人，自主防災組織，消防団）から教えてもらった」（28.4%）と、身近な人からの情報をきっかけとした回答が最も多い。

		回 答 件 数 計	自 分 で 調 べ た	家 族 に 聞 い た （ 話 し 合 っ た ）	地 域 の 方 （ 個 人 ， 主 防 災 組 織 ）	地 域 の 住 民 で は な い 友 人 や 知 ら な い 人 から 知
--	--	-----------------------	----------------------------	---	--	--

＜生活形態別＞

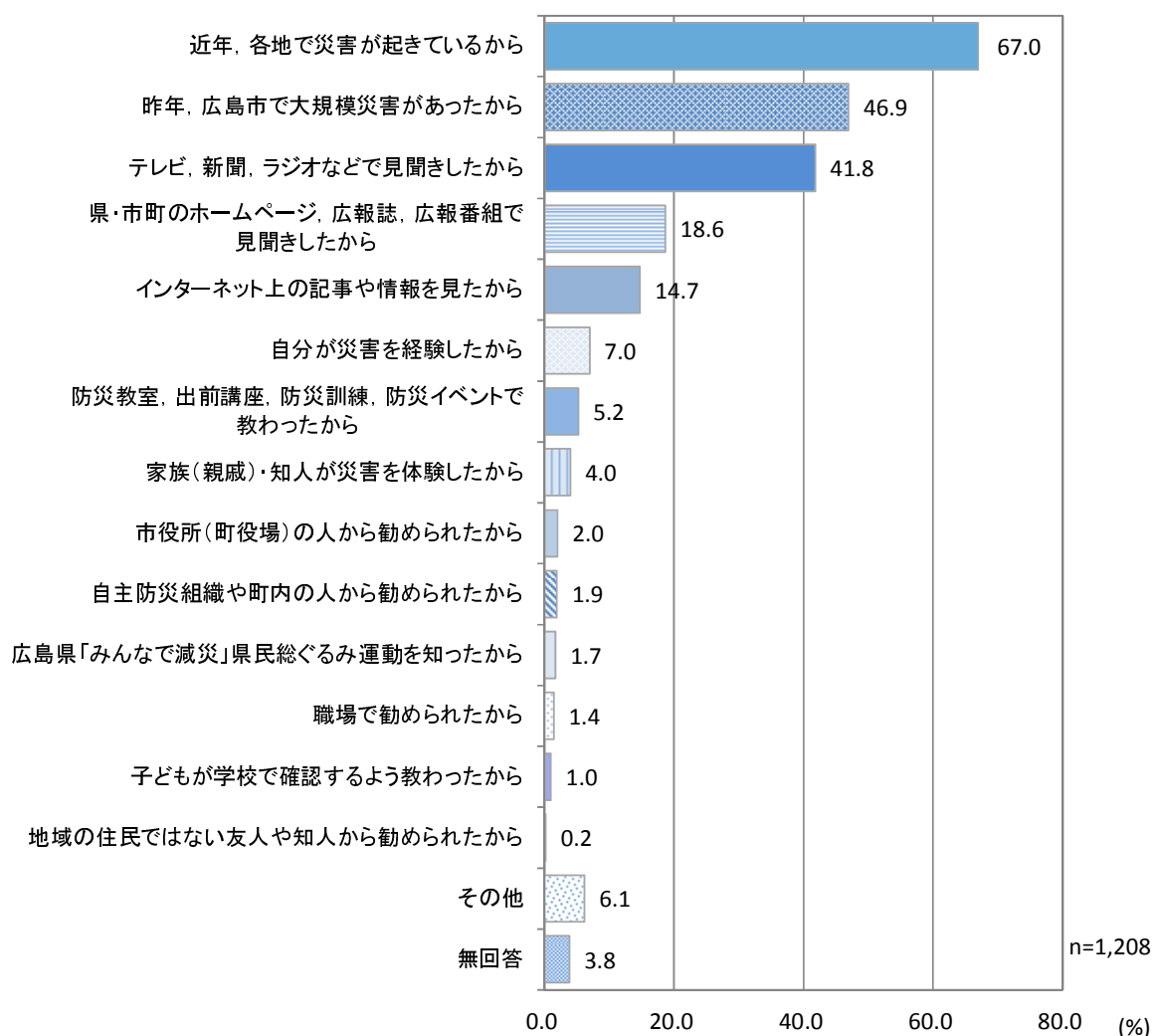
「学生」の「学校で教えてもらった」を除き、全ての分類で上位３項目は同様である。
「自分で調べた」という自発的な行動は「企業・団体勤務」(35.5%)、「自営業」(30.4%)
で多くなっている。

	回答 件数 計	自分 で調 べた	家族 に聞 いた (話し 合っ た)	地域 の方 から 教え られ た (自治 会、 消防 団、 など)	地域 の人 から 教え られ た (近 所、 知人 など)	市役 所・ 町役 場の 人か ら聞 いた	職場 で教 えて もら った	学校 で教 えて もら った	自ら 災害 を体 験し た	家族 (親 戚・ 知人 など) から 教え られ た	その他	無 回 答
全体	3,968	1,254 31.6	911 23.0	1,063 26.8	226 5.7	267 6.7	178 4.5	69 1.7	493 12.4	333 8.4	579 14.6	117 2.9
生活形態別												
企業・団体勤務	1,694	602 35.5	391 23.1	370 21.8	93 5.5	80 4.7	145 8.6	39 2.3	196 11.6	110 6.5	237 14.0	17 1.0
自営業	312	95 30.4	66 21.2	95 30.4	18 5.8	21 6.7	6 1.9	4 1.3	41 13.1	30 9.6	36 11.5	9 2.9
農林漁業	132	40 30.3	40 30.3	49 37.1	4 3.0	18 13.6	2 1.5	0 0.0	22 16.7	20 15.2	12 9.1	6 4.5
家事や育児で在宅	367	110 30.0	89 24.3	105 28.6	17 4.6	20 5.4	3 0.8	7 1.9	39 10.6	39 10.6	56 15.3	12 3.3
学生	54	10 18.5	23 42.6	4 7.4	1 1.9	1 1.9	0 0.0	16 29.6	3 5.6	1 1.9	9 16.7	0 0.0
定年退職などで在宅	951	280 29.4	187 19.7	312 32.8	63 6.6	99 10.4	13 1.4	1 0.1	139 14.6	83 8.7	124 13.0	43 4.5
その他	344	85 24.7	84 24.4	89 25.9	22 6.4	19 5.5	3 0.9	1 0.3	42 12.2	35 10.2	82 23.8	20 5.8

災害の危険性を知ろうと思ったきっかけ

問 4-2.問 4 の（1）で災害の危険性を「1 自分で調べた」を回答した人にお尋ねします。
災害の危険性を知ろうと思った大きなきっかけは何ですか。（3 つまでの複数回答）

「近年、各地で災害が起きているから」（67.0%）、「昨年、広島市で大規模災害があったから」（46.9%）、「テレビ、新聞、ラジオなどで見聞きしたから」（41.8%）の順に多い。なお、「県・市町のホームページ、広報誌、広報番組で見聞きしたから」は 18.6% となっており、県・市町からの情報発信をきっかけに挙げている割合は 2 割弱であった。



その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・ 居住環境から（29 件）
- ・ 過去の経験から（16 件）
- ・ ハザードマップ（6 件）
- ・ 教育を受けて（4 件）
- ・ ポスターを見た
- ・ 職業柄 等

「20～29 歳」を除き全ての年代で「近年、各地で災害が起きているから」が最も多く、6 割～7 割台になっている。「県・市町のホームページ、広報誌、広報番組で見聞きしたから」は「40～49 歳」から「60～69 歳」で多く、2 割強となっている。

<性別>

男女とも上位３項目は同様であるが、３項目とも「女性」が「男性」の回答率を上回っている。「県・市町のホームページ、広報誌、広報番組で見聞きしたから」は男女ともに２割弱となっている。

		回答件数 計	模 模 昨 災 害 が 、 広 島 市 で た だ ら 規	起 近 年 で 、 各 地 で 災 害 が	イ カ イ ベ ン ト 防 災 室 で 、 教 練 を つ つ 、 防 災 の 災	ら す 子 ど も が 、 教 学 校 で つ つ 、 防 災 の 災	か テ ナ レ ど で 、 見 聞 き 、 ラ タ ジ	報 知 番 組 で 、 見 聞 き 、 ラ タ ジ	動 画 を 知 果 民 「 み ん な で 運 送	か の 自 主 防 災 組 織 や 町 内	ら 市 役 所 （ 町 役 場 ） か	た 自 分 が 災 害 を 経 験 し	ら 家 族 （ を 親 戚 ） し 、 知 か 人	ら 記 事 や 情 報 を 見 た か	ら 職 場 で 勤 め ら れ た か	ら 友 人 や 知 人 か ら は 勤 め い	そ の 他	無 回 答
全体		1,208	567 46.9	809 67.0	63 5.2	12 1.0	505 41.8	225 18.6	20 1.7	23 1.9	3 2.0	84 7.0	48 4.0	178 14.7	17 1.4	3 0.2	74 6.1	46 3.8
性別	男性	673	296 44.0	448 66.6	41 6.1	3 0.4	261 38.8	132 19.6	9 1.3	13 1.9	3 0.4	48 7.1	17 2.5	103 15.3	11 1.6	0 0.0	48 7.1	16 2.4
	女性	512	262 51.2	345 67.4	19 3.7	9 1.8	234 45.7	91 17.8	10 2.0	9 1.8	0 0.0	32 6.3	31 6.1	72 14.1	6 1.2	3 0.6	25 4.9	28 5.5

＜生活形態別＞

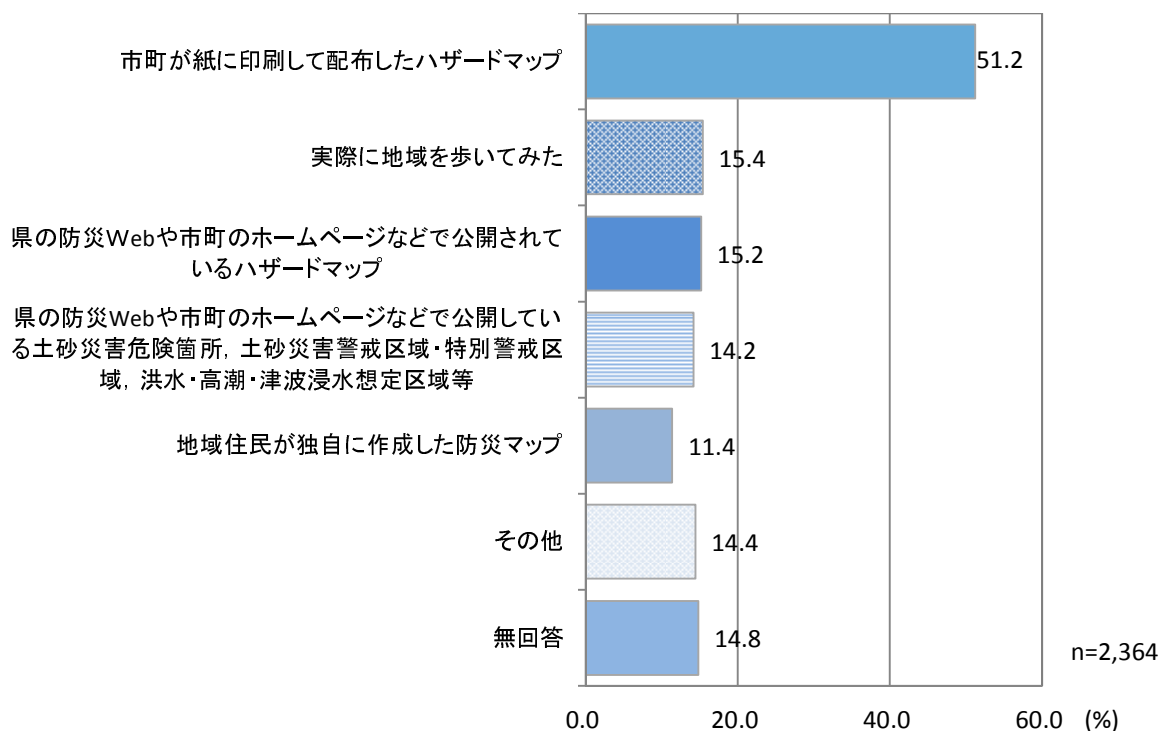
「学生」を除き上位 3 項目は同様であり、「学生」では「インターネット上の記事や情報を見たから」が半数を占めた。「県・市町のホームページ、広報誌、広報番組で見聞きしたから」は「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」で多く、2 割強となっている。

	回答 件数 計	模 昨 年 が 広 島 市 で 大 規 模 な 災 害 が あ つ た か ら	起 近 年 に お け る 各 地 方 の 災 害 が あ つ た か ら	イ ン タ ー ネ ッ ト 上 の 記 事 や 情 報 を 見 た か ら	防 災 教 育 の 場 所 で 知 り ま し た か ら	子 ど も が 学 校 で 知 り ま し た か ら	オ ン ラ イ ン で 見 聞 き し た か ら	報 道 の 中 で 知 り ま し た か ら	県 ・ 市 町 の ホ ー ム ペ ー ジ で 知 り ま し た か ら	広 報 誌 で 知 り ま し た か ら	自 主 防 災 組 織 の 中 で 知 り ま し た か ら	人 市 役 所 の 中 で 知 り ま し た か ら	自 分 が 災 害 を 経 験 し た か ら	家 族 の 中 で 知 り ま し た か ら	記 事 や 情 報 を 見 た か ら	職 場 で 知 り ま し た か ら	友 人 の 中 で 知 り ま し た か ら	地 域 の 中 で 知 り ま し た か ら	そ の 他	無 回 答
全体	1,208	567 46.9	809 67.0	63 5.2	12 1.0	505 41.8	225 18.6	20 1.7	23 1.9	3 0.2	84 7.0	48 4.0	178 14.7	17 1.4	3 0.2	74 6.1	46 3.8			
生活 形 態 別	企業・団体勤務	582	273 46.9	382 65.6	24 4.1	4 0.7	197 33.8	125 21.5	4 0.7	6 1.0	1 0.2	35 6.0	19 3.3	117 20.1	16 2.7	2 0.3	38 6.5	20 3.4		
	自営業	92	39 42.4	64 69.6	4 4.3	3 3.3	38 41.3	17 18.5	1 1.1	0 0.0	1 1.1	7 7.6	4 4.3	12 13.0	0 0.0	0 0.0	5 5.4	3 3.3		
	農林漁業	39	16 41.0	23 59.0	3 7.7	1 2.6	13 33.3	5 12.8	3 7.7	2 5.1	1 2.6	7 17.9	3 7.7	2 5.1	0 0.0	0 0.0	2 5.1	1 2.6		
	家事や育児で在宅	104	55 52.9	72 69.2	3 2.9	4 3.8	41 39.4	24 23.1	1 1.0	0 0.0	0 0.0	5 4.8	5 4.8	17 16.3	1 1.0	0 0.0	4 3.8	6 5.8		
	学生	10	3 30.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0		
	定年退職などで在宅	273	134 49.1	198 72.5	23 8.4	0 0.0	154 56.4	40 14.7	9 3.3	13 4.8	0 0.0	16 5.9	13 4.8	16 5.9	0 0.0	0 0.0	10 3.7	7 2.6		
	その他	78	35 44.9	42 53.8	3 3.8	0 0.0	41 52.6	11 14.1	2 2.6	1 1.3	0 0.0	9 11.5	4 5.1	6 7.7	0 0.0	1 1.3	11 14.1	7 9.0		

災害の危険性を確認した方法

問 4-3. 災害の危険性を確認した方法を教えてください。（複数回答）

『ハザードマップ』（「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」51.2%、「県の防災Webや市町のホームページなどで公開されているハザードマップ」15.2%の合計）が6割台半ば（66.4%）となっている。また、「実際に地域を歩いてみた」は15.4%となっている。

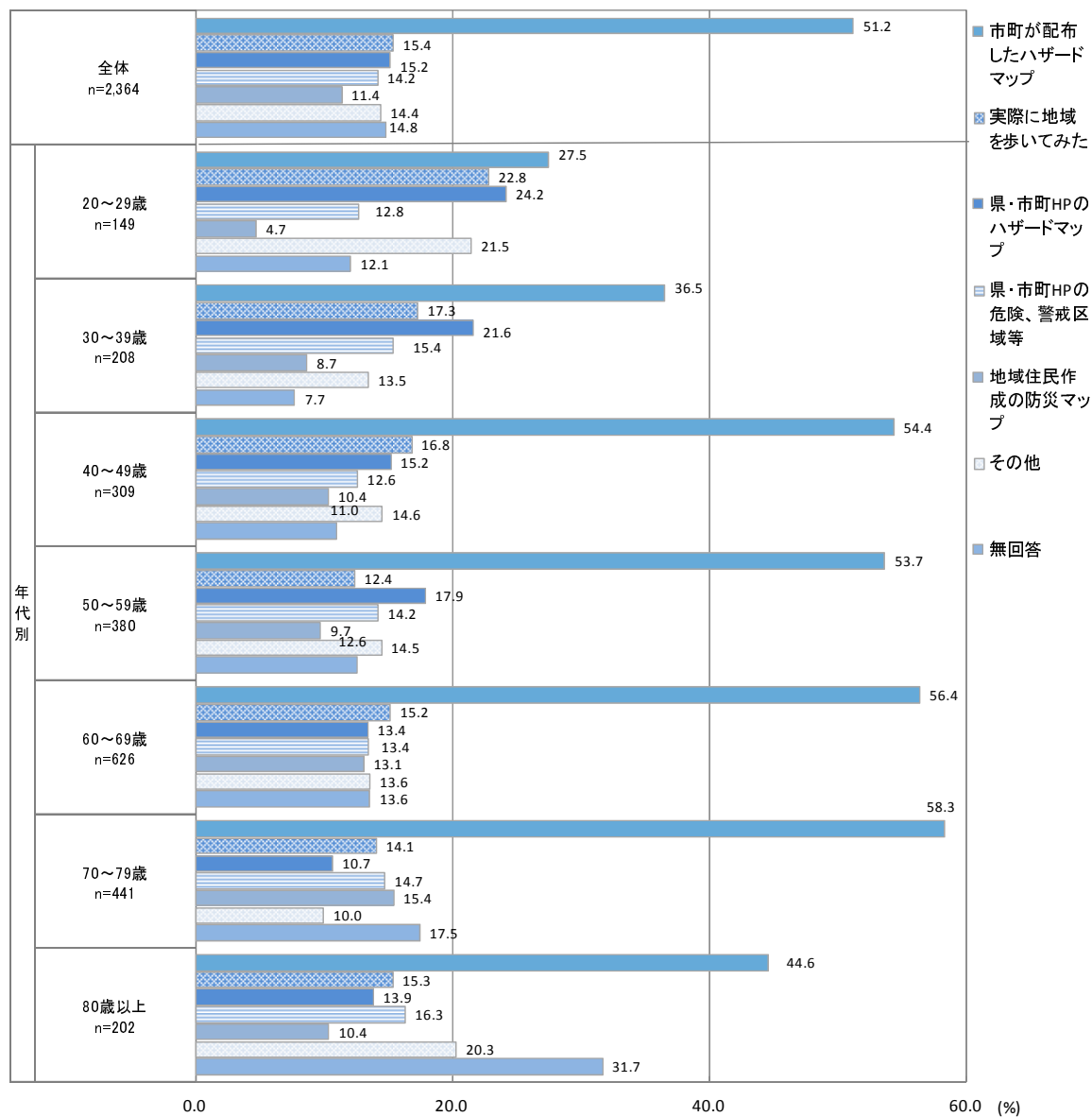


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・メディア（101件）
- ・過去の経験から（77件）
- ・周囲から聞いた（39件）
- ・居住環境（32件）
- ・まちが設置している看板
- ・町内講演会
- ・JESEA（地震科学探査機構）からの情報取得 等

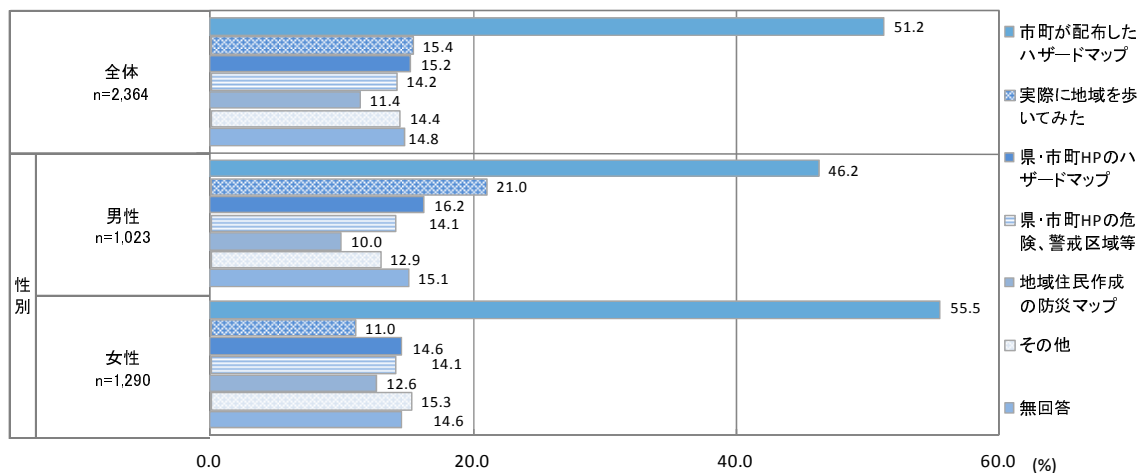
＜年代別＞

『ハザードマップ』との回答は全ての年代で 5 割を超え、「40～49 歳」から「70～79 歳」では 7 割前後となっている。「実際に地域を歩いてみた」は「20～29 歳」で多く、2 割強（22.8%）となっている。



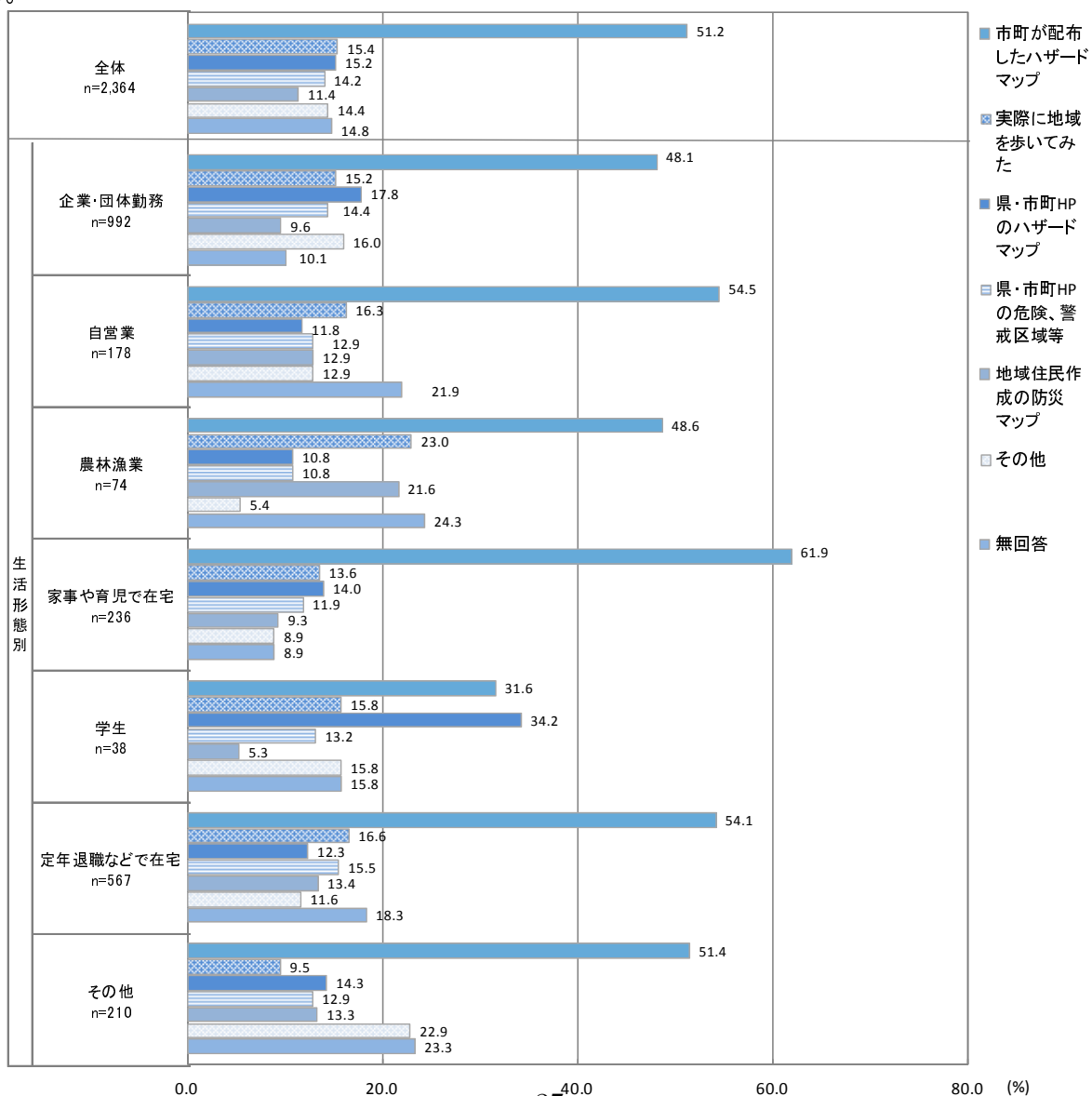
<性別>

『ハザードマップ』との回答は男女とも6割を超えている。「実際に地域を歩いてみた」は男性が女性を10ポイント上回っている。



<生活形態別>

全ての分類で『ハザードマップ』との回答が最も多く、6割弱以上となっている。「実際に地域を歩いてみた」は「農林漁業」で2割を超え、他の分類が1割台であるのに対し多い。

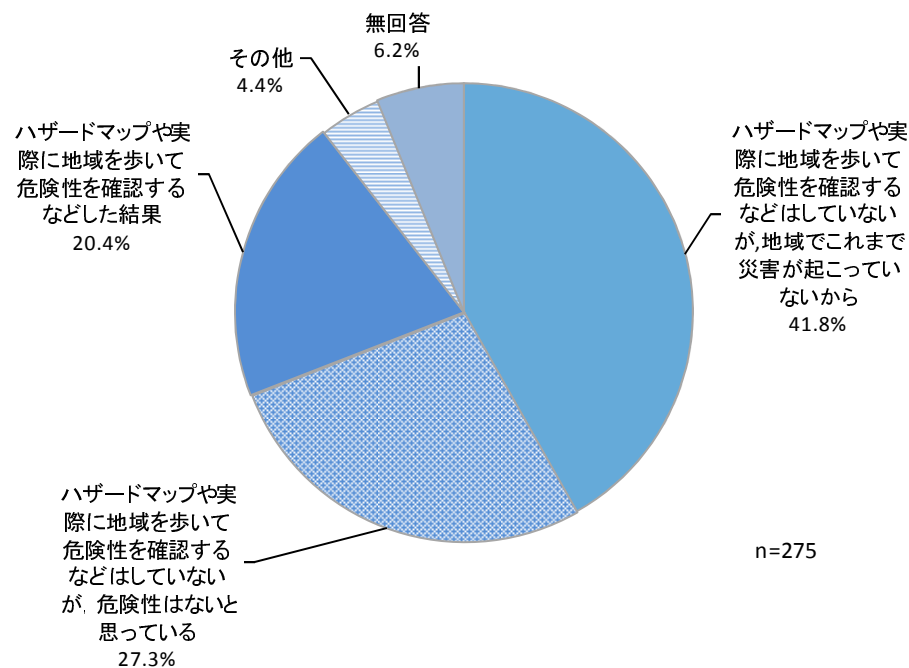


災害の危険性はないとした理由

問 5.問 3 で身の周りに「7 災害の危険性はない」と回答した人にお尋ねします。

災害の危険性はないとされた理由は何ですか。（単一回答）

「ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどした結果」は 20.4%にとどまった。一方、『実際に災害の危険性を確認していない』（「ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどはしていないが、地域でこれまで災害が起こっていないから」41.8%、「ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどはしていないが、危険性はないと思っている」27.3%の合計）は 69.1%となっている。

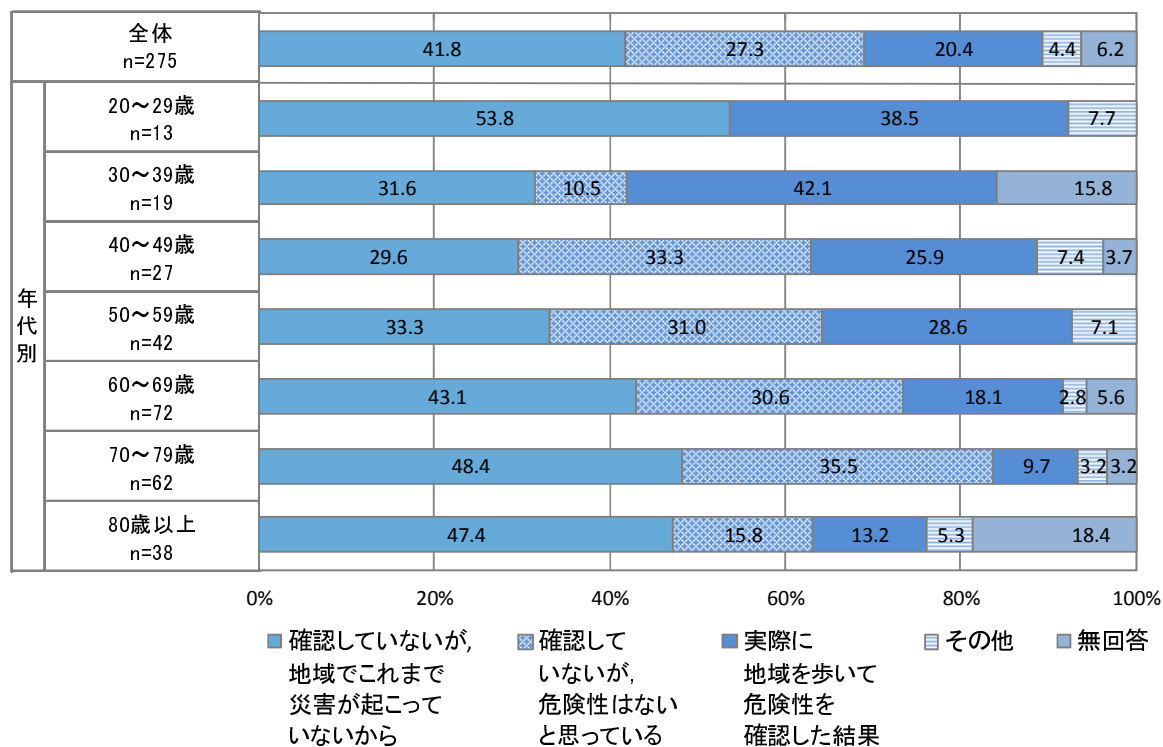


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・ 居住環境（8 件）
- ・ 過去の経験から（3 件）
- ・ ハザードマップという言葉がわからない 等

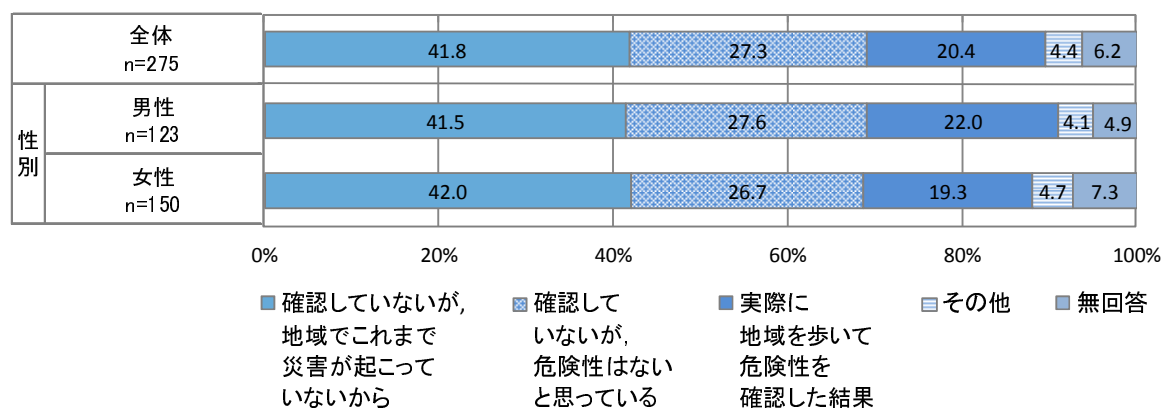
<年代別>

「ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどした結果」は「30～39歳」で4割強（42.1%）と最も多い。『実際に災害の危険性を確認していない』は「60～69歳」、「70～79歳」で多く、7割を超えている。



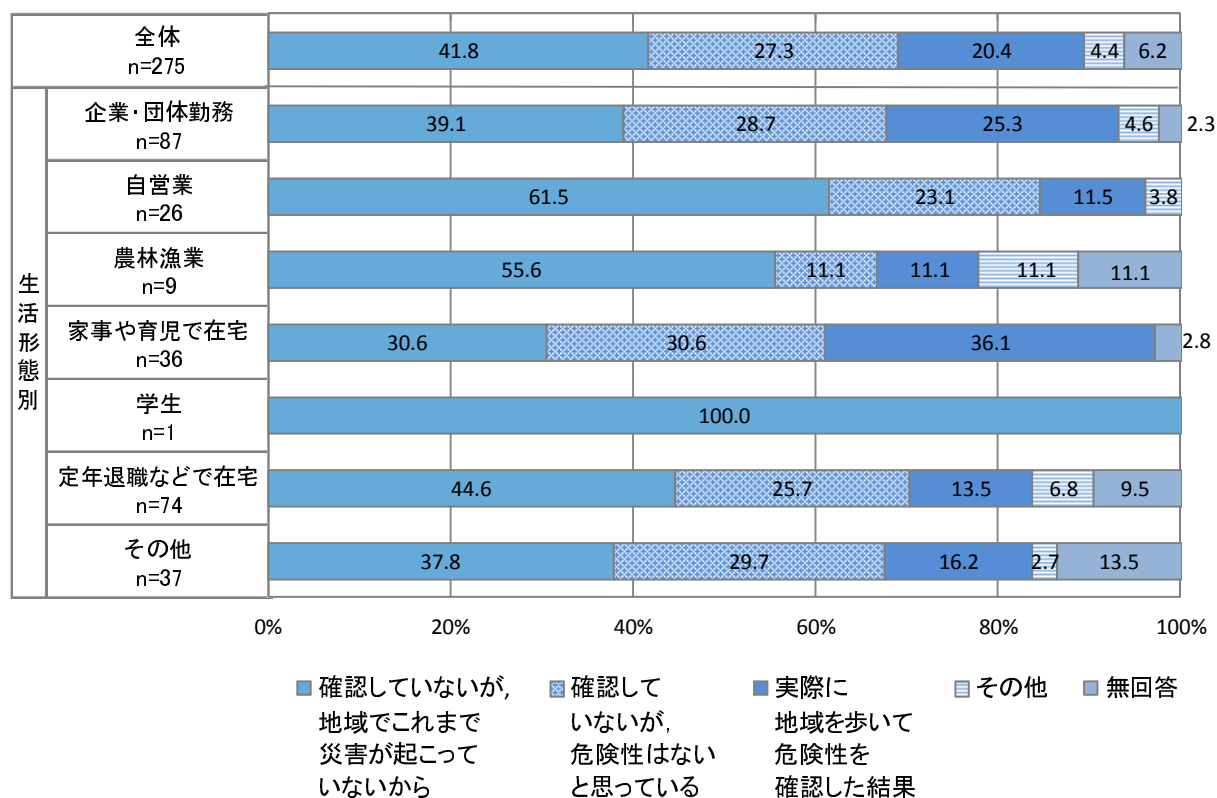
<性別>

『実際に災害の危険性を確認していない』は男女とも7割弱となっている。



＜生活形態別＞

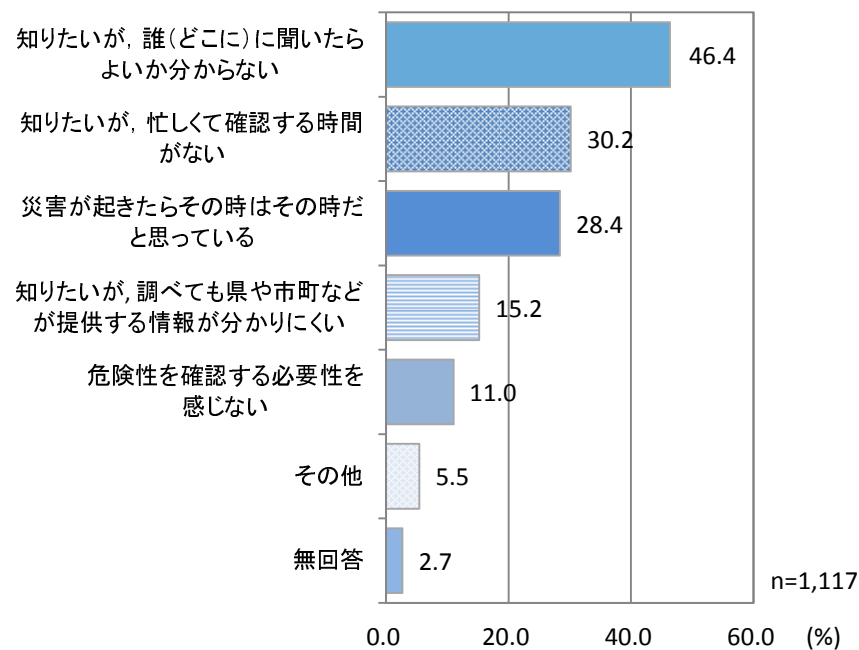
「ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどした結果」は「家事や育児で在宅」で３割台半ば（36.1％）と比較的多い。『実際に災害の危険性を確認していない』は全ての分類で６割を超えている。



災害の危険性を知らない理由

問 6.問 3 で身の周りに「8 どんな危険性があるか知らない」と回答した人にお尋ねします。
危険性を知らない理由を教えてください。（複数回答）

「知りたいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない」が 5 割弱（46.4%）と、災害の危険性について知りたいと思いつつ、確認方法がわからないとする回答が最も多くなっている。次いで、「知りたいが、忙しくて確認する時間がない」（30.2%）、「災害が起きたらその時はその時だと思っている」（28.4%）の順に多い。

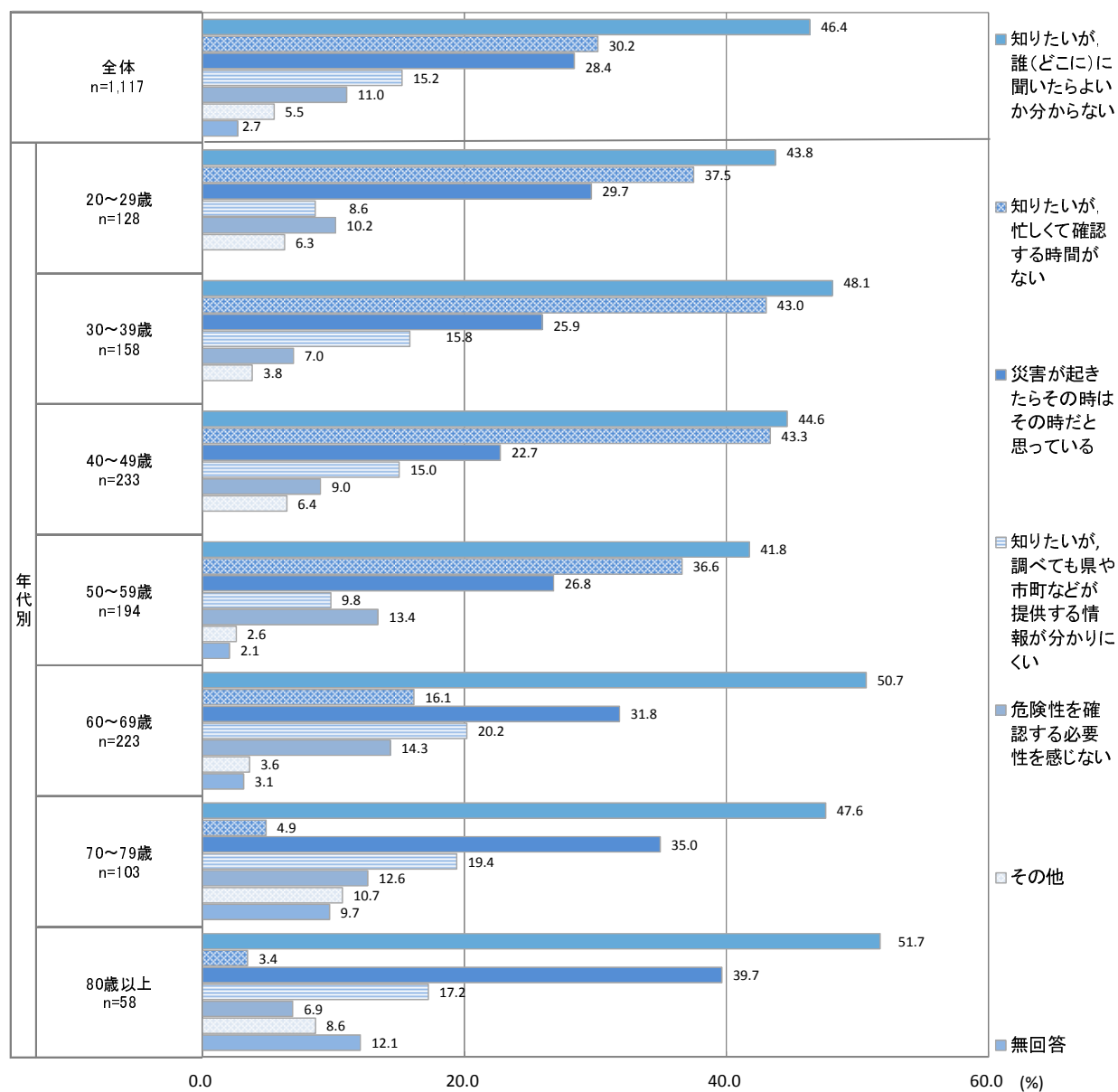


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・関心がない・意識が低い（18 件）
- ・情報はあがるが、よくわからない（14 件）
- ・自己判断(5 件)
- ・転入者（3 件）
- ・目、耳が不自由なのでよく分からない
- ・みなさんと一緒に行動するつもり
- ・もっと掲示、告知、通知を増やす努力が必要 等

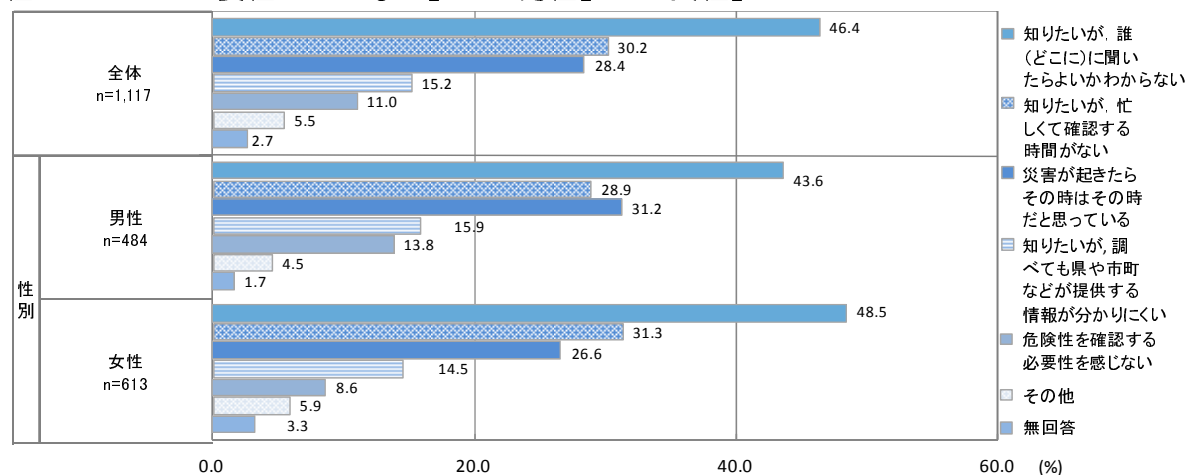
<年代別>

「知りたいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない」は全ての年代で最も多く、特に「60～69歳」、「80歳以上」では5割を超えている。



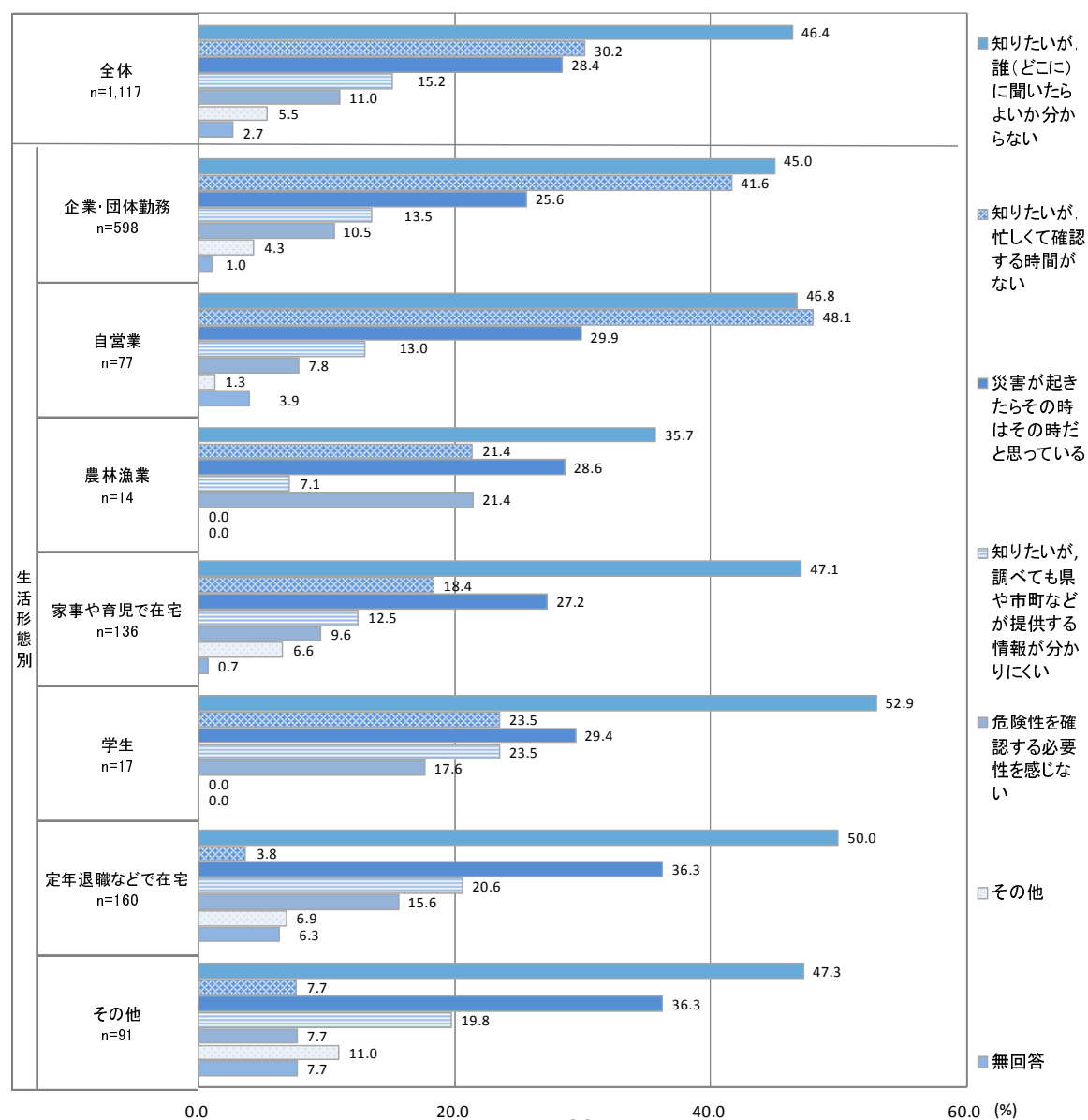
<性別>

「知りたいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない」が男女とも最も多く、「危険性を確認する必要性を感じない」は「男性」が「女性」を5.2ポイント上回っている。



<生活形態別>

「知りたいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない」は「自営業」を除く全ての分類で最も多くなっており、「学生」、「定年退職などで在宅」では5割を超えている。

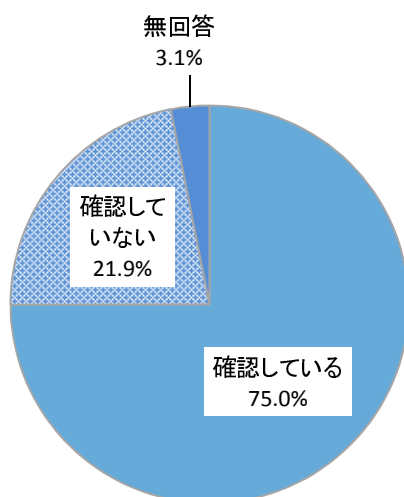


避難場所等の確認状況について

避難場所の確認

問 7.お住まいから最も近い避難場所を確認していますか。（単一回答）

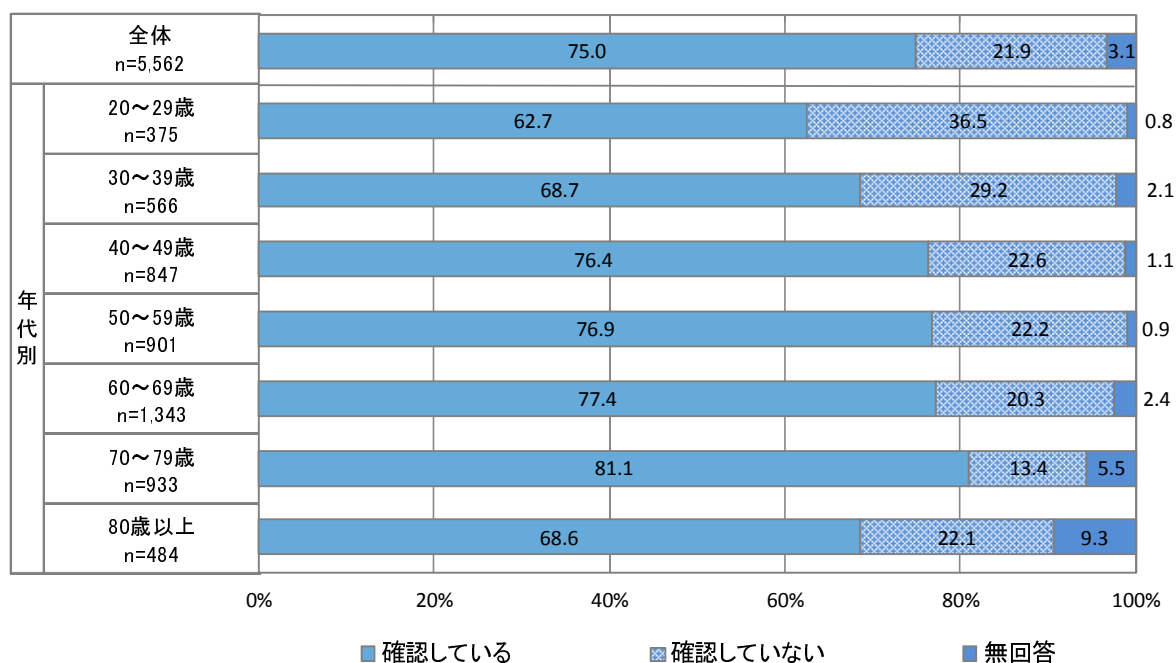
「確認している」（75.0%）、「確認していない」（21.9%）となっており、自宅から最も近い避難場所を確認していない割合は2割強となっている。



n=5,562

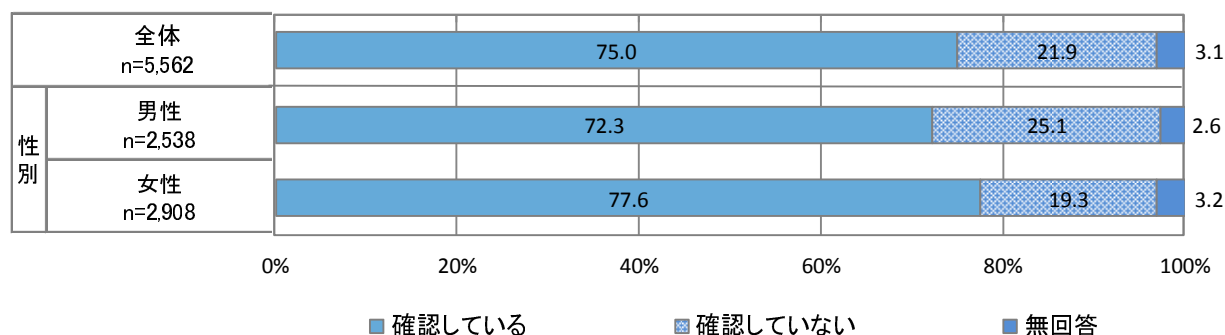
<年代別>

80歳以上を除き「確認していない」は「20～29歳」から年代が上がるにつれ回答率が低くなっており、若い世代ほど自宅から最も避難場所を確認していないことがわかる。



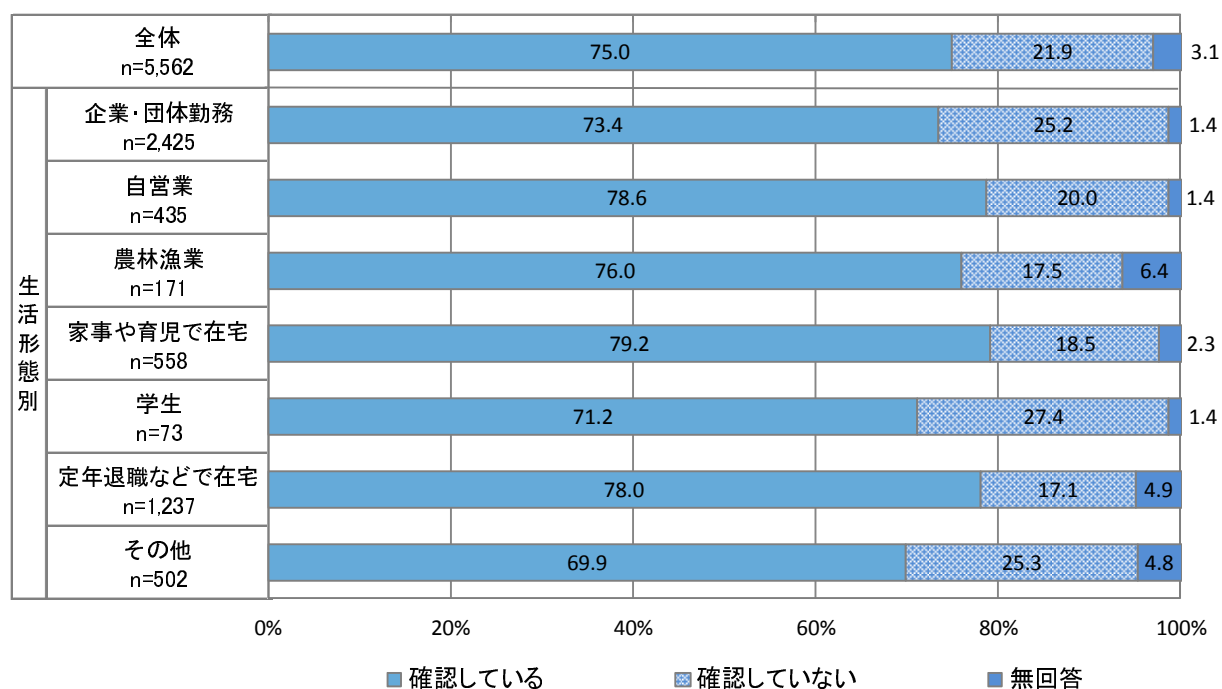
<性別>

「確認していない」は「男性」が「女性」を 5.8 ポイント上回っている。



<生活形態別>

「確認していない」は「学生」で最も多く、3 割弱（27.4%）となっている。

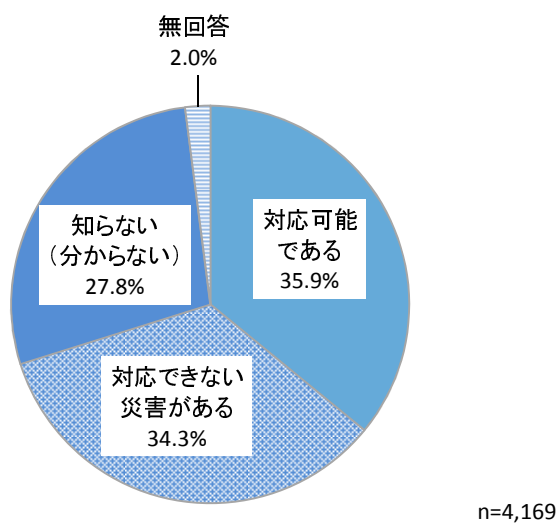


避難場所が対応可能な災害

問 8.問 7 で避難場所を「1 確認している」と回答した人にお尋ねします。

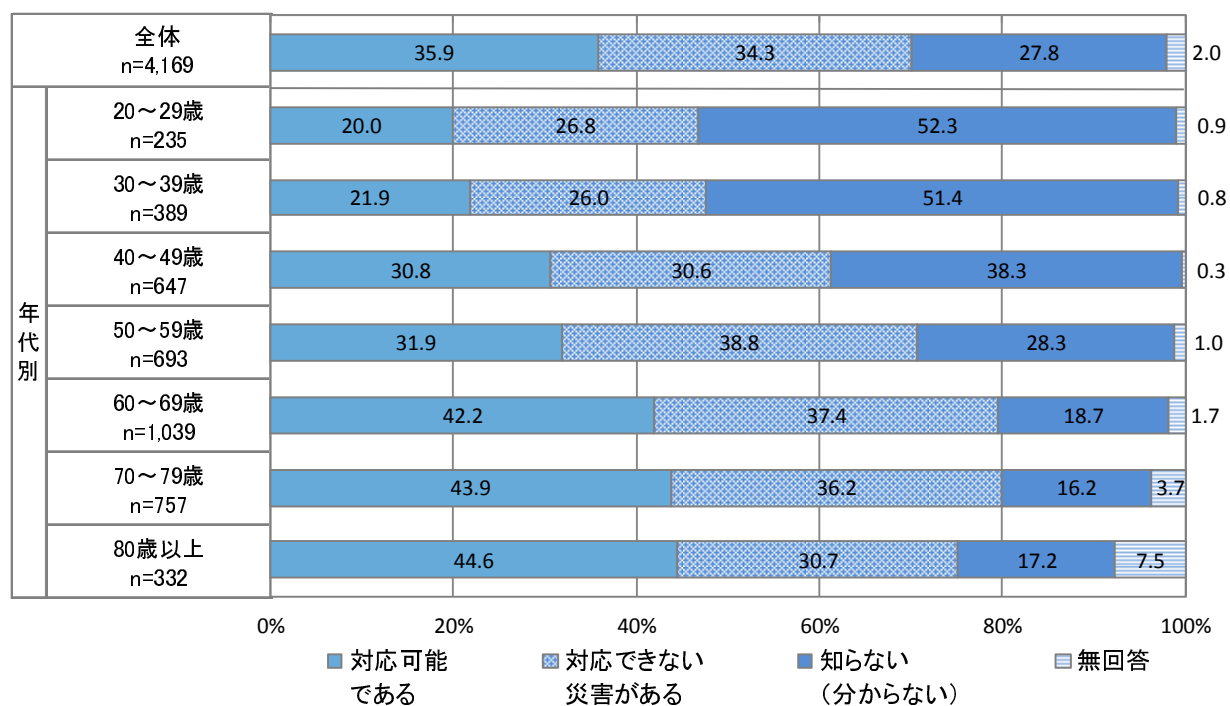
その避難場所は、どの災害（地震、津波、土砂災害、高潮、洪水）にも対応が可能ですか。（単一回答）

「対応可能である」（35.9%）、「対応できない災害がある」（34.3%）、「知らない（分からない）」（27.8%）の順に多い。「知らない（分からない）」とする、避難場所を確認してはいるが対応可能な災害の種類と避難場所を関連づけて認知していない割合が3割弱となっている。



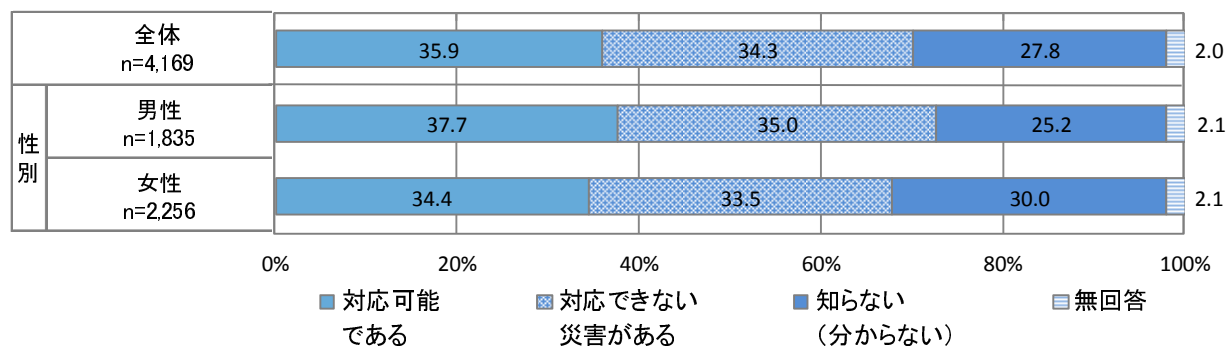
<年代別>

「知らない（分からない）」は「20～29 歳」で最も多く、「80 歳以上」を除き年代が上がるにつれ少なくなっている。若い年代ほど避難場所を確認してはいるが対応可能な災害の種類と避難場所を関連づけて認知していないことがわかる。



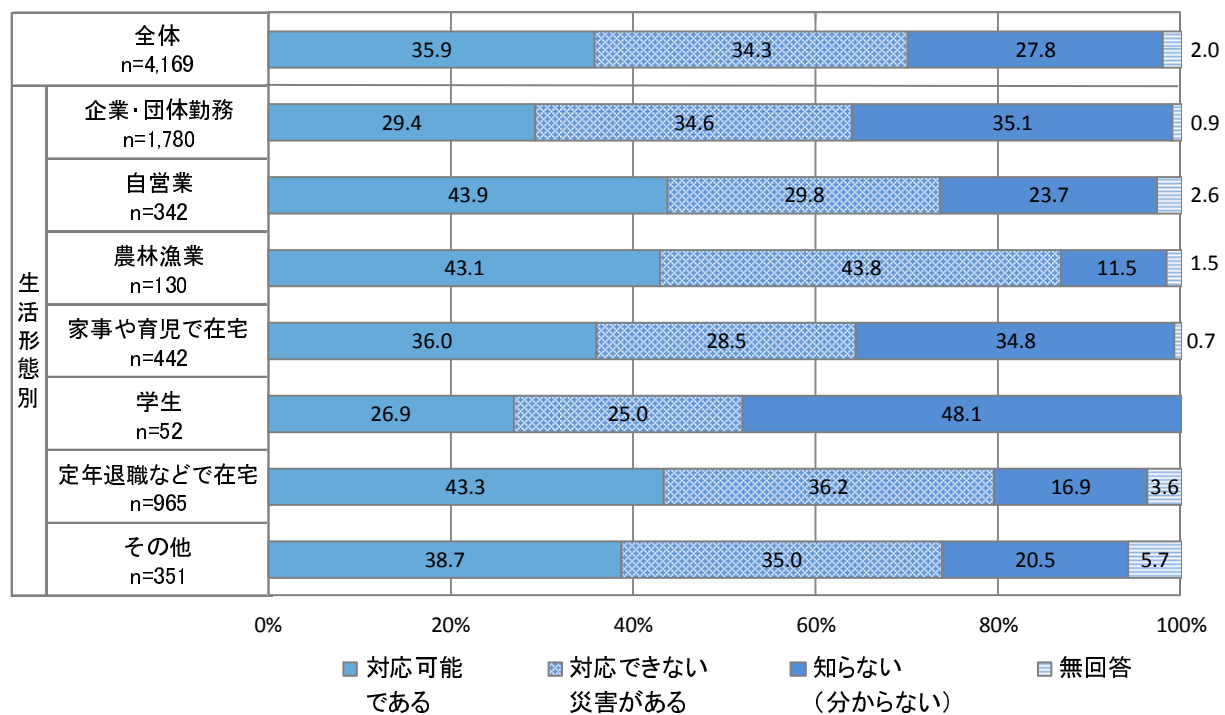
<性別>

「知らない（分からない）」は女性が男性を 4.8 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

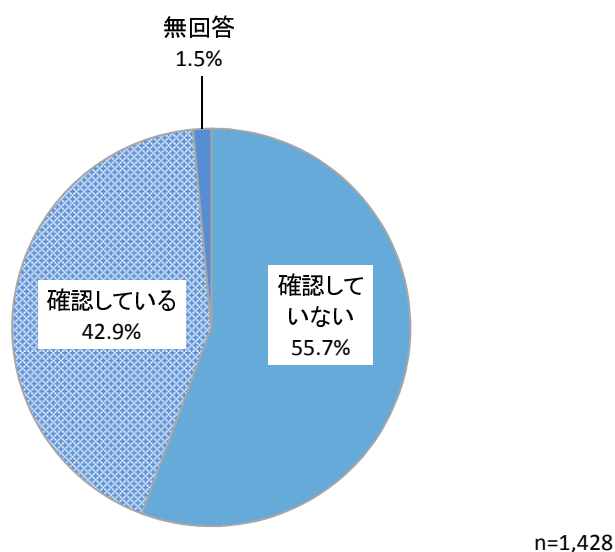
「知らない（分からない）」は「学生」で最も多く 5 割弱（48.1%）となっている。



災害の種類に応じた避難場所の確認

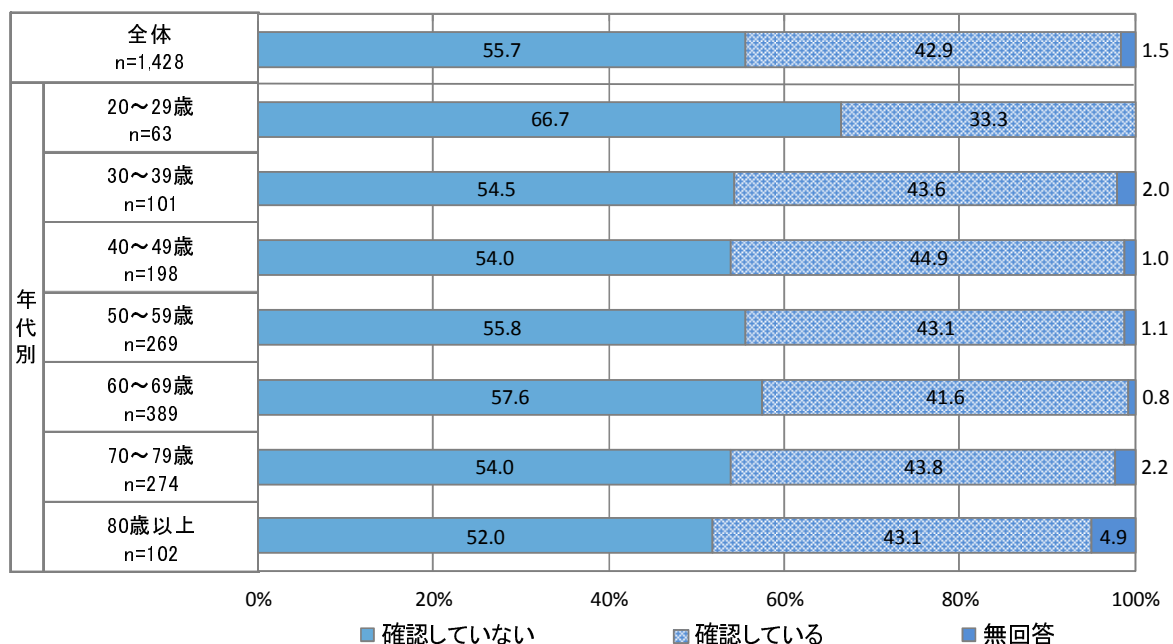
問 9.問 8 で最も近い避難場所に「1 対応できない災害がある」と回答した人にお尋ねします。一か所の避難場所では対応できない場合、災害の種類に応じた避難場所を確認していますか。（単一回答）

「確認している」は 42.9%となっている。一方、自宅から最も近い避難場所が対応できない災害がある場合に、代わりになる避難場所を「確認していない」との回答が過半数（55.7%）を超えた。



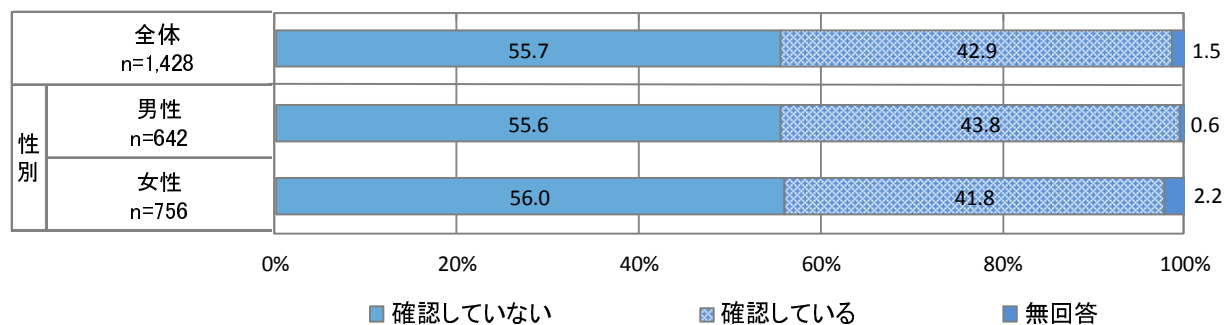
<年代別>

「確認していない」は「20～29 歳」で 66.7%と、他の年代が 5 割台であるのに比べて多くなっている。



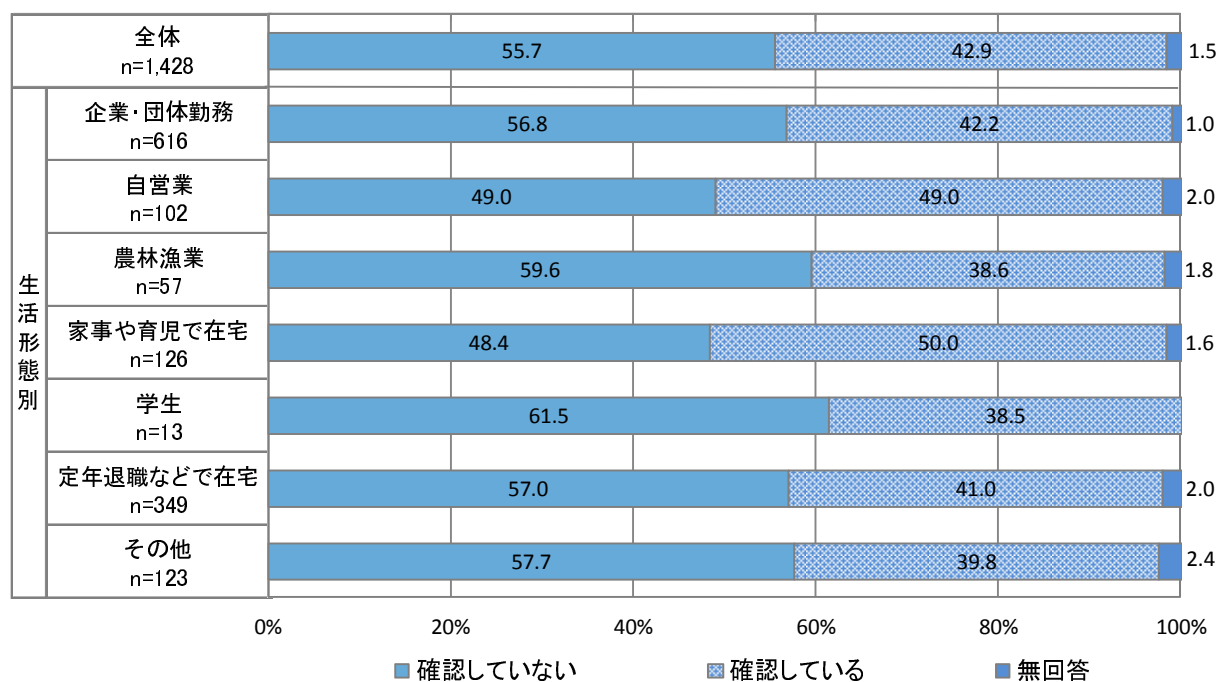
<性別>

性別による差はあまりみられない。



<生活形態別>

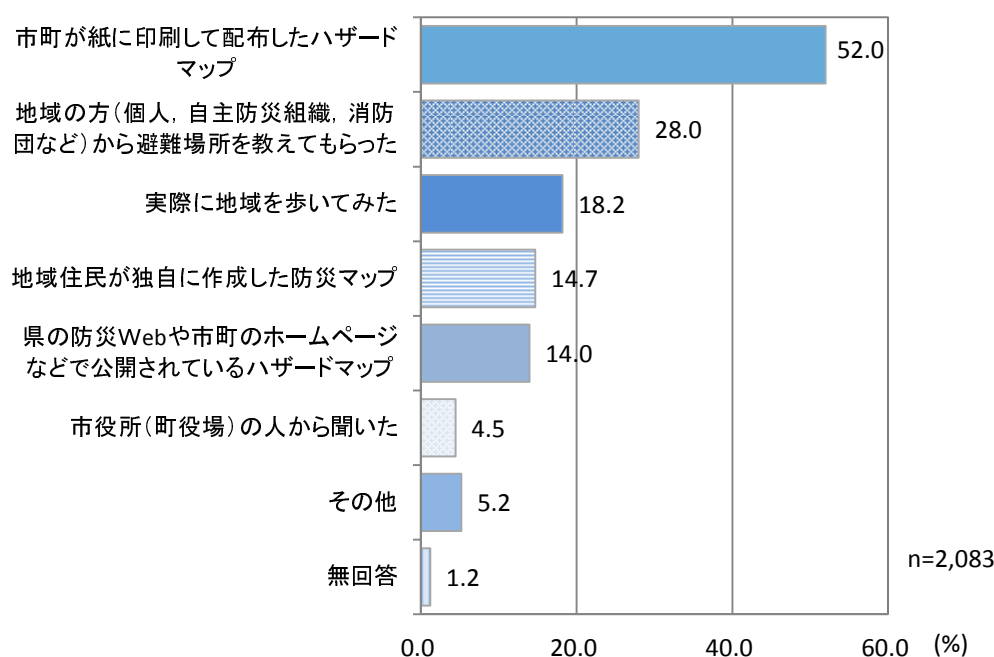
「確認している」は「自営業」、「家事や育児で在宅」で約 5 割と他の分類より比較的多い。自宅から最も近い避難場所が対応できない災害がある場合に、代わりになる避難場所を「確認していない」は「学生」で 6 割超と最も多い。「自営業」、「家事や育児で在宅」は 5 割弱となっている。



避難場所の確認方法

問 10.避難場所は何で確認しましたか。（複数回答）

『ハザードマップ』（「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」52.0%、「県の防災 Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ」14.0%の合計）が 66.0%となっており、確認方法としては最も多く挙げられている。また、「実際に地域を歩いてみた」は 18.2%となっている。

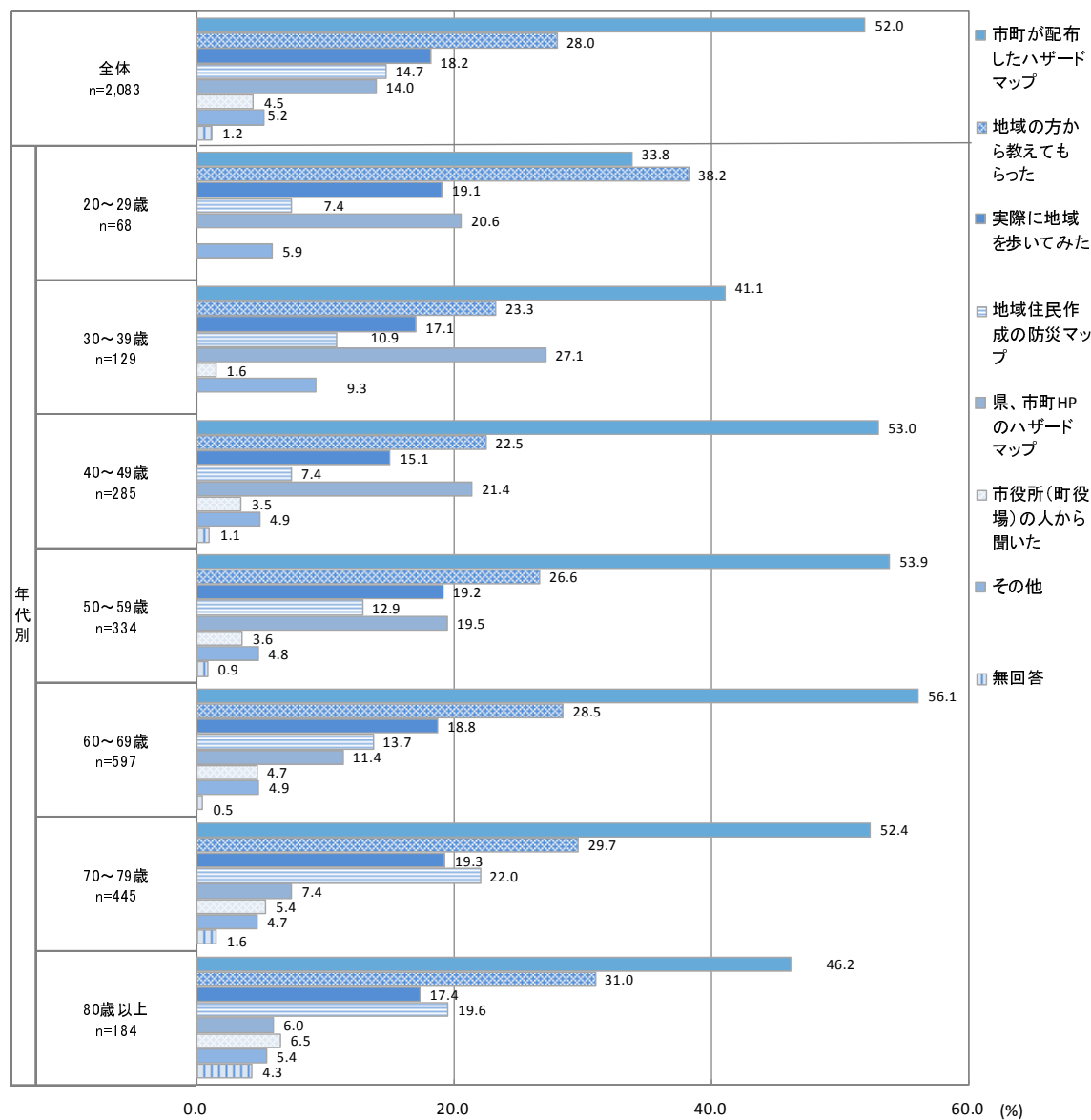


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・ 自己判断（25 件）
- ・ 家族から（16 件）
- ・ 町内会・自治会(13 件)
- ・ 自宅・居住地（13 件）
- ・ 看板・地図（11 件）
- ・ メディア（4 件）
- ・ 避難訓練
- ・ 近所に防災センターが出来た
- ・ 学生の頃に教えられた
- ・ 市に働きかけ近くの公民館が昨年避難場所に認定された 等

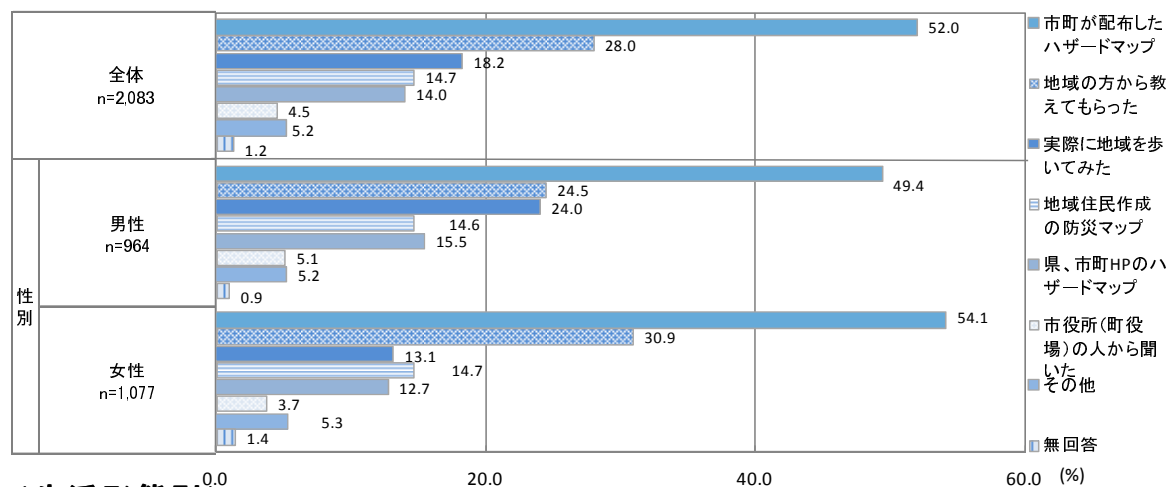
＜年代別＞

『ハザードマップ』は全ての年代で5割を超えており、「30～39歳」、「40～49歳」では7割前後となっている。『ハザードマップ』のうち、「20～29歳」を除き全ての年代で「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」が最も多く、4割～5割台となっている。「実際に地域を歩いてみた」は全ての年代で2割弱となっている。



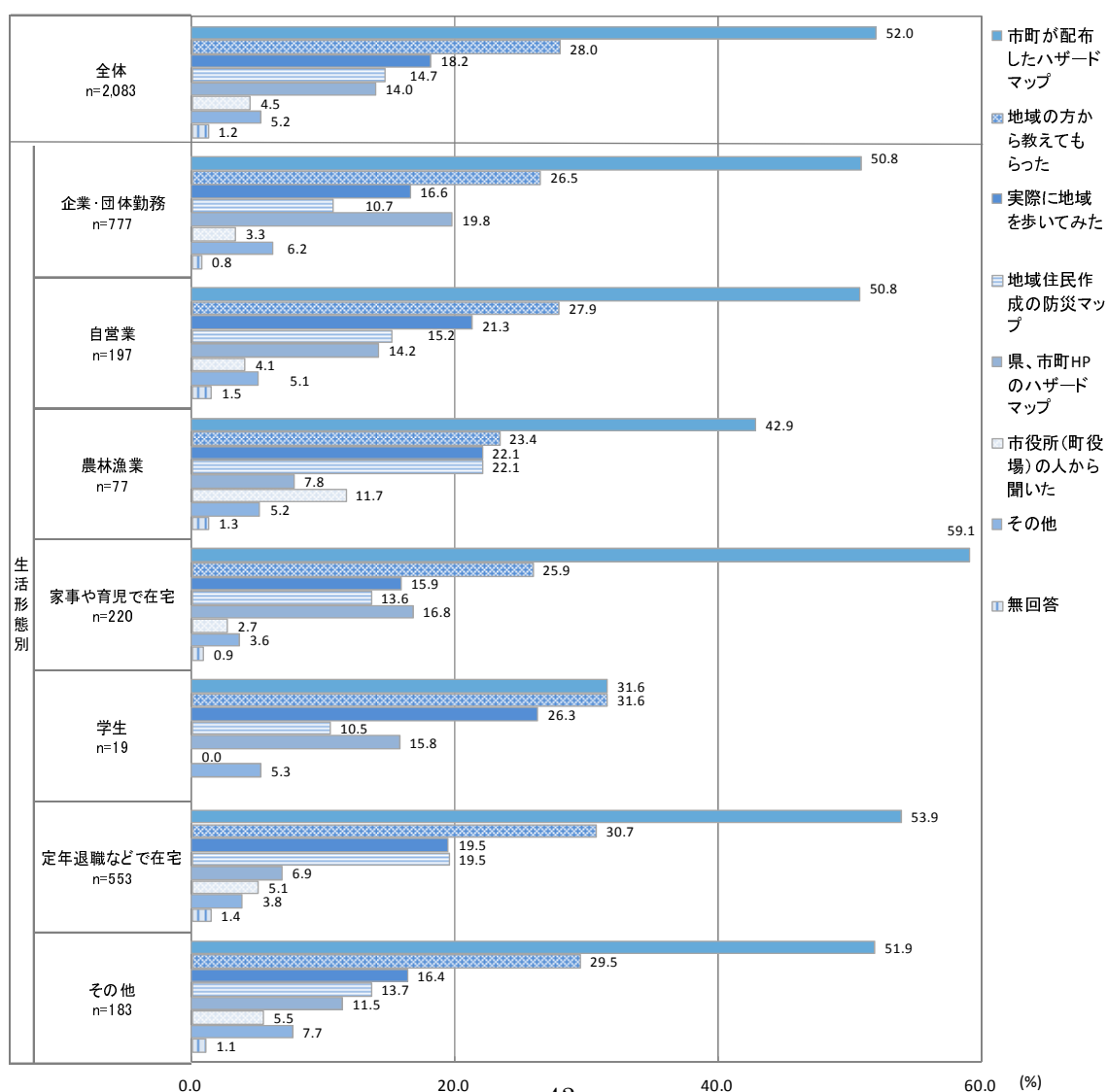
＜性別＞

『ハザードマップ』は男女とも6割台半ばとなっており、うち「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」が5割前後となっている。「実際に地域を歩いてみた」で男女差が最も大きく、「男性」が「女性」を10.9ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

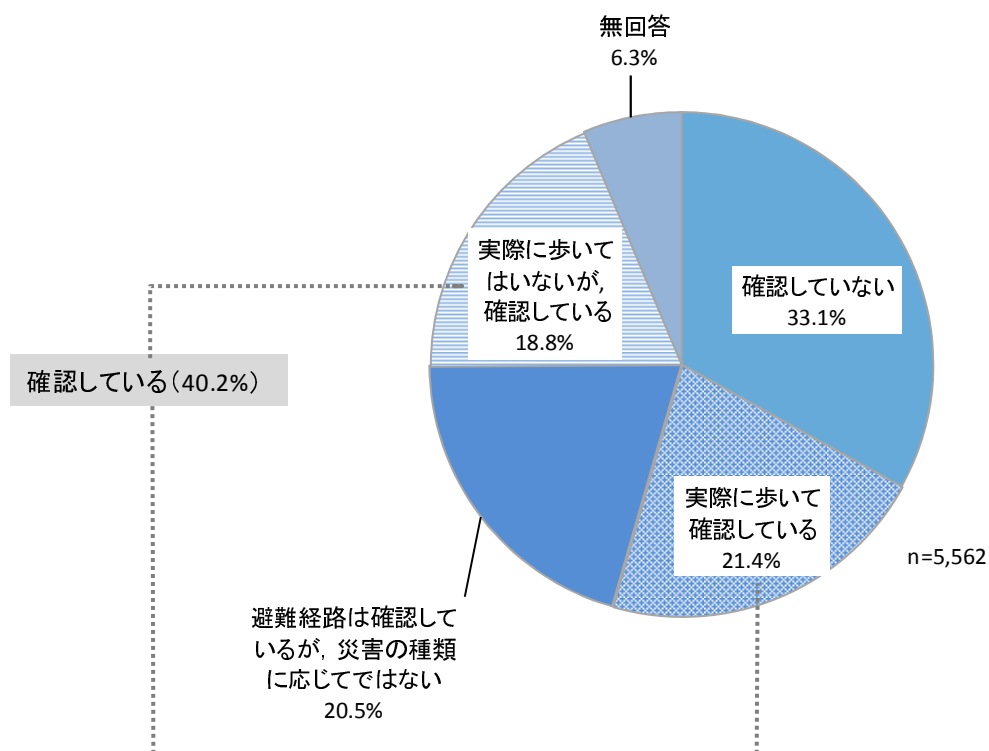
全ての分類で『ハザードマップ』が最も多く、「学生」を除き5割を超えている。そのうち「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」は「農林漁業」、「学生」を除き5割を超えている。「実際に地域を歩いてみた」は「学生」で26.3%と最も多くなっている。



災害の種類に応じた避難経路の確認

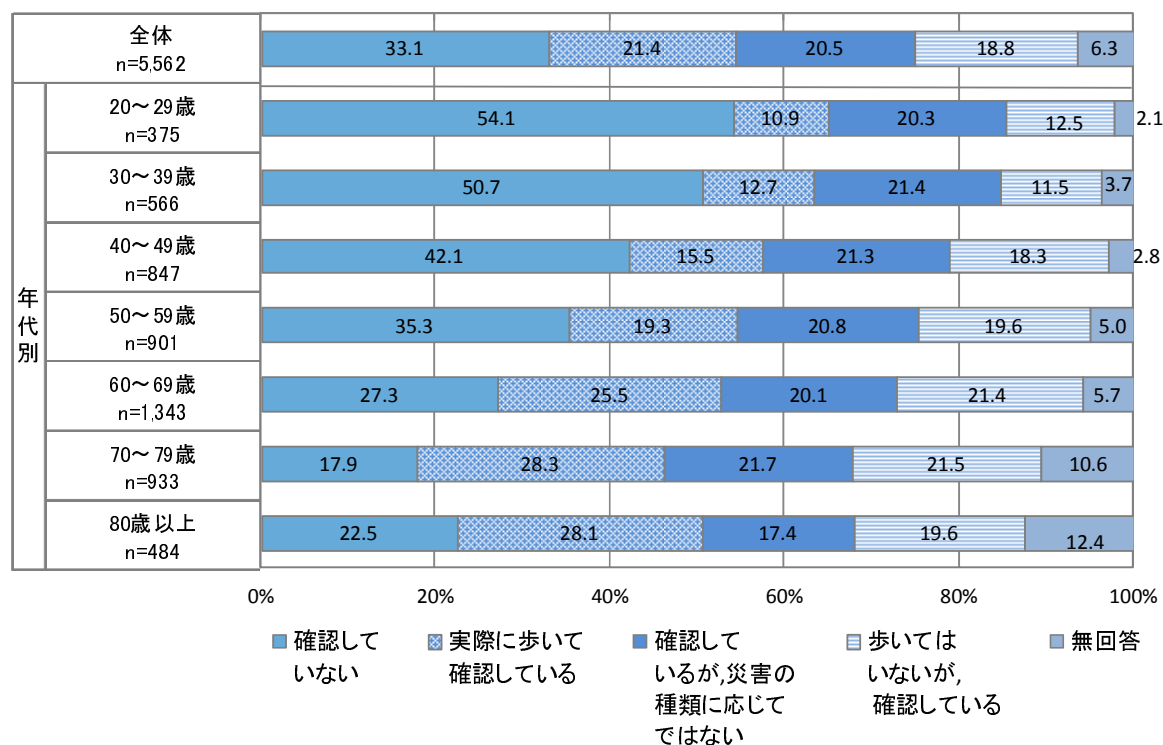
問 11.避難場所までの避難経路を災害の種類に応じて確認されていますか。（単一回答）

『確認している』（「実際に歩いて確認している」21.4%、「実際に歩いてはいないが、確認している」18.8%の合計）」は 40.2%、「確認していない」は 33.1%となっている。



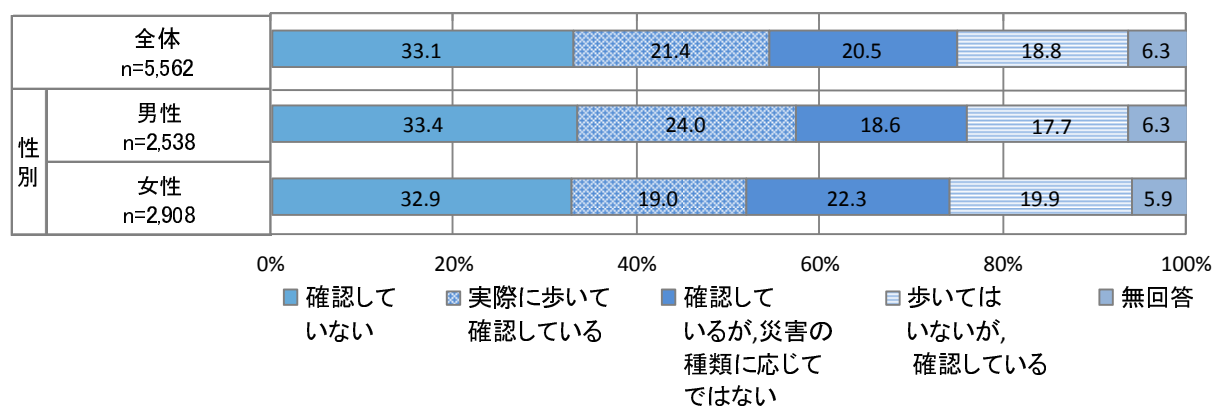
<年代別>

『確認している』は「80 歳代」を除き年代が上がるにつれ多くなっている。そのうち「実際に歩いて確認している」は「50～59 歳」から「80 歳以上」で 2 割弱～3 割弱と多くなっている。



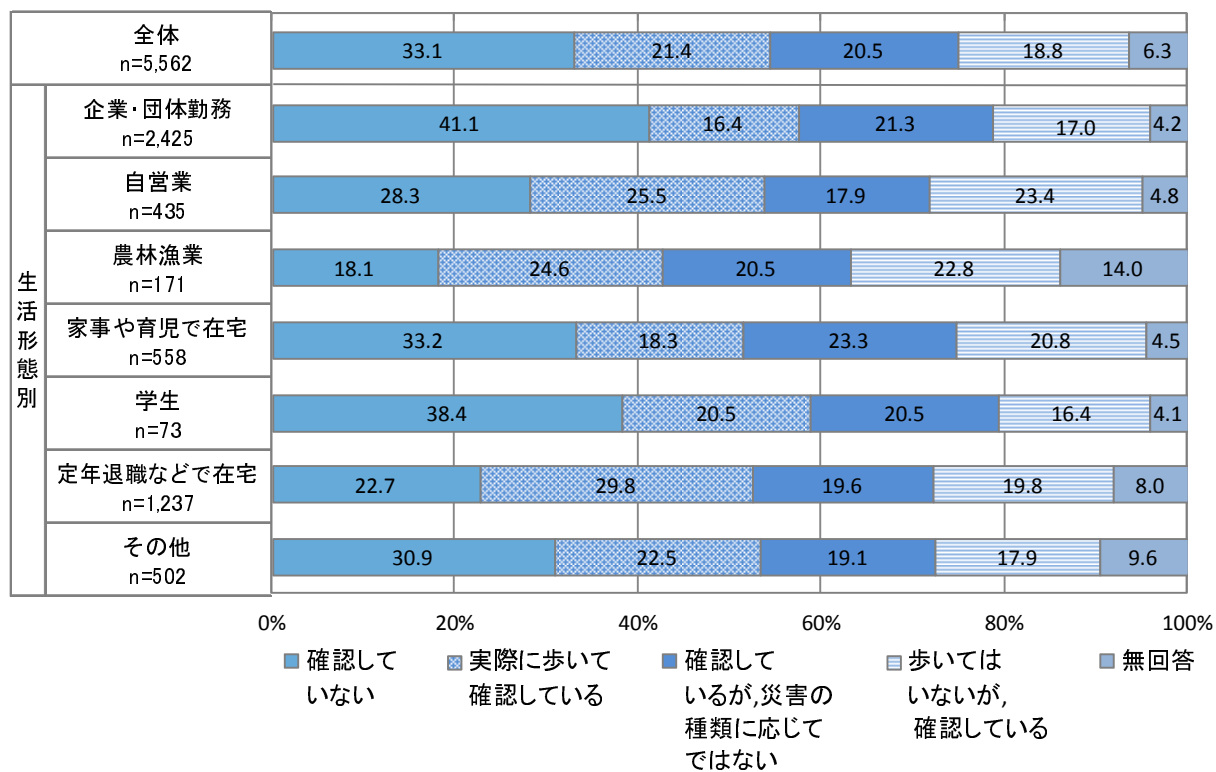
<性別>

『確認している』は男女ともに 4 割前後となっており、うち「実際に歩いて確認している」は「男性」が「女性」を 5.0 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

『確認している』は「自営業」、「農林漁業」、「定年退職などで在宅」で多く 5 割弱となっている。うち、「実際に歩いて確認している」は「定年退職などで在宅」で最も多く 29.8% となっている。



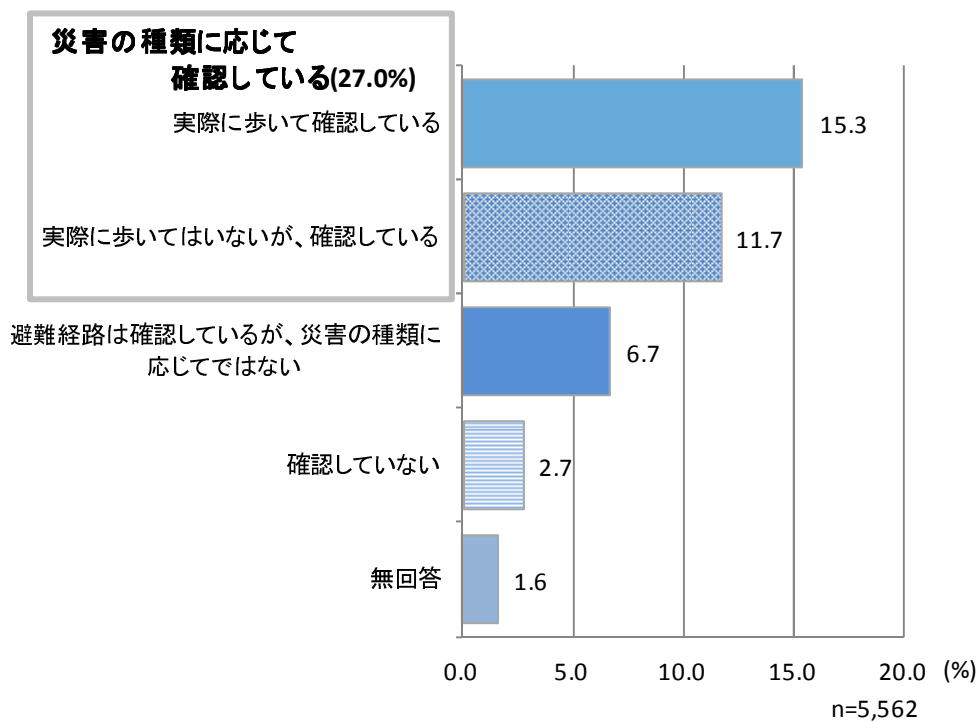
参考

住まいから最も近い避難場所を確認しており、その避難場所が

- ・ どの災害（地震、津波、土砂災害、高潮、洪水）にも対応していると答えた人
- ・ 対応できない災害があるが、その際の避難場所を確認していると答えた人

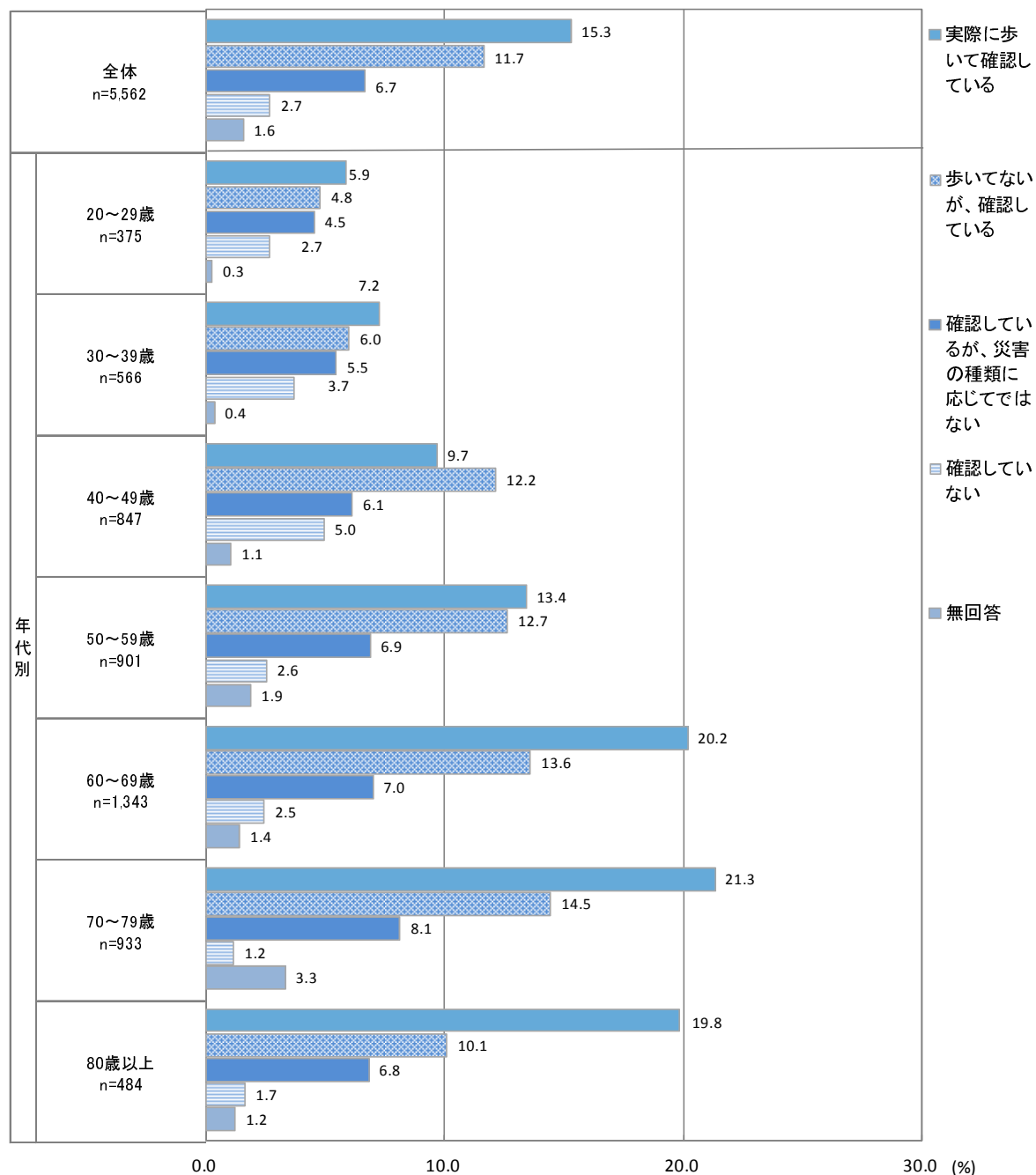
について、避難場所までの避難経路を確認しているか尋ねたところ、下記のような結果となった。

『災害の種類に応じて確認している』（「実際に歩いて確認している」15.3%、「実際に歩いてはいないが、確認している」11.7%の合計）は3割弱（27.0%）となっている。



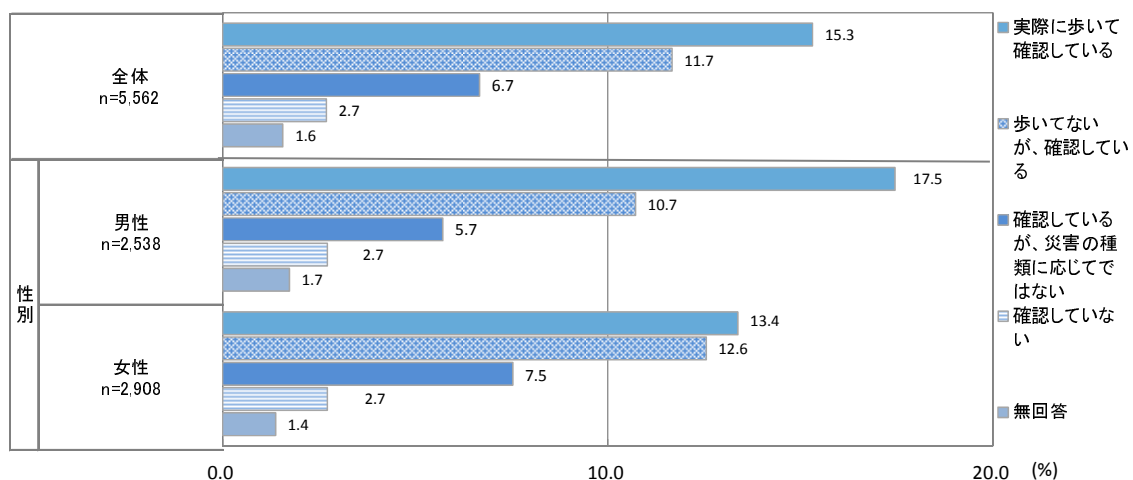
＜年代別＞

『災害の種類に応じて確認している』は「80 歳以上」を除き年代が上がるにつれ多くなっており、「20～29 歳」の 10.7%、「70～79 歳」の 35.8%とでは 3 倍以上の差がみられる。



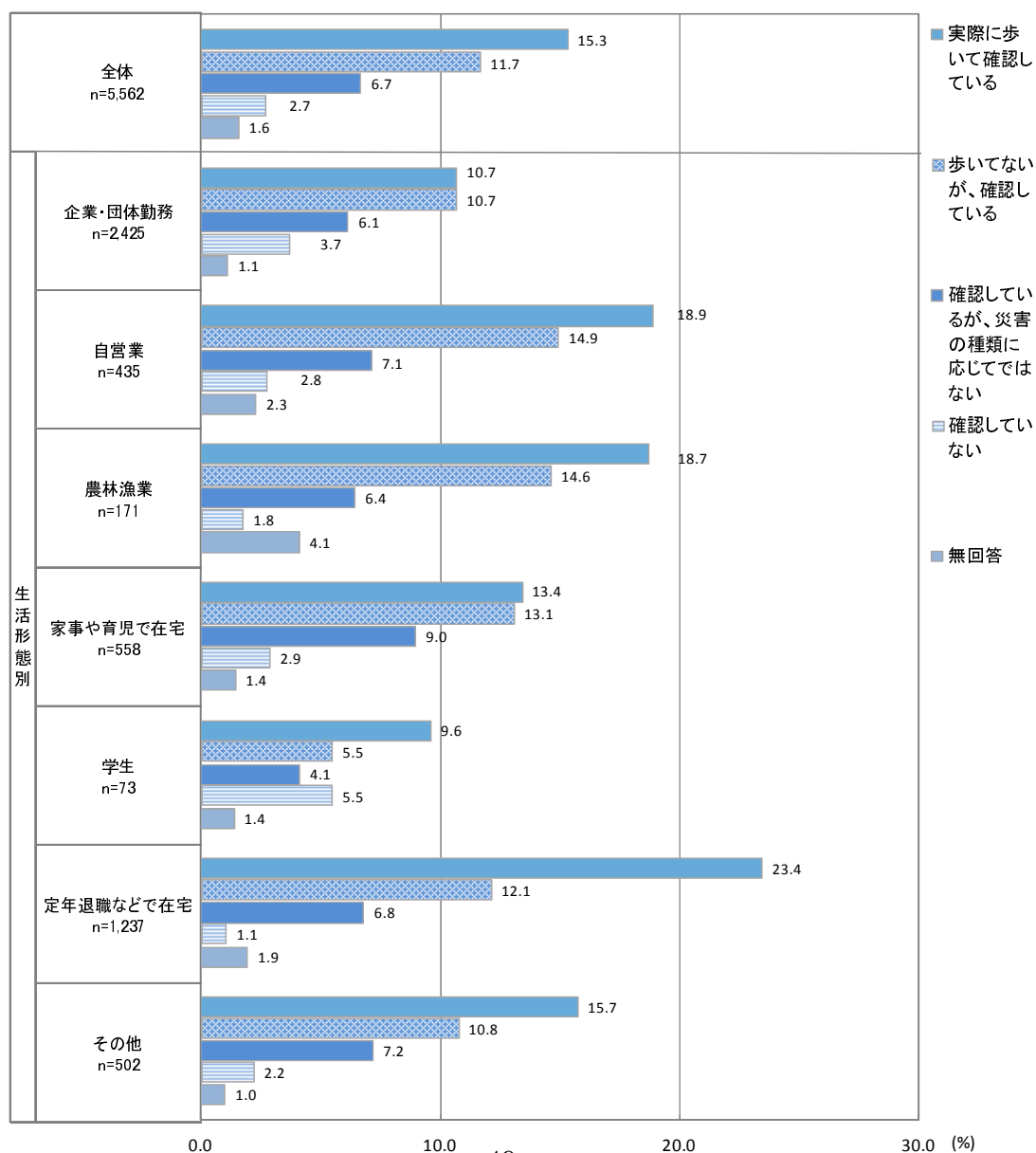
<性別>

『災害の種類に応じて確認している』は男性では３割弱、女性では２割半ばとなっている。



<生活形態別>

『災害の種類に応じて確認している』は「自営業」、「農林漁業」、「定年退職などで在宅」で多く３割を超えている。

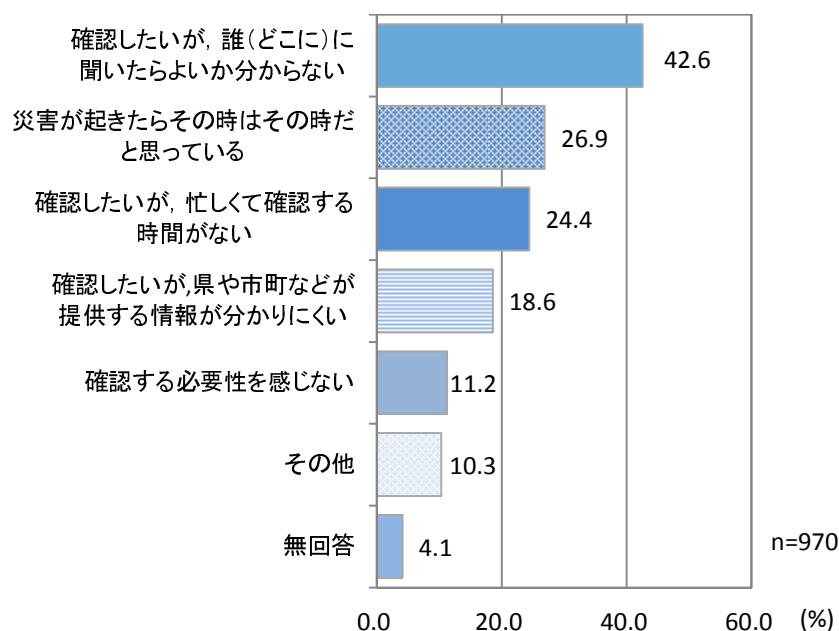


避難場所・経路を確認していない理由

問 12.問 7 で避難場所を「2 確認していない」、問 11 で避難経路を「4 確認していない」を回答した人にお尋ねします。避難場所・避難経路を確認していない理由を教えてください。（複数回答）

「確認したいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない」（42.6%）、「災害が起きたらその時はその時だと思っている」（26.9%）、「確認したいが、忙しくて確認する時間がない」（24.4%）の順に多い。

避難場所について知りたいと思いつつ、確認方法がわからないという回答が4割強となっている。

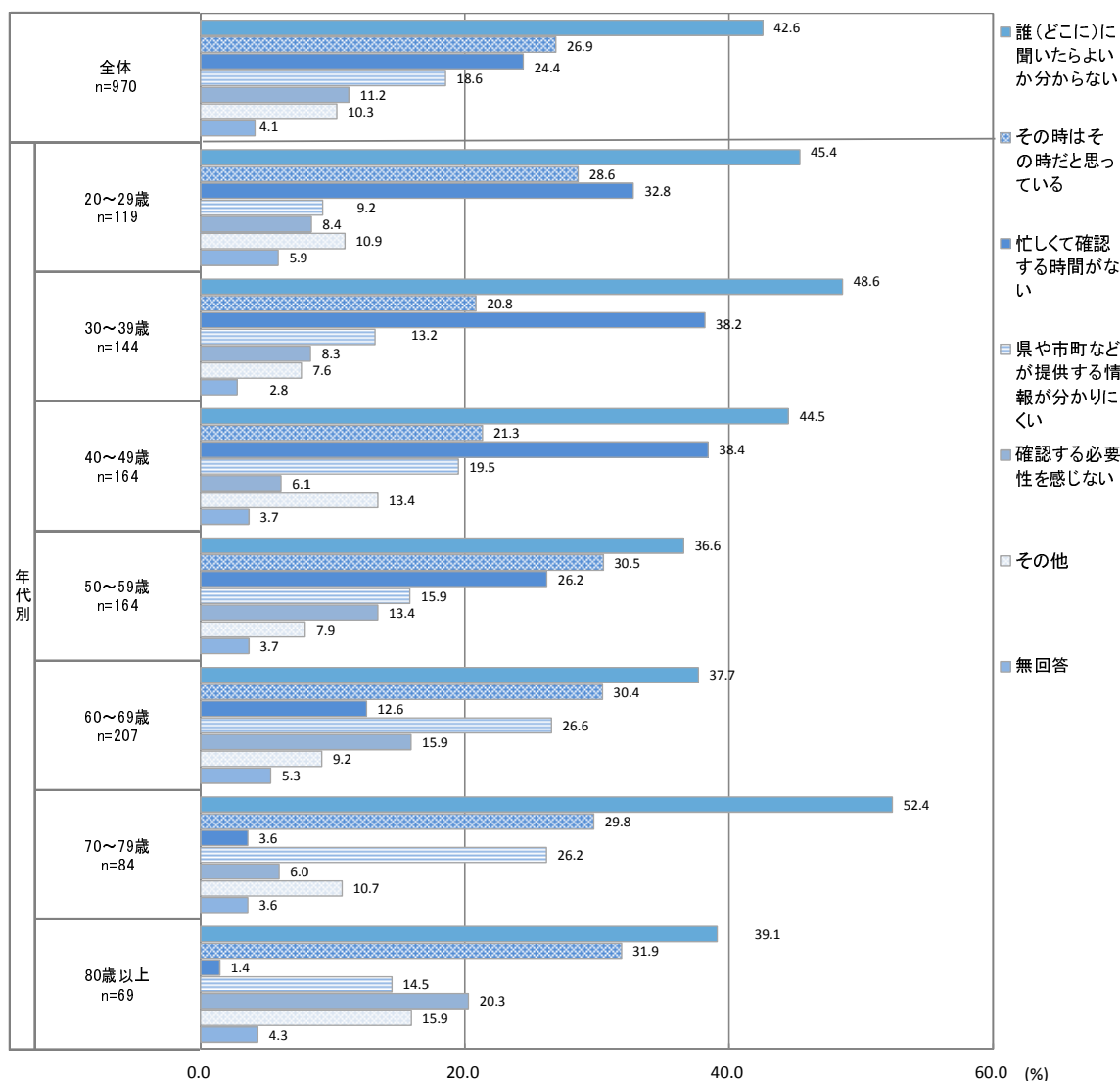


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・自己判断（52 件）
- ・後回しにしている・考えていない（45 件）
- ・避難しない（37 件）
- ・情報がない・わからない（29 件）
- ・近くにある（25 件）
- ・施設任せにしている
- ・避難訓練の経験から
- ・各地区の避難経路図を各戸に配布してほしい
- ・どうしようもない
- ・体が不自由、体調不良のため確認できない 等

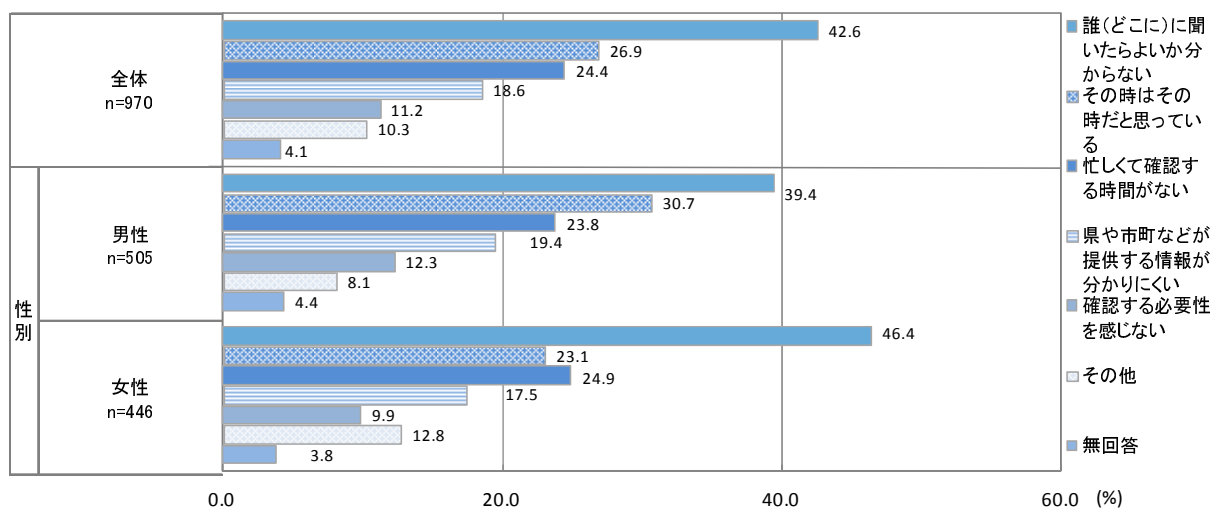
<年代別>

避難場所について知りたいと思いつつ、確認方法がわからないという「確認したいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない」は全ての年代で3割を超え最も多い。



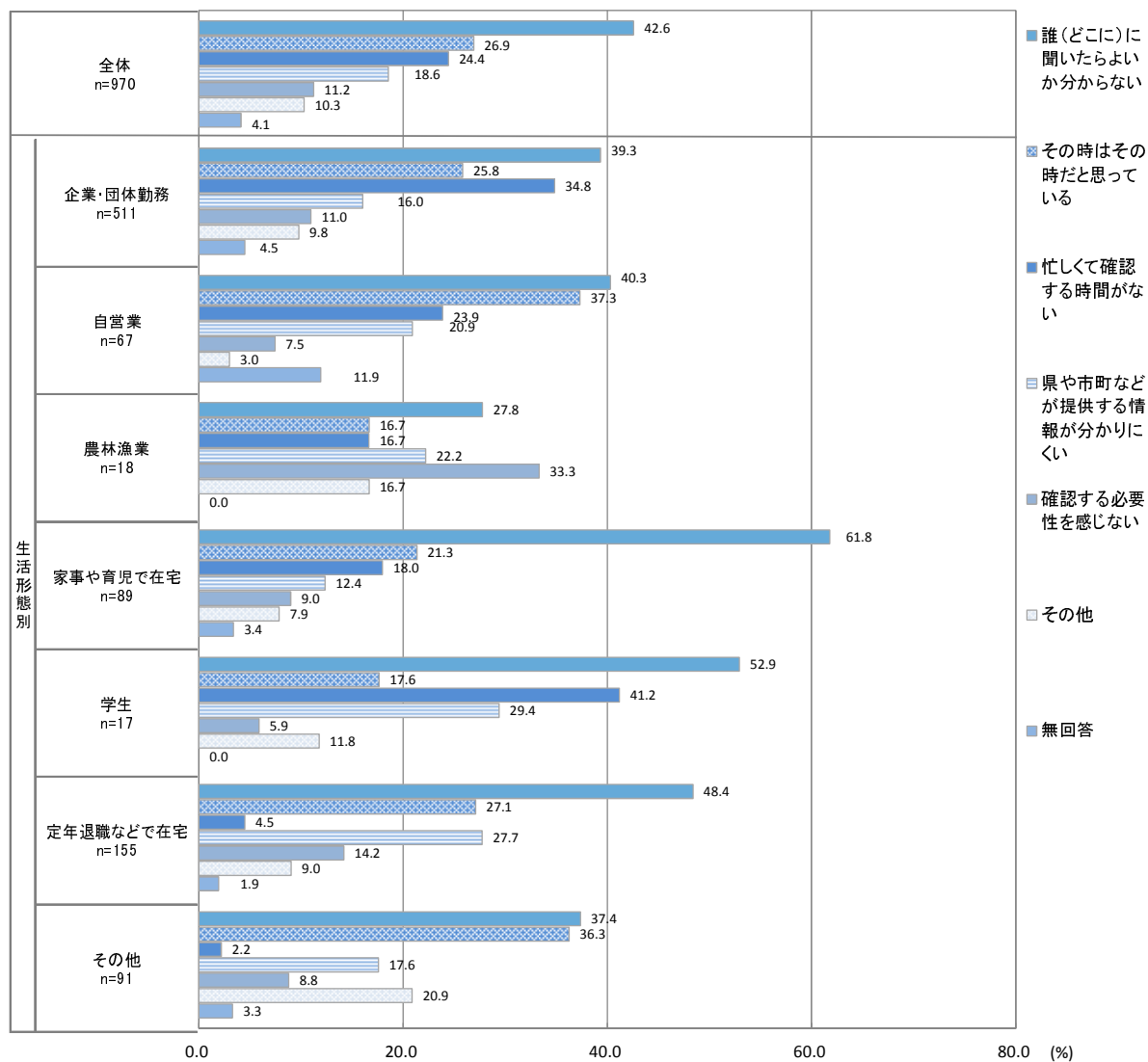
<性別>

避難場所について知りたいと思いつつ、確認方法がわからないという「確認したいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない」は「女性」が「男性」を7.0ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

避難場所について知りたいと思いつつ、確認方法がわからないという「確認したいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない」は「家事や育児で在宅」で多く 6 割を超えている。「農林漁業」のみ「確認する必要性を感じない」が最も多く 33.3%となっており、他の分類では 1 割弱～1 割台となっているのに比べ多い。

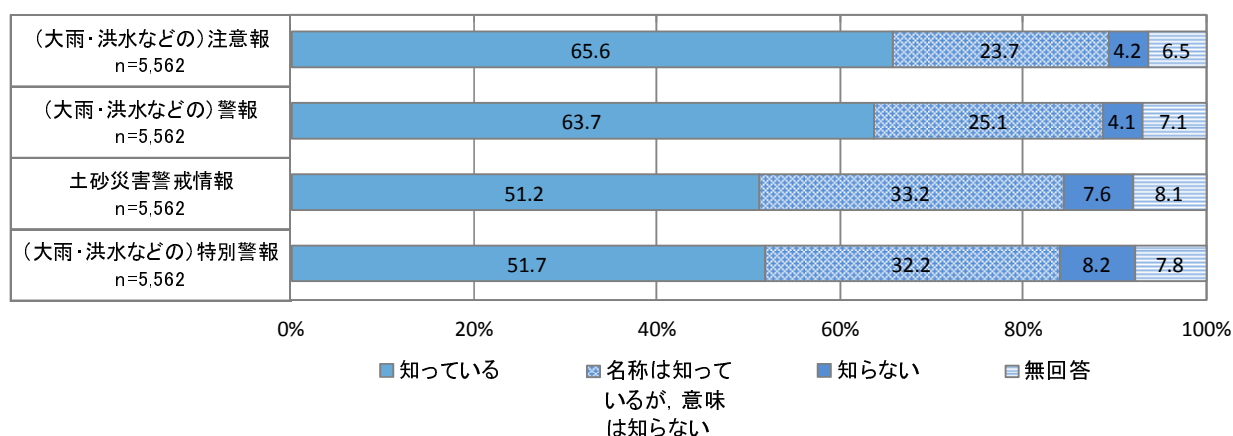


【気象情報や避難情報等の認知度について】

気象情報の名称とその意味の認知度

問 13.次の区分による名称とその意味を御存知ですか。（複数回答）

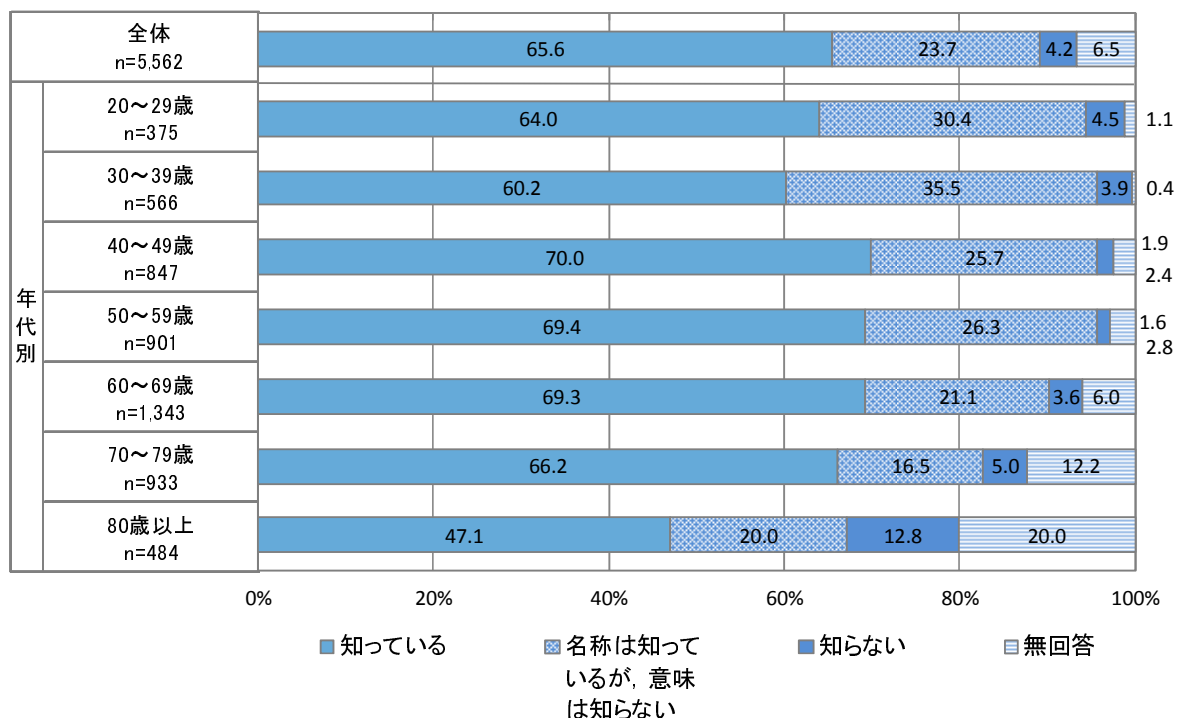
「(大雨・洪水などの)注意報」、「(大雨・洪水などの)警報」の名称と意味を知っているのは6割半ばとなっている。一方で、「土砂災害警戒情報」、「(大雨、洪水などの)特別警報」の名称と意味を知っているのは5割強となっている



(大雨・洪水などの)注意報

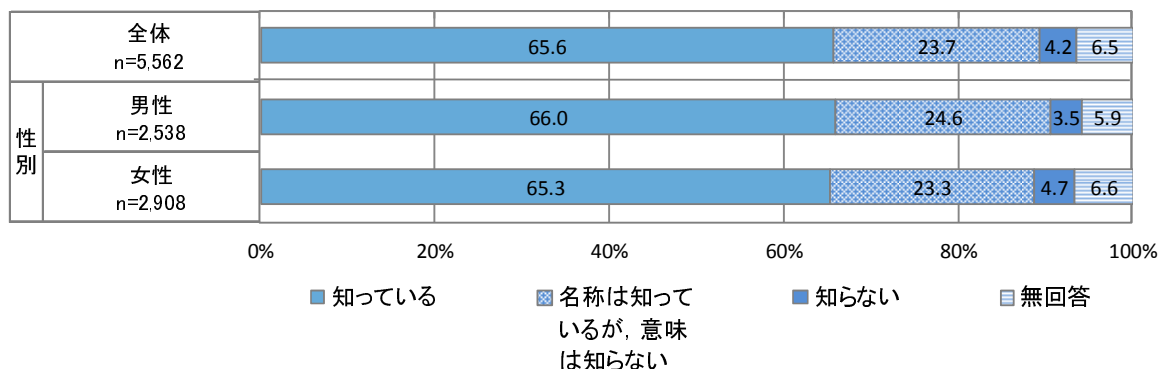
<年代別>

全ての年代で「知っている」が最も多く、「80歳以上」を除き6割を超えている。



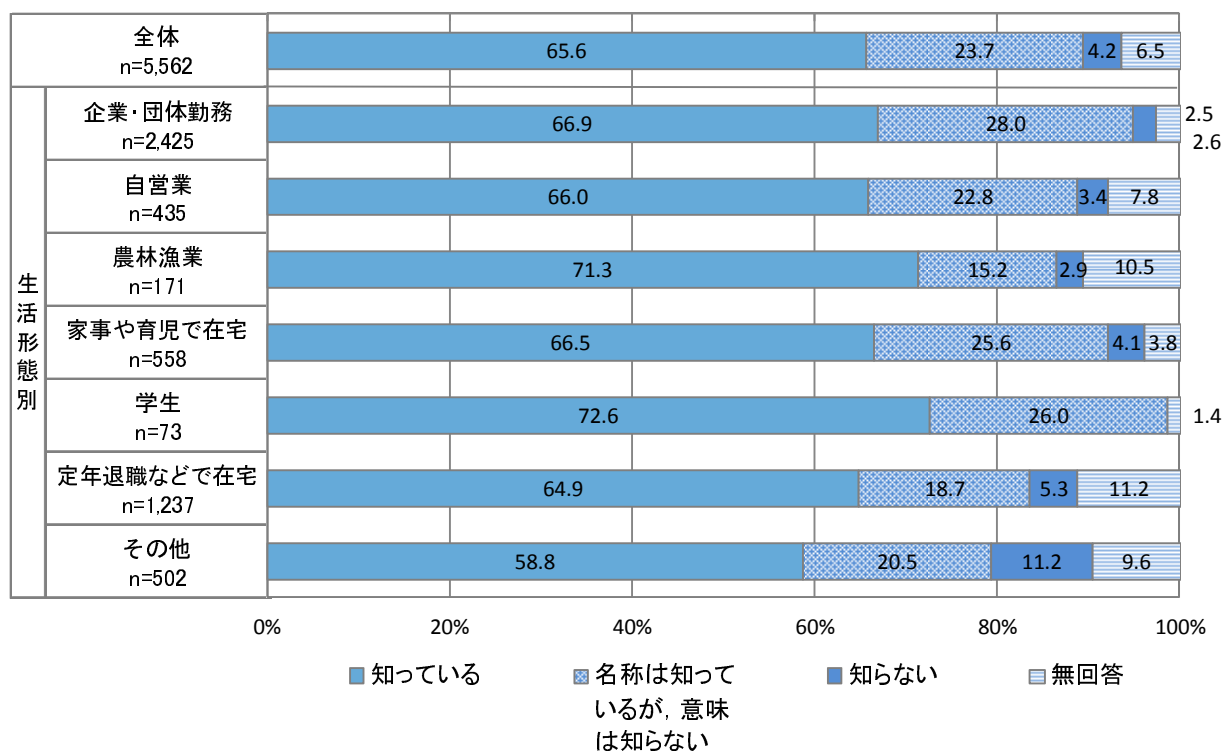
<性別>

性別による差はあまりみられない。



<生活形態別>

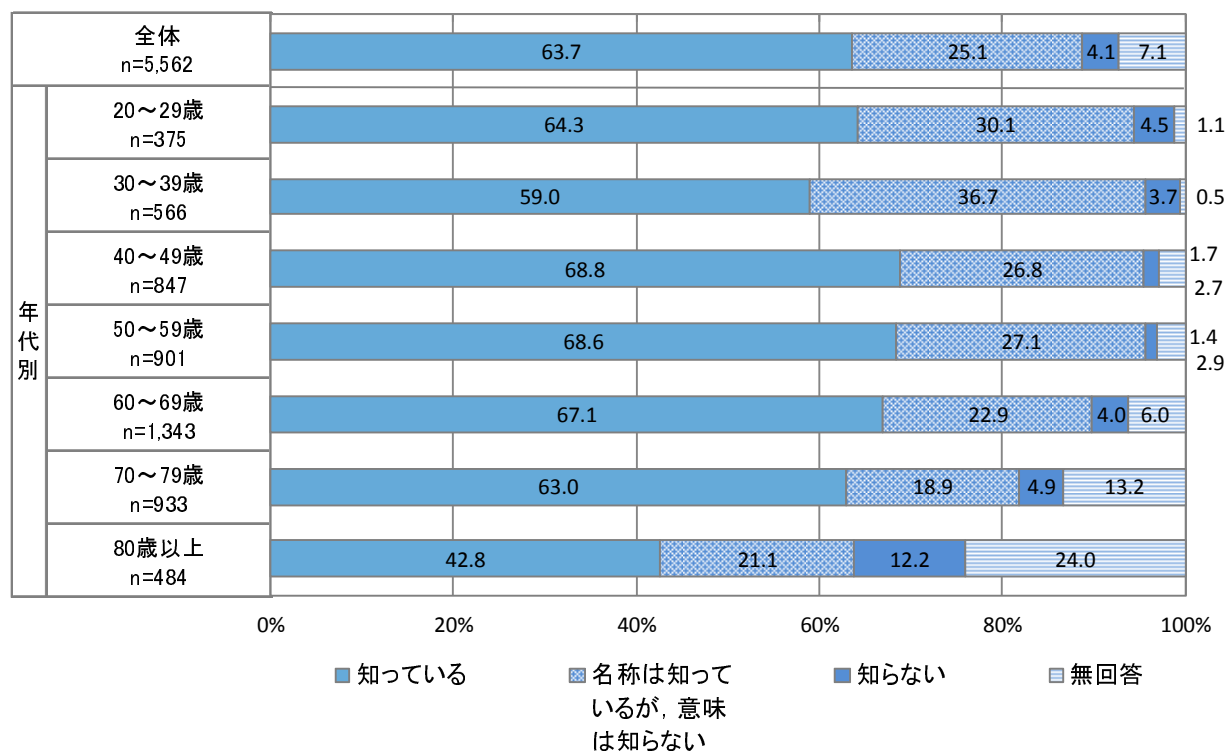
全ての分類で「知っている」が最も多く、「農林漁業」、「学生」では7割を超えている。



(大雨・洪水などの)警報

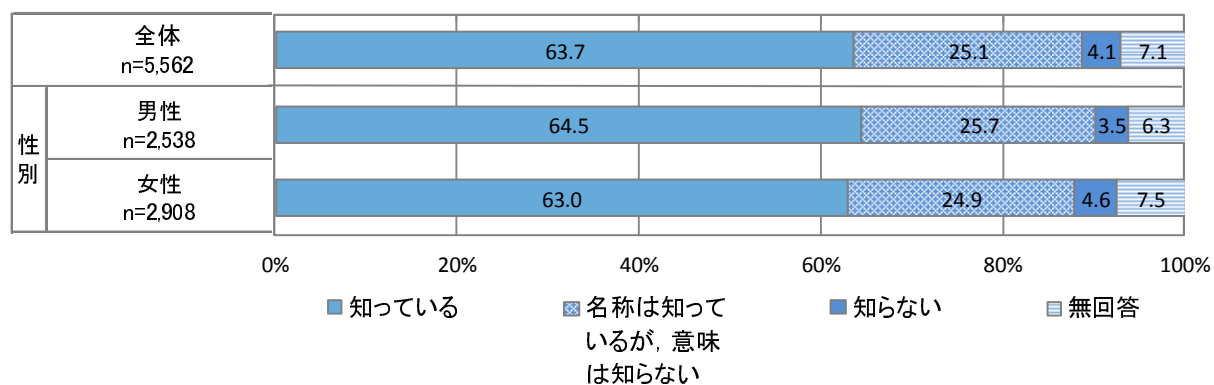
<年代別>

全ての年代で「知っている」が最も多く、「30～39 歳」、「80 歳以上」を除き 6 割を超えている。



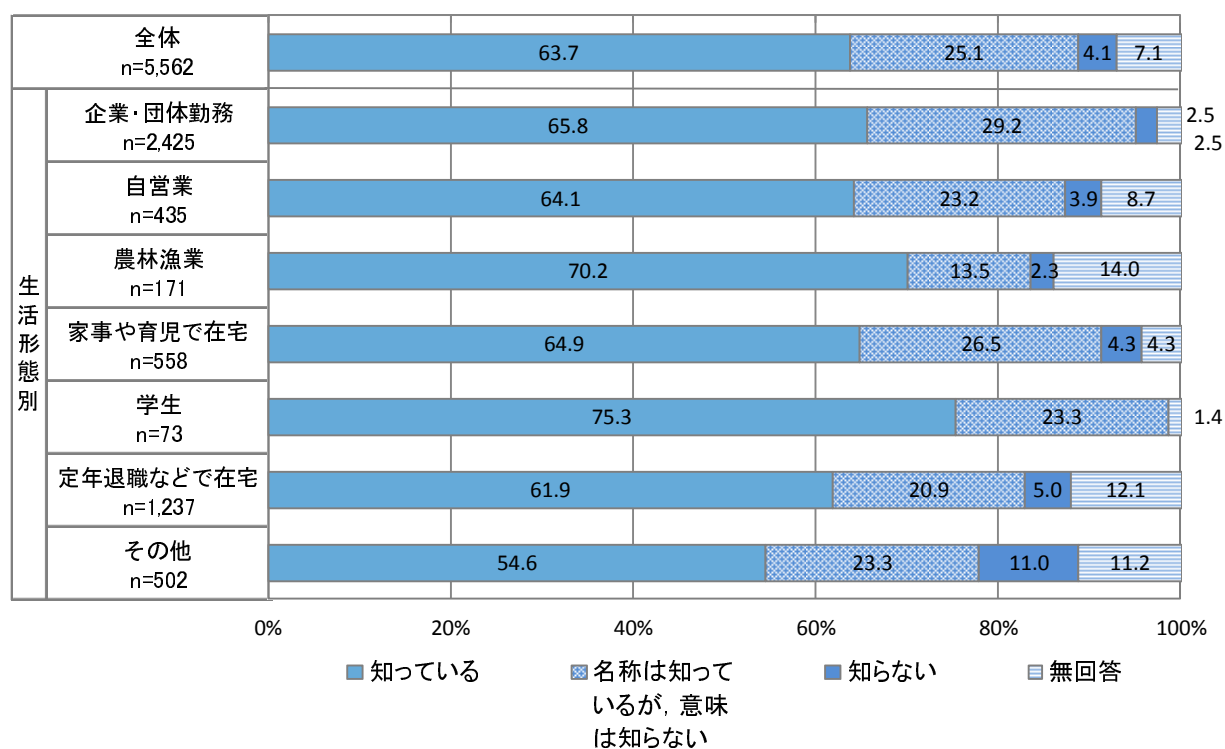
<性別>

性別による差はあまりみられない。



＜生活形態別＞

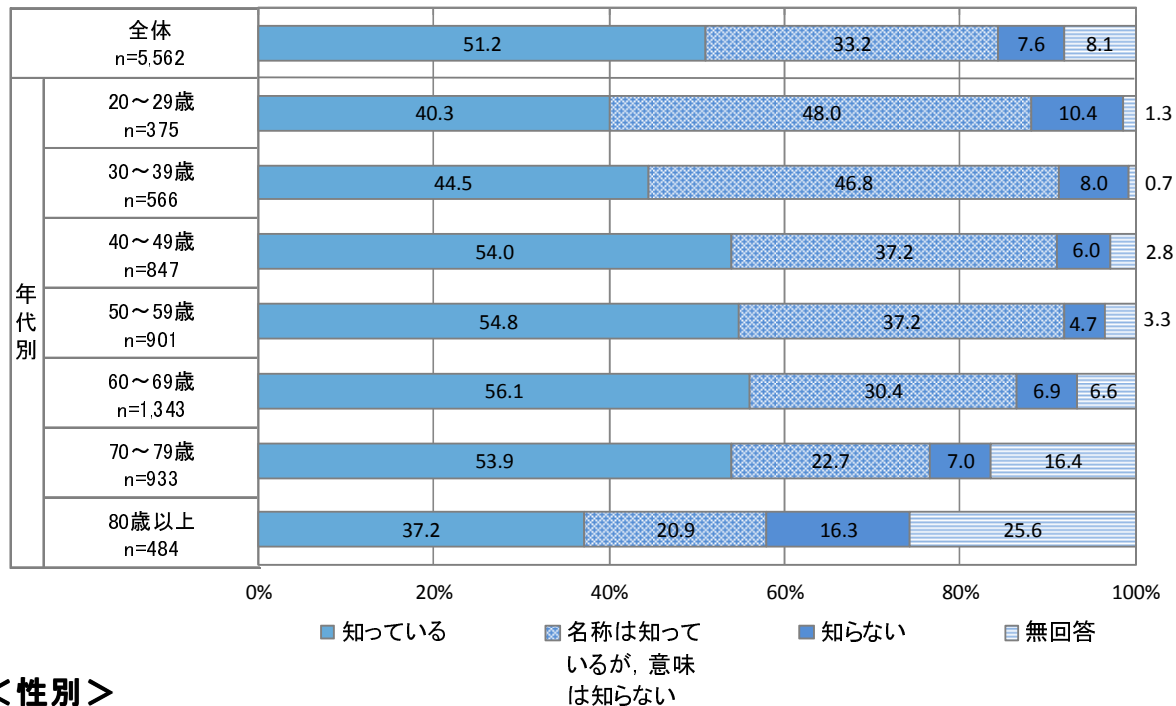
全ての分類で「知っている」が最も多く、「農林漁業」、「学生」では 7 割を超えている。



土砂災害警戒情報

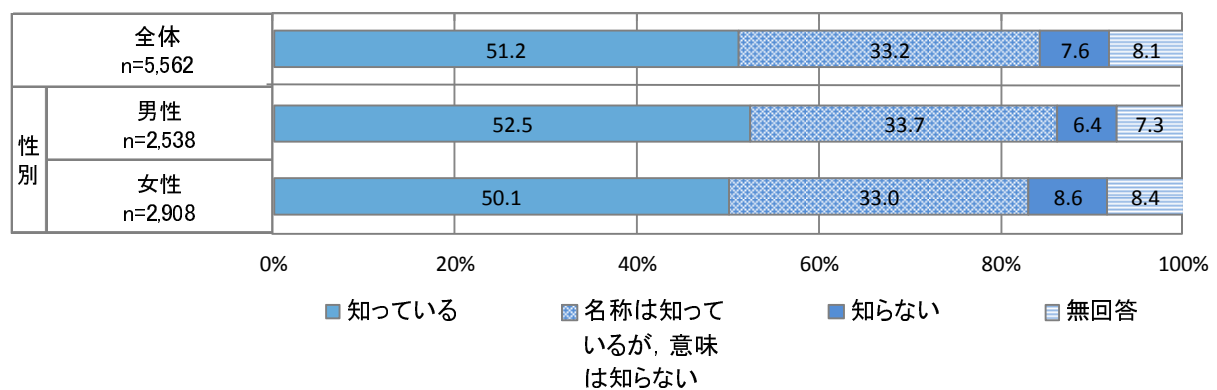
<年代別>

「40～49 歳」より上の年代では「知っている」が最も多い。「20～29 歳」、「30～39 歳」では「名称は知っているが、意味は知らない」が最も多くなっている。



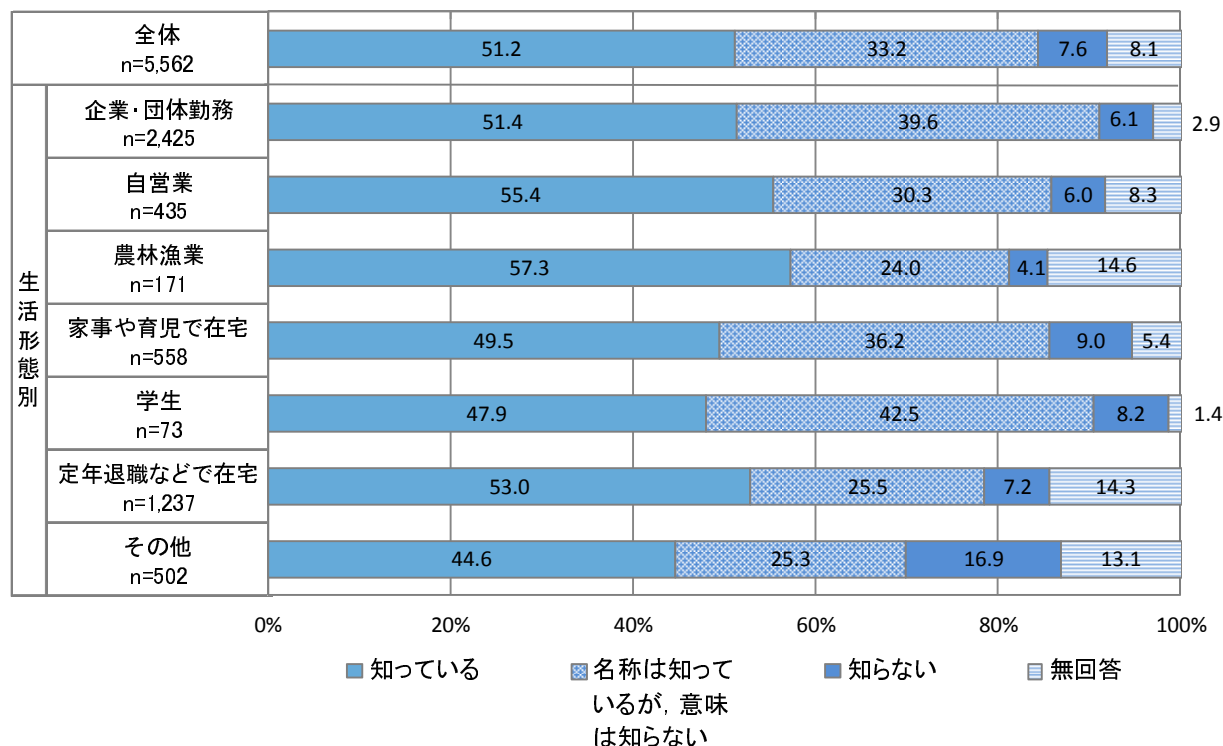
<性別>

性別による差はあまりみられない。



<生活形態別>

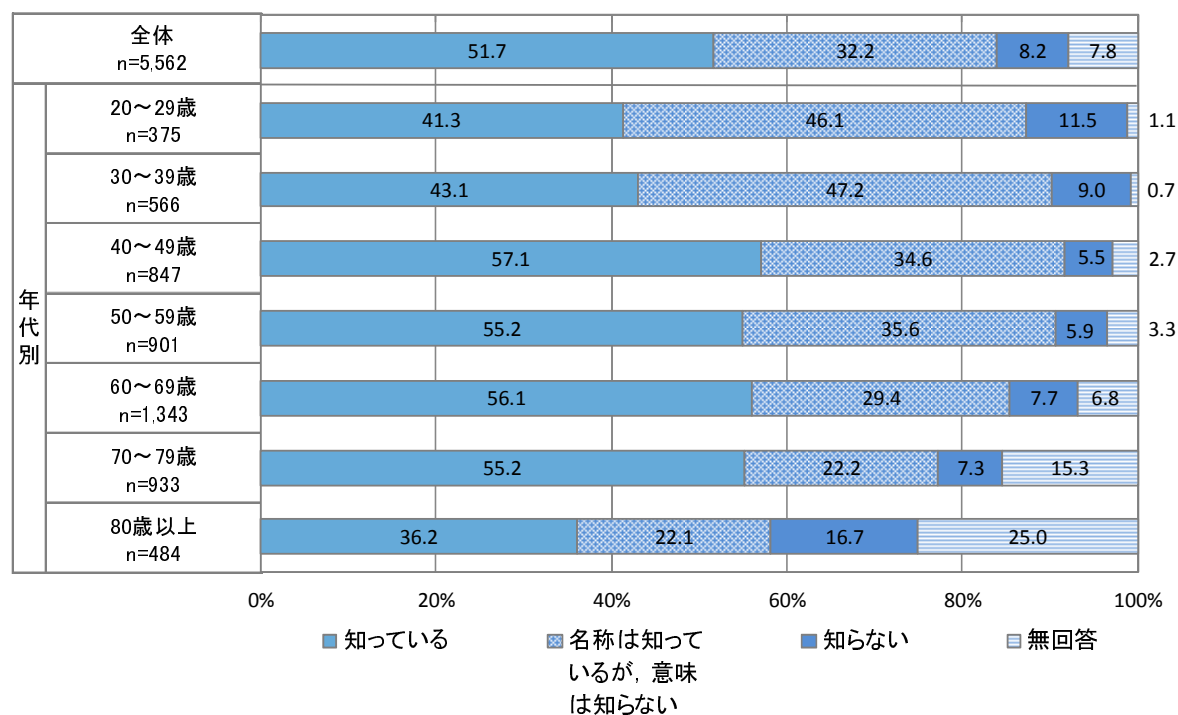
全ての分類で「知っている」が最も多く、4割～5割台となっている。



(大雨・洪水などの) 特別警報

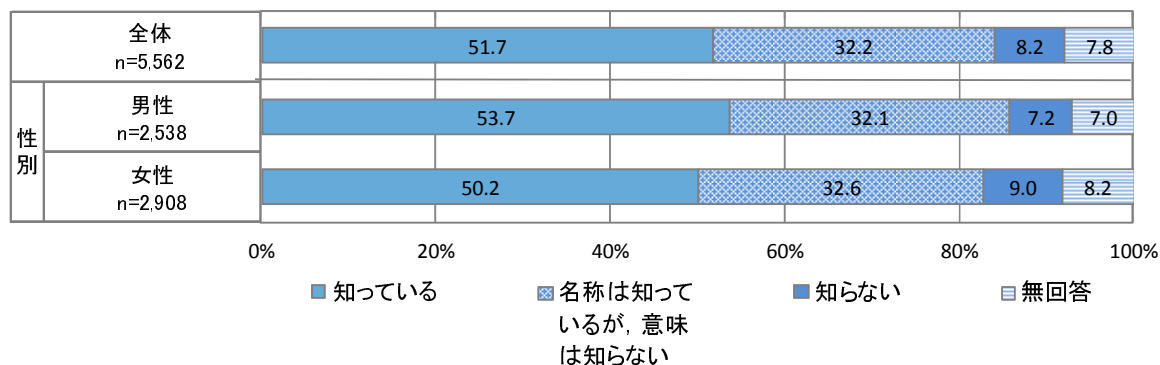
<年代別>

「40～49 歳」より上の年代では「知っている」が最も多く、「80 歳以上」を除き 5 割を超えている。「20～29 歳」、「30～39 歳」では「名称は知っているが、意味は知らない」が最も多い。



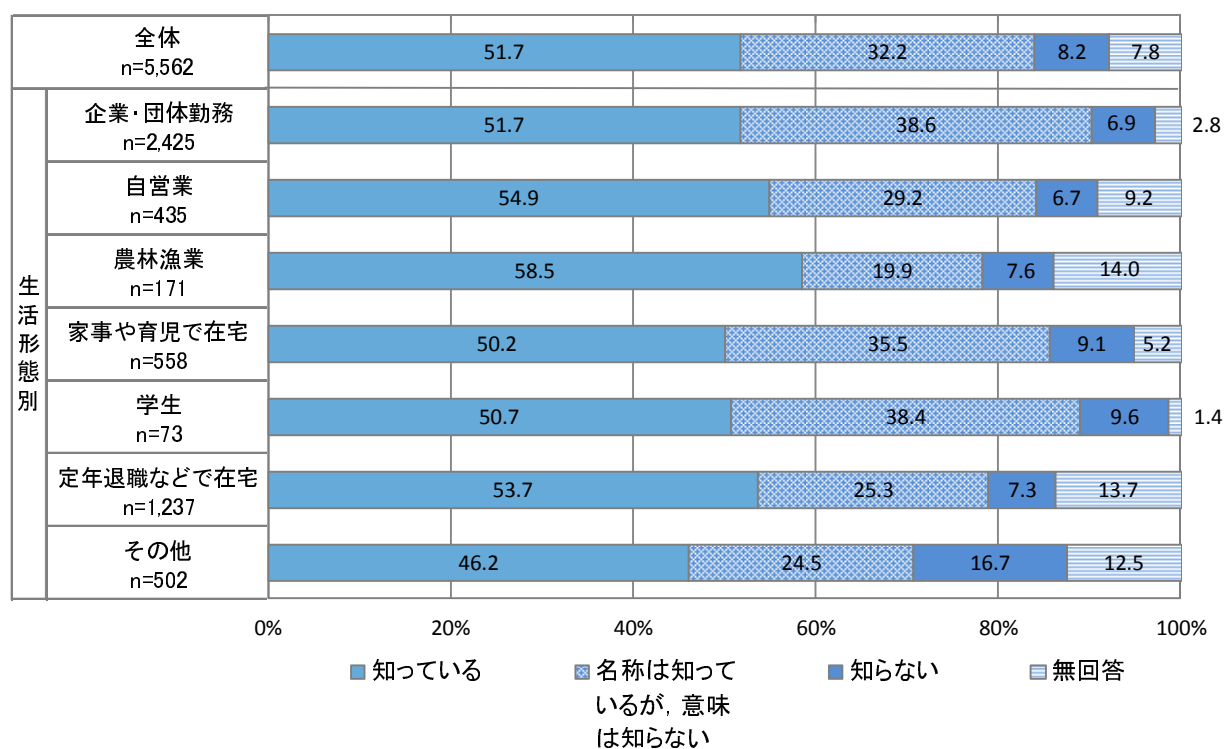
<性別>

性別による差はあまりみられない。



<生活形態別>

全ての分類で「知っている」が最も多く、「農林漁業」では 58.5%となっている。「名称は知っているが、意味は知らない」は「企業・団体勤務」、「学生」で 4 割弱と比較的多い。

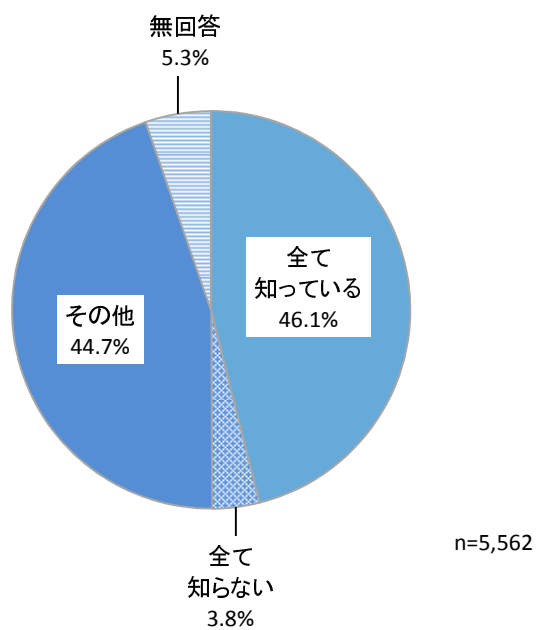


参考

問 13 の下記 4 項目について「全て知っている」、「全て知らない」と回答した人の割合は下記のようになった。

- (1) (大雨・洪水などの) 注意報
- (2) (大雨・洪水などの) 警報
- (3) 土砂災害警戒情報
- (4) (大雨・洪水などの) 特別警報

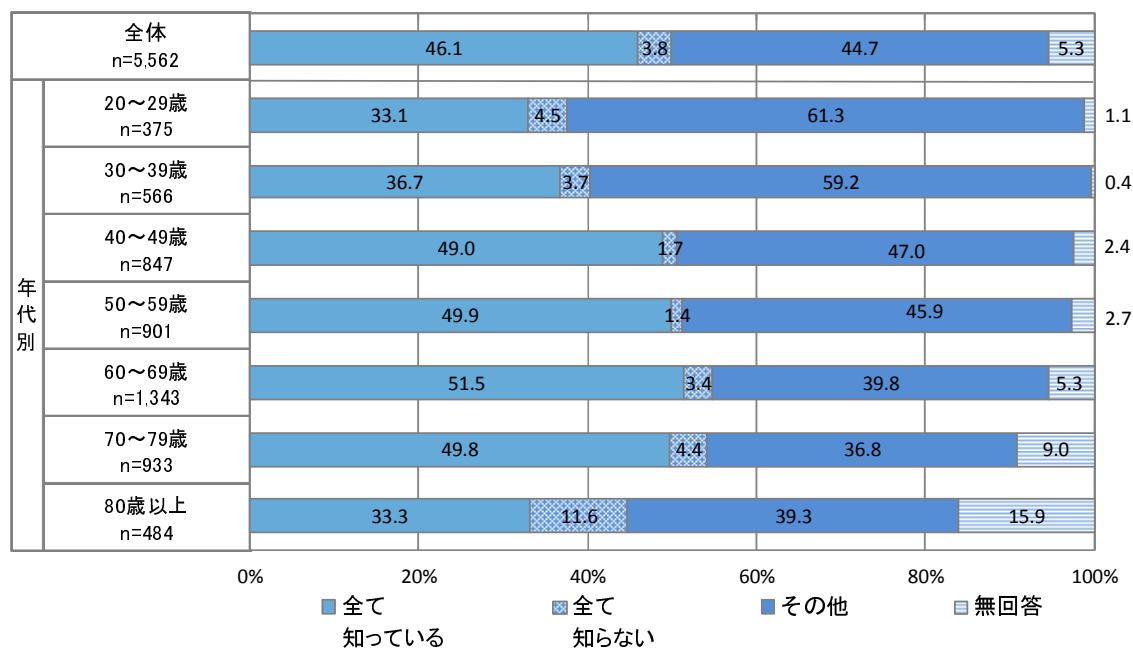
『全て知っている』は 46.1%と 4 割台半ばとなり、『全て知らない』は 3.8%となっている。



※「その他」は部分的に「知っている」、「名称は知っているが意味は知らない」、「知らない」と回答した人の比率

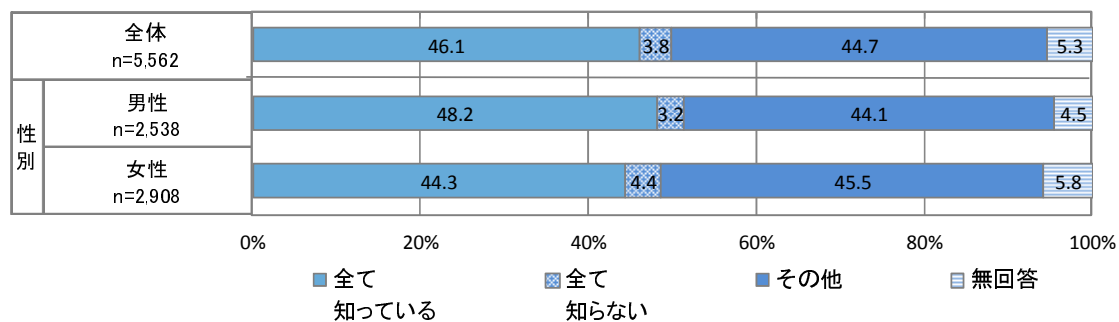
<年代別>

『全て知っている』は「80 歳以上」を除き年代が上がるにつれ多くなっており、「60～69 歳」では 5 割を超えた。『全て知らない』は「80 歳以上」で最も多く 1 割を超えている。



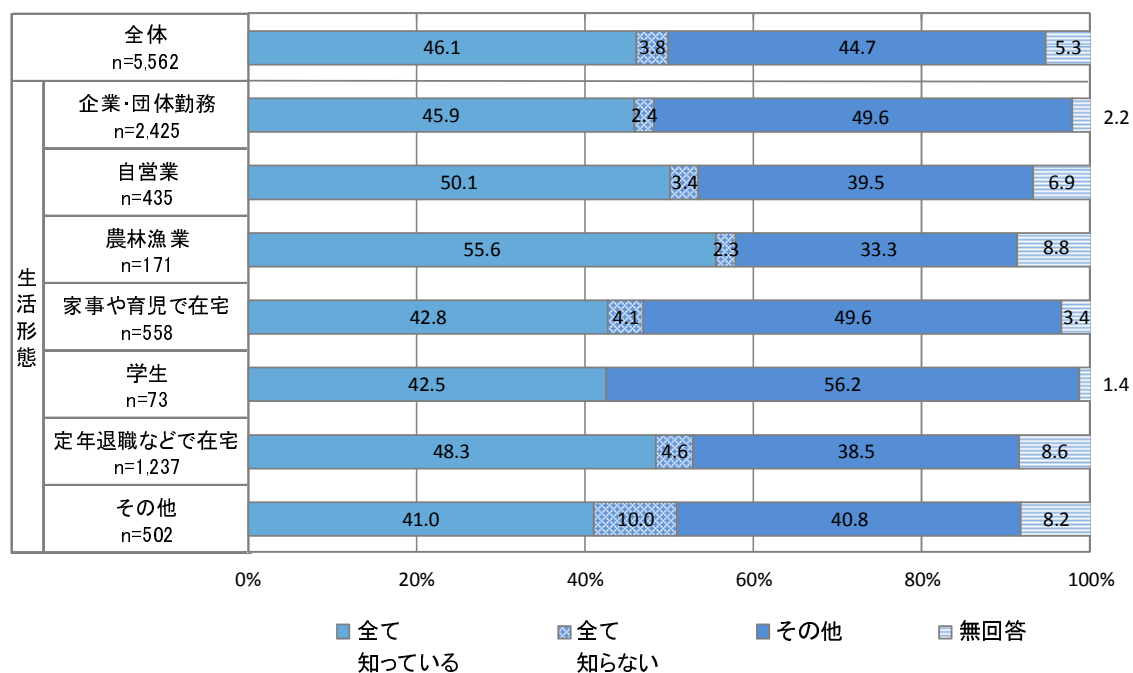
<性別>

『全て知っている』は男女とも 4 割台となっており、男性が女性を 3.9 ポイント上回っている。



<生活形態別>

『全て知っている』は「自営業」、「農林漁業」で多く５割を超えている。

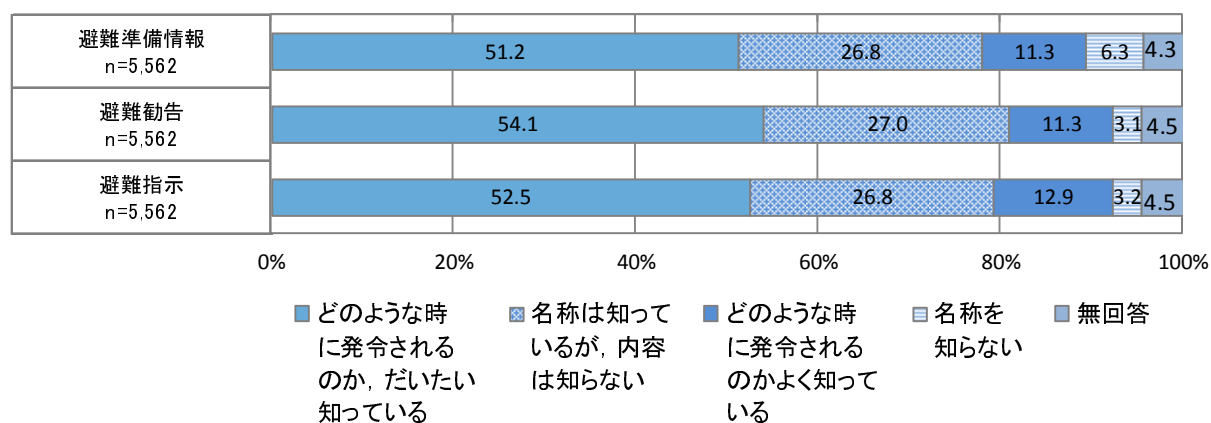


避難情報の名称の認知度

「避難準備情報」，「避難勧告」及び「避難指示」についてお尋ねします。

問 14-1. 「避難準備情報」，「避難勧告」及び「避難指示」の情報の名称と，これらは，どんな時に発令されるか御存知ですか。（単一回答）

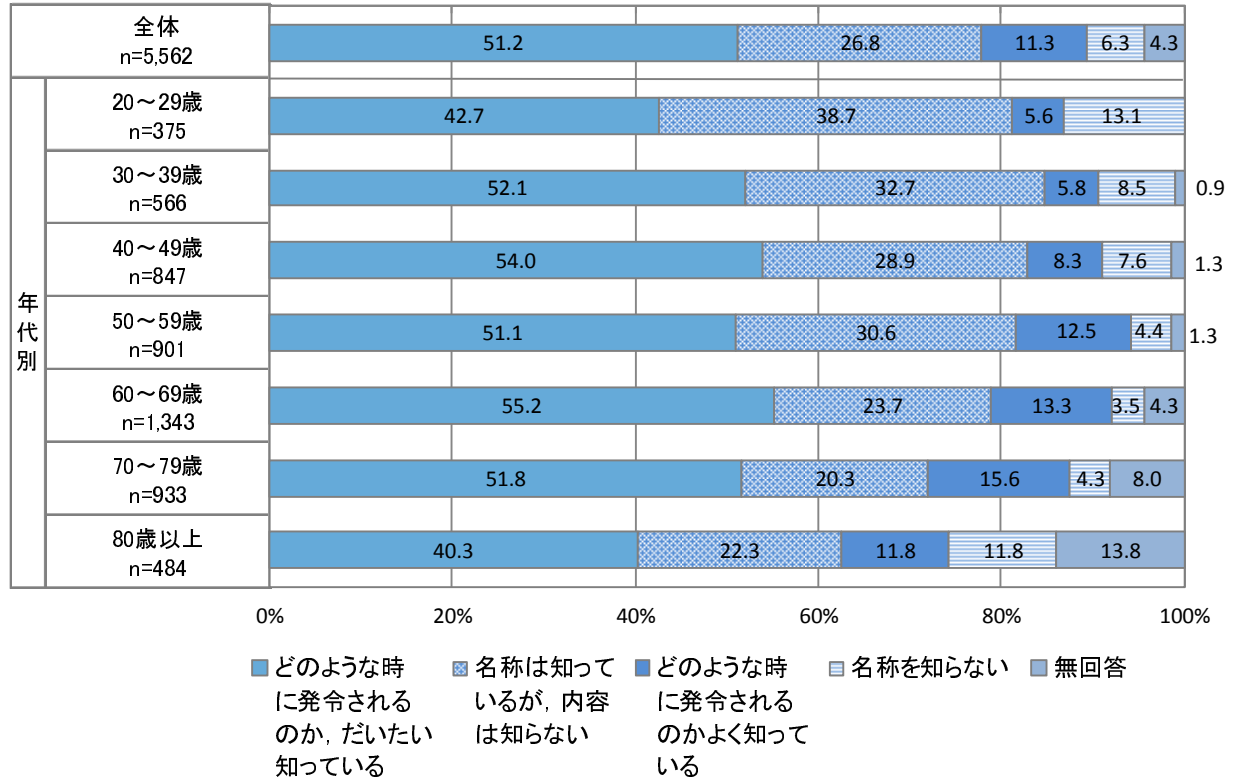
「避難準備情報」で「名称を知らない」は 6.3%となり、他の分類の約 2 倍となっている。『知らない』（「名称は知っているが、内容は知らない」、「名称を知らない」の合計は 3 割程度となっている。



避難準備情報

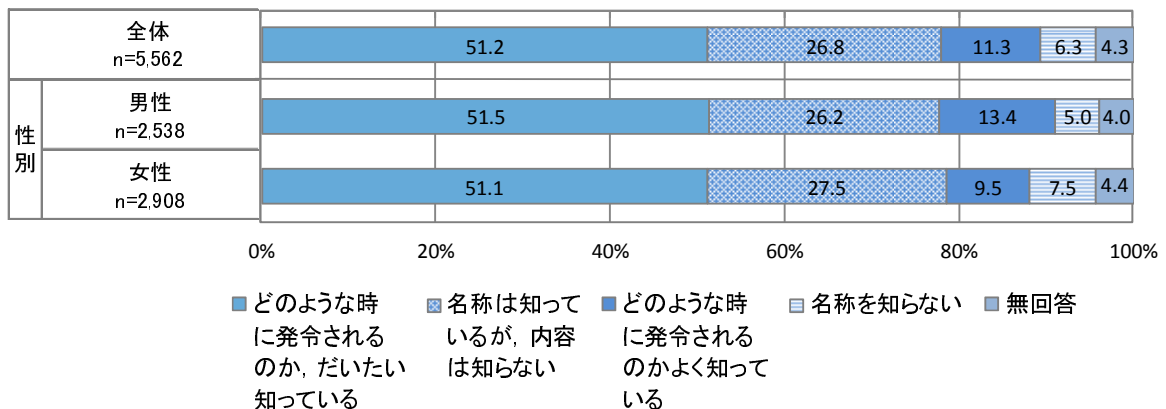
<年代別>

「80歳以上」を除き『知らない』は年代が上がるにつれ少なくなっており、「20～29歳」の51.8%に対して、「70～79歳」では24.6%となっている。



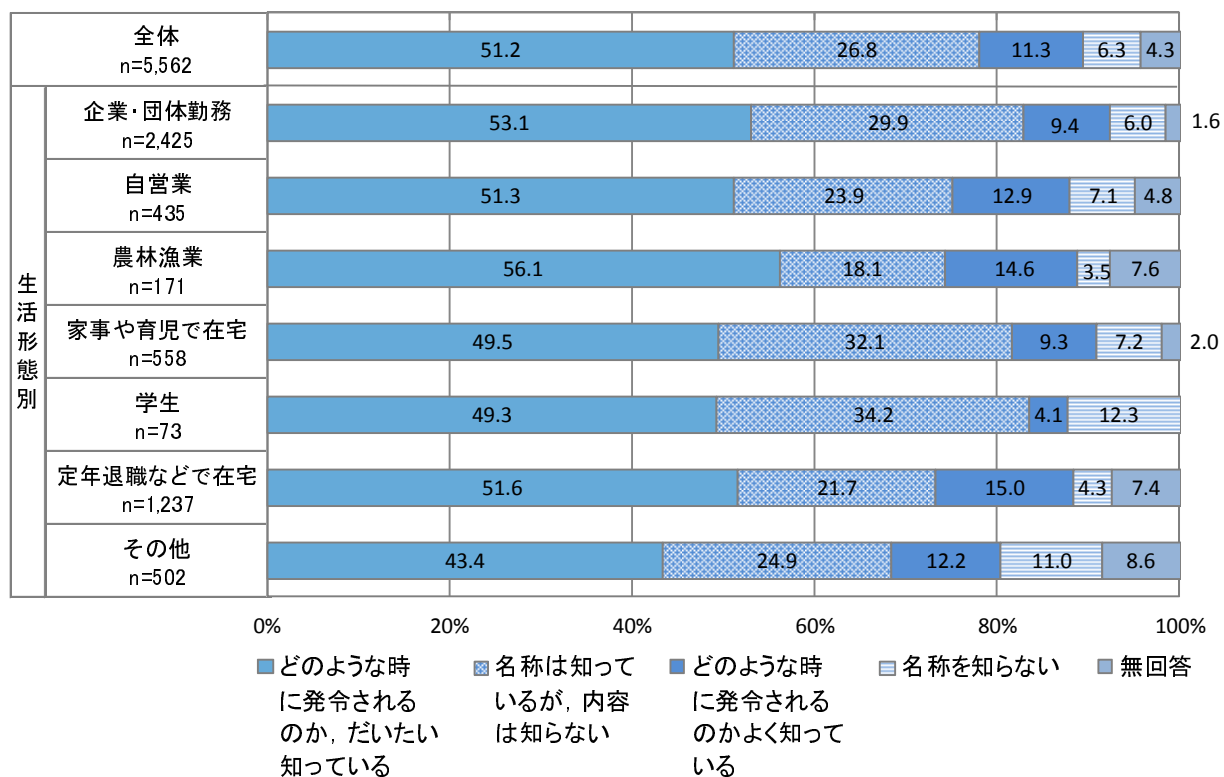
<性別>

『知らない』は女性が男性を3.8ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

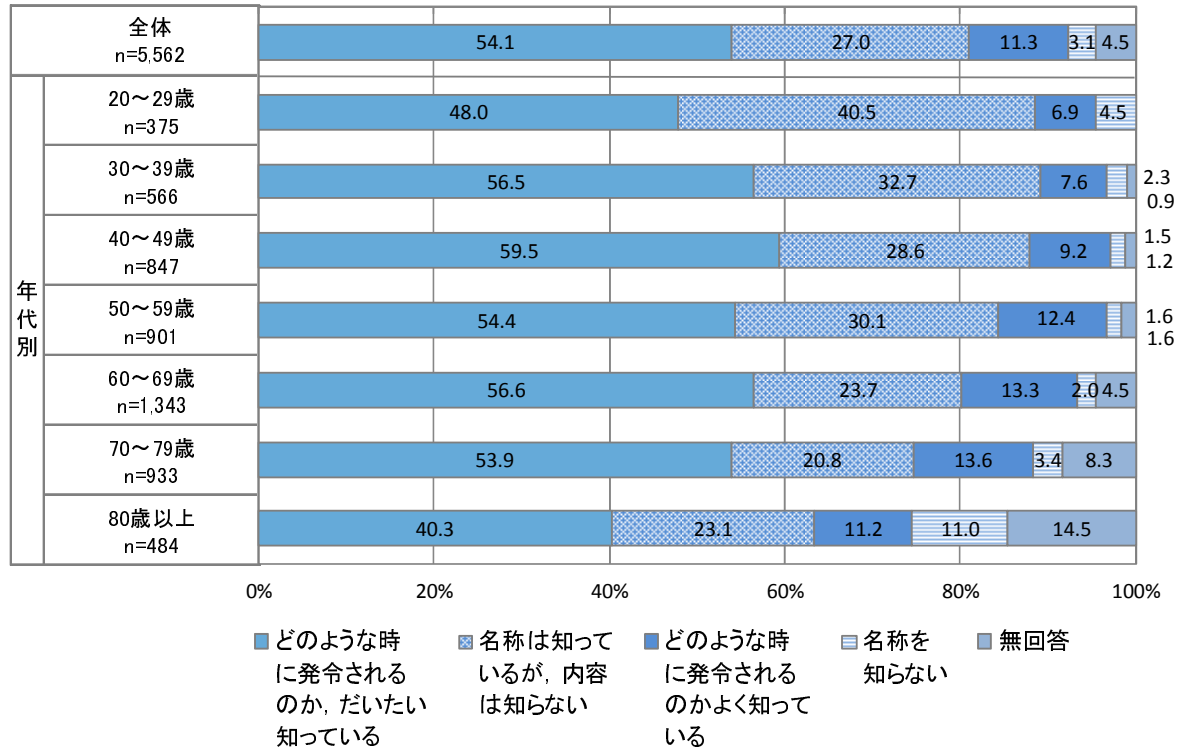
『知らない』は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」を除き全ての分類で3割を超えており、特に学生では5割弱（46.5%）となっている。



避難勧告

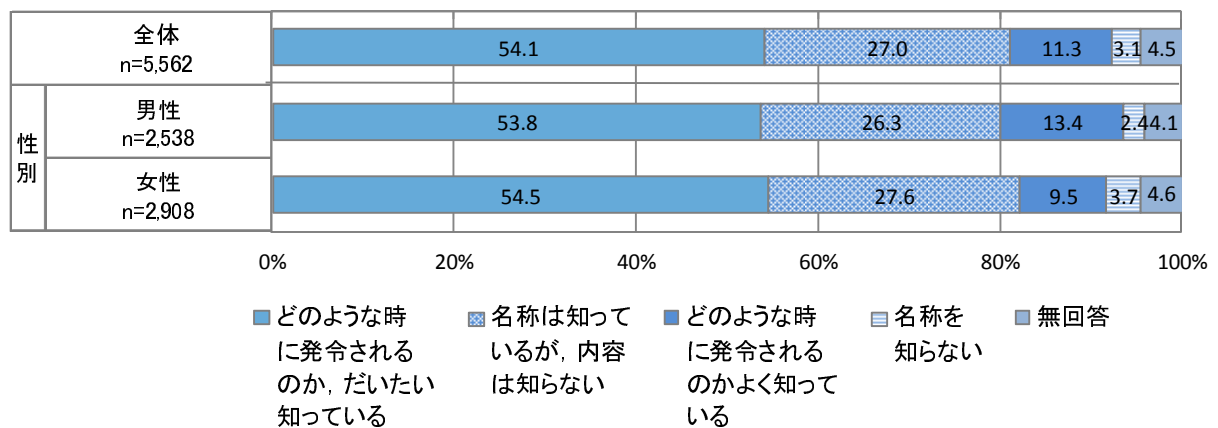
<年代別>

『知らない』は「20～29 歳」で最も多く 4 割半ば、「70～79 歳」では最も少なく、2 割半ばとなっている。



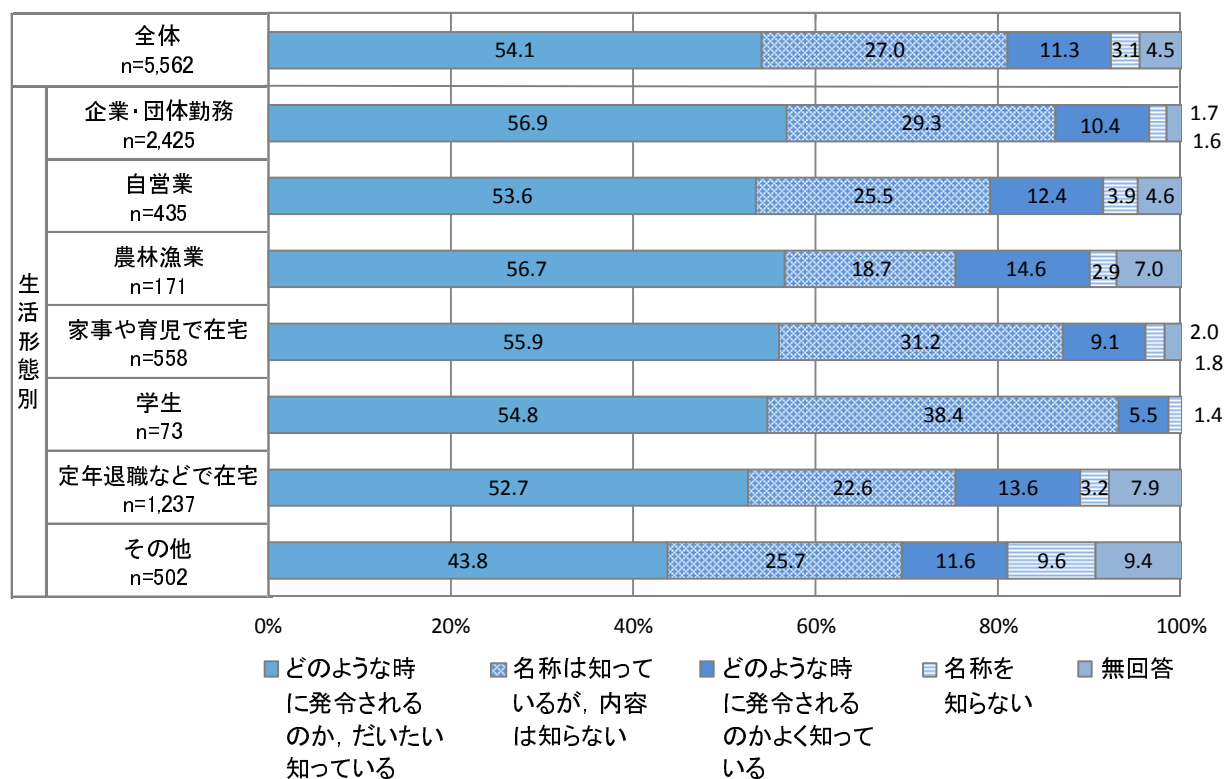
<性別>

『知らない』は女性が男性を 2.6 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

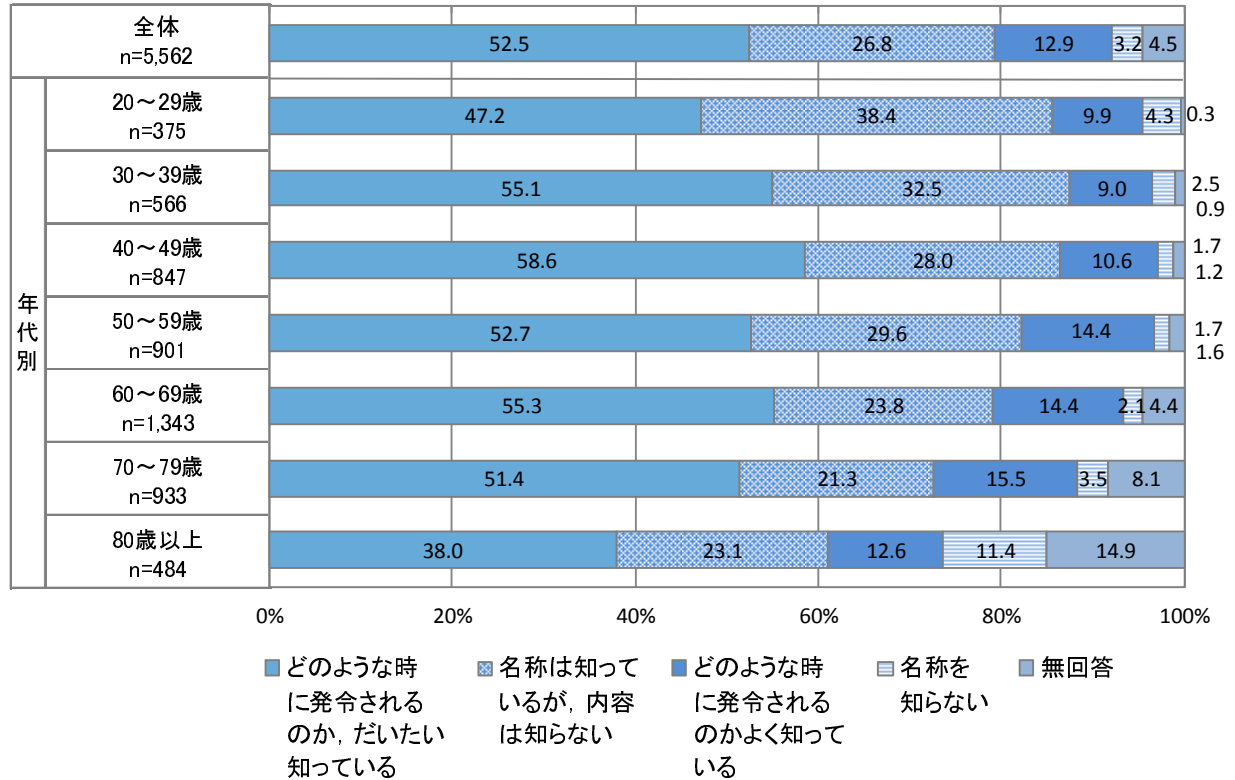
『知らない』は「自営業」、「農林漁業」、「定年退職などで在宅」を除き 3 割を超え、「学生」では 4 割弱（39.8%）となっている。



避難指示

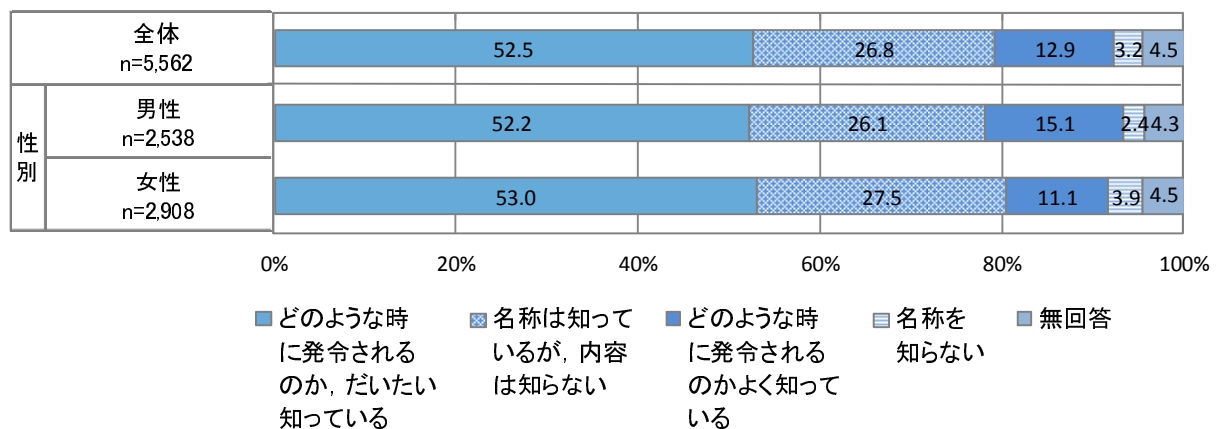
<年代別>

『知らない』は「20～29 歳」で 42.7%と最も多くなっている。「60～69 歳」、「70～79 歳」では比較的認知度が高く、2 割半ば前後となっている。



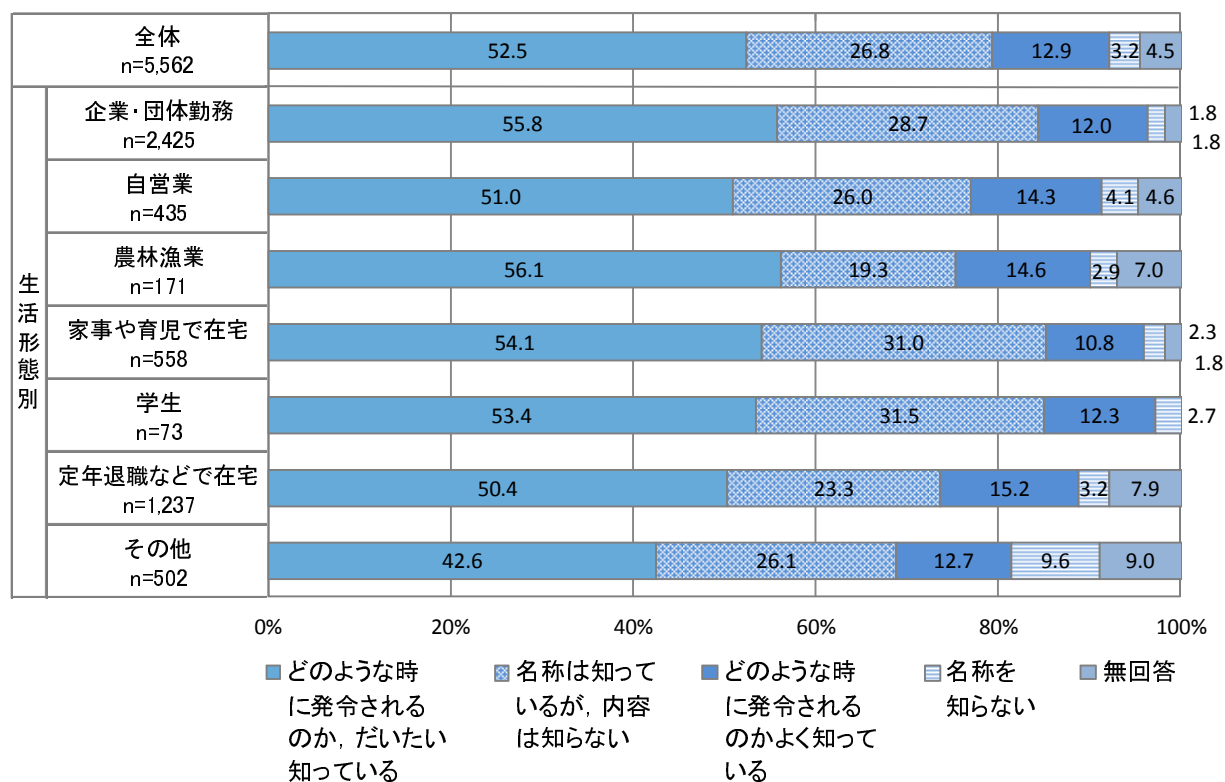
<性別>

『知らない』は女性が男性を 2.9 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

『知らない』は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」を除き 3 割を超えている。



参考

問 14 (1) の下記 3 項目について

『知っている』（3 項目全てに「どのような時に発令されるのかよく知っている」又は「どのような時に発令されるのか、だいたい知っている」と回答した人の合計）

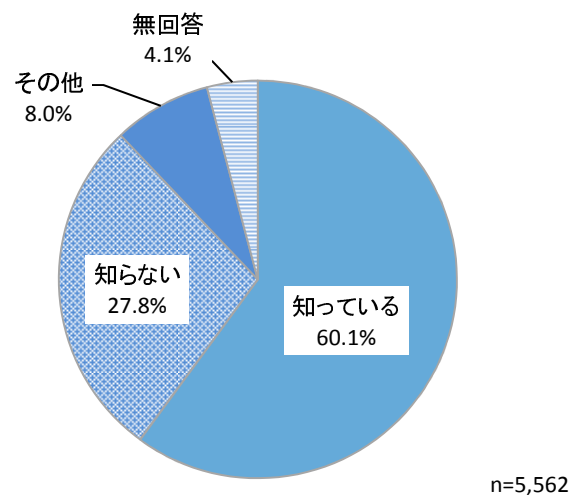
『知らない』（3 項目全てに「名称は知っているが、内容は知らない」又は「名称を知らない」と回答した人の合計）と回答した人の割合は下記のようになった。

避難準備情報

避難勧告

避難指示

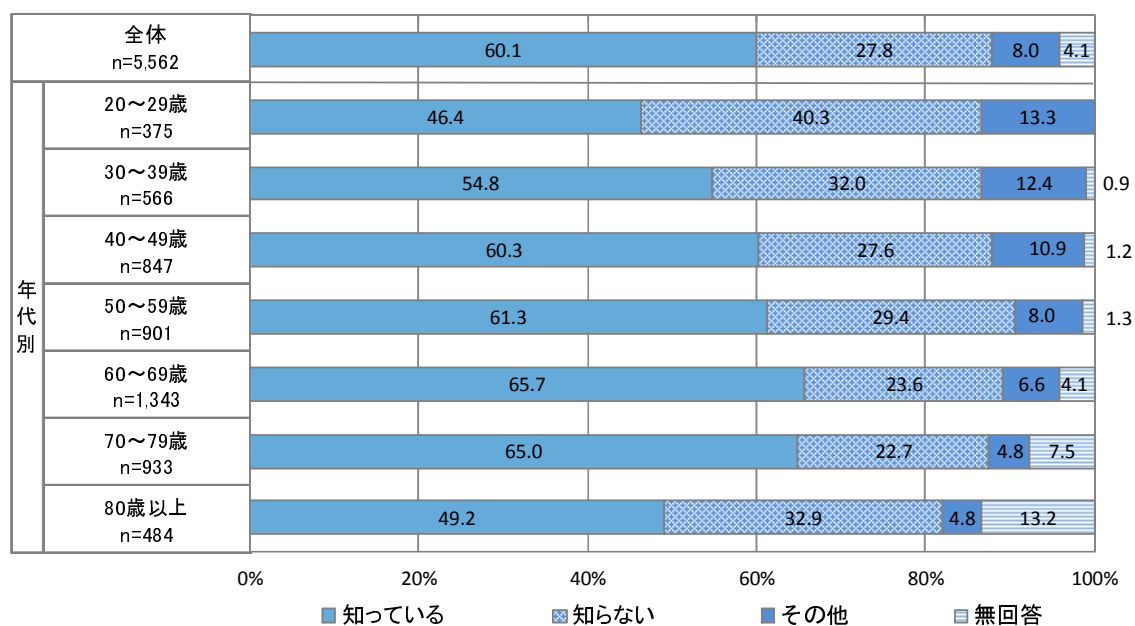
『知っている』は 60.1%と 6 割を超え、『知らない』は 3 割弱（27.8%）となっている。



※「その他」は部分的に「どのような時に発令されるのかよく知っている」、「どのような時に発令されるのか、だいたい知っている」、「名称は知っているが、内容は知らない」、「名称を知らない」と回答した人の比率

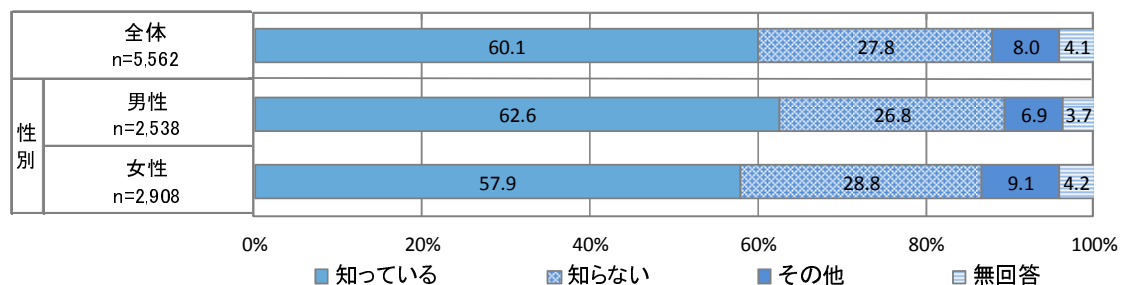
<年代別>

『知っている』は「80歳以上」を除き年代が上がるにつれ多くなっている。『知らない』は「20～29歳」で多く最も4割を超えている。



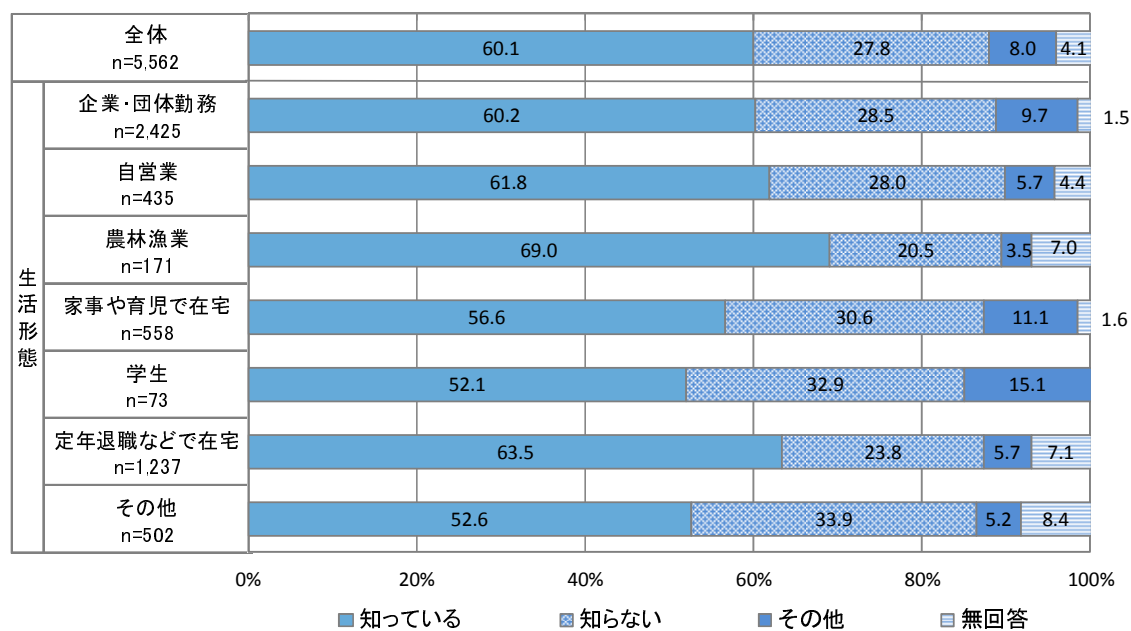
<性別>

『知っている』は男女ともに6割前後となっており、男性が女性を4.7ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

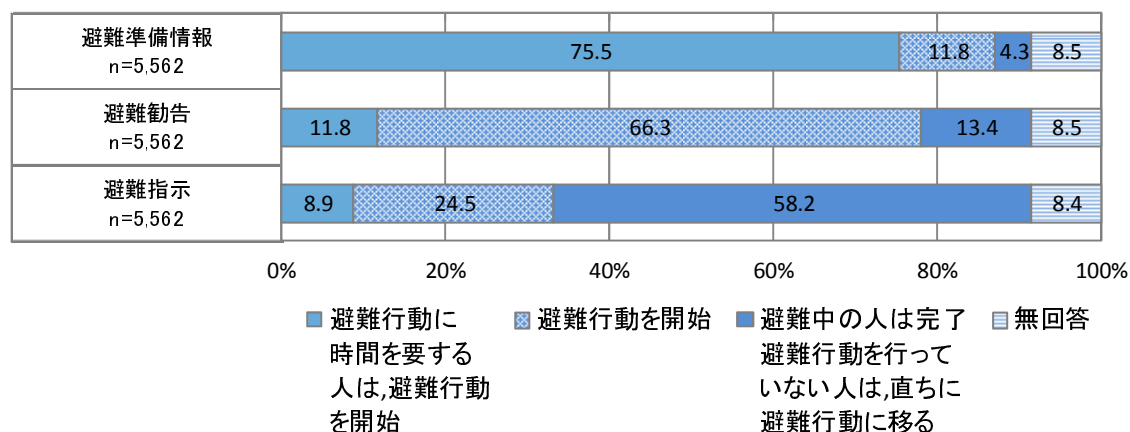
『知っている』は「農林漁業」で最も多く 7 割弱となっている。『知らない』は「その他」を除き「家事や育児で在宅」、「学生」で多く 3 割を超えている。



避難情報が発令された際に必要な行動の認知度

問 14-2. 「避難準備情報」, 「避難勧告」及び「避難指示」が発令された場合、どのような行動が必要となりますか。(単一回答)

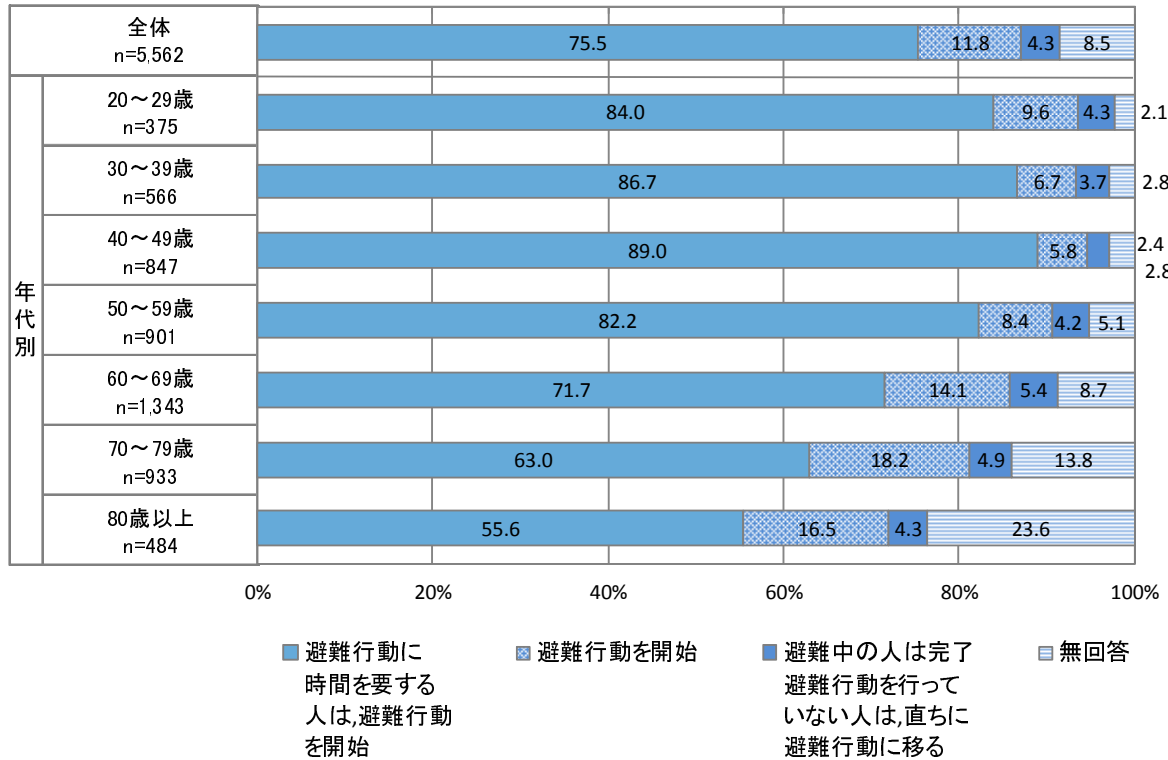
『正しく理解している』人は「避難準備情報」で 75.5%、「避難勧告」で 66.3%、「避難指示」で 58.2%となり、災害発生の危険度が上がるのとは反対に、理解度は下がっている。



避難準備情報

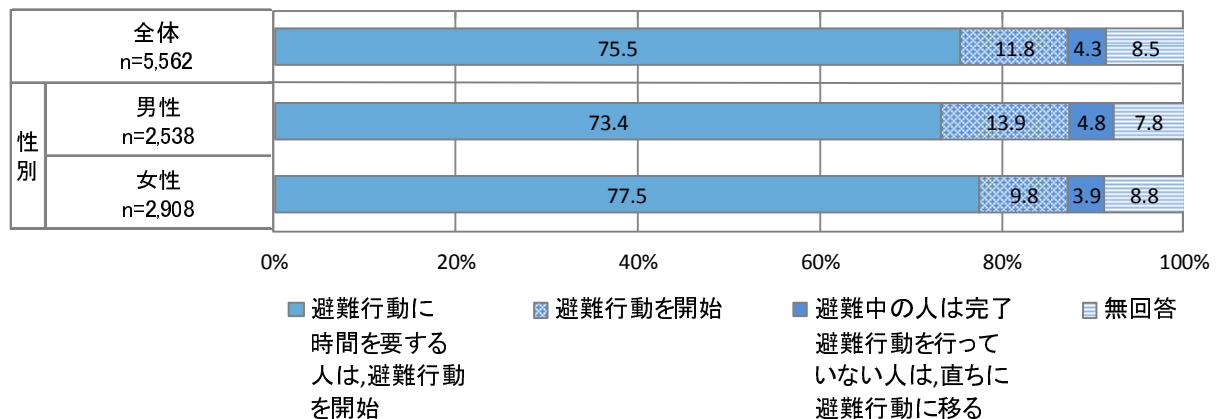
<年代別>

「20～29 歳」から「50～59 歳」では『正しく理解している』人は 8 割台となっているが、「40～49 歳」以上は年代が上がるにつれ少なくなっている。



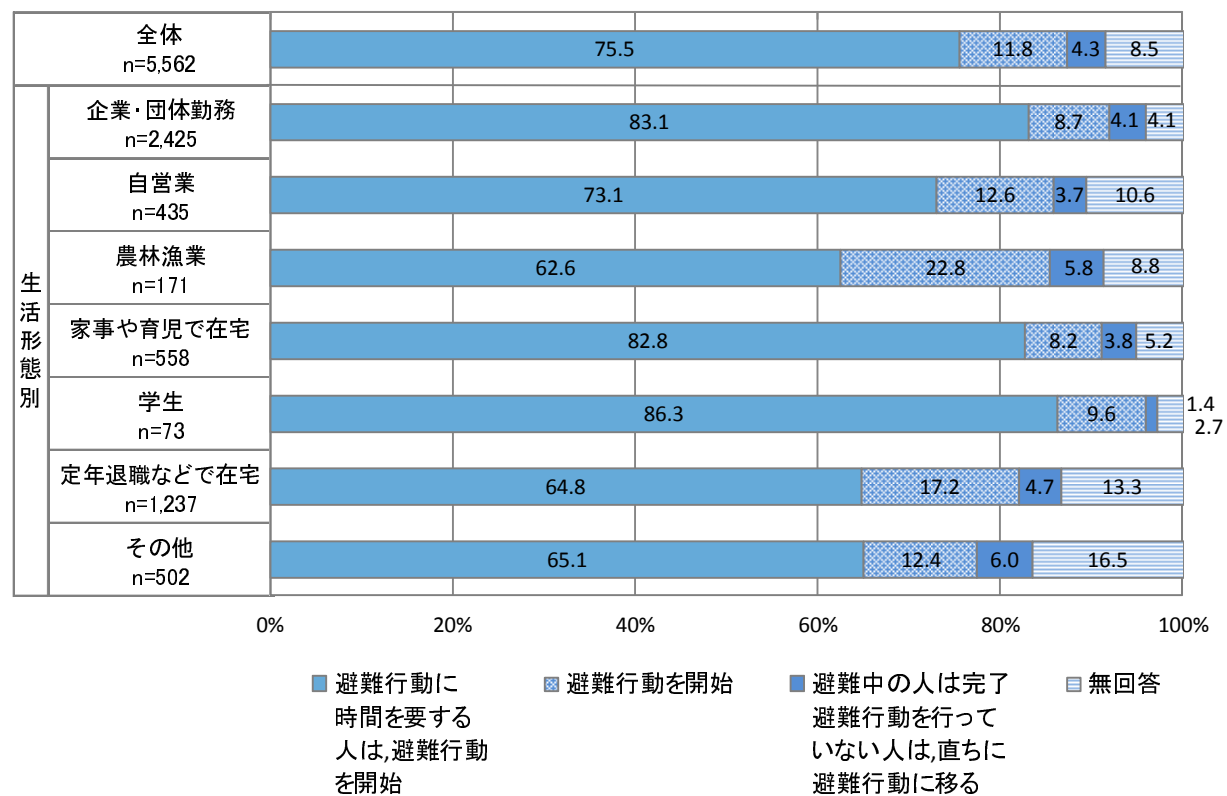
<性別>

『正しく理解している』人は「女性」が「男性」を 4.1 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

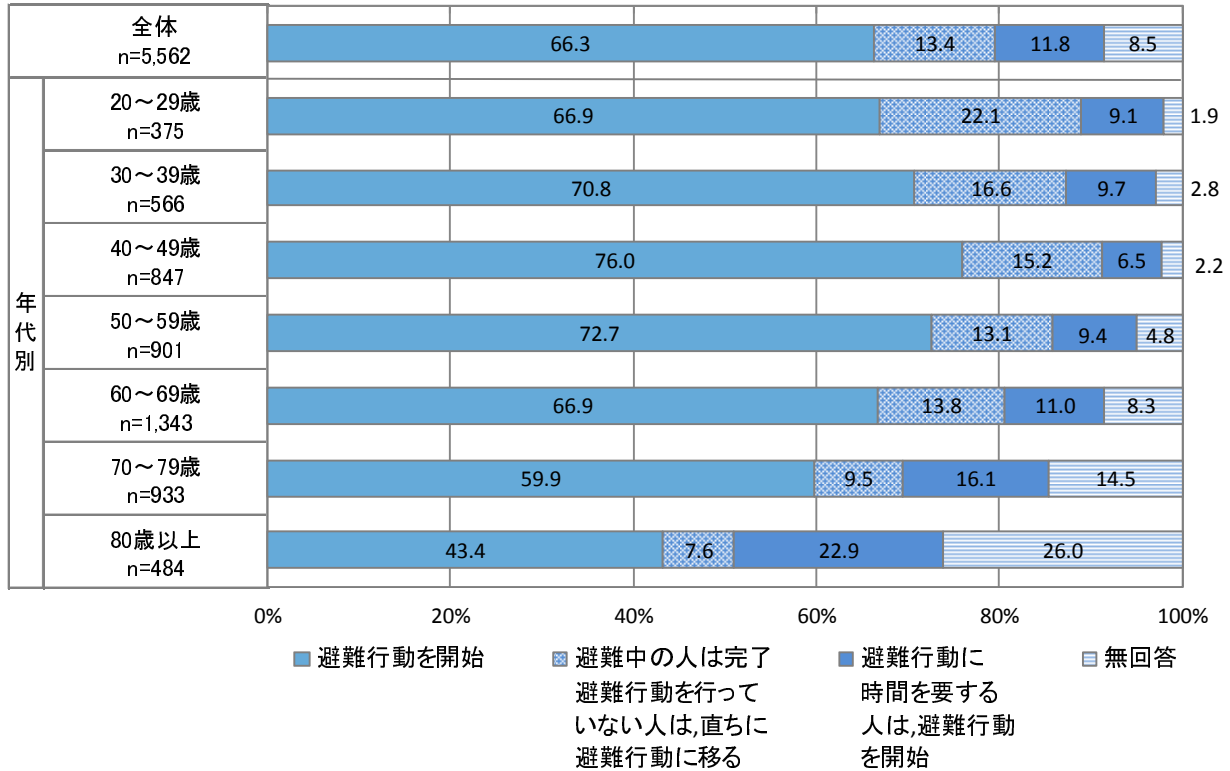
『正しく理解している』人は「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」、「学生」で８割台と多くなっている。



避難勧告

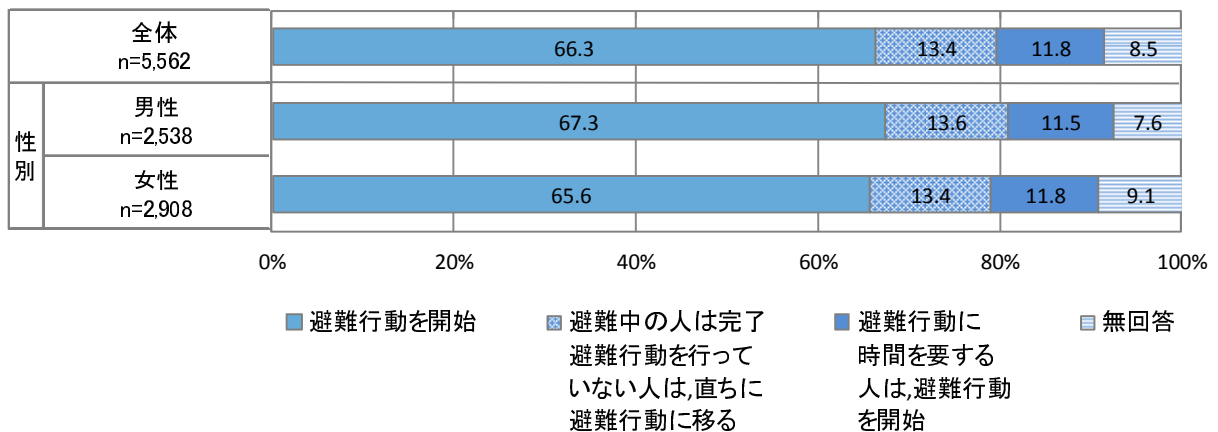
<年代別>

全ての年代で『正しく理解している』人が最も多く、「30～39 歳」から「50～59 歳」では 7 割を超えている。



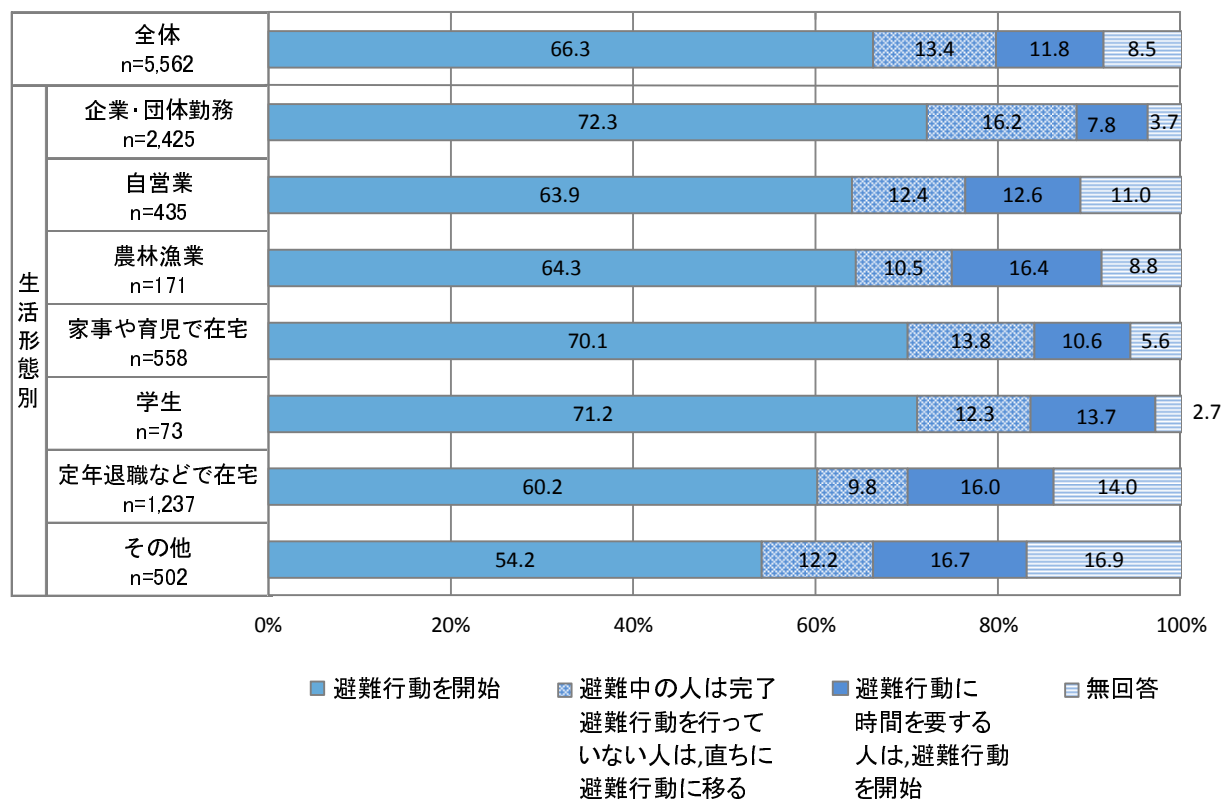
<性別>

性別による差はあまりみられない。



＜生活形態別＞

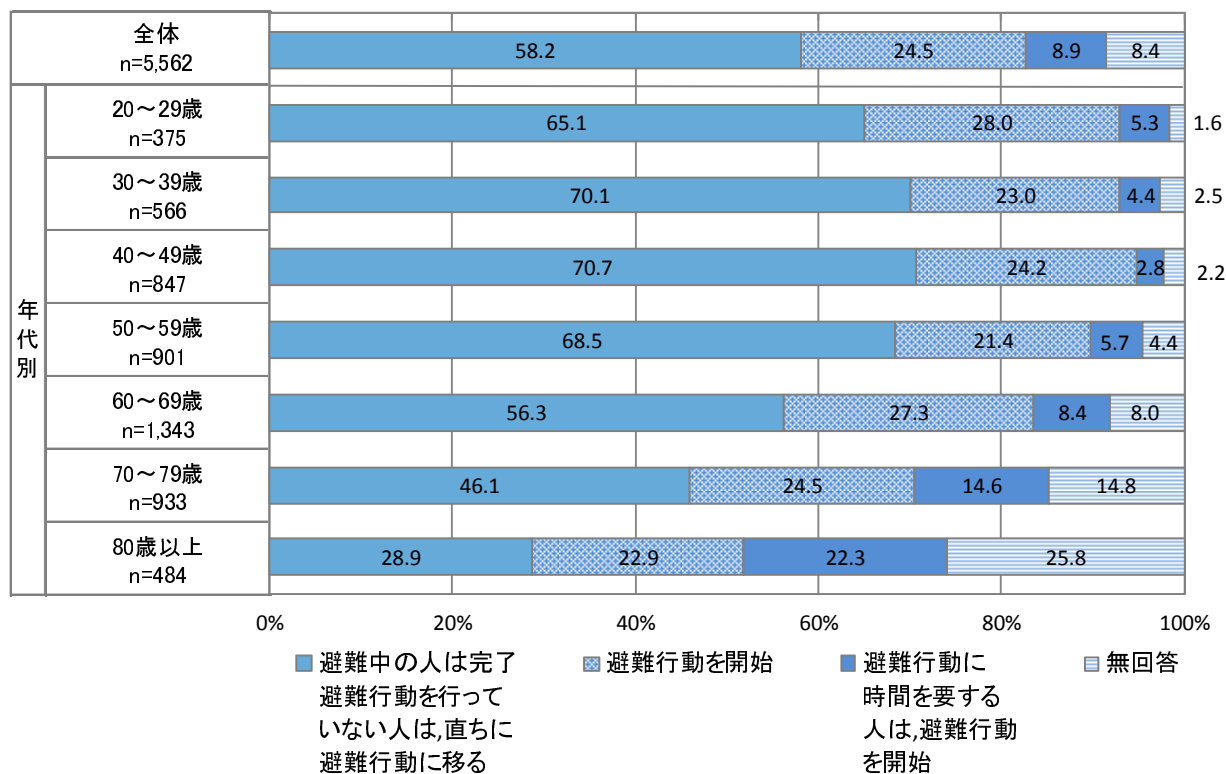
『正しく理解している』人は「企業・団体勤務」で72.3%と最も多く、「家事や育児で在宅」、「学生」も7割を超えている。



避難指示

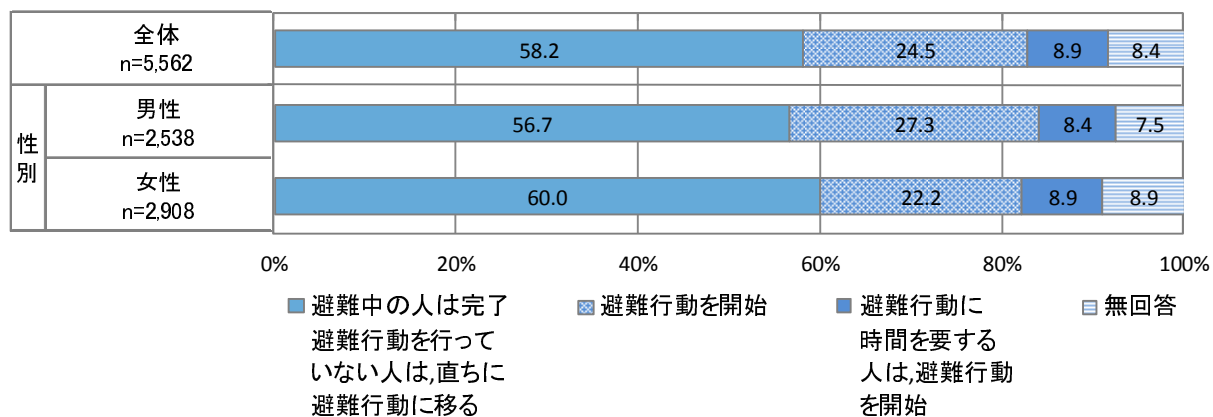
<年代別>

『正しく理解している』人は全ての年代で最も多いが、「40～49 歳」から年代が上がるにつれ少なくなっている。



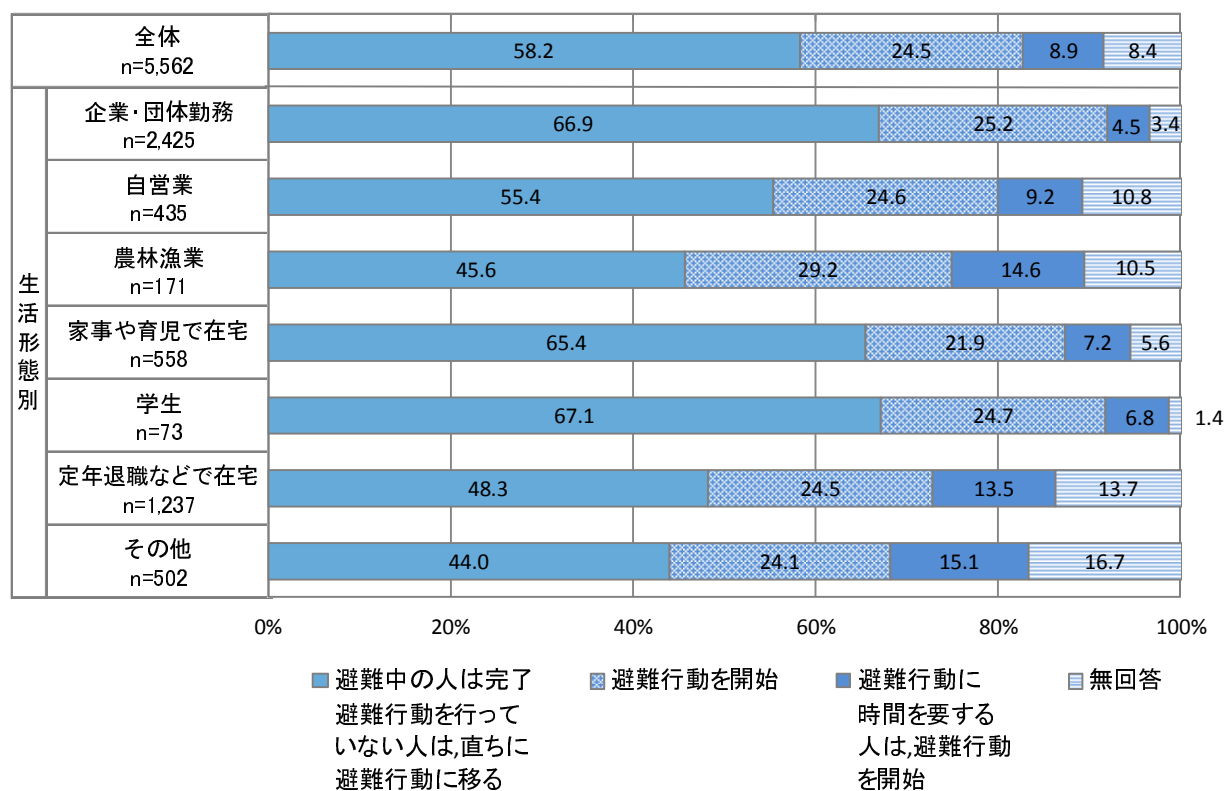
<性別>

性別による差はあまりみられない。



＜生活形態別＞

『正しく理解している』人は全ての分類で最も多いが、「その他」を除き「農林漁業」、「定年退職などで在宅」では５割を下回っており、他の分類が５割～６割台であるのに対し比較的少ない。



参考

問 14 (2) の下記 3 項目について

『全て正しく理解している』人 (3 項目全て正しい回答をした人)

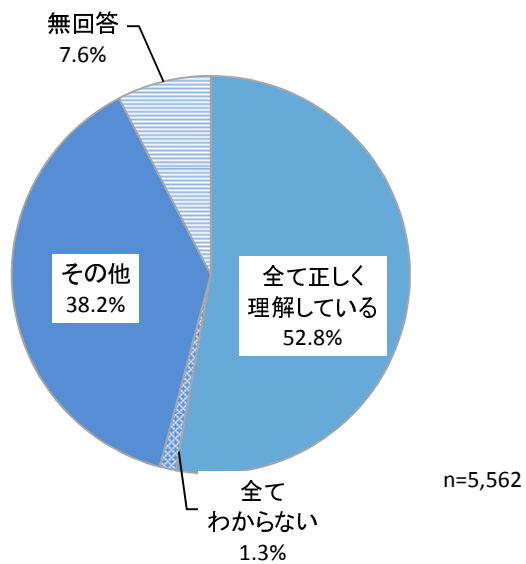
『全てわからない』人 (3 項目全てに誤った回答をした人) の割合は下記のようになった。

避難準備情報

避難勧告

避難指示

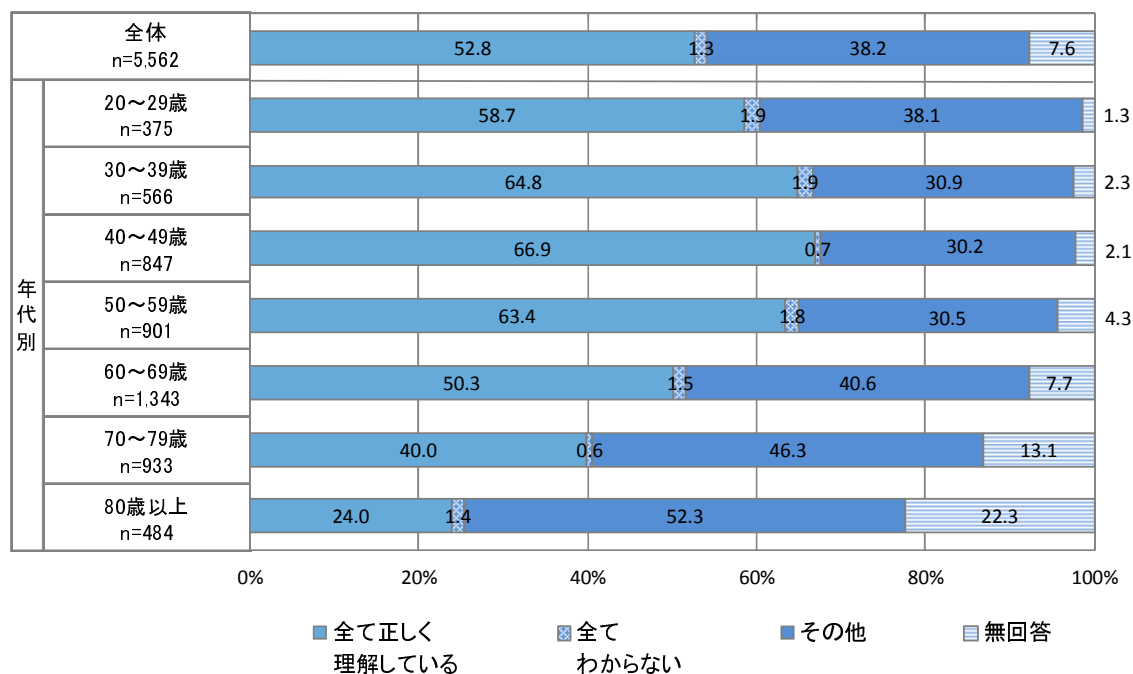
『全て正しく理解している』は 52.8%と全体の 5 割を占め、『全てわからない』は 1 割 (1.3%) を下回っている。



※「その他」は部分的に誤った回答をした人の比率

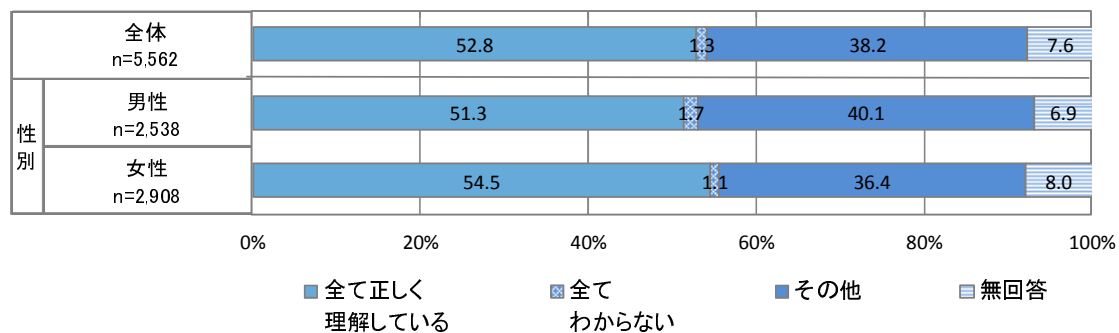
<年代別>

『全て正しく理解している』は「30～39歳」から「50～59歳」で多く、6割を超えている。『全てわからない』は全ての年代でごくわずかとなっている。



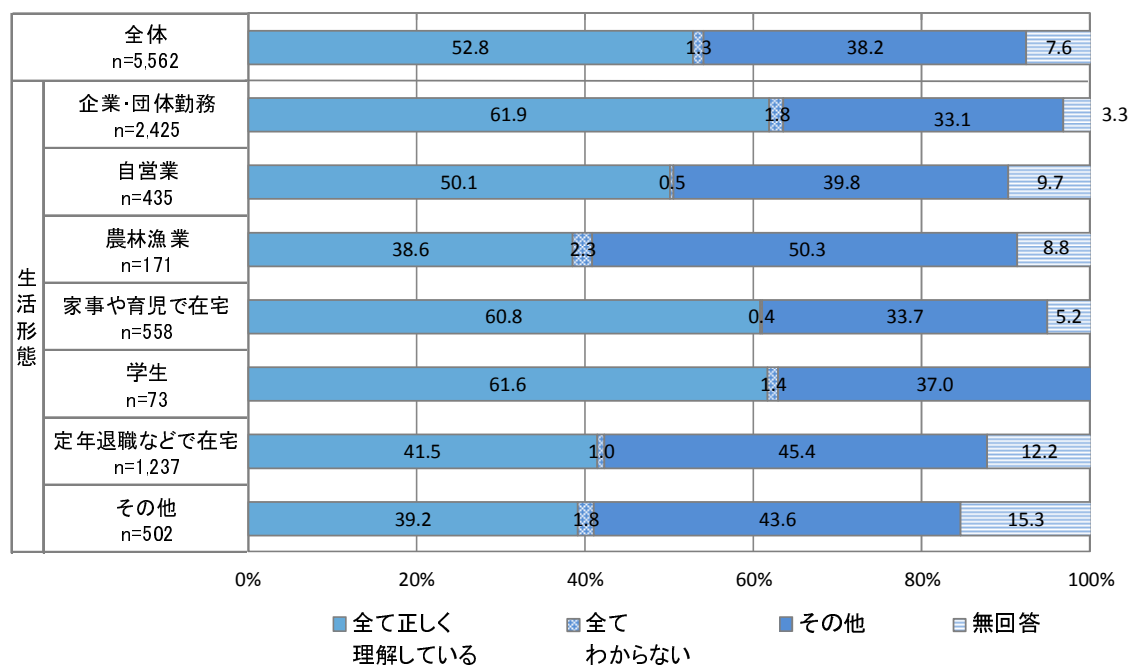
<性別>

『全て正しく理解している』は男女とも半数以上を占めている。



＜生活形態別＞

『全て正しく理解している』は「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」、「学生」で多く6割強となっている。『全てわからない』は全ての分類でごくわずかとなっている。

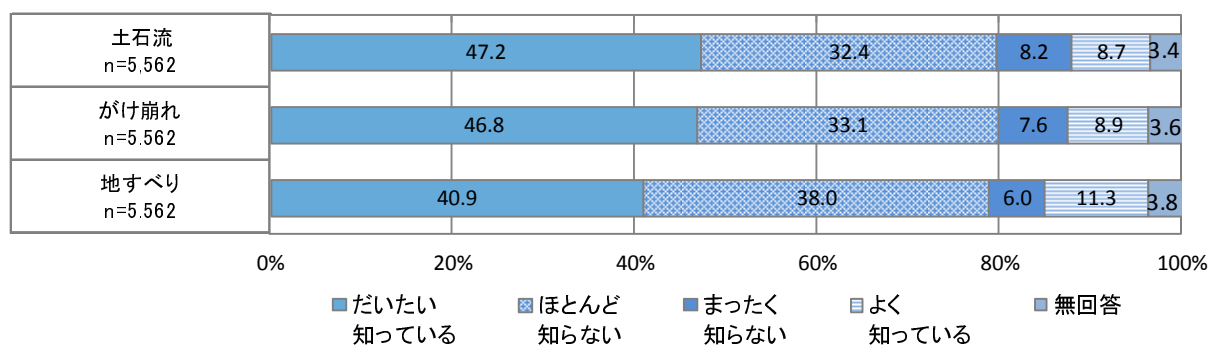


土砂災害の前兆現象の認知度

土砂災害には、「土石流」、「がけ崩れ」、「地すべり」の3種類があります。

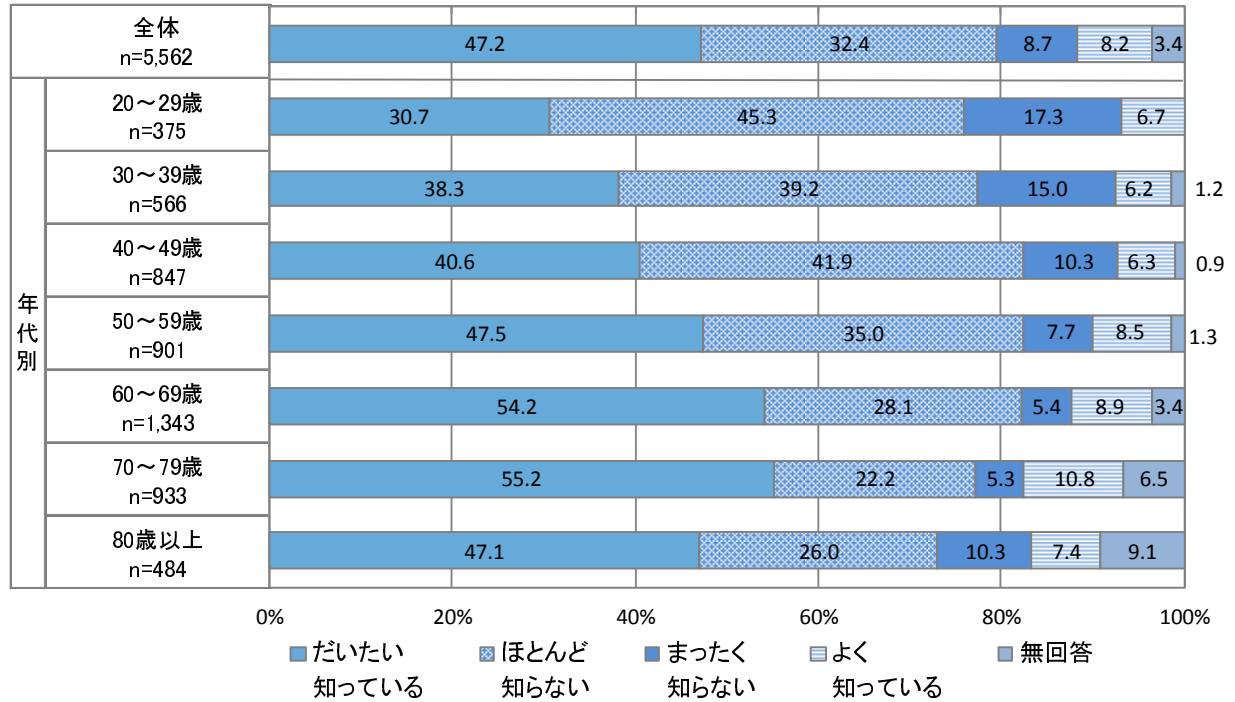
問 15 これらの災害が発生するときには、前兆現象が現れることがあります。前兆現象にはどのようなものがあるか御存知ですか。（複数回答）

『知らない』（ほとんど知らない・まったく知らないの合計）は「地すべり」では4割半ば、他の項目では4割強となっている。



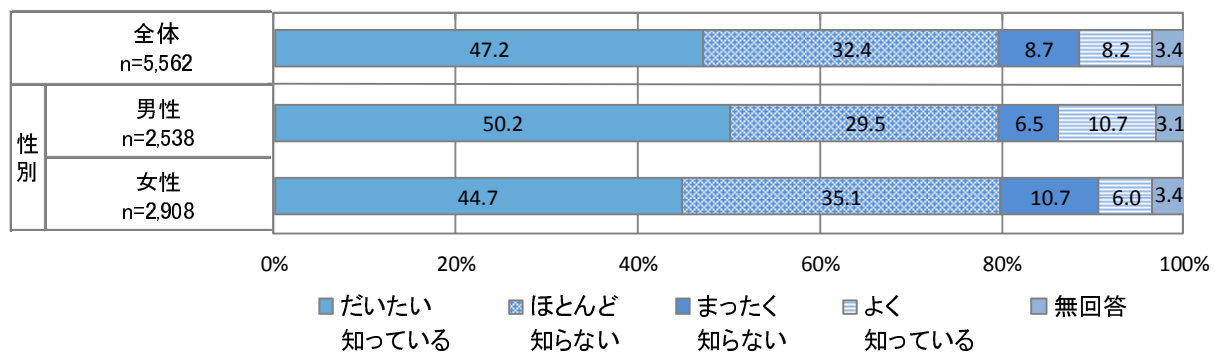
<年代別>

『知らない』は「80歳以上」を除き年代が上がるにつれ低くなっている。



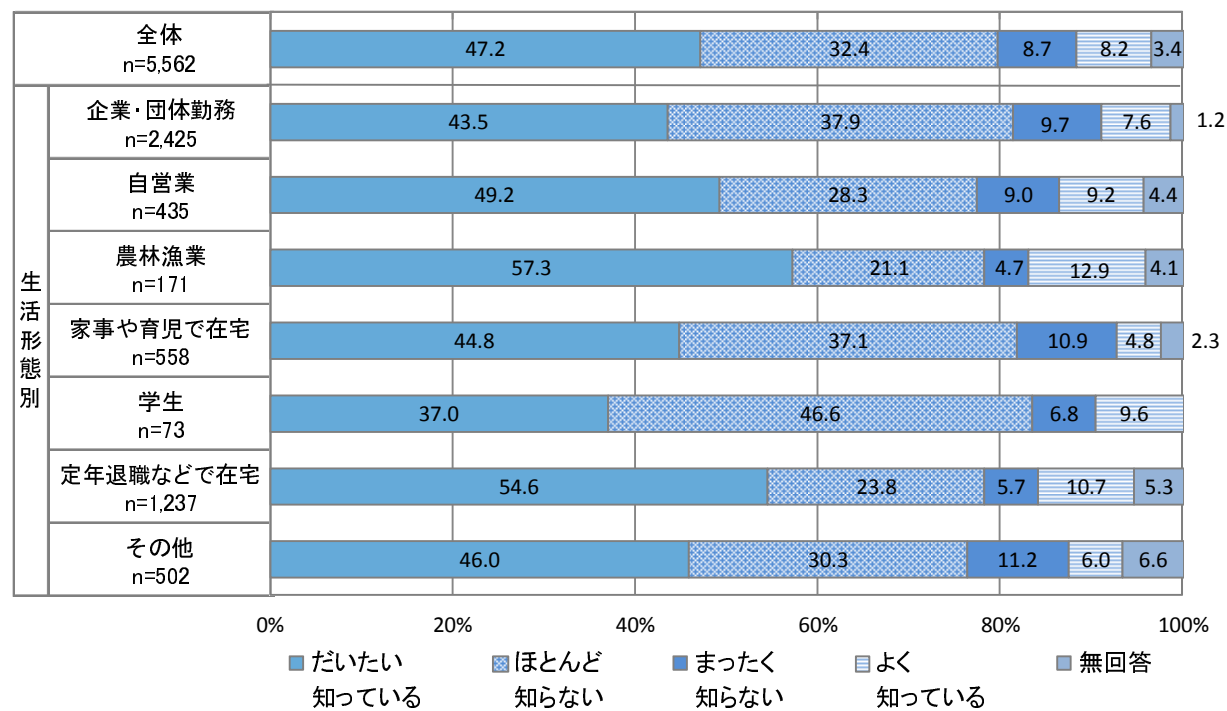
<性別>

『知らない』は「女性」が「男性」を 9.8 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

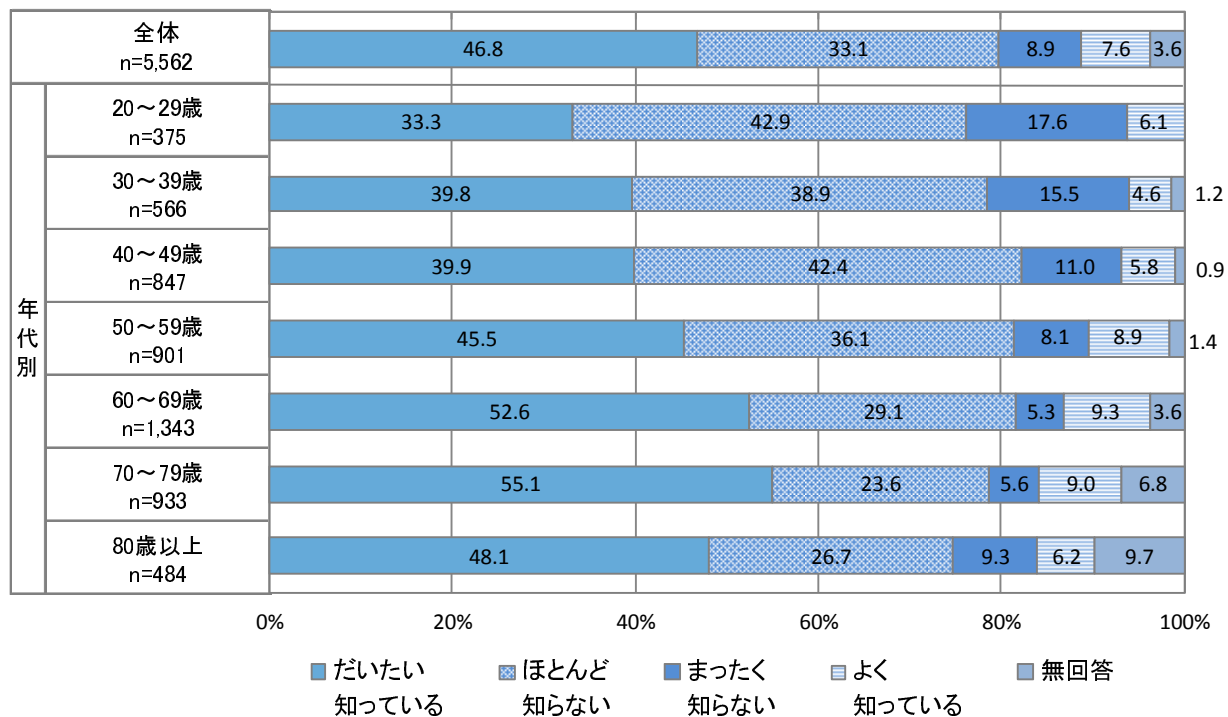
『知らない』は「学生」で最も多く 5 割を超えている。最も少ないのは「農林漁業」で 2 割半ばとなっている。



がけ崩れ

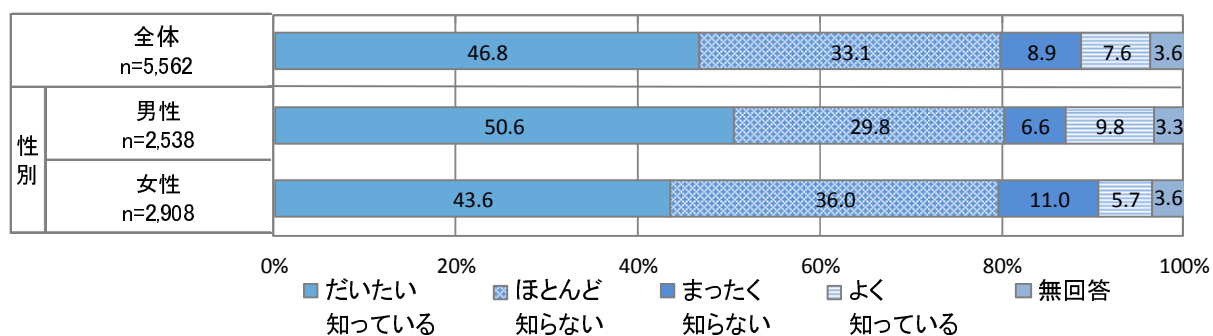
<年代別>

『知らない』は「40～49 歳」、「80 歳以上」を除き、「20～29 歳」から年代が上がるにつれ少なくなっている。



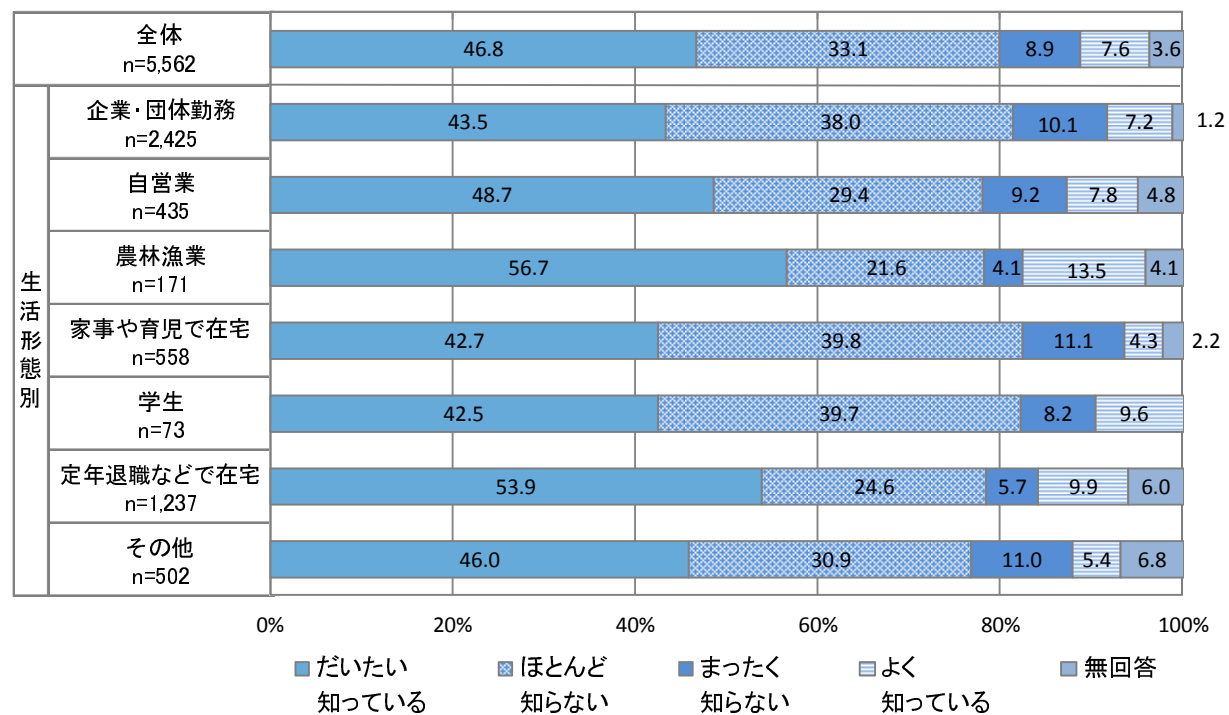
<性別>

『知らない』は「女性」が「男性」を 10.6 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

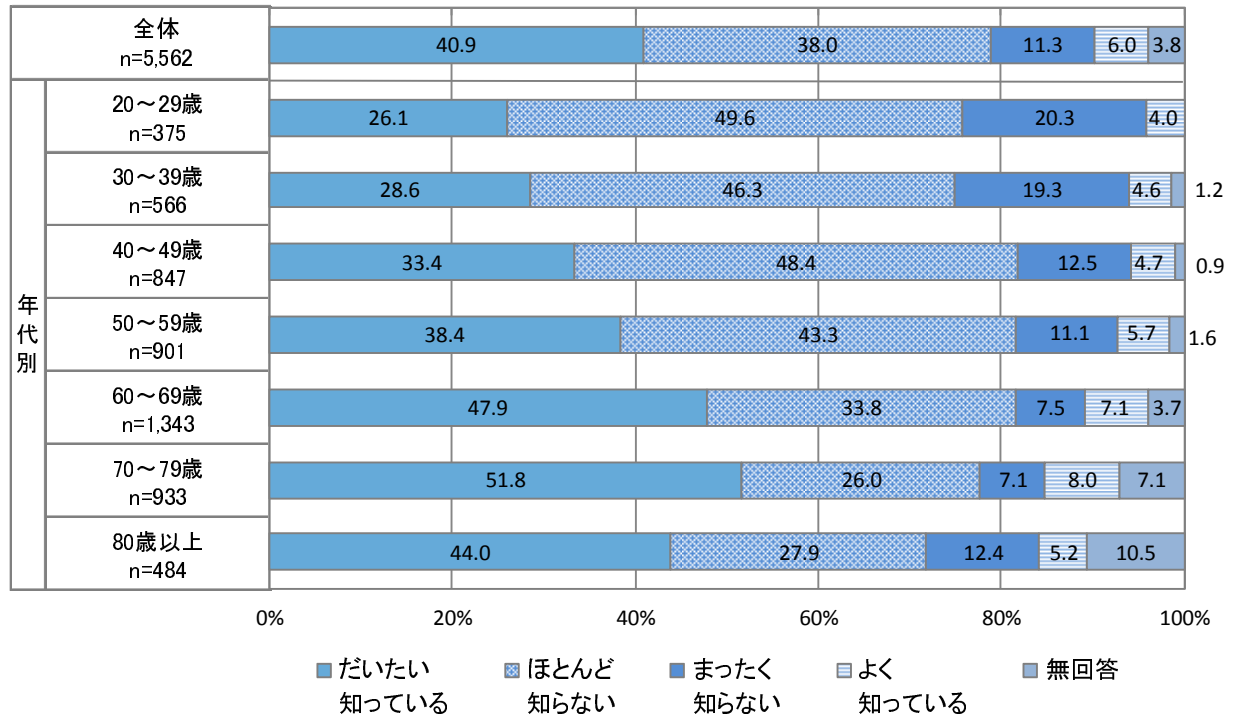
『知らない』は「家事や育児で在宅」で最も多く 5 割を超えている。「農林漁業」では 2 割半ばと少ない。



地すべり

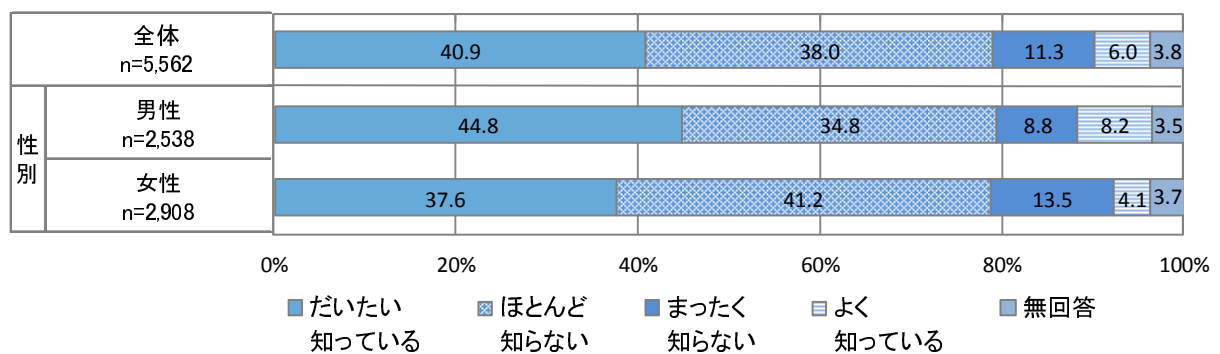
<年代別>

『知らない』は「80 歳以上」を除き、年代が上がるにつれ少なくなっており、「20～29 歳」の 7 割弱に対して「70～79 歳」では 3 割強となっている。



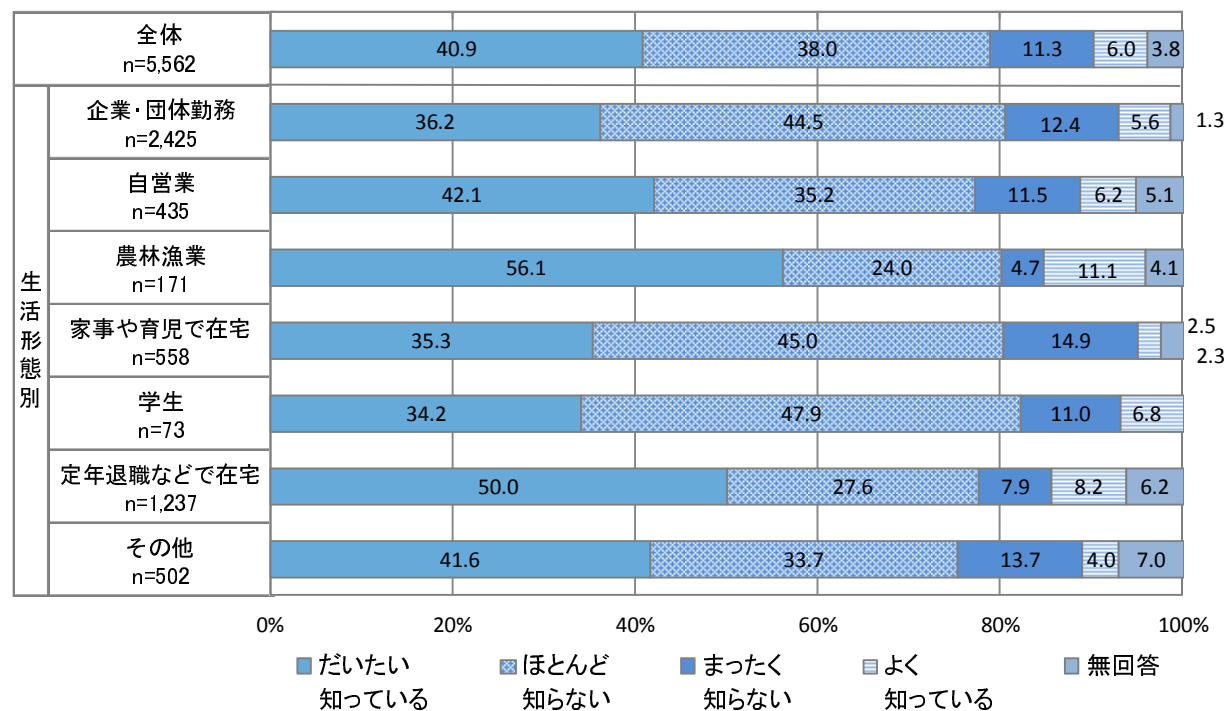
<性別>

『知らない』は「女性」が「男性」を 11.1 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

『知らない』は「家事や育児で在宅」、「学生」で６割弱と多く、「農林漁業」では３割弱と少ない。



参考

問 15 の下記 3 項目について

『知っている』

(3 項目全てに「よく知っている」又は「だいたい知っている」と回答した人の合計)

『知らない』

(3 項目全てに「ほとんど知らない」又は「まったく知らない」と回答した人の合計)

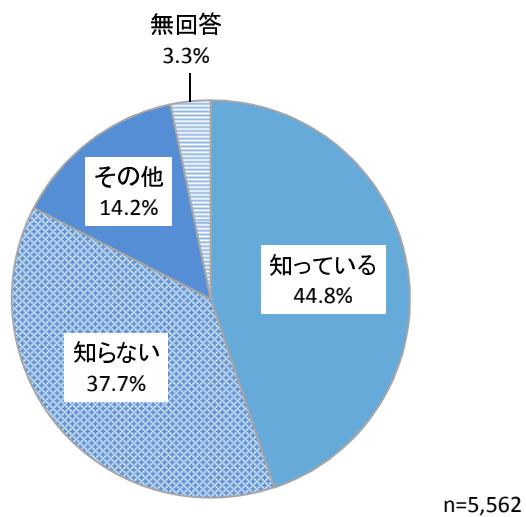
と回答した人の割合は下記のようになった。

土石流

がけ崩れ

地すべり

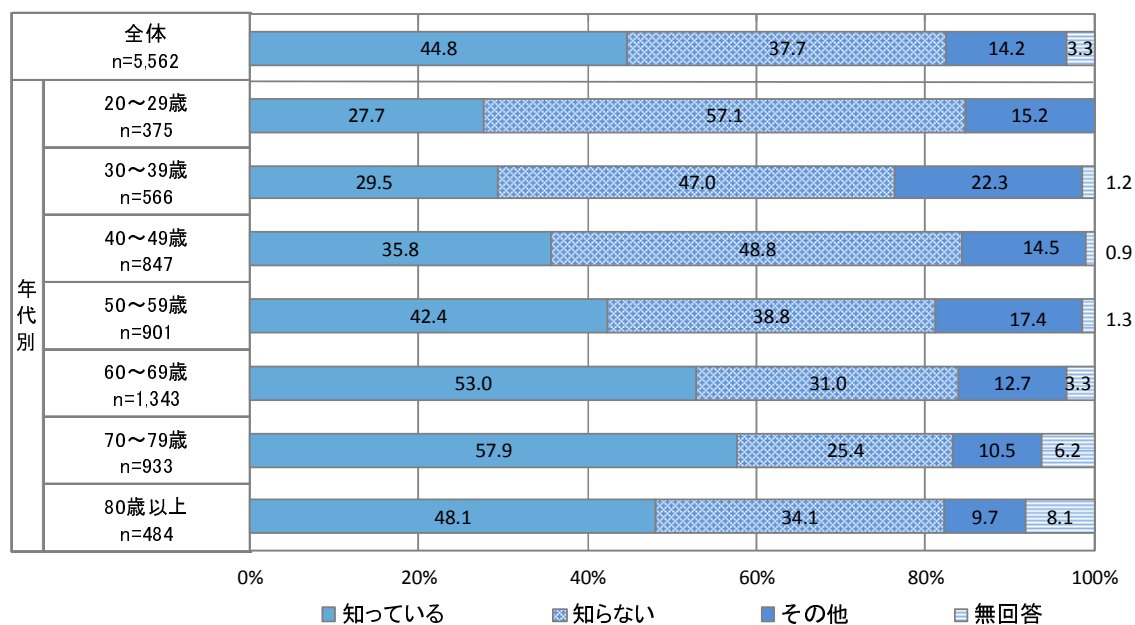
『知っている』は 4 割台半ば(44.8%)となっており、『知らない』は 3 割台半ば(37.7%)となっている。



※「その他」は部分的に「よく知っている」、「だいたい知っている」、「ほとんど知らない」、「知らない」と回答した人の比率

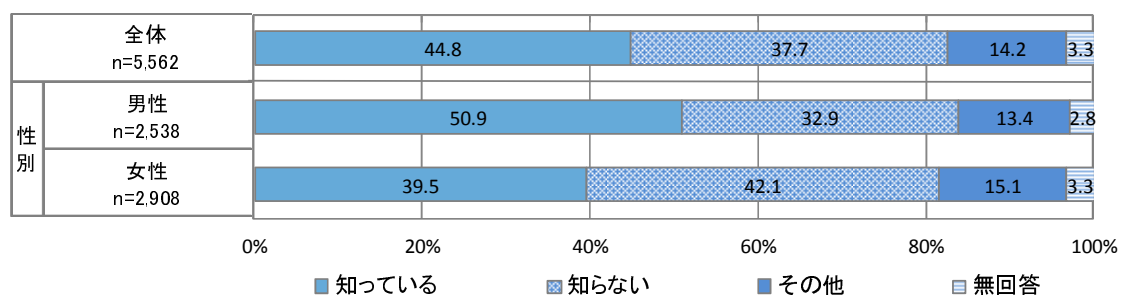
<年代別>

『知っている』は「80歳以上」を除き年代が上がるにつれ回答が多く、「60～69歳」、「70～79歳」では半数を占めている。『知らない』は「20～29歳」で最も多く6割弱となっている。



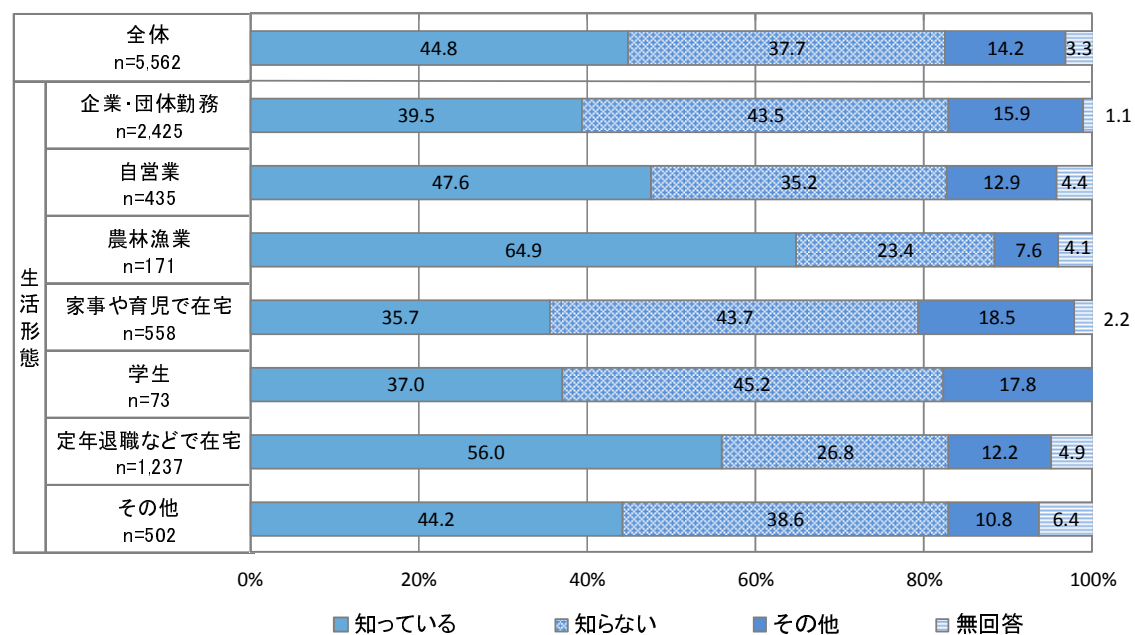
<性別>

『知っている』は男性が女性を11.4ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

『知っている』は「農林漁業」で最も多く、6割台半ばとなっている。『知らない』は「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」、「学生」で多く4割を超えている。

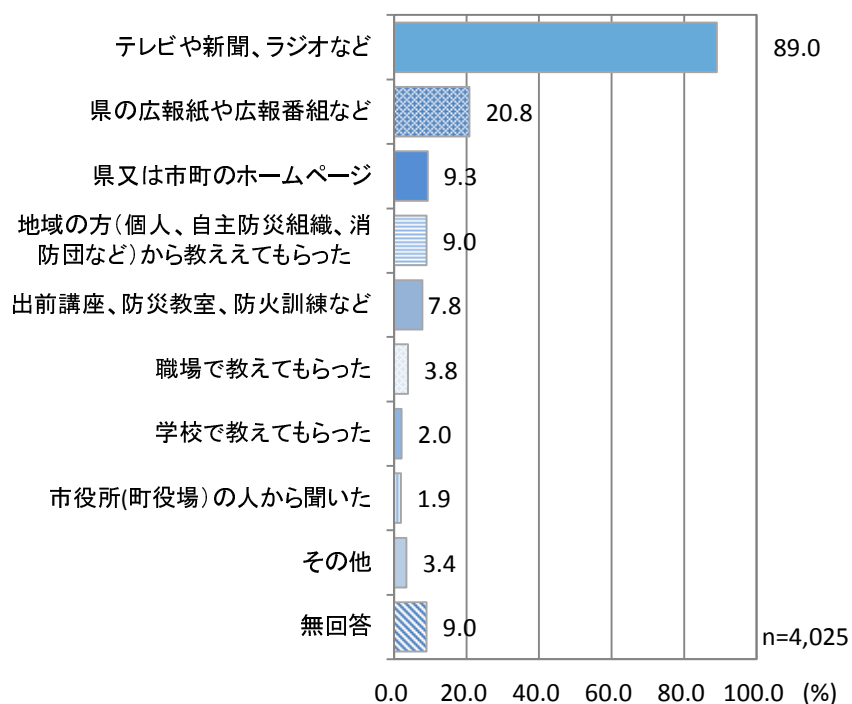


気象情報と避難情報の意味を知った手段

問 16.問 13 で「気象情報の意味」を「知っている」，問 14 で「避難準備情報，避難勧告，避難指示の意味」を「1 よく知っている」，「2 だいたい知っている」と回答した方にお尋ねします。これらは，どうやって知りましたか。

(3 つまでの複数回答)

「テレビや新聞，ラジオなど」が 9 割弱（89.0%）で特に多く挙げられている。次いで、「県の広報紙や広報番組など」（20.8%）、「県又は市町のホームページ」（9.3%）の順に多い。



その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・インターネット・携帯電話・メール（36 件）
- ・家族（20 件）
- ・今回のアンケート（14 件）
- ・仕事（11 件）
- ・市の資料（11 件）
- ・雑誌など
- ・以前に経験したことがある
- ・日常の会話の中で 等

<年代別>

全ての年代で「テレビや新聞、ラジオなど」が最も多く、全ての年代で8割以上となっている。次いで『県からの情報』（「県又は市町のホームページ」、「県の広報紙や広報番組など」）、「地域の方（個人・自主防災組織・消防団など）から教えてもらった」等が挙げられている。

	回答件数 計	県又は市町のホームページ	室出、前防講座、訓練、防など教	組県の広報誌や広報番	オテレビや新聞、ラジオ	らな主地域つど防域のか組方教、個人消入防、も団自	人市役所（町役場）の	も職場つでた教えて	教学校でてもらった	その他	無回答
全体	4,025	373 9.3	312 7.8	838 20.8	3,582 89.0	362 9.0	75 1.9	154 3.8	82 2.0	137 3.4	361 9.0
年代別	20～29歳	243 7.4	18 5.8	9 3.7	195 80.2	7 2.9	2 0.8	18 7.4	34 14.0	14 5.8	49 20.2
	30～39歳	397 9.6	38 3.8	40 10.1	348 87.7	15 3.8	0 0.0	21 5.3	14 3.5	17 4.3	44 11.1
	40～49歳	634 10.1	64 4.3	89 14.0	565 89.1	25 3.9	6 0.9	31 4.9	21 3.3	24 3.8	67 10.6
	50～59歳	650 11.1	72 6.0	124 19.1	583 89.7	34 5.2	13 2.0	39 6.0	6 0.9	33 5.1	69 10.6
	60～69歳	1,036 9.7	100 9.5	259 25.0	943 91.0	112 10.8	16 1.5	35 3.4	4 0.4	25 2.4	58 5.6
	70～79歳	704 6.0	42 11.9	225 32.0	629 89.3	114 16.2	24 3.4	8 1.1	2 0.3	13 1.8	46 6.5
	80歳以上	281 11.4	32 8.2	76 27.0	247 87.9	45 16.0	14 5.0	1 0.4	0 0.0	8 2.8	24 8.5

<性別>

男女とも上位2項目は同様となっており、「テレビや新聞・ラジオなど」は9割前後となっている。第3位は男性では「県又は市町のホームページ」、女性では「地域の方（個人・自主防災組織・消防団など）から教えてもらった」となっている。

	回答件数 計	県又は市町のホームページ	室出、前防講座、訓練、防など教	組県の広報誌や広報番	オテレビや新聞、ラジオ	らな主地域つど防域のか組方教、個人消入防、も団自	人市役所（町役場）の	も職場つでた教えて	教学校でてもらった	その他	無回答
全体	4,025	373 9.3	312 7.8	838 20.8	3,582 89.0	362 9.0	75 1.9	154 3.8	82 2.0	137 3.4	361 9.0
性別	男性	1,870 11.0	152 8.1	369 19.7	1,639 87.6	164 8.8	48 2.6	86 4.6	32 1.7	60 3.2	152 8.1
	女性	2,073 7.8	148 7.1	451 21.8	1,871 90.3	188 9.1	27 1.3	67 3.2	49 2.4	74 3.6	204 9.8

＜生活形態別＞

「テレビや新聞、ラジオなど」が全ての分類で最も多く、8割以上となっている。「県の広報誌や広報番組など」は「企業・団体勤務」で3.7%となっており、他の分類の1割～3割強に比べ少ない。

	回答件数計	県又は市町のホームページ	出前防講座、訓練、防災など教	県の広報誌や広報番組	テレビや新聞、ラジオ	地域防災の組織（個人、団体、自治会、町内会、消防団など）	市役所（町役場）の	職場で教えて	学校でもらった	その他	無回答
全体	4,025	373 9.3	312 7.8	838 20.8	3,582 89.0	362 9.0	75 1.9	154 3.8	82 2.0	137 3.4	361 9.0
生活形態別	企業・団体勤務	243 7.4	14 5.8	9 3.7	195 80.2	7 2.9	2 0.8	18 7.4	34 14.0	14 5.8	49 20.2
	自営業	397 9.6	38 9.6	15 3.8	40 10.1	348 87.7	15 3.8	0 0.0	21 5.3	14 3.5	44 11.1
	農林漁業	634 10.1	64 10.1	27 4.3	89 14.0	565 89.1	25 3.9	6 0.9	31 4.9	21 3.3	67 10.6
	家事や育児で在宅	650 11.1	72 11.1	39 6.0	124 19.1	583 89.7	34 5.2	13 2.0	39 6.0	6 0.9	69 10.6
	学生	1,036 9.7	100 9.7	98 9.5	259 25.0	943 91.0	112 10.8	16 1.5	35 3.4	4 0.4	58 5.6
	定年退職などで在宅	704 6.0	42 6.0	84 11.9	225 32.0	629 89.3	114 16.2	24 3.4	8 1.1	2 0.3	46 6.5
	その他	281 11.4	32 11.4	23 8.2	76 27.0	247 87.9	45 16.0	14 5.0	1 0.4	0 0.0	24 8.5

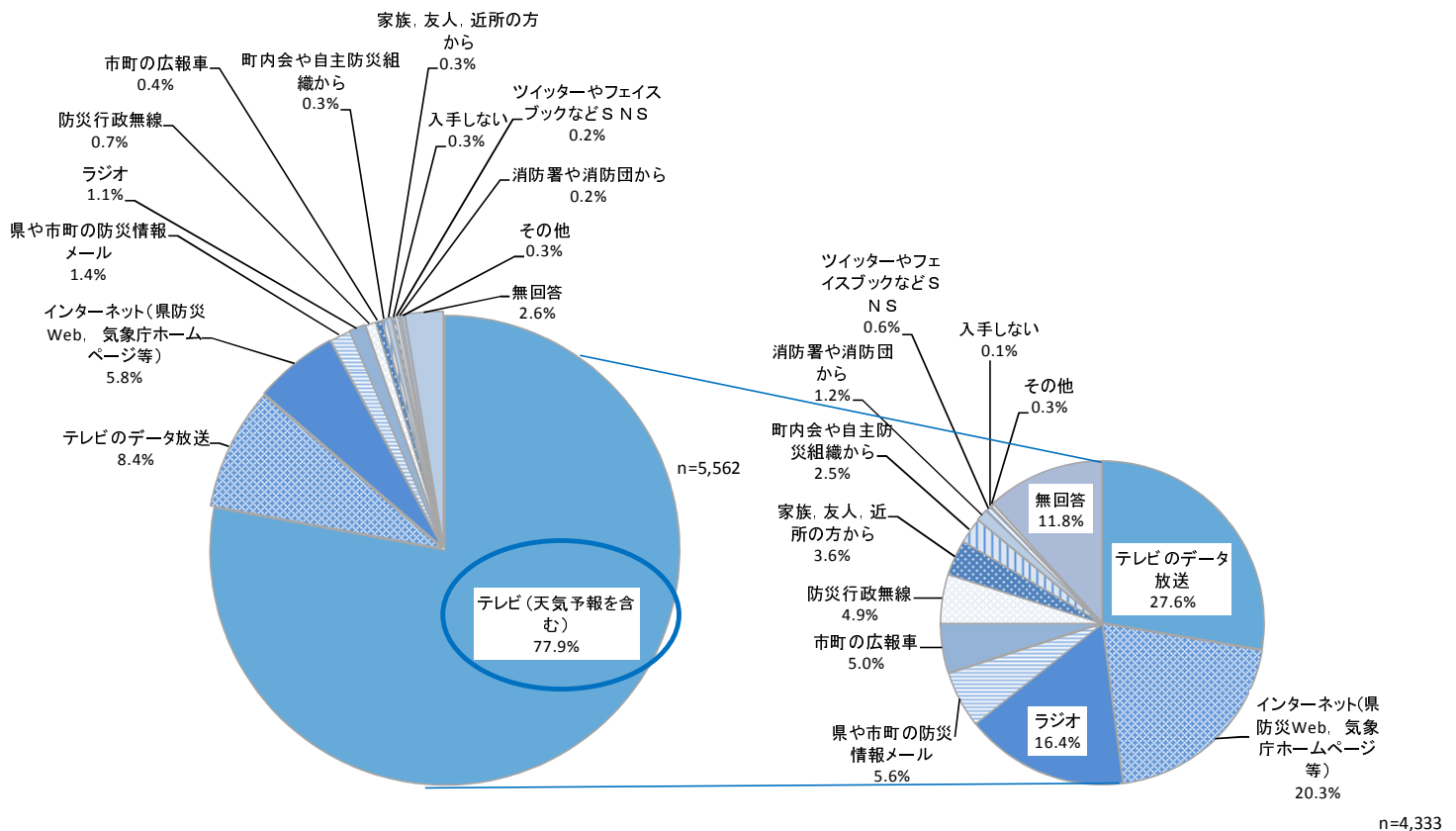
大雨や台風の際に情報を入手する手段

問 17 大雨や台風の際に、自らの命を守るために、次の情報を、どこから入手しますか。
下記 1～13 の中から、当てはまる数字をお選びください。（3 つまでの複数回答）

雨量や水位、風速に関する情報

第 1 位に選んだ入手手段は、「テレビ(天気予報を含む)」(77.9%)、「テレビのデータ放送」(8.4%)、「インターネット(県防災 Web, 気象庁ホームページ等)」(5.8%) の順に多い。

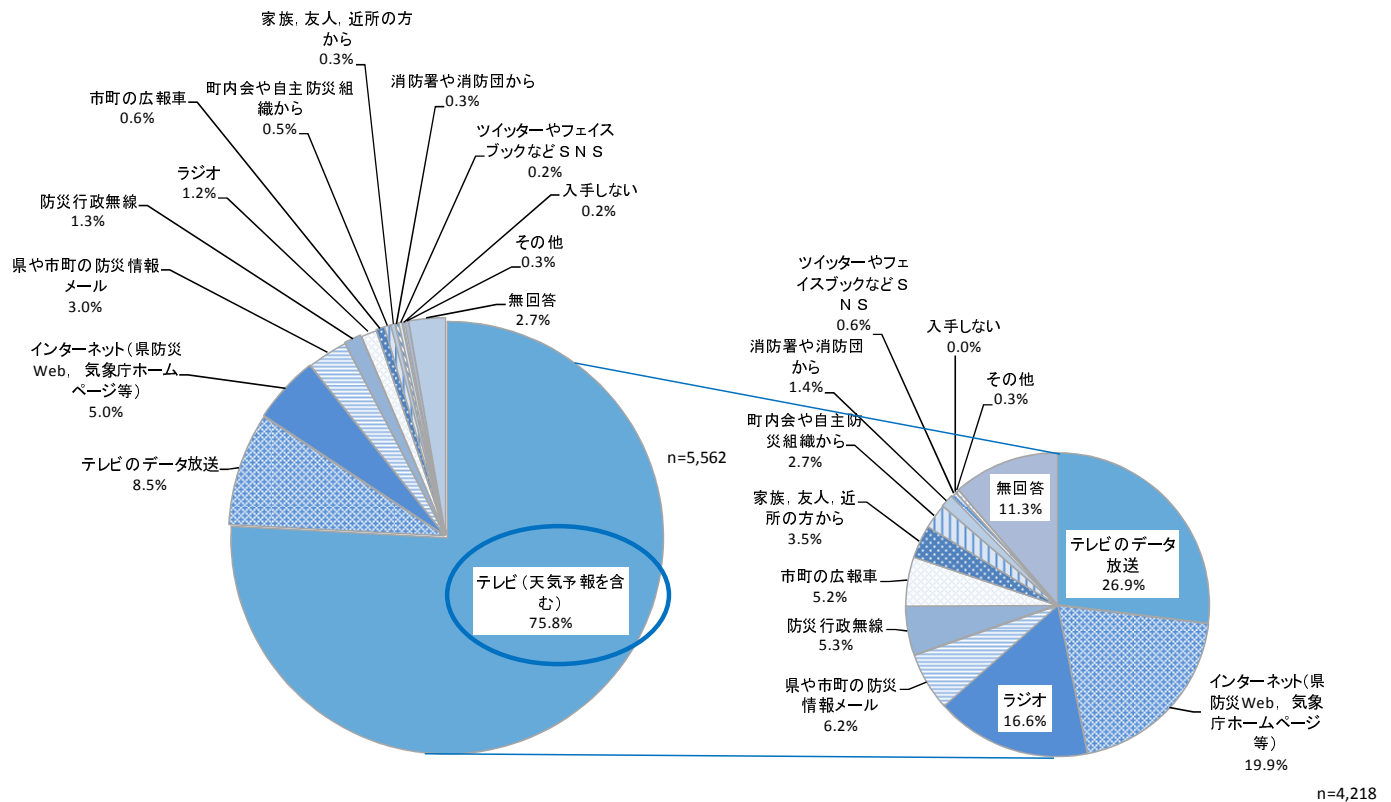
なお、「テレビ(天気予報を含む)」を選んだ人が次に選ぶ項目は「テレビのデータ放送」(27.6%)、「インターネット(県防災 Web, 気象庁ホームページ等)」(20.3%)、「ラジオ」(16.4%) の順に多い。



注意報，警報，土砂災害警戒情報

第1位に選んだ入手手段は、「テレビ(天気予報を含む)」(75.8%)、「テレビのデータ放送」(8.5%)、「インターネット(県防災Web，気象庁ホームページ等)」(5.0%)の順に多い。

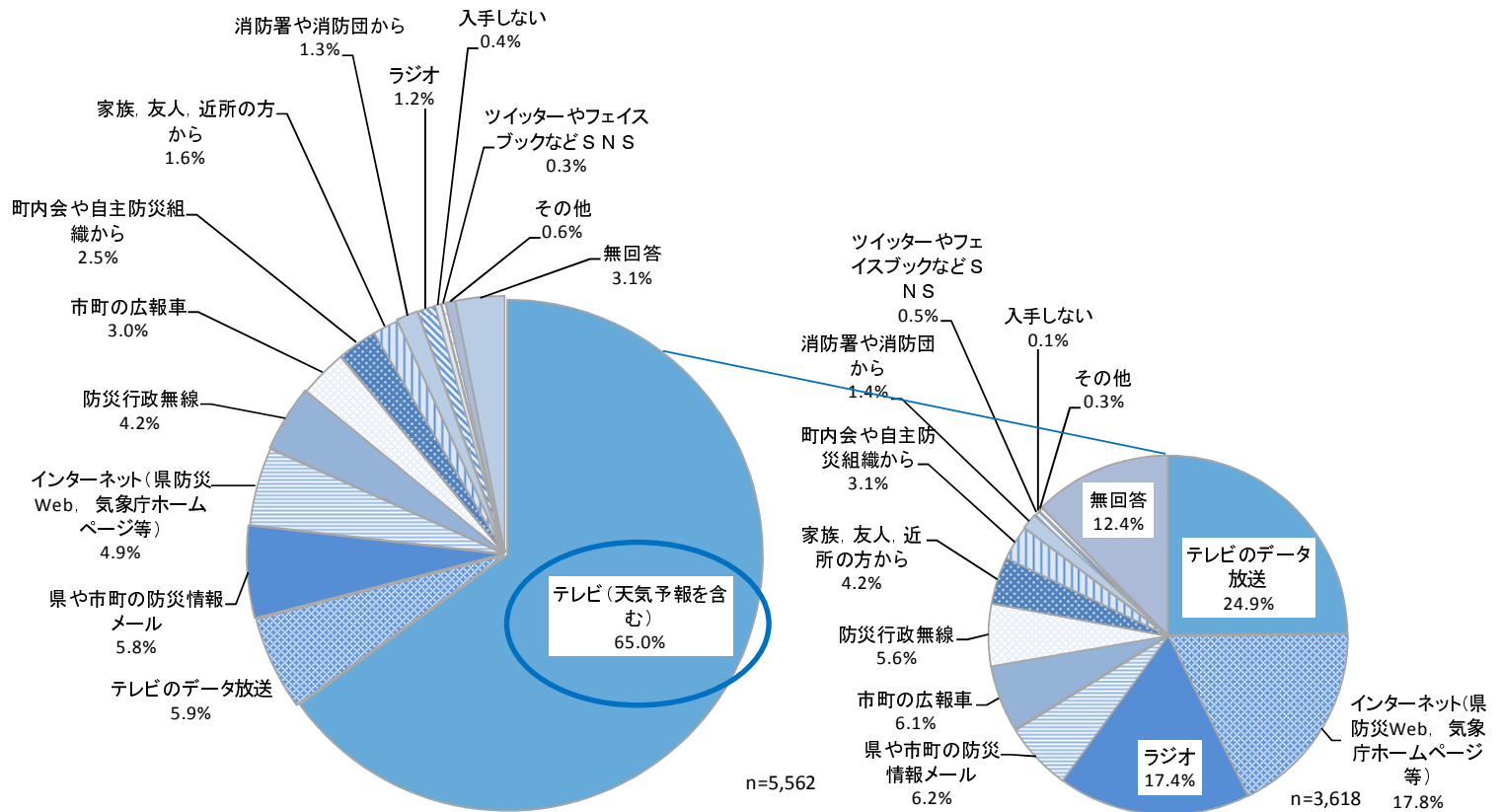
なお、「テレビ(天気予報を含む)」を選んだ人が次に選ぶ項目は「テレビのデータ放送」(26.9%)、「インターネット(県防災Web，気象庁ホームページ等)」(19.9%)、「ラジオ」(16.6%)の順に多い。



避難に関する情報

第1位に選んだ入手手段は、「テレビ(天気予報を含む)」(65.0%)、「テレビのデータ放送」(5.9%)、「県や市町の防災情報メール」(5.8%)の順に多い。

なお、「テレビ(天気予報を含む)」を選んだ人が次に選ぶ項目は「テレビのデータ放送」(24.9%)、「インターネット(県防災Web, 気象庁ホームページ等)」(17.8%)、「ラジオ」(17.4%)の順に多い。



その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・携帯電話・メール（53件）
- ・経験なし・わからない（37件）
- ・市町放送（32件）
- ・メディア（23件）
- ・近くにある（25件）
- ・防災情報
- ・経験から
- ・会社でビデオを見た 等

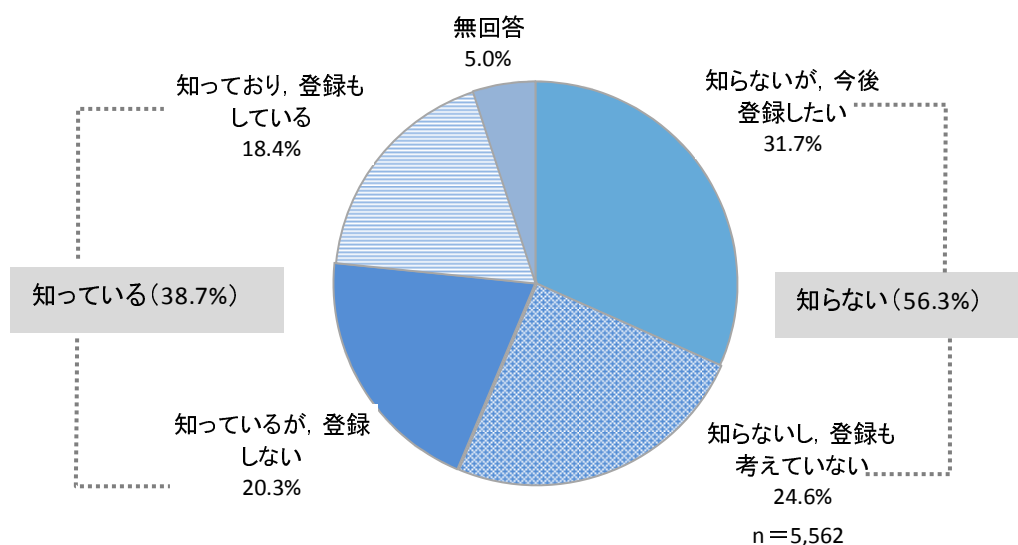
防災情報メールの認知度

問 18.県及び市町では、登録者に防災情報メールをお送りしています。

このことを、御存じですか。（単一回答）

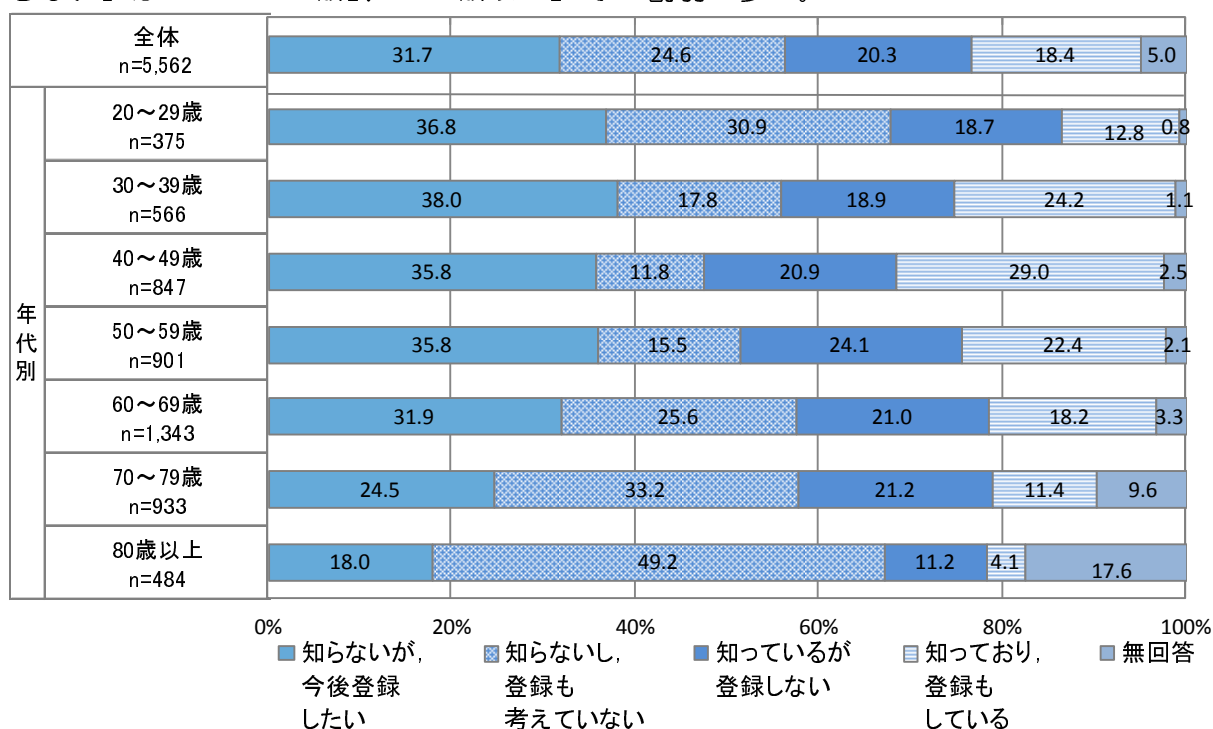
『知っている』（「知っているが、登録しない」20.3%、「知っており、登録もしている」18.4%の合計）は38.7%となっている。

『知らない』（「知らないが、今後登録したい」31.7%、「知らないし、登録も考えていない」24.6%の合計）は56.3%となっている。



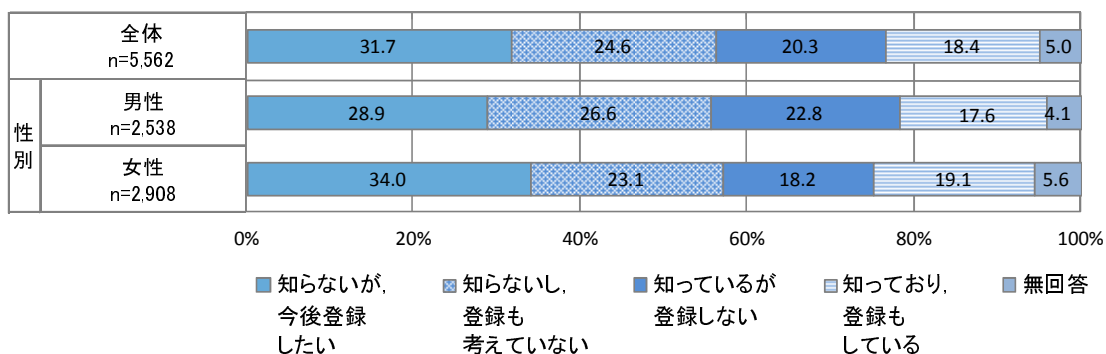
<年代別>

『知っている』は「30～39歳」から「50～59歳」で多く、4割を超えている。『知らない』は「20～29歳」、「80歳以上」で7割弱と多い。



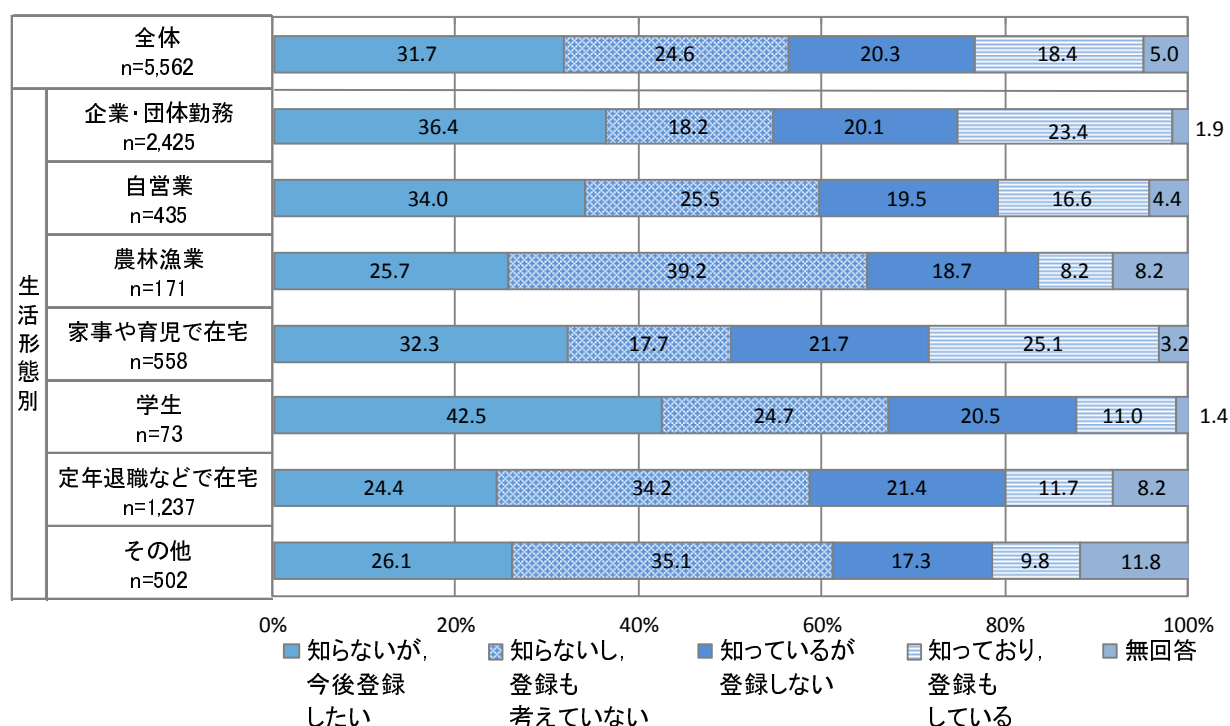
<性別>

『知っている』は男女とも4割前後、『知らない』は5割半ば～6割弱となり大きな差はみられない。



<生活形態別>

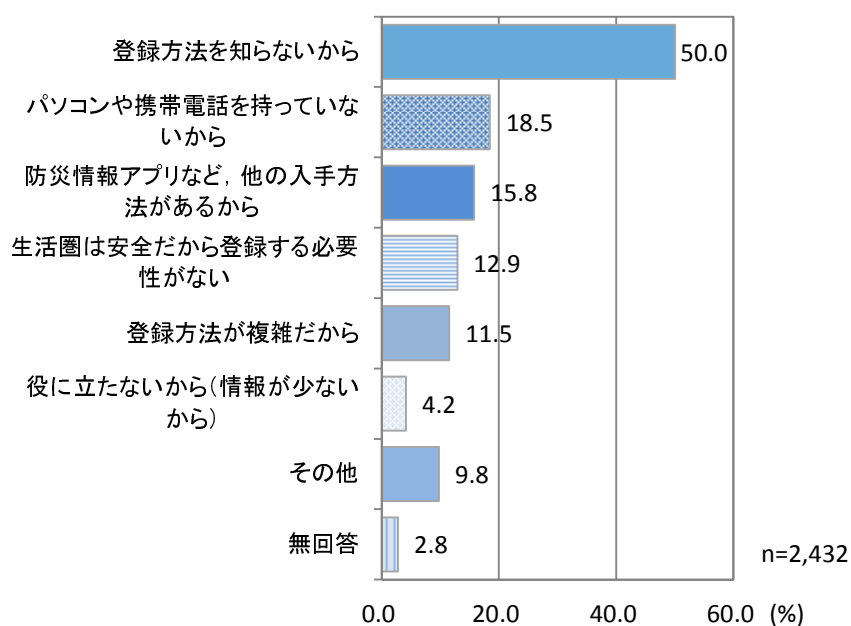
『知っている』は「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」で多く、4割を超えている。『知らない』は「農林漁業」、「学生」で多く6割台となっている。



防災情報メールに登録しない理由

問 19.問 18 で「2 知っているが、登録しない」,「4 知らないし、登録も考えていない」と回答した人にお尋ねします。その理由は何ですか。（3 つまでの複数回答）

「登録方法を知らないから」（50.0%）と、登録方法を認知していないことが最も多く挙げられている。次いで「パソコンや携帯電話を持っていないから」（18.5%）、「防災情報アプリなど、他の入手方法があるから」（15.8%）の順に多い。

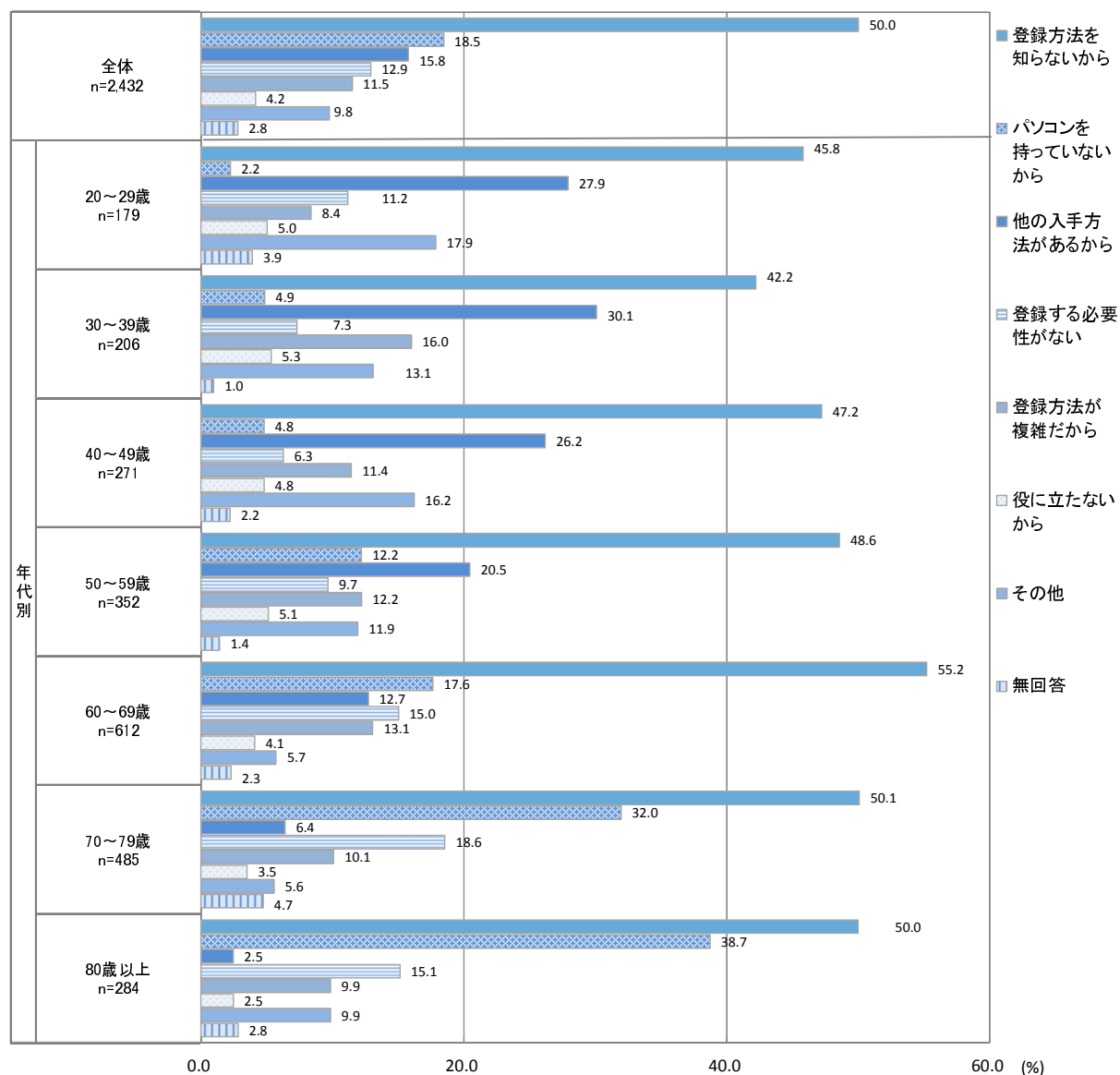


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・できない・後回しにしている（53 件）
- ・面倒（41 件）
- ・他の情報源がある（37 件）
- ・信用できない・必要ない（34 件）
- ・家族が登録している（33 件）
- ・意識が低い・知らない（23 件）
- ・自己判断（9 件） 等

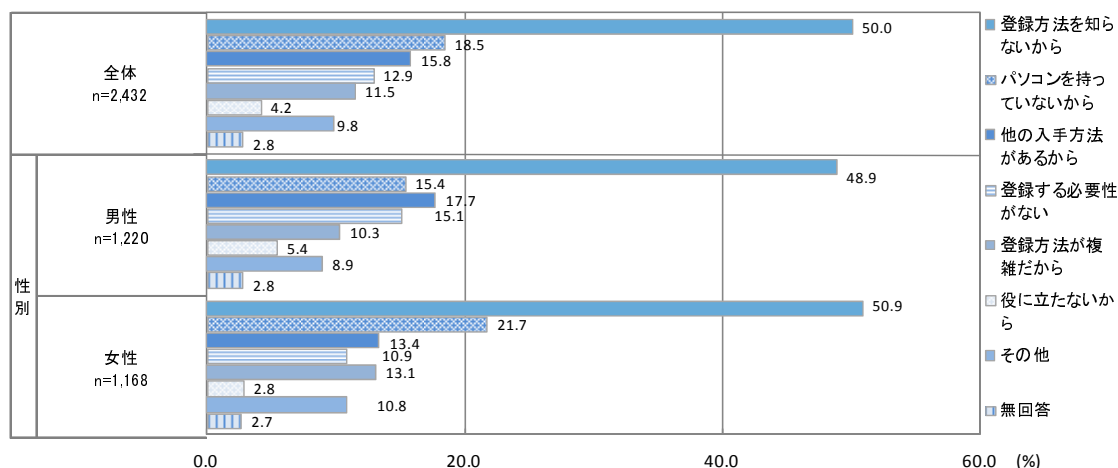
＜年代別＞

「登録方法を知らないから」は全ての年代で最多であり、「60～69 歳」より上の年代では5割を超えている。次いで、「20～29 歳」から「50～59 歳」では「防災情報アプリなど、他の入手方法があるから」が、「60 歳～69 歳」より上の年代では「パソコンや携帯電話を持っていないから」が多くなっている。



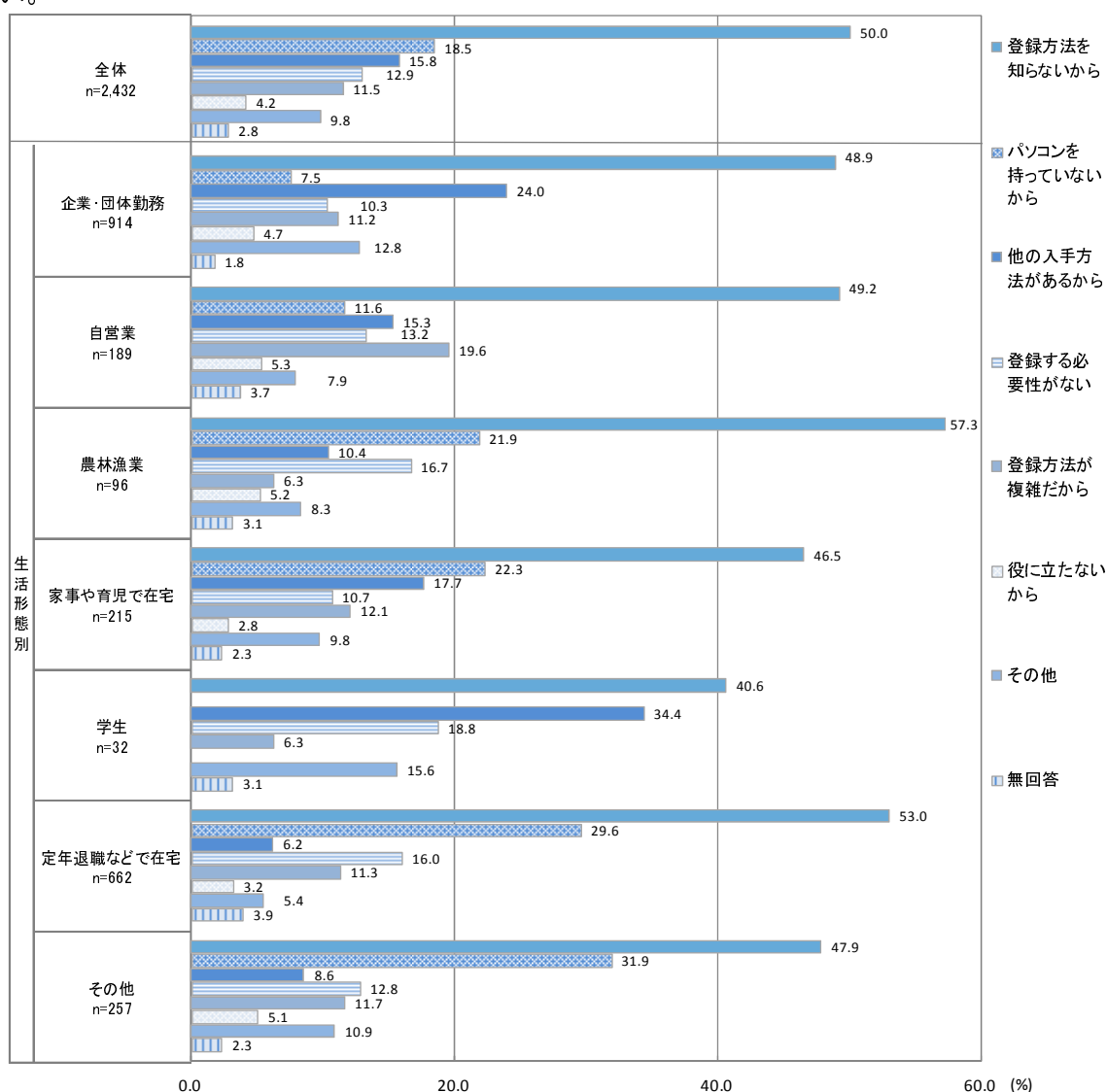
<性別>

「登録方法を知らないから」は男女ともに５割前後であった。次いで「男性」では「防災情報アプリなど、他の入手方法があるから」が、「女性」では「パソコンや携帯電話を持っていないから」が多くなっている。



<生活形態別>

全ての分類で「登録方法を知らないから」が最も多いが、「防災情報アプリなど、他の入手方法があるから」は「学生」で34.4%と、他の分類での１割弱～２割半ばと比べて多い。

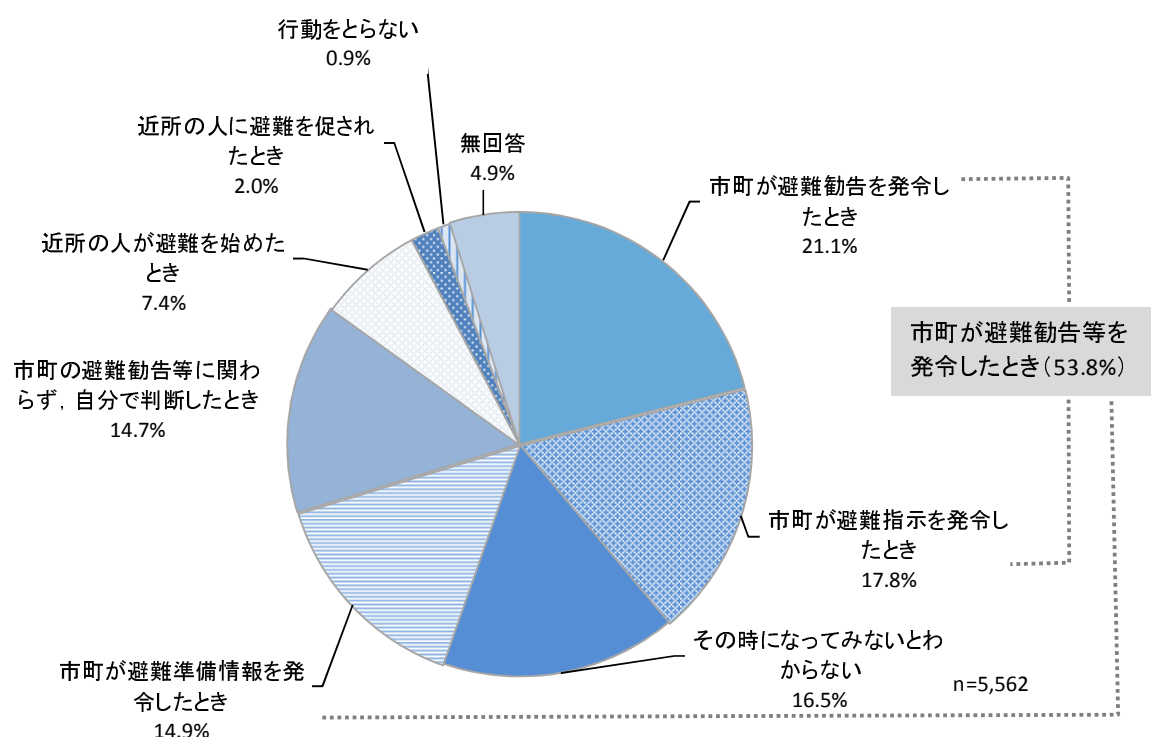


避難行動を開始するきっかけ

問 20.大雨や台風による災害が想定されるとき、あなたはどの時点で避難行動を開始しますか。（単一回答）

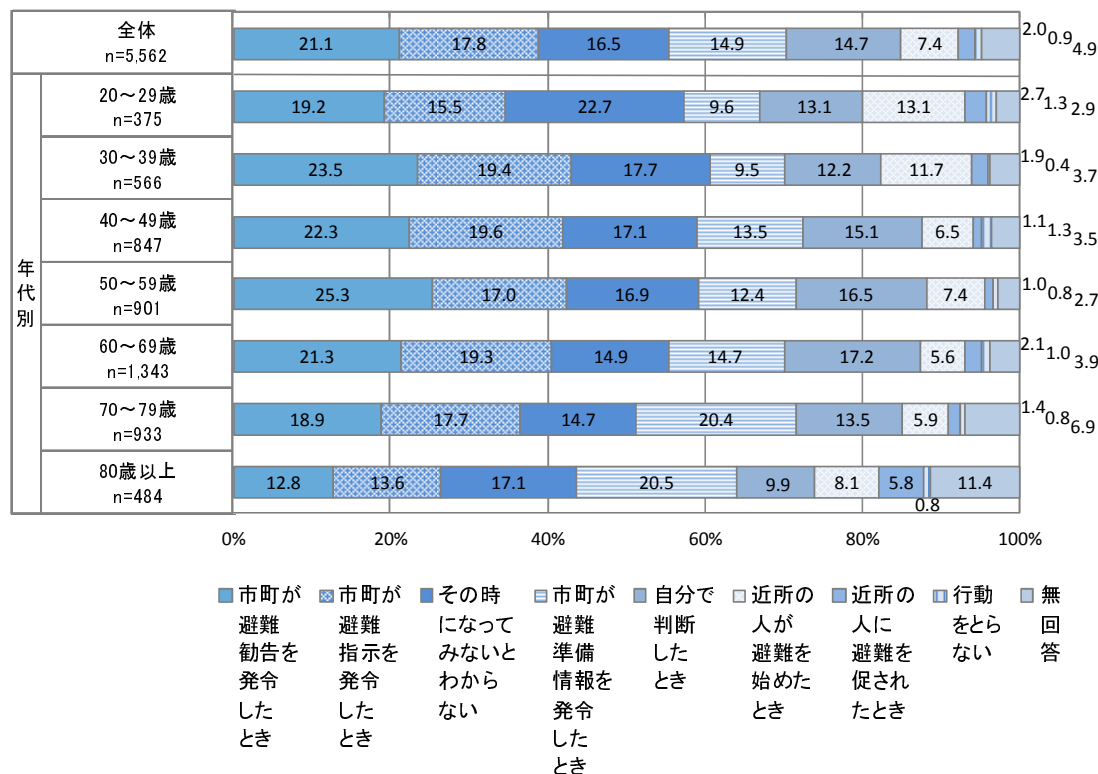
『市町が避難勧告等を発令したとき』（「市町が避難勧告を発令したとき」21.1%、「市町が避難指示を発令したとき」17.8%、「市町が避難準備情報を発令したとき」14.9%の合計）は53.8%となっている。

「市町の避難勧告等に関わらず、自分で判断したとき」は14.7%となっており、自らの判断で避難行動をとる人は1割半ばとなっている。「その時になってみないとわからない」は16.5%、「行動をとらない」は0.9%であった。



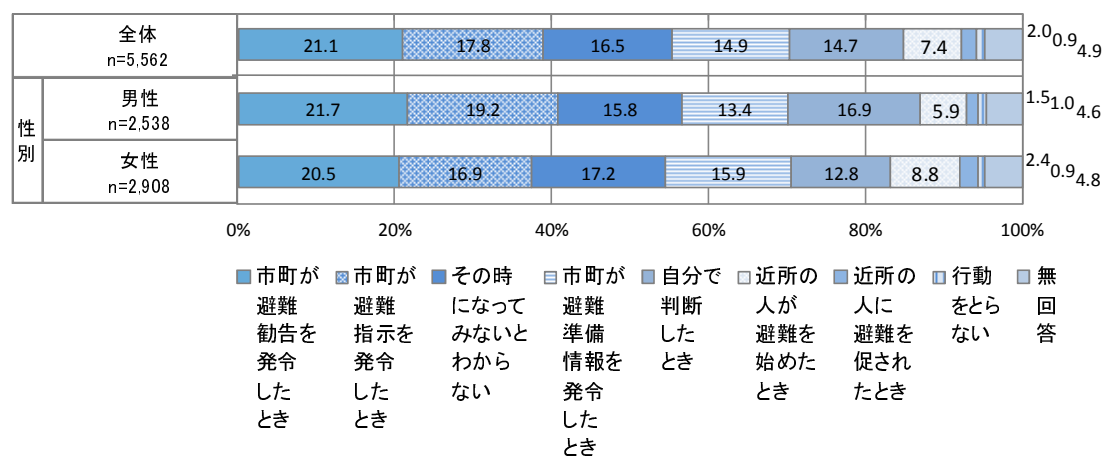
<年代別>

『市町が避難勧告等を発令したとき』は全ての年代で 4 割半ば～5 割台となっている。
「市町の避難勧告等に関わらず、自分で判断したとき」は「80 歳以上」で 9.9%となり、他の年代が 1 割～2 割弱であるのに対し少ない。



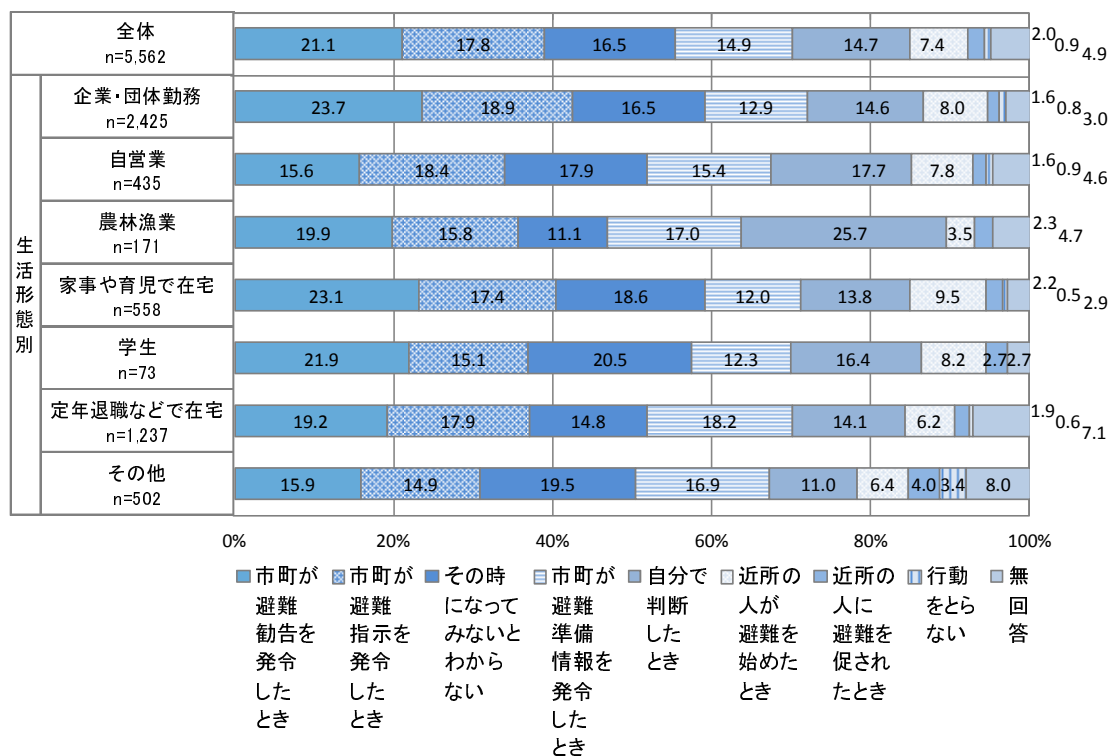
<性別>

『市町が避難勧告等を発令したとき』は男女とも 5 割強となっている。「市町の避難勧告等に関わらず、自分で判断したとき」は「男性」が「女性」を 4.1 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

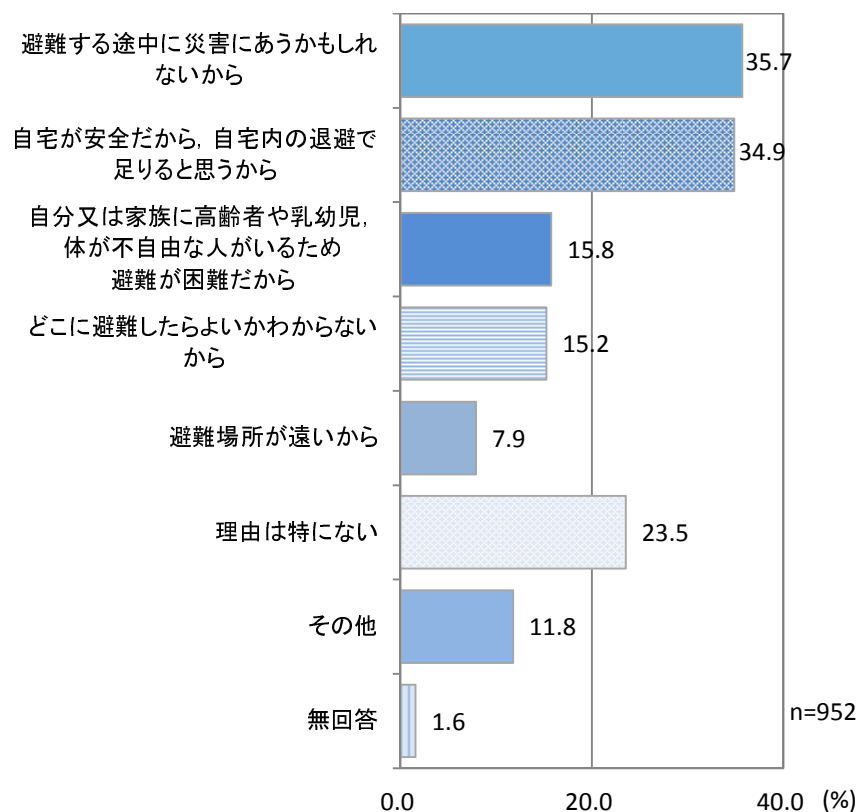
『市町が避難勧告等を発令したとき』は全ての分類で5割弱～5割半ばとなっている。
「農林漁業」では「市町の避難勧告等に関わらず、自分で判断したとき」が25.7%と他の分類が1割～2割弱であるのに対し比較的多い。



避難行動についてわからない・行わない理由

問 21.問 20 で「7 その時になってみないとわからない」又は「8 行動をとらない」と回答した人にお尋ねします。その理由は何ですか。（複数回答）

「避難する途中に災害にあうかもしれないから」（35.7%）とした、避難に対する不安などを理由に挙げている割合が多い。「自宅が安全だから、自宅内の退避で足りると思うから」は 34.9%、「自分又は家族に高齢者や乳幼児、体が不自由な人がいるため避難が困難だから」は 15.8%となっている。

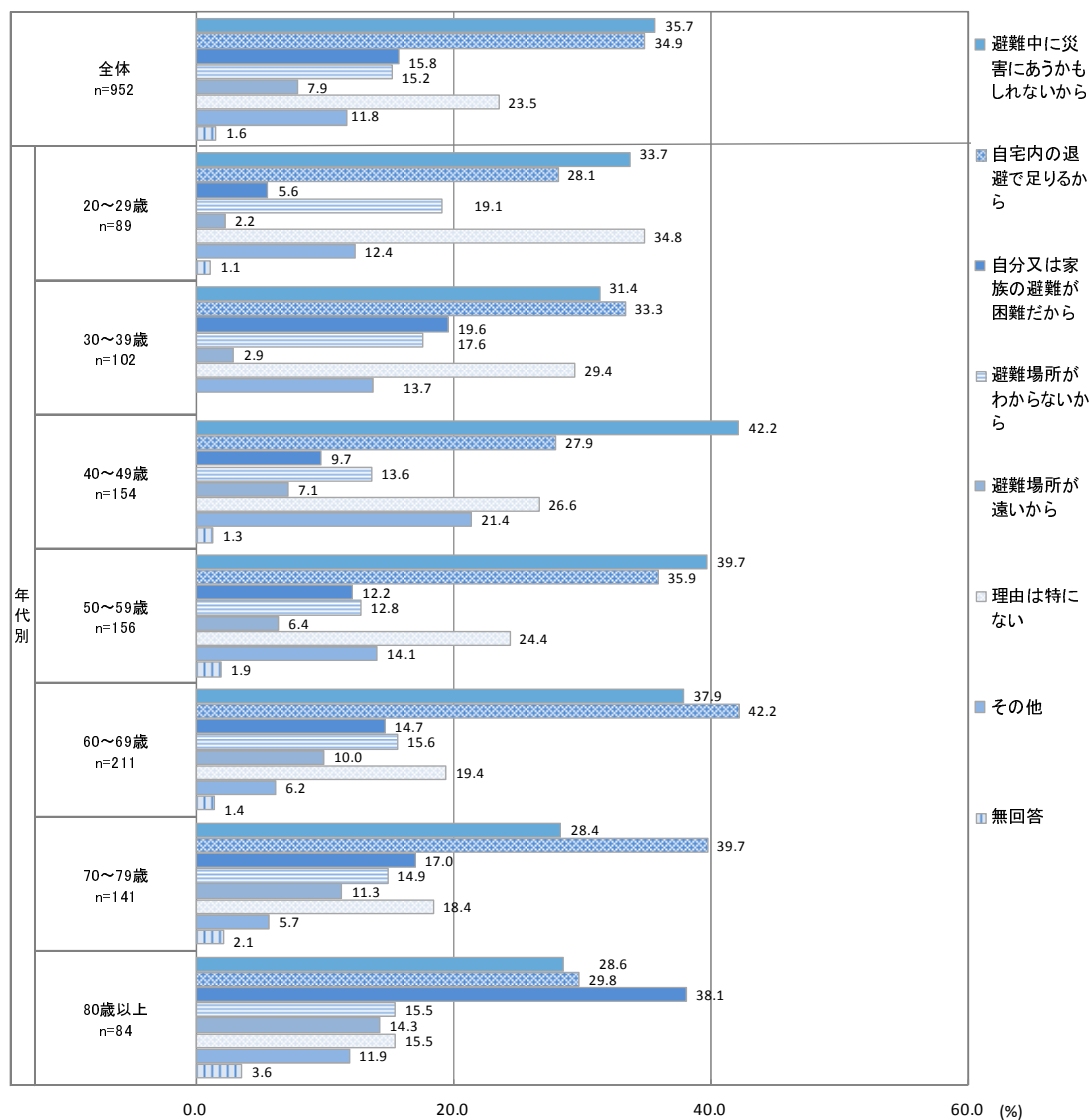


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・ 災害状況による（45 件）
- ・ 高齢・体が不自由・ペットがいる（19 件）
- ・ 経験が無い・わからない（18 件）
- ・ 避難移動、避難場所は安全でない（15 件）
- ・ 仕事があるため(仕事柄、災害時に出勤が必要等)（7 件）
- ・ 自治体からの情報に不安がある
- ・ 現状自分で対処できている 等

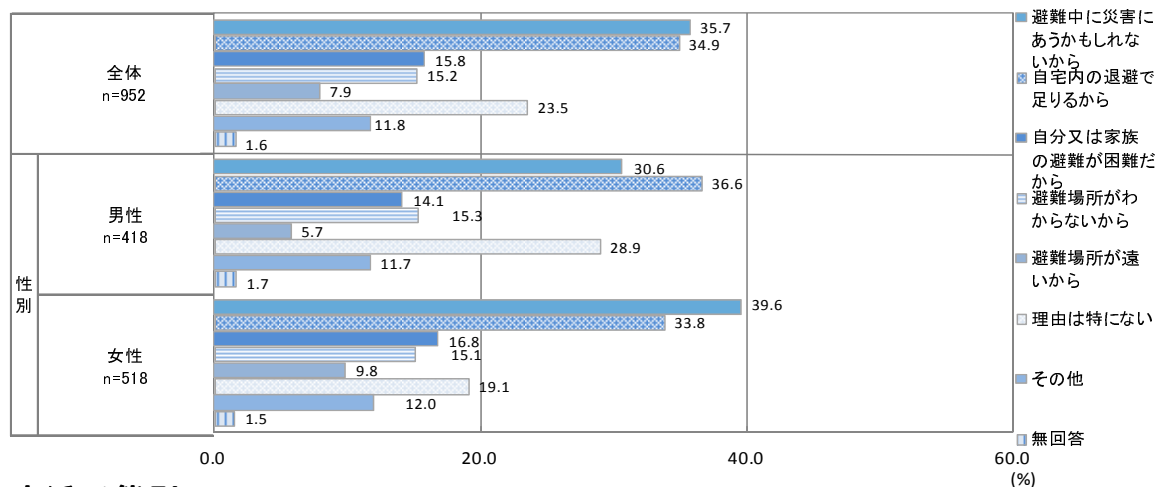
＜年代別＞

「避難する途中に災害にあうかもしれないから」は「40～49 歳」で多く、4 割を超えている。「自宅が安全だから、自宅内の退避で足りると思うから」は「60～69 歳」、「70～79 歳」で 4 割前後と最も多く、他の年代では 3 割前後となっているのに対し多い。「自分又は家族に高齢者や乳幼児、体が不自由な人がいるため避難が困難だから」は「80 歳以上」で 4 割弱となっている。



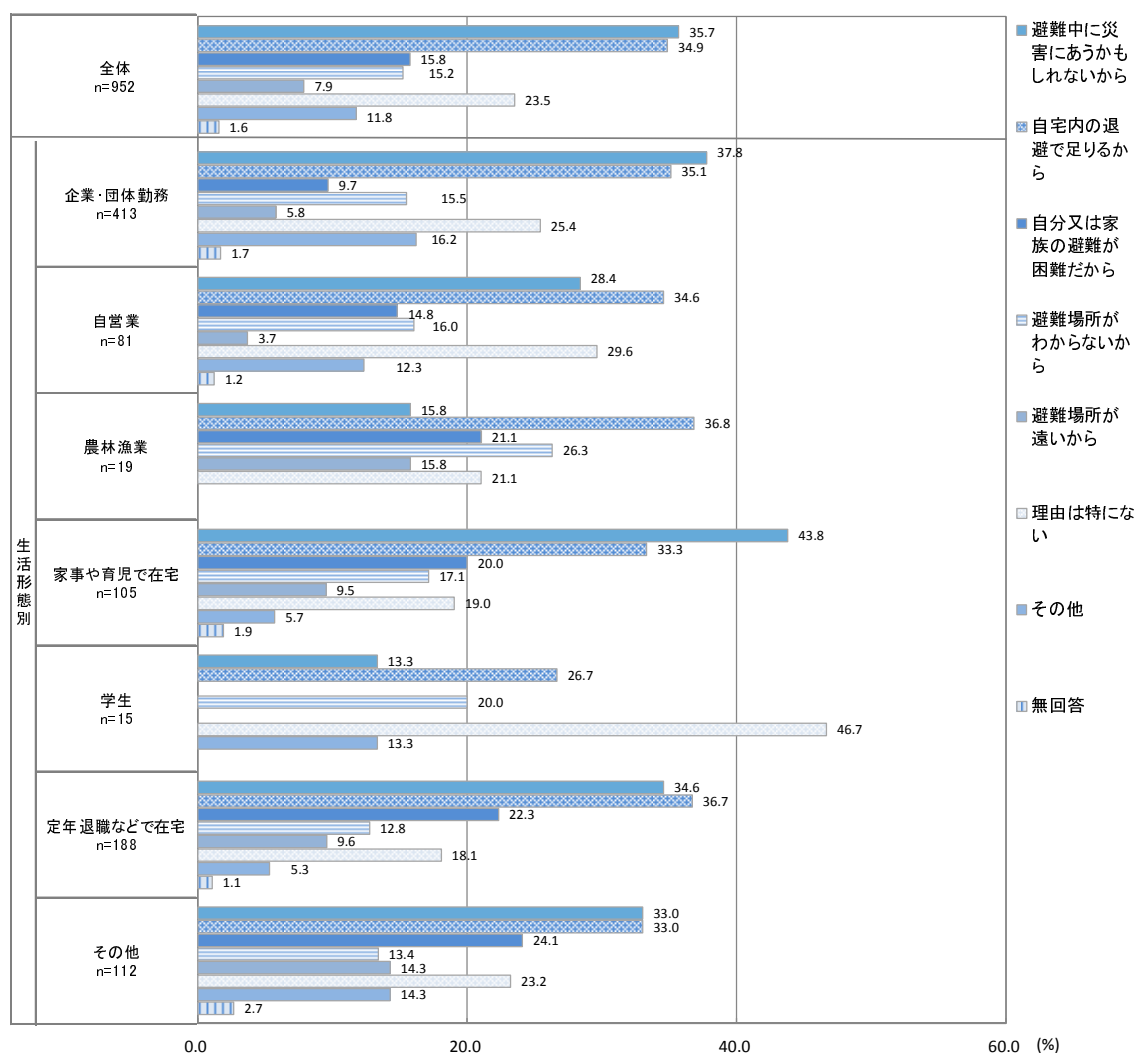
<性別>

「避難する途中に災害にあうかもしれないから」で男女差が大きく、「女性」が「男性」を9.0ポイント上回っている。



<生活形態別>

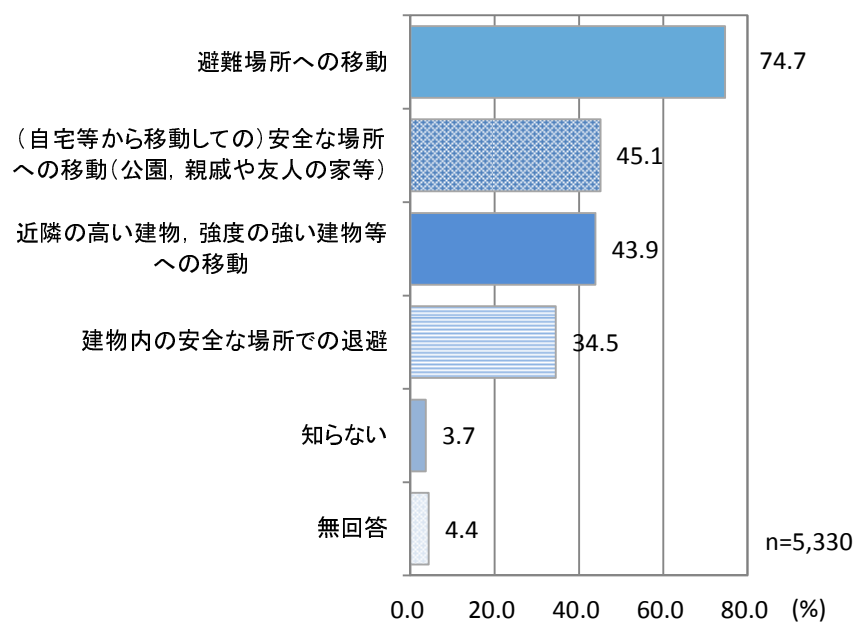
「避難する途中に災害にあうかもしれないから」は「家事や育児で在宅」で最も多く43.8%となっている。「自宅が安全だから、自宅内の退避で足りると思うから」は「学生」を除き全ての分類で3割を超えている。「自分又は家族に高齢者や乳幼児、体が不自由な人がいるため避難が困難だから」では「企業・団体勤務」で1割を下回り最も低い。



避難行動のうち知っているもの

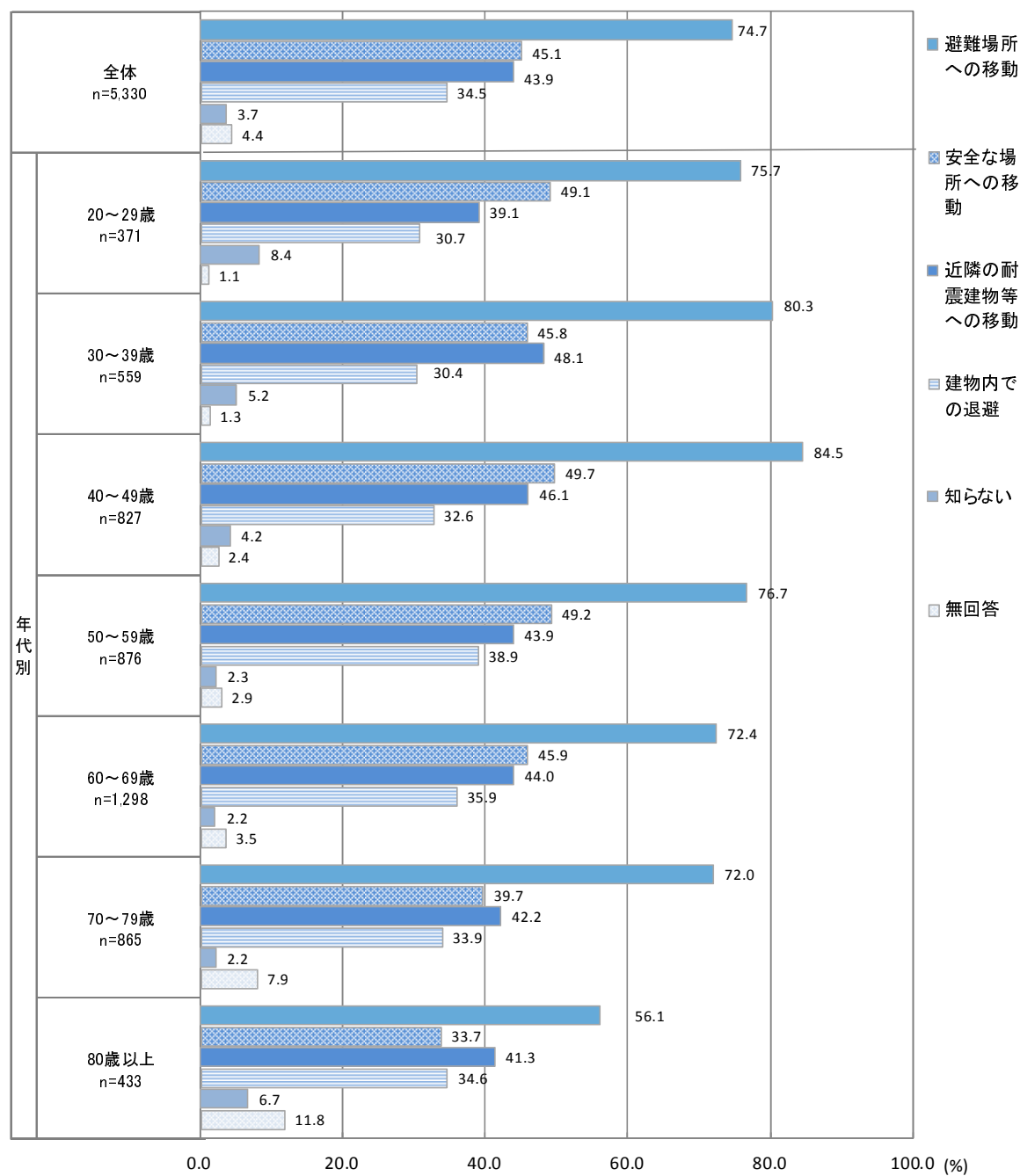
問 22.避難行動のうち知っているものはどれですか。（複数回答）

「避難場所への移動」(74.7%)、「(自宅等から移動しての)安全な場所への移動(公園, 親戚や友人の家等)」(45.1%)、「近隣の高い建物, 強度の強い建物等への移動」(43.9%)、「建物内の安全な場所での退避」(34.5%)の順になっている。



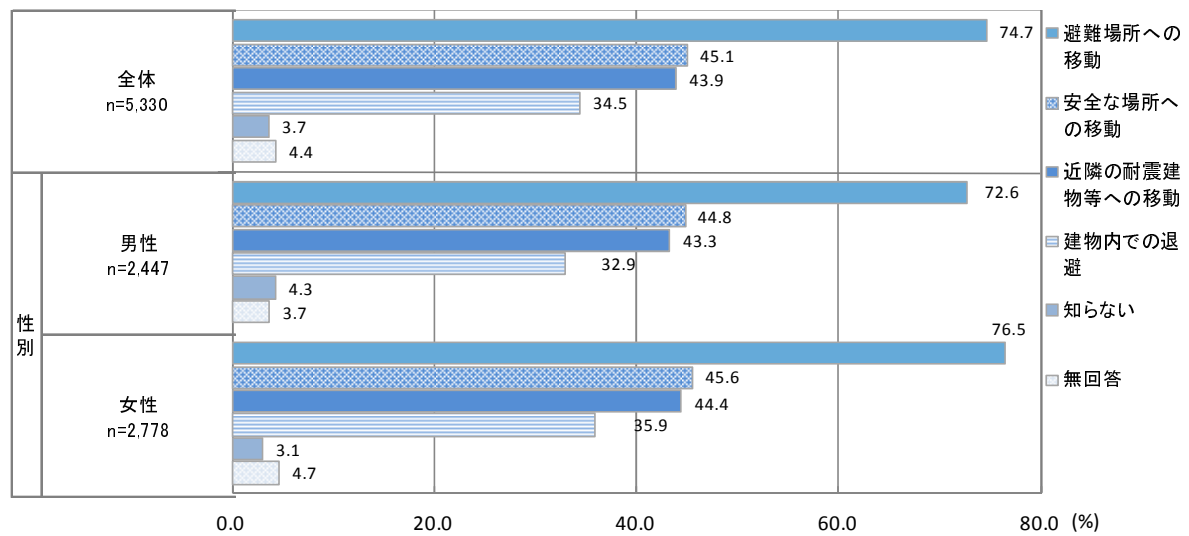
<年代別>

全ての年代で「避難場所への移動」が最も多く、「40～49 歳」（84.5%）、「30～39 歳」（80.3%）では 8 割を超えている。



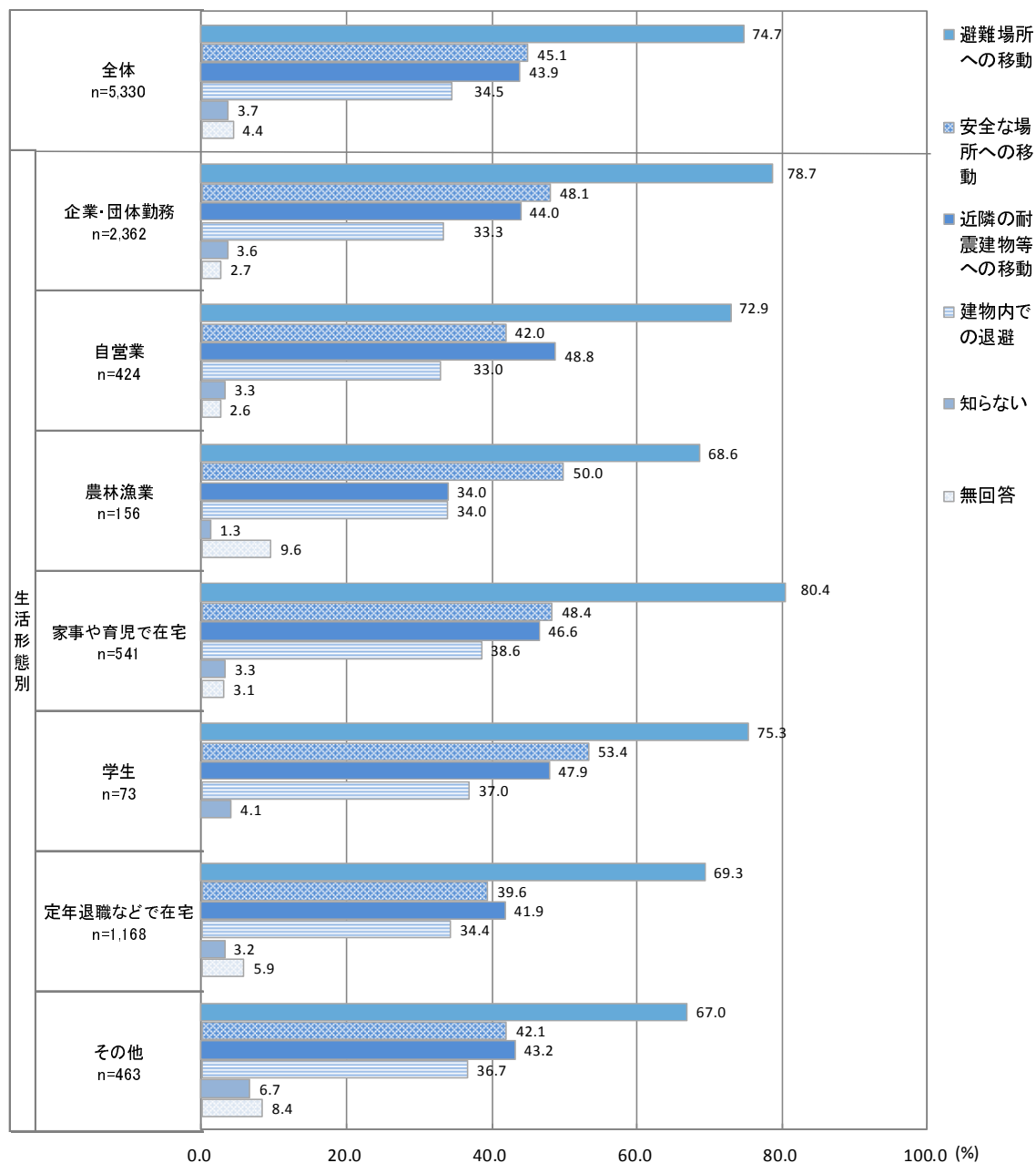
<性別>

「避難場所への移動」は男女ともに7割を超えている。性別による差はあまりみられない。



<生活形態別>

全ての分類で「避難場所への移動」が最も多く、7割弱～8割となっている。



災害時に地域で避難を呼びかける体制の有無

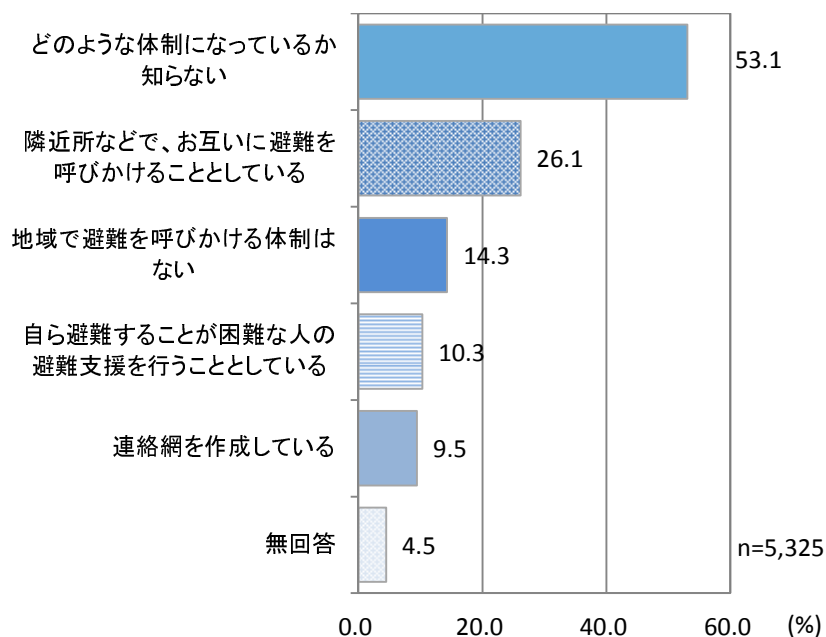
問 23.あなたのお住まいの地域では、災害時にお互いに避難を呼びかけることなどについて、どのような体制が整えられていますか。（「地域で避難を呼びかける体制はない」又は「どのような体制になっているか知らない」以外は複数回答）

『何らかの体制を整えている』（「隣近所などで、お互いに避難を呼びかけることとしている」26.1%、「自ら避難することが困難な人の避難支援を行うこととしている」10.3%、「連絡網を作成している」9.5%の合計）は45.9%となっている。

具体的な体制としては、「隣近所などで、お互いに避難を呼びかけることとしている」

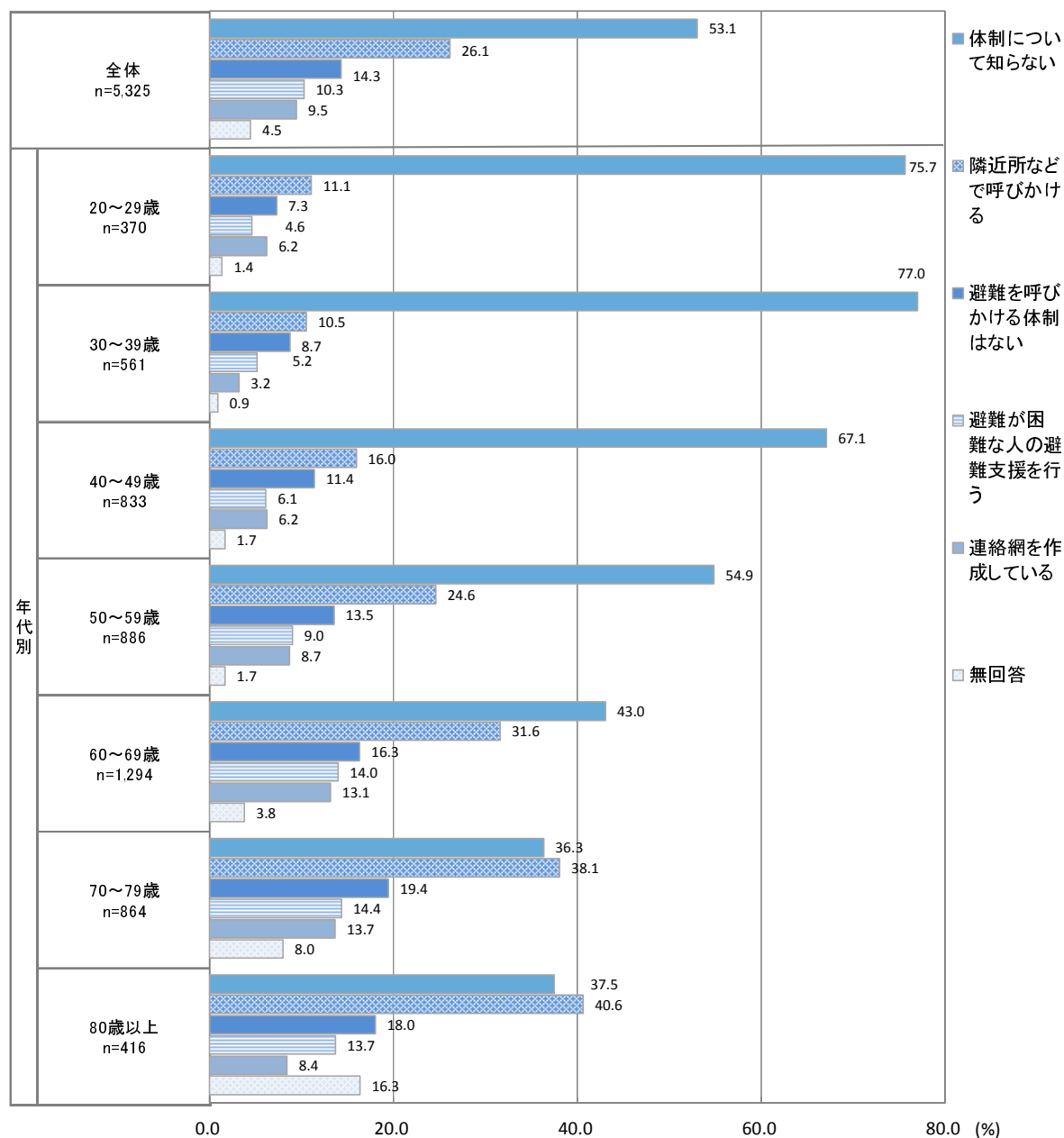
（26.1%）が最も多いが、2割半ばにとどまっている。

一方、『体制が未整備である』（「どのような体制になっているか知らない」53.1%、「地域で避難を呼びかける体制はない」14.3%の合計）は67.4%で、地域の避難体制の認知不足や、体制未整備との回答が多い。



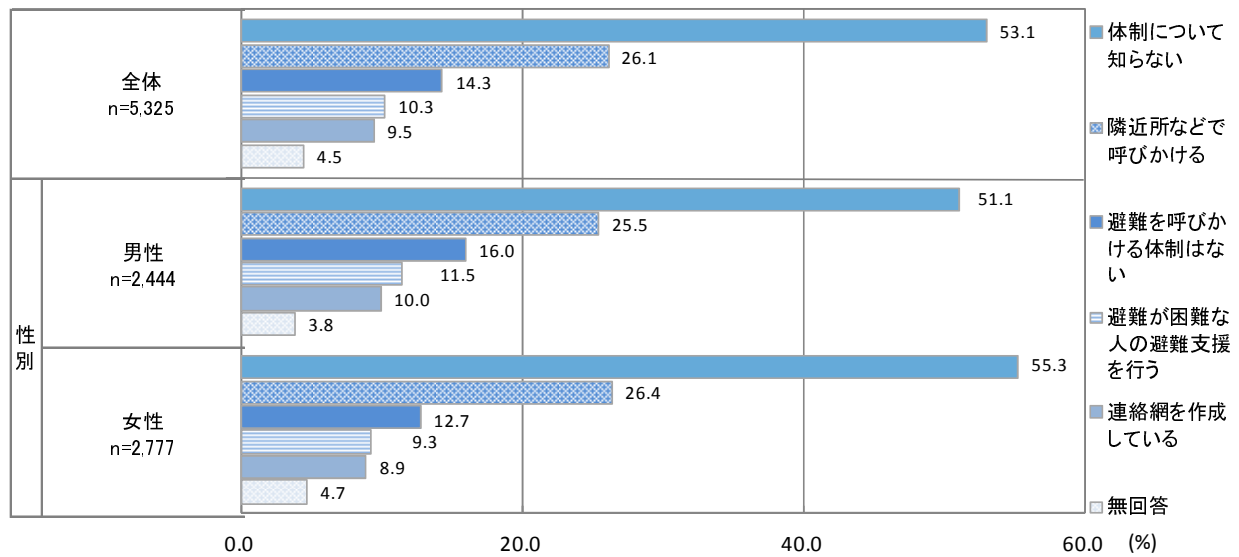
＜年代別＞

『何らかの体制を整えている』は概ね年代が上がるにつれて多くなっており、その内訳では「隣近所などで、お互いに避難を呼びかけることとしている」が最も多い。一方、『体制が未整備である』は概ね年代が下がるにつれて多く、「20～29 歳」、「30～39 歳」では 8 割を超えている。



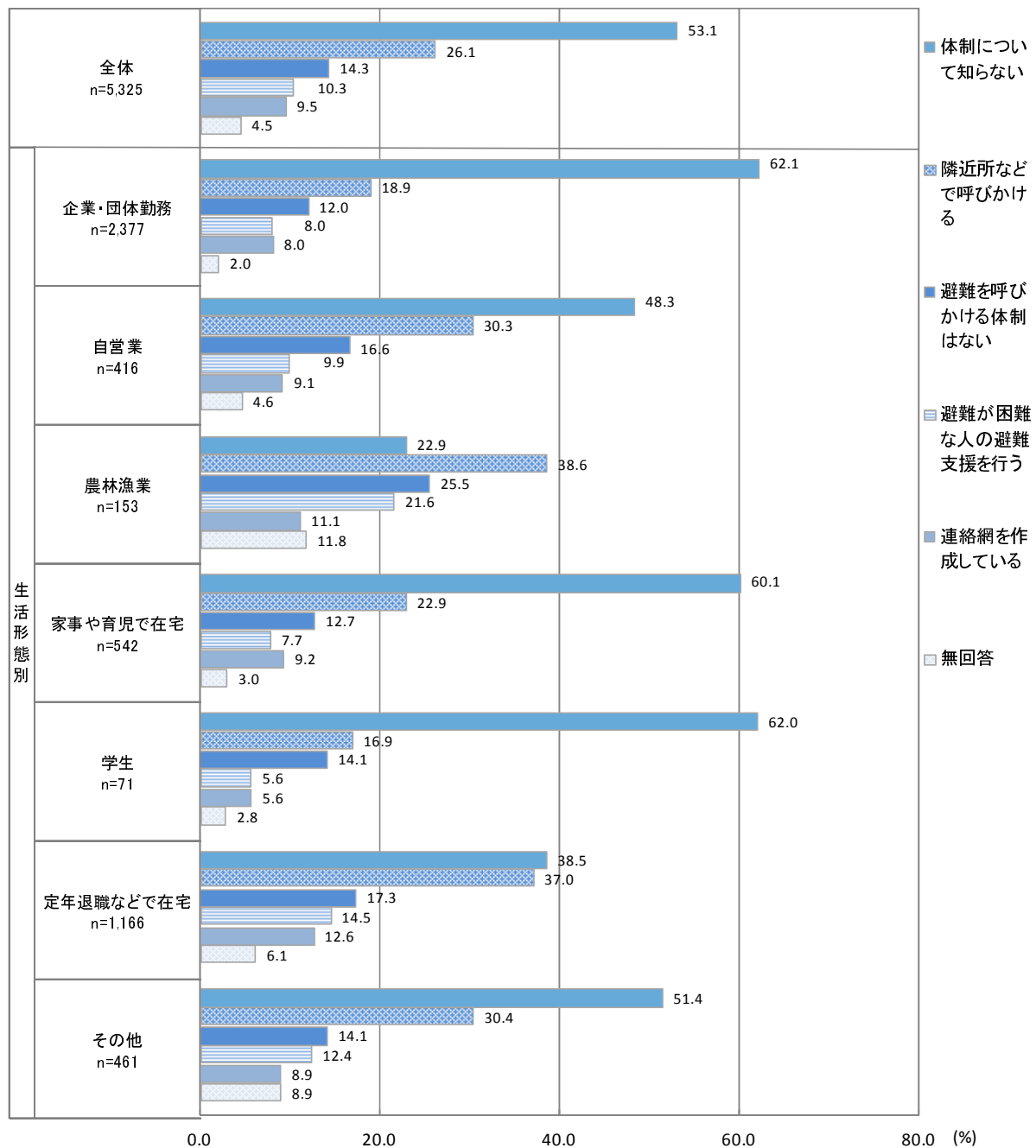
<性別>

『何らかの体制を整えている』は男女とも４割半ばで、『体制が未整備である』は７割弱となっており、男女で大きな差はみられない。



<生活形態別>

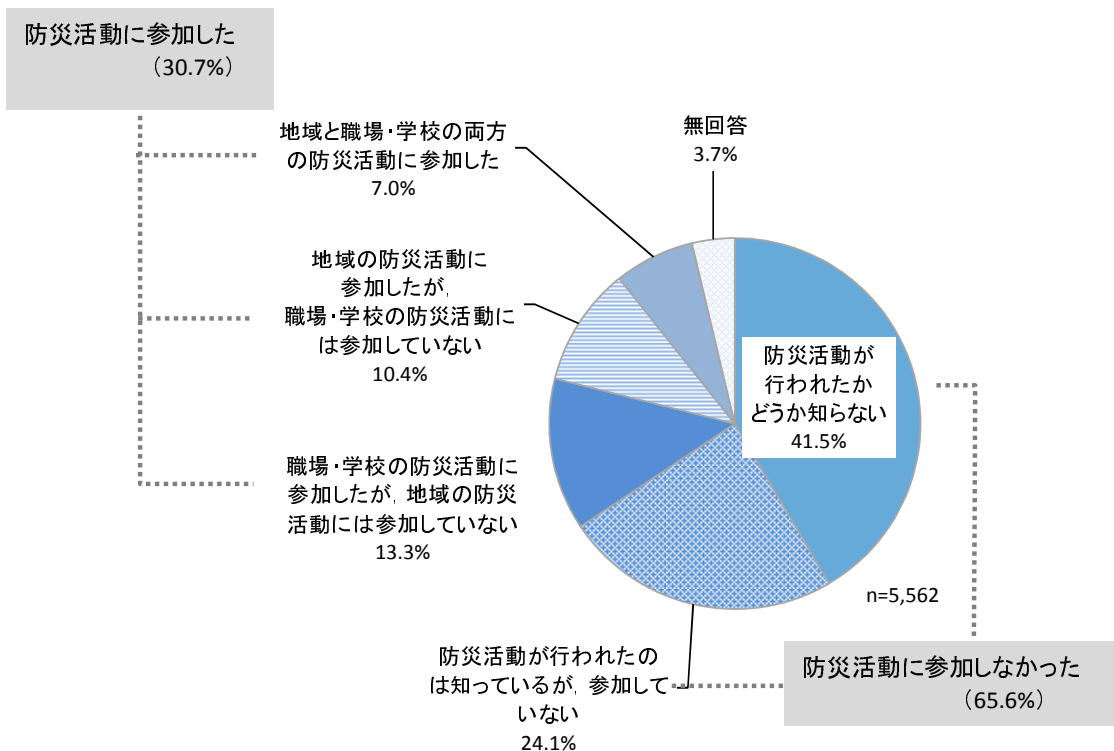
『何らかの体制を整えている』は「農林漁業」で多く 7 割を超えている。『体制が未整備である』は「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」、「学生」で多く 7 割を超えている。



防災教室・防災訓練への参加について

防災活動の参加有無

問 24.あなたは、過去 1 年間に、地域や職場・学校で防災活動(防災教室や防災訓練等)に参加したことがありますか。(単一回答)



『防災活動に参加した』は 3 割強（30.7%）となっている。

（「職場・学校の防災活動に参加したが、地域の防災活動には参加していない」13.3%、「地域の防災活動に参加したが、職場・学校の防災活動には参加していない」10.4%、「地域と職場・学校の両方の防災活動に参加した」7.0%の合計）

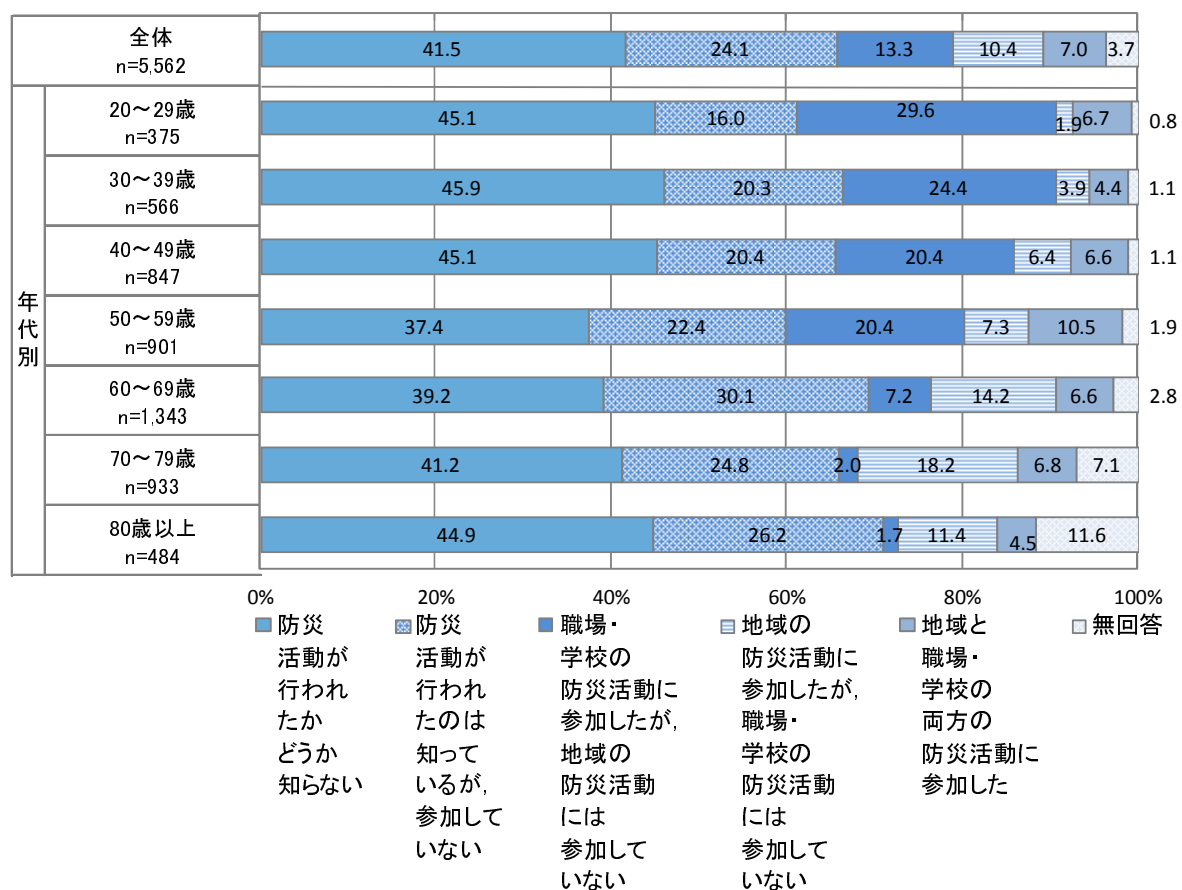
『防災活動に参加しなかった』は 6 割半ば（65.6%）となっている。

（「防災活動が行われたかどうか知らない」41.5%、「防災活動が行われたのは知っているが、参加していない」24.1%の合計）

『防災活動に参加した』では職場・学校の防災活動のみに参加した人が最も多く 13.3%、『防災活動に参加しなかった』では防災活動の実施を認知していないことを理由に挙げた人が多く 4 割強となっている。

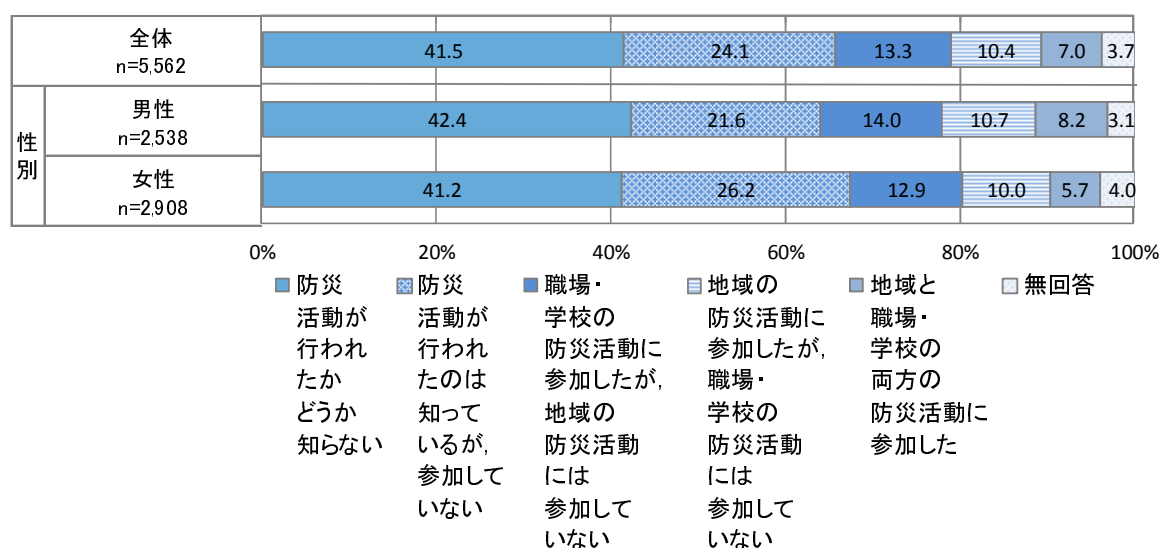
<年代別>

『防災活動に参加した』は「20～29 歳」、「50～59 歳」で 4 割弱と多く、うち「職場・学校の防災活動に参加したが、地域の防災活動には参加していない」が最も多い。『防災活動に参加しなかった』は全ての年代で 6 割弱以上となっている。



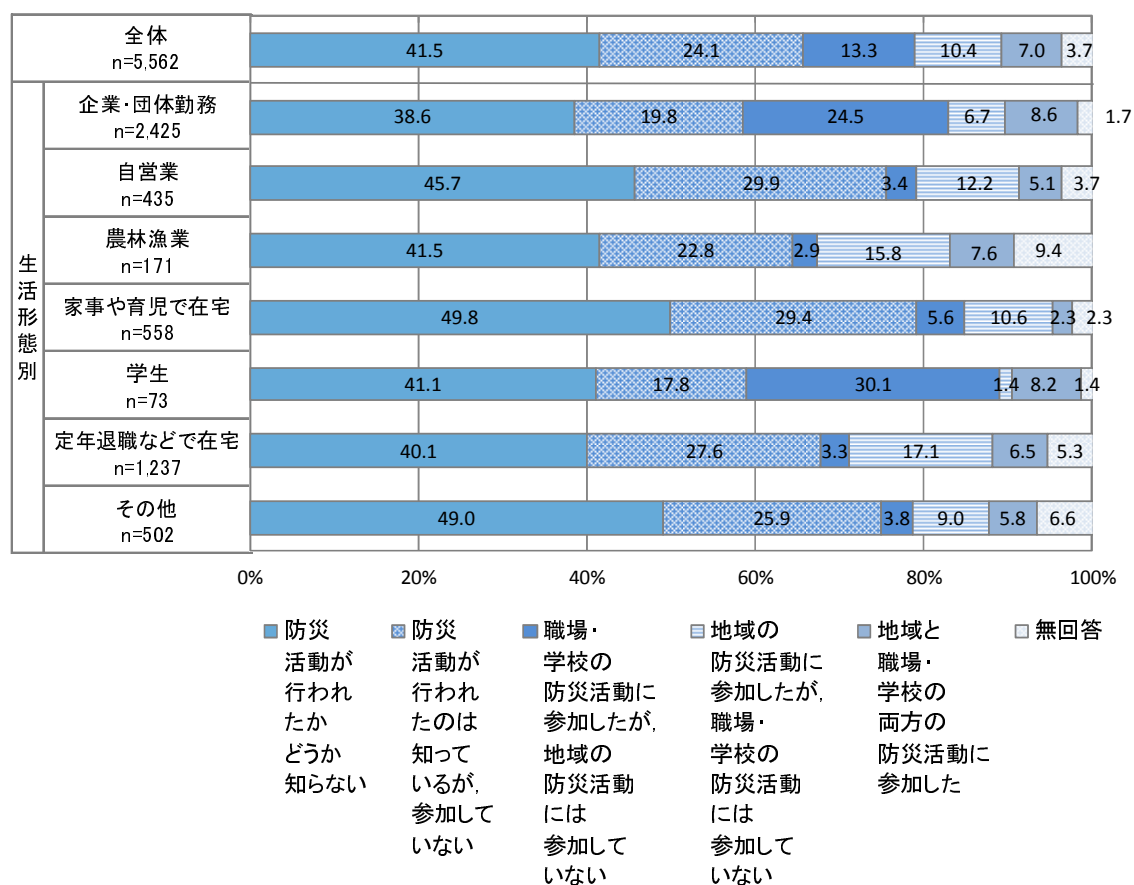
<性別>

男女ともに『防災活動に参加しなかった』が6割以上を占めており、『防災活動に参加した』は男性が女性を4.3ポイント上回っている。



<生活形態別>

『防災活動に参加した』は「企業・団体勤務」、「学生」で多く4割弱となっている。『防災活動に参加しなかった』は「家事や育児で在宅」で最も多く、8割弱となっている。

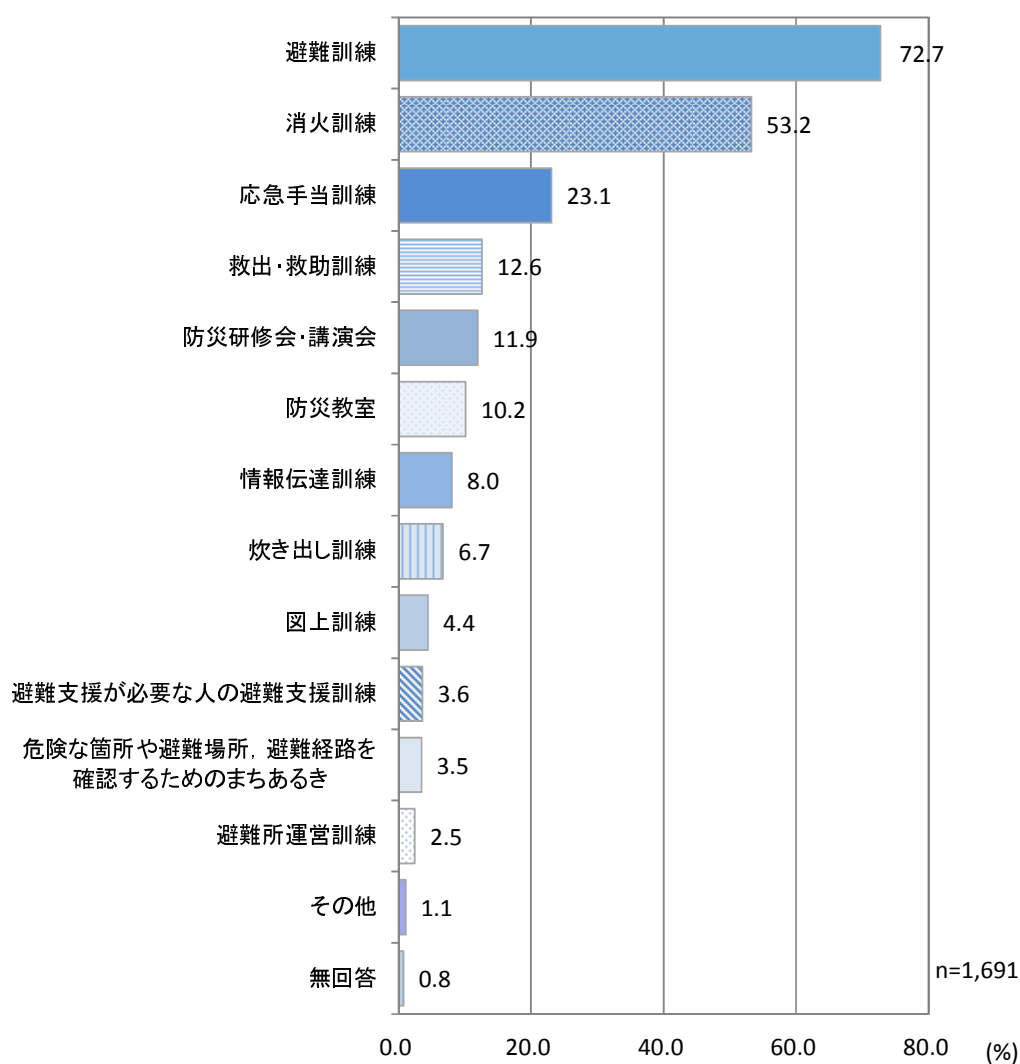


防災活動の参加内容・参加意向

問 25.どのような防災活動に参加されましたか。問 24 で「防災活動に参加した」と回答した人は参加内容を、「参加してない」と回答した人は今後の参加意向をお答えください。（複数回答）

防災活動に参加した人

「避難訓練」（72.7%）、「消火訓練」（53.2%）、「応急手当訓練」（23.1%）の順に多い。



<年代別>

「70～79 歳」を除き「避難訓練」が最も多く、次いで「消火訓練」、「応急手当訓練」となっている。

	回答 件数 計	避難 訓練	図上 訓練	消火 訓練	救出・ 救助 訓練	応急 手当 訓練	炊き 出し 訓練	情報 伝達 訓練	の避難 支援が 必要な 人 訓練	避難 所運営 訓練	防災 教室	防災 研修会・ 講演会	きす る、 危険な 場所や 避難場 所 の ま ち を 確 認 する た め の 経 路 を 確 認 する	そ の 他	無 回 答
全体	1,691	1,229	75	900	213	390	114	136	61	42	172	202	59	18	13
		72.7	4.4	53.2	12.6	23.1	6.7	8.0	3.6	2.5	10.2	11.9	3.5	1.1	0.8
20～29歳	143	114	0	75	14	33	4	9	2	1	12	8	3	1	0
		79.7	0.0	52.4	9.8	23.1	2.8	6.3	1.4	0.7	8.4	5.6	2.1	0.7	0.0
30～39歳	185	143	8	77	22	37	5	11	4	2	13	19	3	4	0
		77.3	4.3	41.6	11.9	20.0	2.7	5.9	2.2	1.1	7.0	10.3	1.6	2.2	0.0
40～49歳	283	217	9	135	33	49	9	22	5	5	24	20	3	4	0
		76.7	3.2	47.7	11.7	17.3	3.2	7.8	1.8	1.8	8.5	7.1	1.1	1.4	0.0
50～59歳	345	277	17	192	37	65	18	36	10	11	29	45	11	1	0
		80.3	4.9	55.7	10.7	18.8	5.2	10.4	2.9	3.2	8.4	13.0	3.2	0.3	0.0
60～69歳	375	262	20	215	48	94	37	34	22	8	39	55	12	3	1
		69.9	5.3	57.3	12.8	25.1	9.9	9.1	5.9	2.1	10.4	14.7	3.2	0.8	0.3
70～79歳	243	145	15	150	42	87	31	20	13	12	37	38	18	4	9
		59.7	6.2	61.7	17.3	35.8	12.8	8.2	5.3	4.9	15.2	15.6	7.4	1.6	3.7
80歳以上	82	50	6	38	13	16	8	4	4	2	13	11	7	1	3
		61.0	7.3	46.3	15.9	19.5	9.8	4.9	4.9	2.4	15.9	13.4	8.5	1.2	3.7

<性別>

男女ともに上位３項目は同様となっており、大きな差はみられない。

	回答 件数 計	避難 訓練	図上 訓練	消火 訓練	救出・ 救助 訓練	応急 手当 訓練	炊き 出し 訓練	情報 伝達 訓練	の避難 支援が 必要な 人 訓練	避難 所運営 訓練	防災 教室	防災 研修会・ 講演会	きす る、 危険な 場所や 避難場 所 の ま ち を 確 認 する	そ の 他	無 回 答
全体	1,691	1,229	75	900	213	390	114	136	61	42	172	202	59	18	13
		72.7	4.4	53.2	12.6	23.1	6.7	8.0	3.6	2.5	10.2	11.9	3.5	1.1	0.8
男性	831	597	56	468	117	195	58	83	35	26	85	121	33	3	5
		71.8	6.7	56.3	14.1	23.5	7.0	10.0	4.2	3.1	10.2	14.6	4.0	0.4	0.6
女性	826	612	19	414	92	186	54	53	25	15	82	75	24	15	7
		74.1	2.3	50.1	11.1	22.5	6.5	6.4	3.0	1.8	9.9	9.1	2.9	1.8	0.8

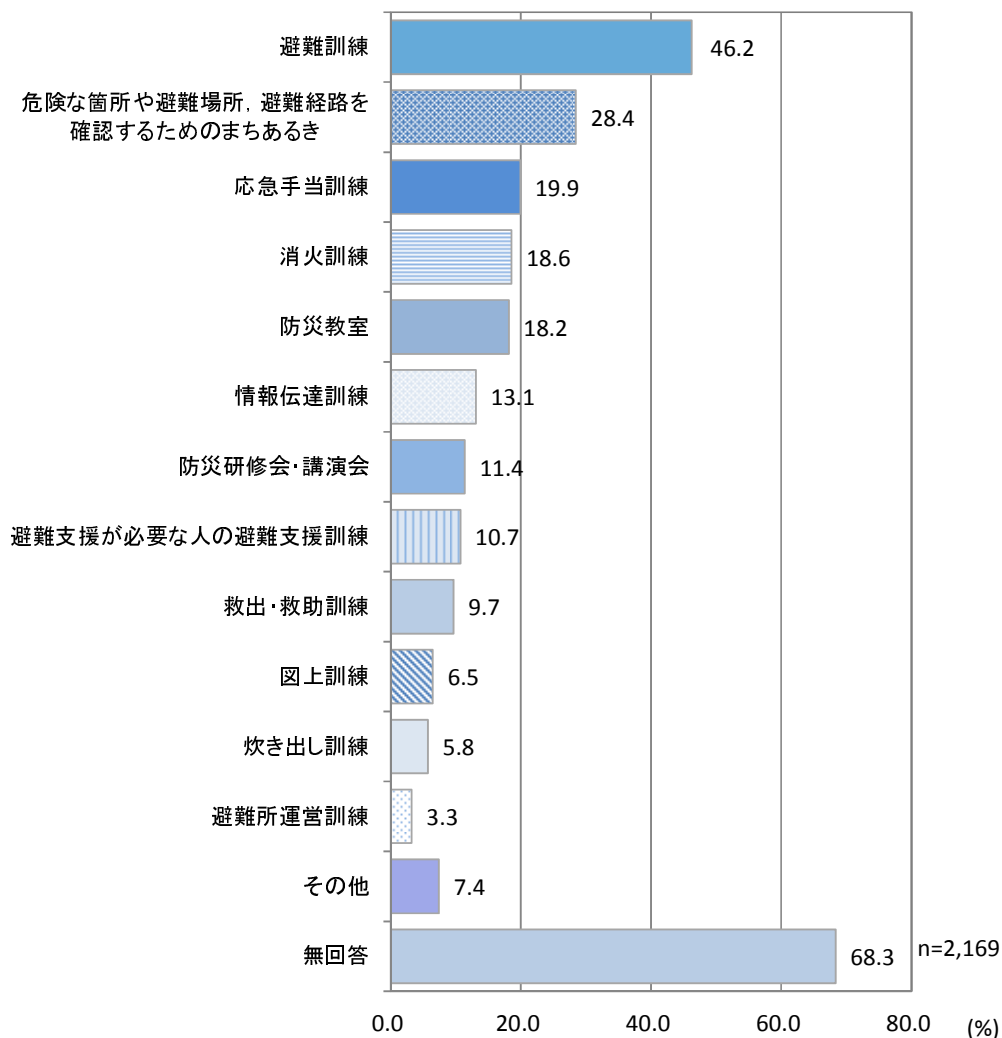
<生活形態別>

全ての分類で「避難訓練」が最も多く、次いで「消火訓練」、「応急手当訓練」となっている。

	回答 件数 計	避難 訓練	図上 訓練	消火 訓練	救出・ 救助 訓練	応急 手当 訓練	炊き 出し 訓練	情報 伝達 訓練	の避難 支援が 必要な 人 訓練	避難 所運営 訓練	防災 教室	防災 研修会・ 講演会	きす る、 危険な 場所や 避難場 所 の ま ち を 確 認 する	そ の 他	無 回 答
全体	1,691	1,229	75	900	213	390	114	136	61	42	172	202	59	18	13
		72.7	4.4	53.2	12.6	23.1	6.7	8.0	3.6	2.5	10.2	11.9	3.5	1.1	0.8
企業・団体勤務	966	747	40	501	104	182	33	83	26	20	71	104	25	8	1
		77.3	4.1	51.9	10.8	18.8	3.4	8.6	2.7	2.1	7.3	10.8	2.6	0.8	0.1
自営業	88	60	5	54	17	26	6	3	2	5	12	9	3	2	2
		68.2	5.7	61.4	19.3	29.5	6.8	3.4	2.3	5.7	13.6	10.2	3.4	2.3	2.3
農林漁業	44	25	5	20	4	11	1	1	1	0	6	8	4	0	1
		56.8	11.4	45.5	9.1	25.0	2.3	2.3	2.3	0.0	13.6	18.2	9.1	0.0	2.3
家事や育児で在宅	101	71	1	51	13	29	10	7	2	2	20	7	1	1	2
		70.3	1.0	50.5	12.9	28.7	9.9	6.9	2.0	2.0	19.8	6.9	1.0	1.0	2.0
学生	29	25	1	13	3	6	3	1	0	0	4	2	0	0	0
		86.2	3.4	44.8	10.3	20.7	10.3	3.4	0.0	0.0	13.8	6.9	0.0	0.0	0.0
定年退職などで在宅	326	203	19	184	52	98	44	30	22	12	45	52	19	3	7
		62.3	5.8	56.4	16.0	30.1	13.5	9.2	6.7	3.7	13.8	16.0	5.8	0.9	2.1
その他	93	72	3	55	12	26	13	9	6	2	8	13	3	2	0
		77.4	3.2	59.1	12.9	28.0	14.0	9.7	6.5	2.2	8.6	14.0	3.2	2.2	0.0

防災活動に参加していない人

「避難訓練」(46.2%)、「危険な箇所や避難場所、避難経路を確認するためのまちあるき」(28.4%)、「応急手当訓練」(19.9%)の順に多い。



その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・ 参加しない・できない (65 件)
- ・ 高齢・体が不自由 (38 件)
- ・ 他の具体的な訓練・経験がある (20 件)
- ・ 今後参加したい (9 件)
- ・ わからない (10 件)
- ・ 自分のことは自分で守る 等

<年代別>

全ての年代で「避難訓練」が最も多いが、「40～49 歳」を除き年代が上がるにつれ少なくなっている。

	回答件数 計	避難訓練	図上訓練	消火訓練	救出・救助訓練	応急手当訓練	炊き出し訓練	情報伝達訓練	の避難支援が必要な人 の避難支援訓練	避難所運営訓練	防災教室	防災研修会・講演会	きす所危 る、険な ため、避難 の経路や のまちを ある避難 場所	その他	無回答
全体	2,169	1,003	141	403	210	432	125	284	233	71	394	247	617	161	1,482
		46.2	6.5	18.6	9.7	19.9	5.8	13.1	10.7	3.3	18.2	11.4	28.4	7.4	68.3
20～29歳	163	101	7	26	19	44	8	19	10	2	31	11	23	6	66
		62.0	4.3	16.0	11.7	27.0	4.9	11.7	6.1	1.2	19.0	6.7	14.1	3.7	40.5
30～39歳	246	126	16	54	36	69	20	29	19	10	54	20	70	11	129
		51.2	6.5	22.0	14.6	28.0	8.1	11.8	7.7	4.1	22.0	8.1	28.5	4.5	52.4
40～49歳	353	194	14	67	44	88	15	47	42	7	60	37	99	14	202
		55.0	4.0	19.0	12.5	24.9	4.2	13.3	11.9	2.0	17.0	10.5	28.0	4.0	57.2
50～59歳	330	146	23	56	37	79	20	46	46	14	62	31	109	16	209
		44.2	7.0	17.0	11.2	23.9	6.1	13.9	13.9	4.2	18.8	9.4	33.0	4.8	63.3
60～69歳	538	230	41	95	36	83	34	86	63	21	93	73	183	37	392
		42.8	7.6	17.7	6.7	15.4	6.3	16.0	11.7	3.9	17.3	13.6	34.0	6.9	72.9
70～79歳	352	139	28	72	30	47	15	37	30	9	73	56	94	34	263
		39.5	8.0	20.5	8.5	13.4	4.3	10.5	8.5	2.6	20.7	15.9	26.7	9.7	74.7
80歳以上	158	53	11	28	7	18	8	16	18	5	18	17	32	39	185
		33.5	7.0	17.7	4.4	11.4	5.1	10.1	11.4	3.2	11.4	10.8	20.3	24.7	117.1

<性別>

男女とも上位 2 項目は同様であるが、3 位が「男性」は「消火訓練」、「女性」は「応急手当訓練」となっている。

	回答件数 計	避難訓練	図上訓練	消火訓練	救出・救助訓練	応急手当訓練	炊き出し訓練	情報伝達訓練	の避難支援が必要な人 の避難支援訓練	避難所運営訓練	防災教室	防災研修会・講演会	きす所危 る、険な ため、避難 の経路や のまちを ある避難 場所	その他	無回答
全体	2,169	1,003	141	403	210	432	125	284	233	71	394	247	617	161	1,482
		46.2	6.5	18.6	9.7	19.9	5.8	13.1	10.7	3.3	18.2	11.4	28.4	7.4	68.3
男性	974	442	75	201	117	198	36	131	115	35	171	122	269	65	650
		45.4	7.7	20.6	12.0	20.3	3.7	13.4	11.8	3.6	17.6	12.5	27.6	6.7	66.7
女性	1164	545	65	197	92	230	84	148	113	33	220	123	342	93	795
		46.8	5.6	16.9	7.9	19.8	7.2	12.7	9.7	2.8	18.9	10.6	29.4	8.0	68.3

<生活形態別>

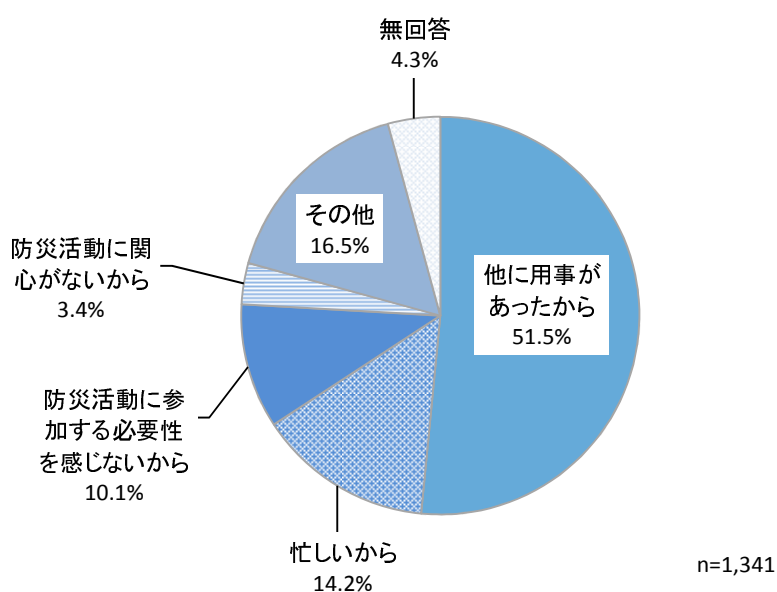
全ての分類で「避難訓練」が最も多く、次いで、「自営業」、「学生」を除き「危険な箇所や避難場所、避難経路を確認するためのまちあるき」が多くなっている。

	回答件数 計	避難訓練	図上訓練	消火訓練	救出・救助訓練	応急手当訓練	炊き出し訓練	情報伝達訓練	の避難支援が必要な人 の避難支援訓練	避難所運営訓練	防災教室	防災研修会・講演会	きす所危 る、険な ため、避難 の経路や のまちを ある避難 場所	その他	無回答
全体	2,169	1,003	141	403	210	432	125	284	233	71	394	247	617	161	1,482
		46.2	6.5	18.6	9.7	19.9	5.8	13.1	10.7	3.3	18.2	11.4	28.4	7.4	68.3
企業・団体勤務	895	449	43	175	102	224	52	112	101	23	158	95	263	45	522
		50.2	4.8	19.6	11.4	25.0	5.8	12.5	11.3	2.6	17.7	10.6	29.4	5.0	58.3
自営業	181	78	14	44	26	47	11	21	25	5	34	26	45	9	148
		43.1	7.7	24.3	14.4	26.0	6.1	11.6	13.8	2.8	18.8	14.4	24.9	5.0	81.8
農林漁業	61	21	2	15	9	13	6	8	12	3	14	12	17	3	49
		34.4	3.3	24.6	14.8	21.3	9.8	13.1	19.7	4.9	23.0	19.7	27.9	4.9	80.3
家事や育児で在宅	283	146	22	42	20	50	13	44	23	9	64	24	93	11	159
		51.6	7.8	14.8	7.1	17.7	4.6	15.5	8.1	3.2	22.6	8.5	32.9	3.9	56.2
学生	30	20	1	6	8	7	2	2	2	1	3	0	3	1	13
		66.7	3.3	20.0	26.7	23.3	6.7	6.7	6.7	3.3	10.0	0.0	10.0	3.3	43.3
定年退職などで在宅	472	203	42	84	29	66	27	66	50	21	83	60	152	35	366
		43.0	8.9	17.8	6.1	14.0	5.7	14.0	10.6	4.4	17.6	12.7	32.2	7.4	77.5
その他	68	31	15	31	14	19	8	26	16	6	35	26	34	50	173
		33.5	7.4	15.3	6.9	9.4	3.9	12.8	7.9	3.0	17.2	12.8	16.7	24.6	85.2

防災活動に参加しなかった理由

問 26.問 24 で「防災活動が行われたのは知っているが、参加していない」と回答した人にお尋ねします。地域や職場・学校の防災活動に参加されなかったのは、なぜですか。
(単一回答)

『事情があったから』(「他に用事があったから」51.5%、「忙しいから」14.2%の合計)が 6 割半ば(65.7%)、『防災活動に興味がないから』(「防災活動に参加する必要性を感じないから」10.1%、「防災活動に関心が無いから」3.4%の合計)は 1 割強(13.5%)となっている。

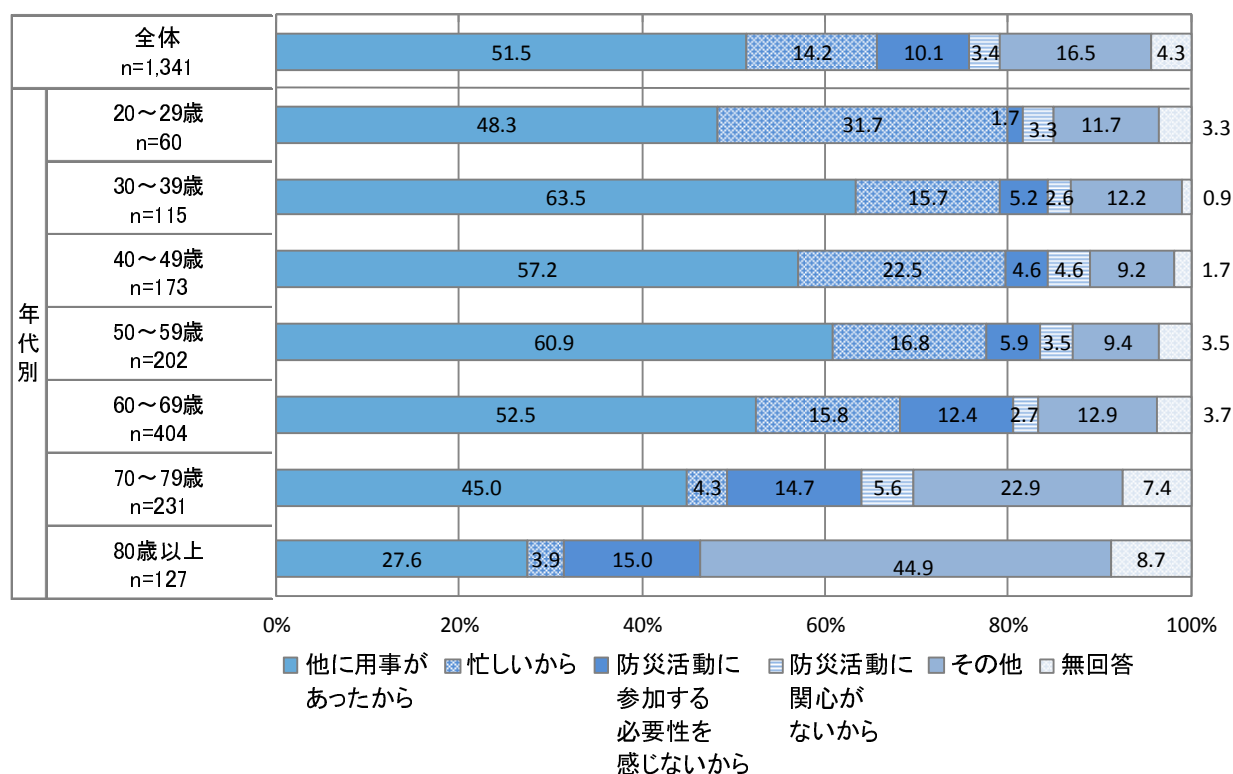


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・ 高齢・体が不自由・体調不良（87 件）
- ・ 参加できない・参加しない（61 件）
- ・ あることを知らなかった（28 件）
- ・ 以前参加した（20 件）
- ・ 参加対象外(役員が出ることになっている等)・人数制限が設けられている（20 件）
- ・ 防災活動がない（15 件）
- ・ 家族が参加した（14 件）
- ・ 見学した（2 件）
- ・ 雨天中止になった（2 件）
- ・ 人の集まるところが好きではないから
- ・ つい億劫になってしまう 等

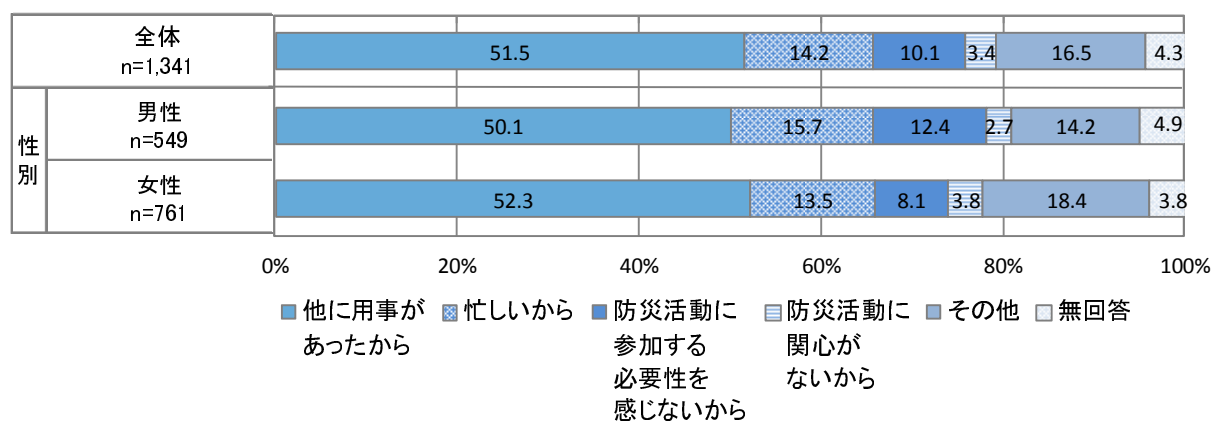
<年代別>

『事情があったから』は「20～29歳」から「50～59歳」で特に多く、8割弱以上となっている。『防災活動に興味がないから』は「20～29歳」から「50～59歳」では1割を下回っているのに対し、それ以上の年代では1割台半ばを超え「70～79歳」では2割強となっている。



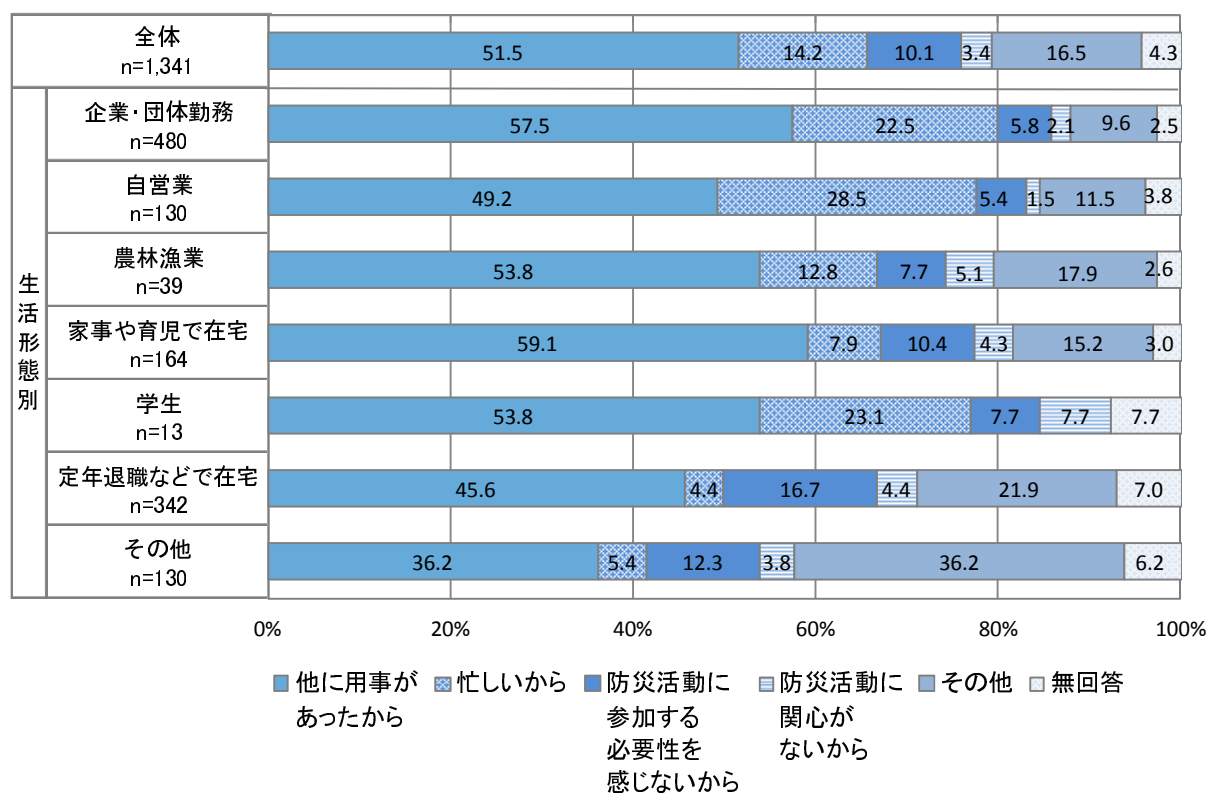
<性別>

男女ともに『事情があったから』が7割弱、『防災活動に興味がないから』は1割台となっている。



＜生活形態別＞

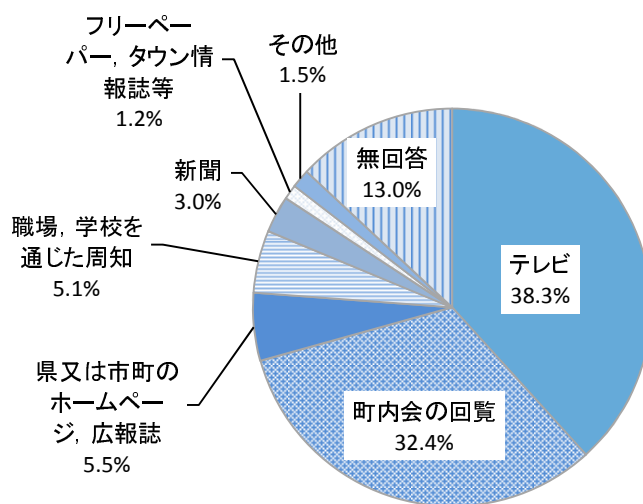
『事情があったから』は全ての分類で５割を占め、「企業・団体勤務」で特に多く８割となっている。『防災活動に興味がないから』は「定年退職などで在宅」で２割強となり、他の分類が１割以下～１割台となっているのに対し比較的多い。



防災活動の有効な告知方法

問 27.今後実施される防災活動を知る上で最も有効な告知方法は何だと思いますか。
(単一回答)

「テレビ」(38.3%)、「町内会の回覧」(32.4%)の順で多く、ともに3割を占めており、最も有効な告知方法として特に多く挙げられている。次いで、「県又は市町のホームページ、広報誌」(5.5%)が挙げられているが、その割合は1割未満となっている。



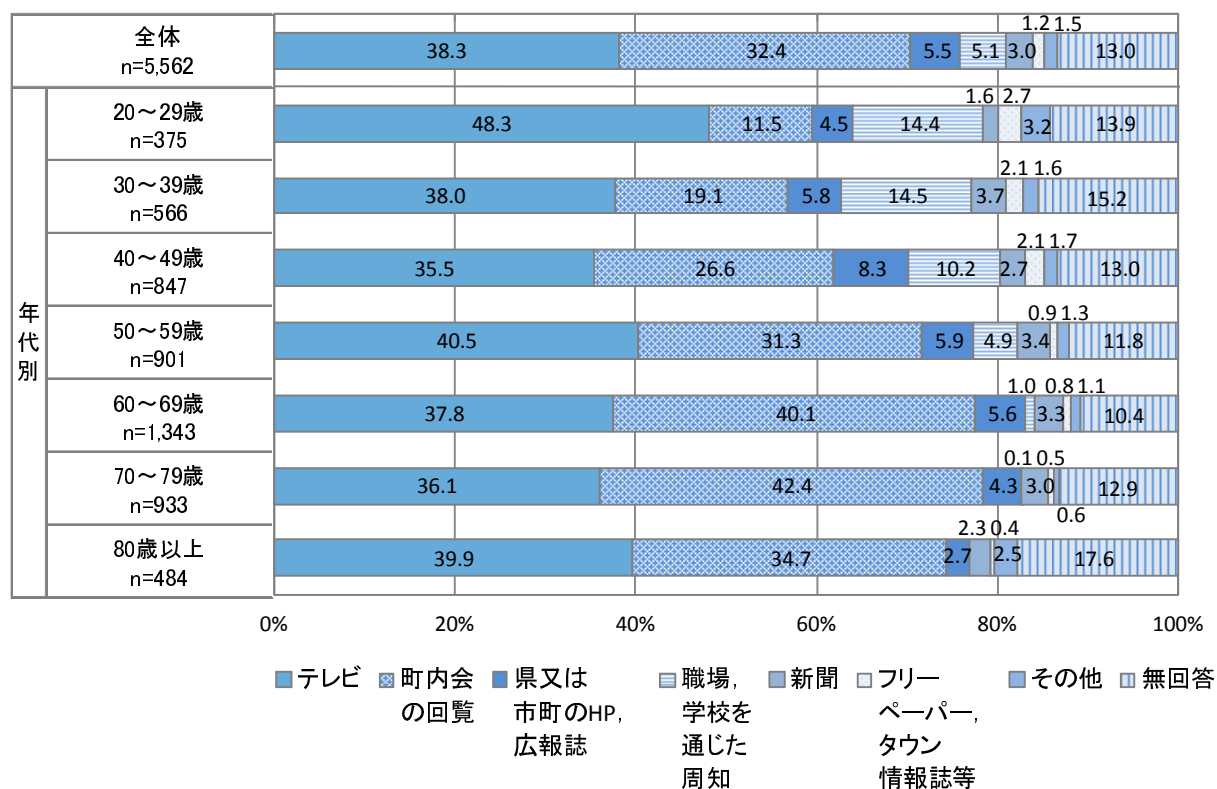
n=5,562

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・携帯電話・メール・インターネット（48件）
- ・メディア・防災無線・町内放送（24件）
- ・町内会・掲示板・駅（17件）
- ・県・関係者の働きかけ（8件）
- ・ポスティング（6件）
- ・同居の家族の情報
- ・自治会へ入っていない人への情報の伝達方法を考えてほしい
- ・パソコンが使えない人への情報の伝達方法を考えてほしい 等

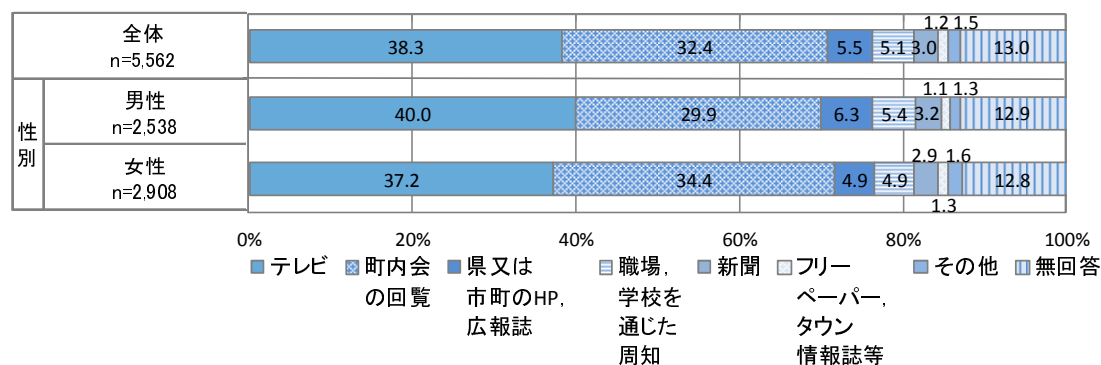
<年代別>

「テレビ」は「20～29歳」から「50～59歳」、「80歳以上」の年代で最も多く挙げられており、「20～29歳」では5割弱となっている。その他の年代では「町内会の回覧」が4割を超え最も多い。



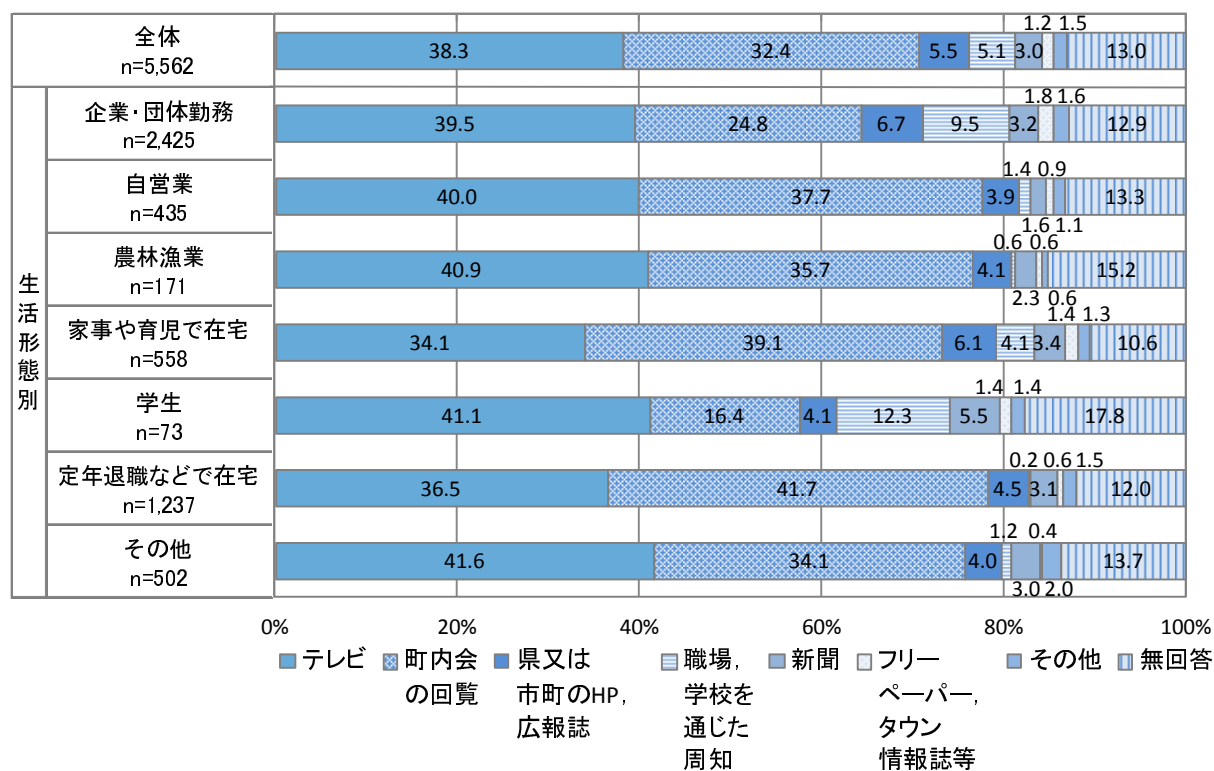
<性別>

男女ともに「テレビ」が最も多い。「町内会の回覧」では「女性」が「男性」を4.5ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

全ての分類で「テレビ」、「町内会の回覧」が上位 2 項目に挙がっている。「定年退職などで在宅」では「町内会の回覧」は 16.4%と他の分類が 2 割台半ば～4 割弱であるのに対し少なくなっている。

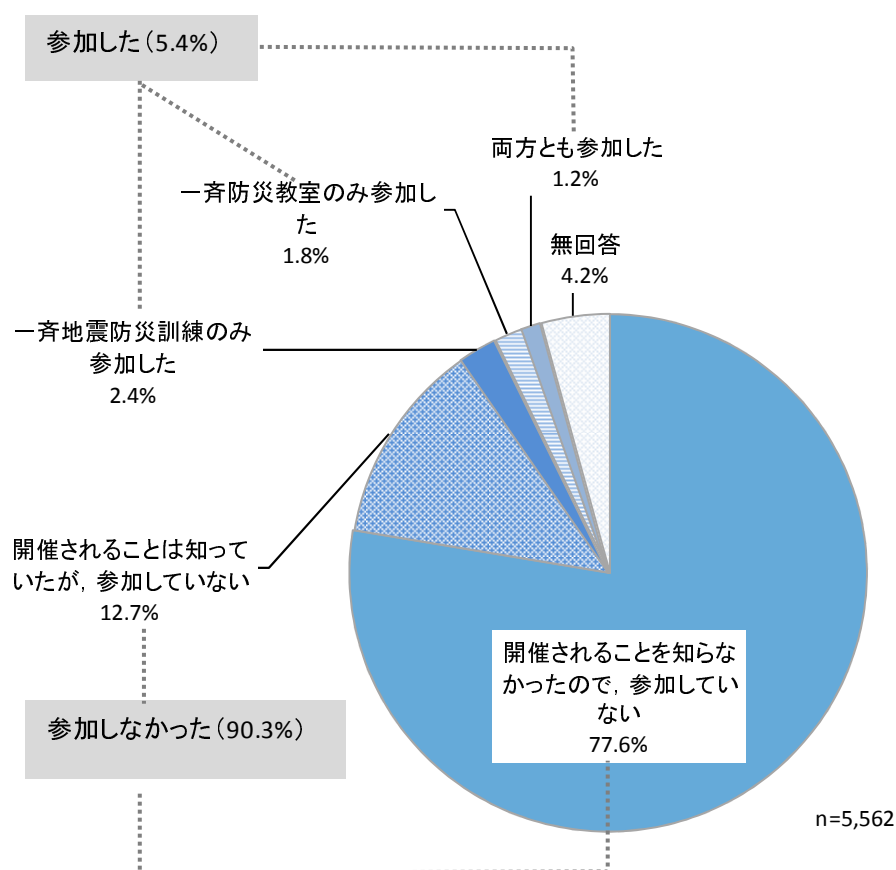


「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」への参加有無

問 28.広島県では、全県民を対象に、「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」を実施しましたが、参加されましたか。（単一回答）

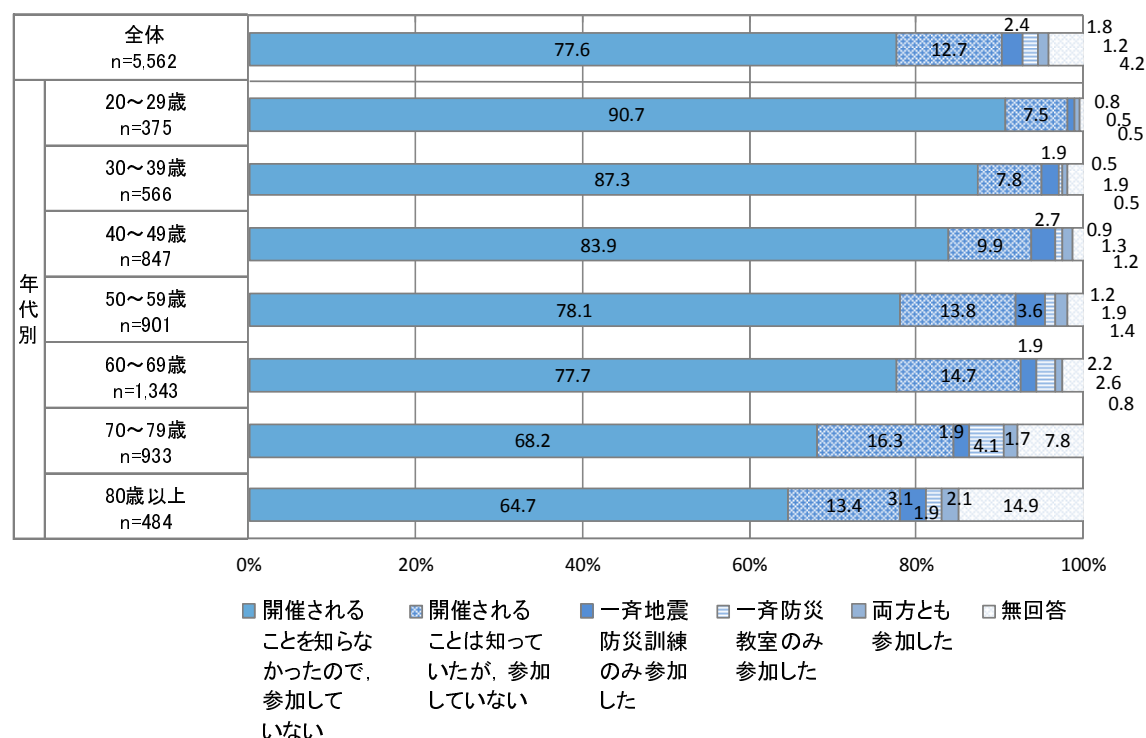
『参加した』（「一斉地震防災訓練のみ参加した」2.4%、「一斉防災教室のみ参加した」1.8%、「両方とも参加した」1.2%の合計）は5.4%となっている。

『参加しなかった』（「開催されることを知らなかったので、参加していない」77.6%、「開催されることは知っていたが、参加していない」12.7%の合計）は90.3%となっている。『参加しなかった』理由のうち開催を知らなかった人が8割弱となっている。



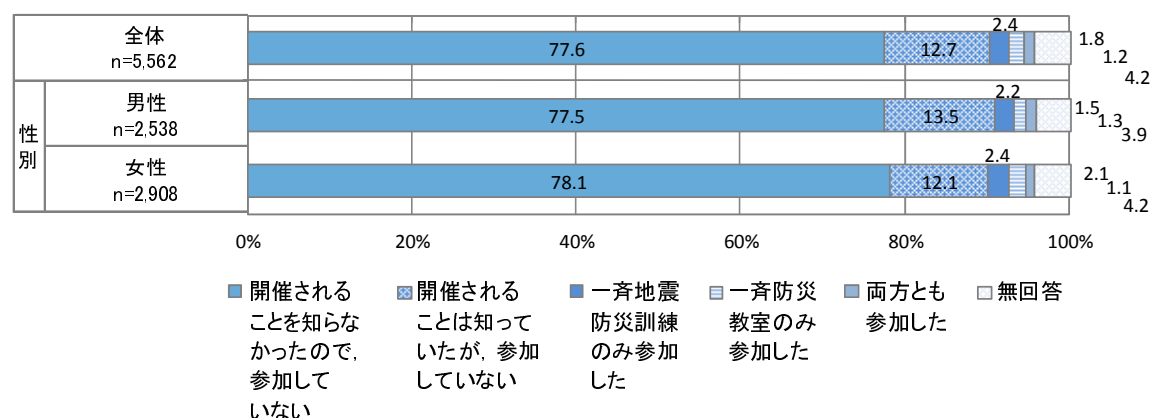
<年代別>

全ての年代で『参加しなかった』が多く、「60～69 歳」以下では 9 割台となっている。『参加しなかった』理由としては、「開催されることを知らなかったので、参加していない」がほとんどを占めている。『参加した』は「70～79 歳」で最も多く 7.7%となっているが、いずれの年代も 1 割を下回っている。



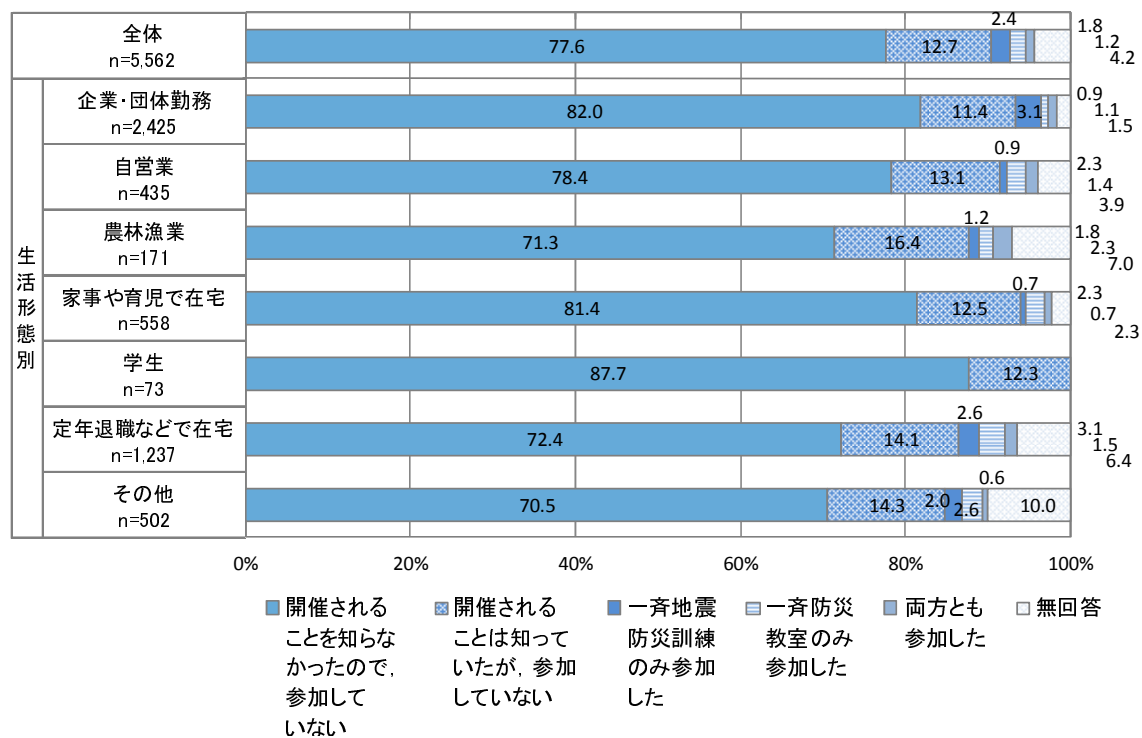
<性別>

『参加しなかった』は男女ともに 9 割を超えており、性別による差はあまりみられない。



＜生活形態別＞

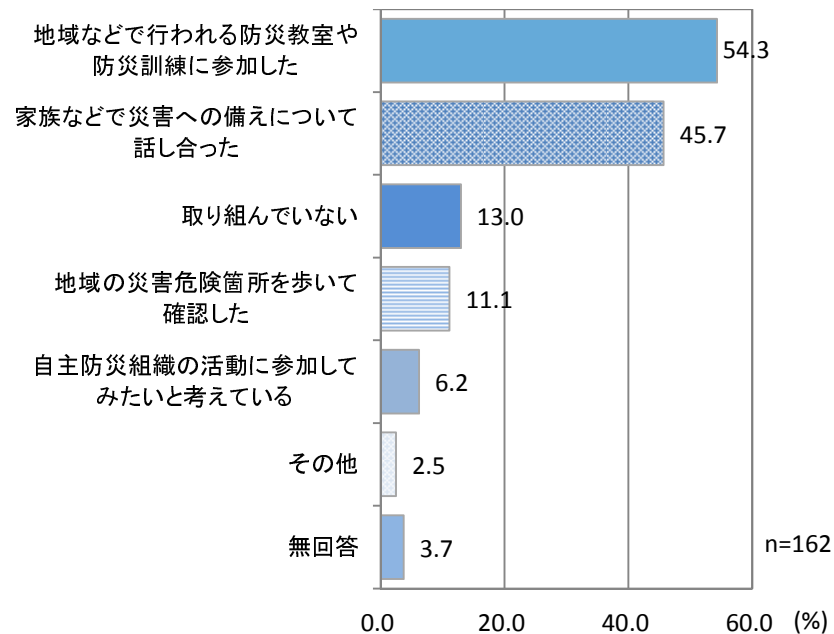
全ての分類で『参加しなかった』が最も多く、「学生」では100%となっている。『参加しなかった』理由としては、「開催されることをしらなかったので、参加していない」が多く、「開催されることは知っていたが、参加していない」は1割台となっている。



「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」への参加をきっかけに取り組んだこと

問 29.問 28 で「1 両方とも参加した」，「2 一斉防災教室のみ参加した」を回答した人にお尋ねします。教室に参加したことをきっかけに取り組まれたことはありますか。（複数回答）

「地域などで行われる防災教室や防災訓練に参加した」が最も多く 5 割半ば(54.3%)、次いで「家族などで災害への備えについて話し合った」が 4 割半ば(45.7%)となっている。一方、「取り組んでいない」は 13.0%と、教室の参加が防災活動への取組に結びついていない割合は 1 割強であった。

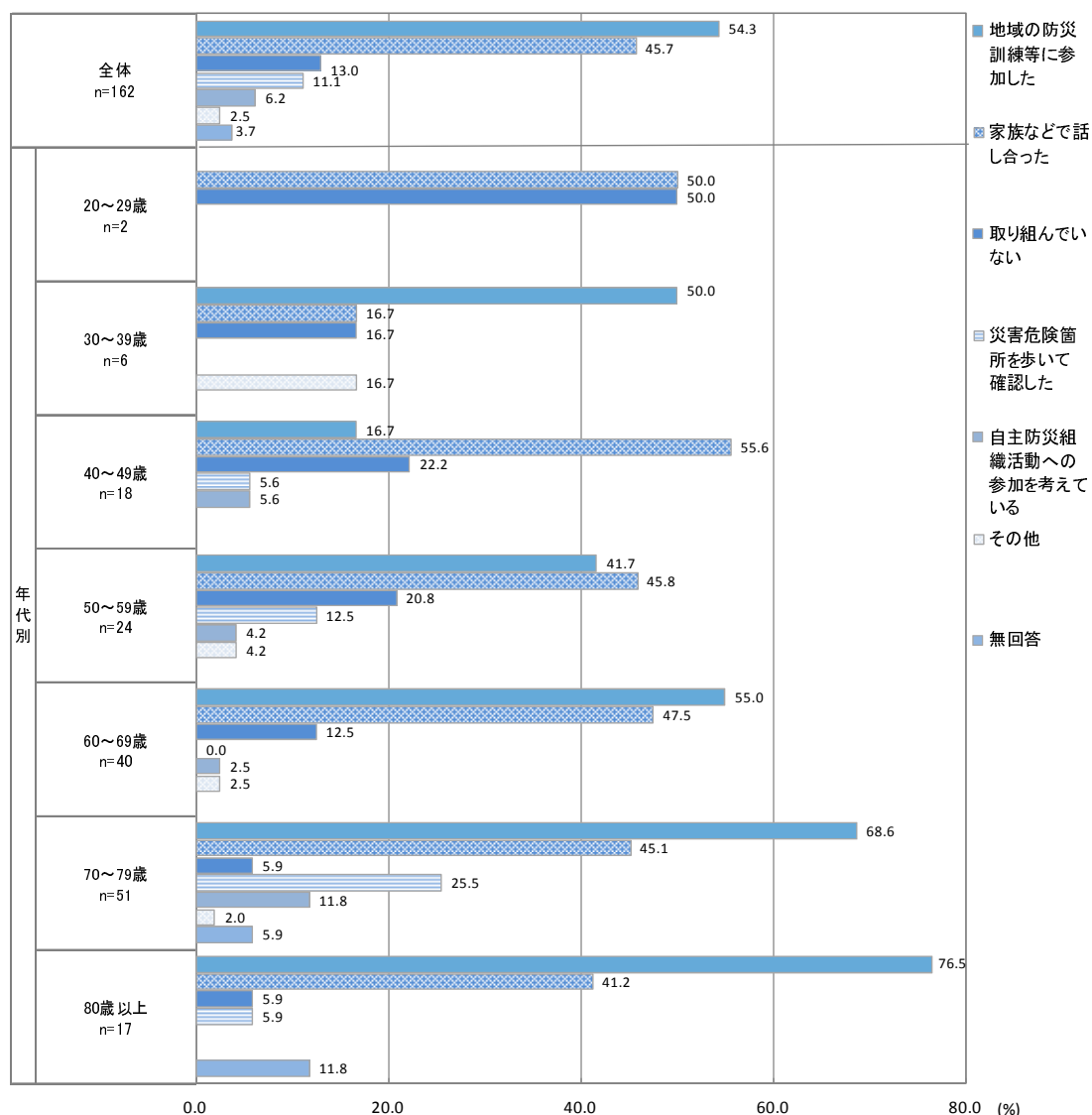


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

・職場で話し合った 等

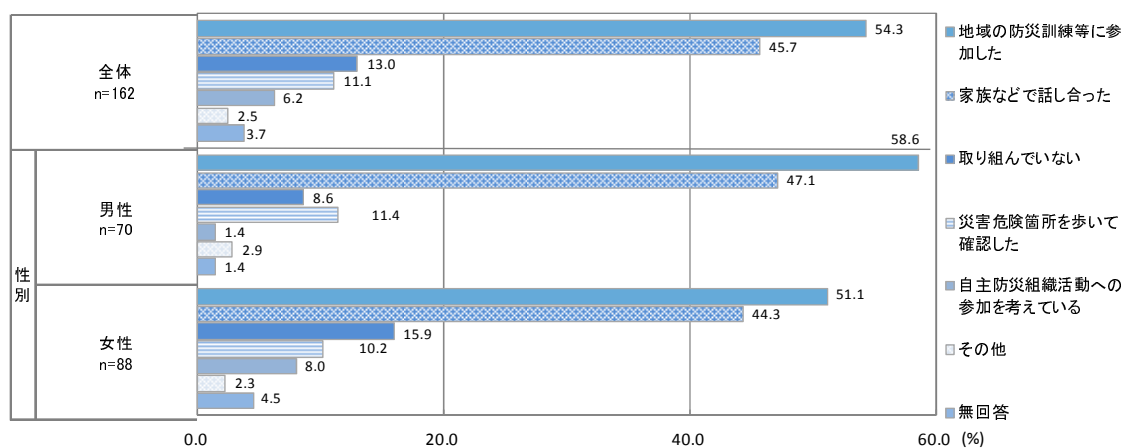
<年代別>

「地域などで行われる防災教室や防災訓練に参加した」は「50～59 歳」以上で 4 割以上となり、年代が上がるにつれ多くなっている。「取り組んでいない」は「20～29 歳」で 5 割、「40～49 歳」、「50～59 歳」で 2 割を超えている。



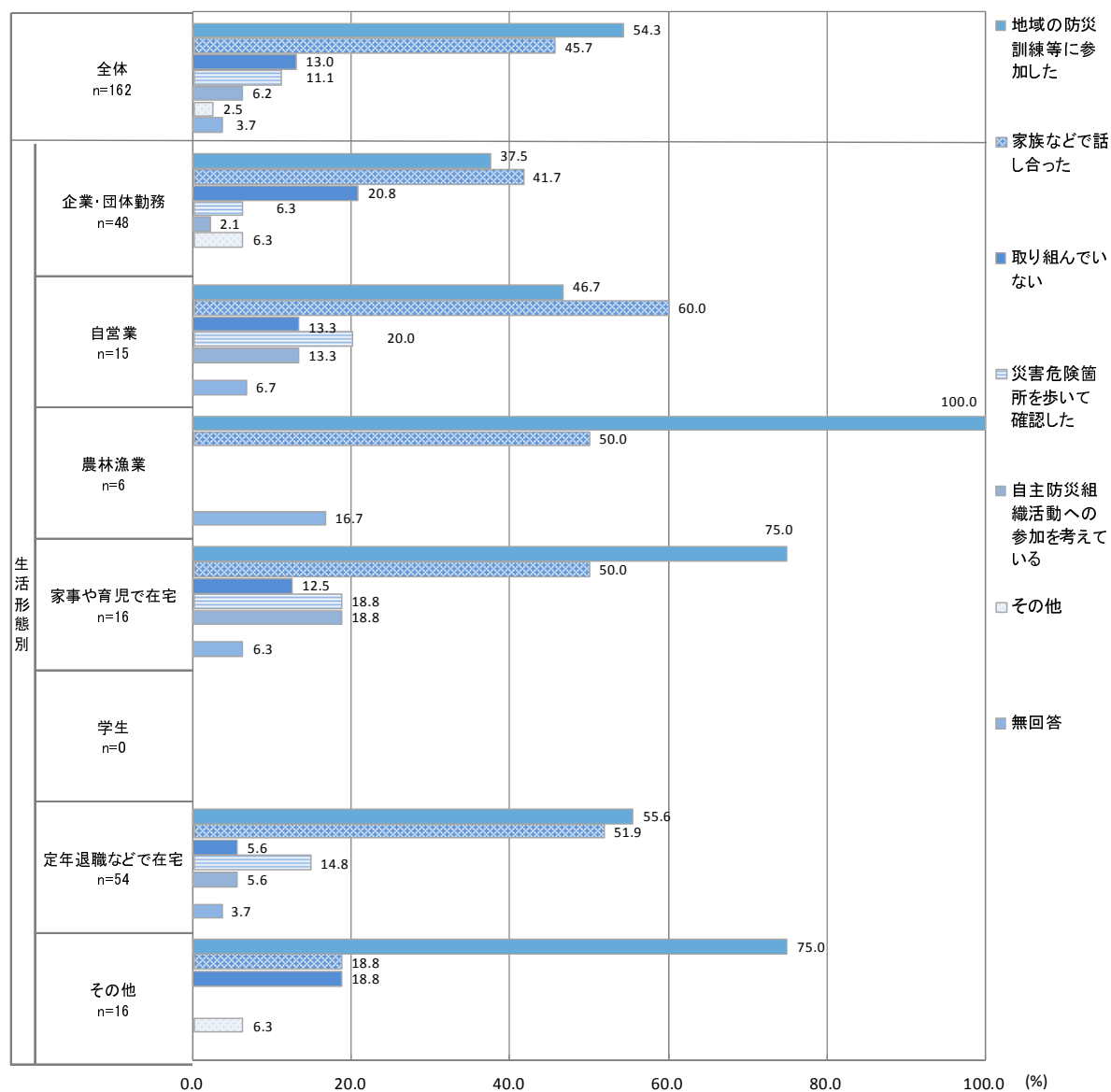
<性別>

「取り組んでいない」は女性が男性を 7.3 ポイント上回っている。



<生活形態別>

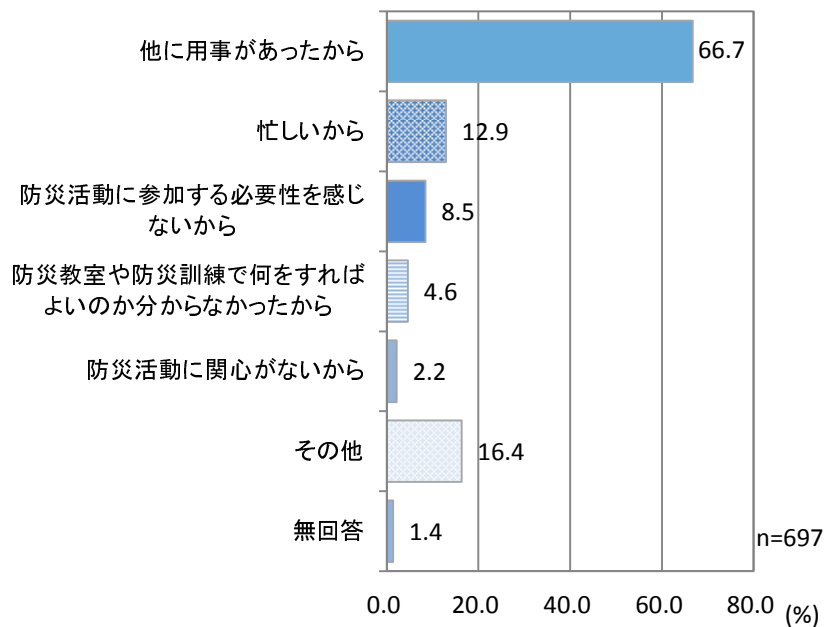
「地域などで行われる防災教室や防災訓練に参加した」、「家族などで災害への備えについて話し合った」は「企業・団体勤務」、「学生」を除き 5 割弱以上となっている。「取り組んでいない」は「企業・団体勤務」で 2 割強と、他の分類の 1 割以下～1 割台に対し多い。



「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」へ参加しなかった理由

問 30.問 28 で「4 開催されることは知っていたが、参加していない」を回答した人にお尋ねします。参加しなかった理由を教えてください。（複数回答）

『事情があったから』（「他に用事があったから」66.7%、「忙しいから」12.9%の合計）が8割弱（79.6%）となっている。一方で、『防災活動に興味がないから』（「防災活動に参加する必要性を感じないから」8.5%、「防災活動に関心がないから」2.2%の合計）は1割強（10.7%）となっている。

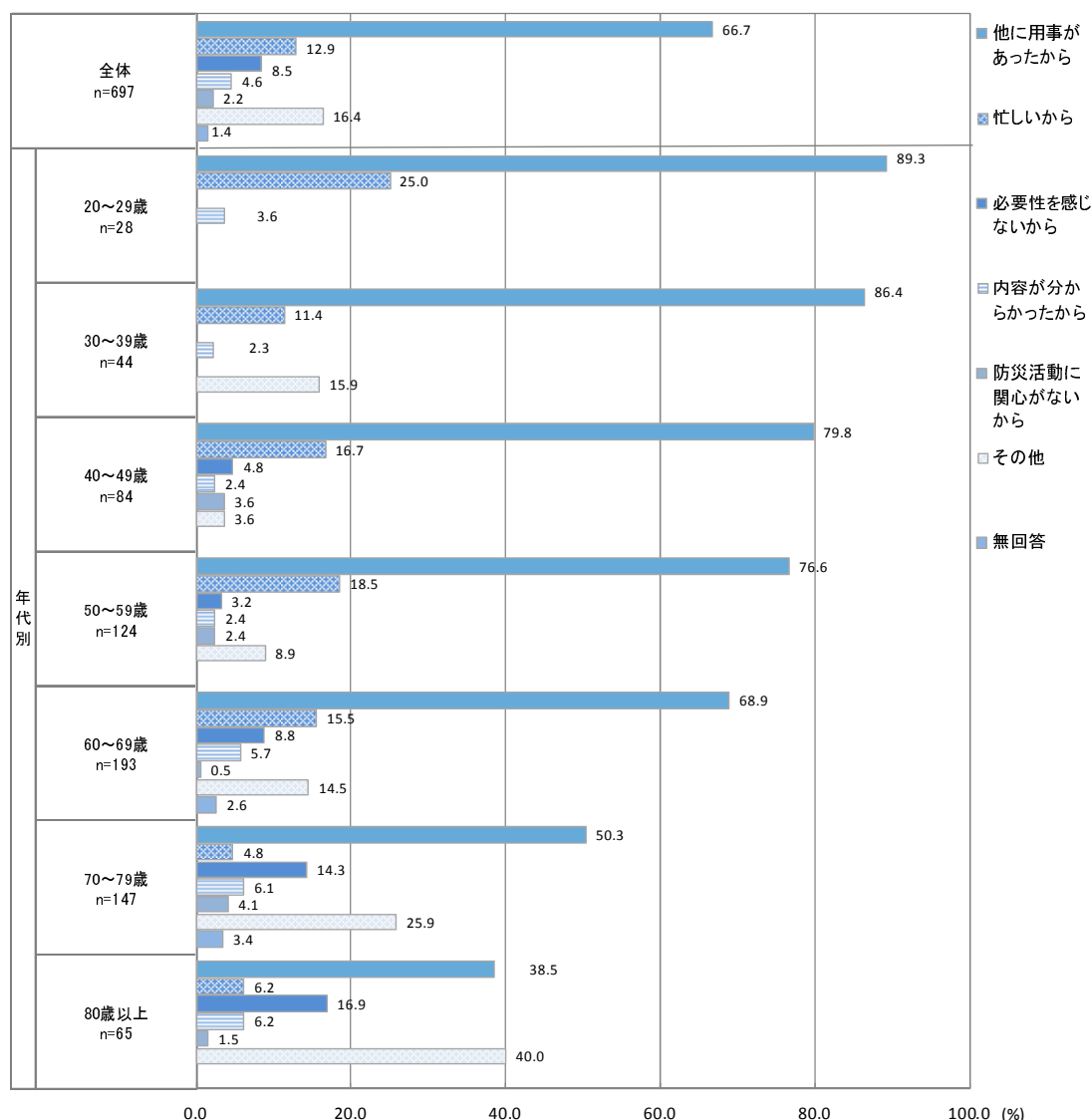


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・ 高齢・体が不自由・体調不良（57 件）
- ・ 参加できない・参加しない（39 件）
- ・ 知らない・わからない(11 件)
- ・ 家族が参加した（9 件）
- ・ 参加対象外（5 件）
- ・ 過去に参加した（4 件）
- ・ 忘れていた（2 件）
- ・ 遠くから見学した
- ・ 町内会で行われていない 等

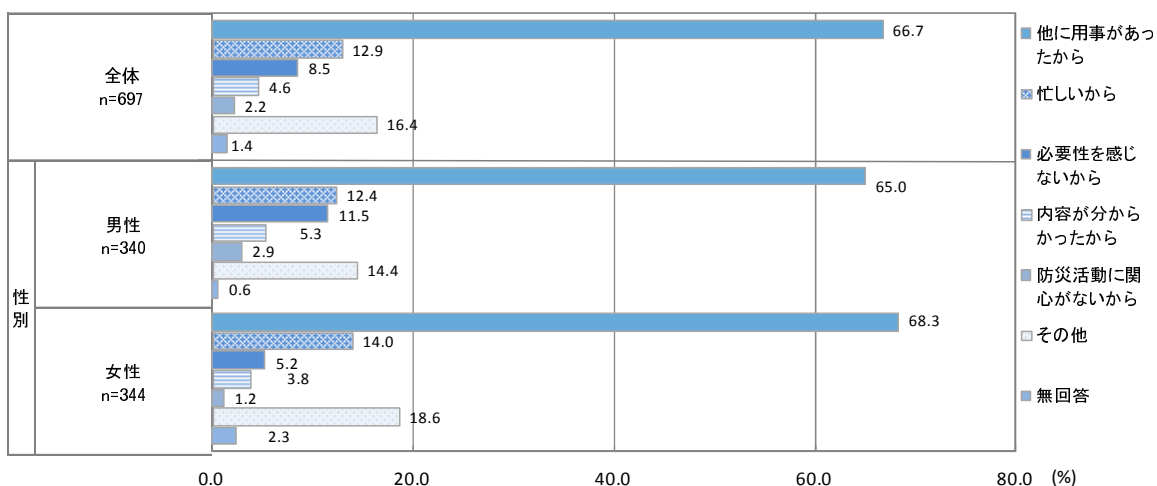
<年代別>

「70～79 歳」以上で『事情があったから』は 5 割台以下と他の年代が 8 割台以上であるのに対し少なく、『防災活動に興味がないから』は 2 割弱と他の年代が 1 割を下回っているのに対し多くなっている。



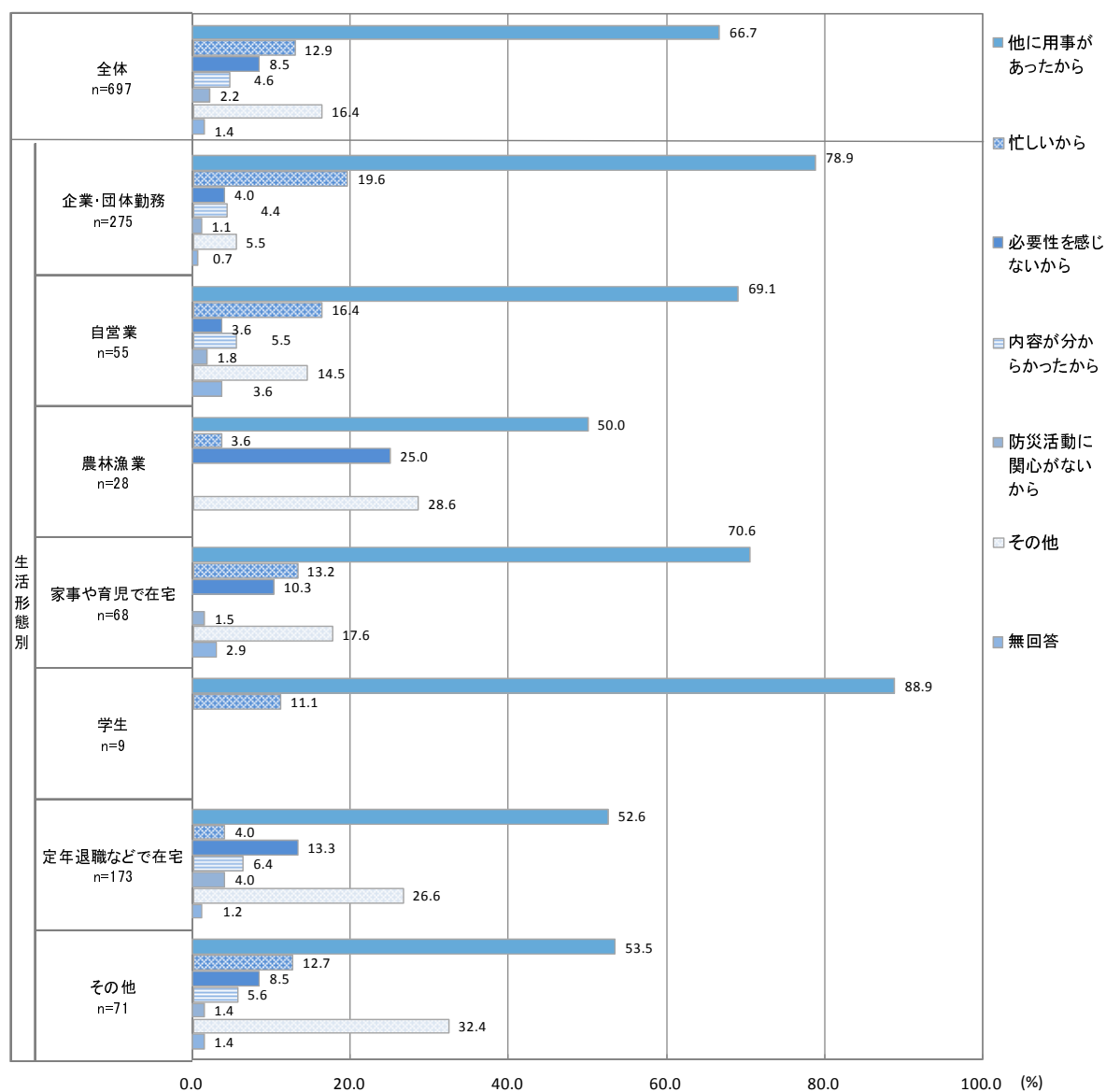
<性別>

男女ともに『事情があったから』は 8 割前後となっているが、『防災活動に興味がないから』は男性が女性を 8.0 ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

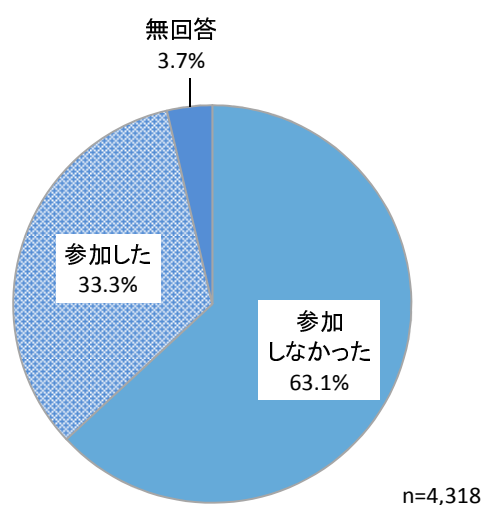
全ての分類で『事情があったから』が最も多いが、「農林漁業」、「定年退職などで在宅」では他の分類が 8 割以上であるのに対し比較的少ない。『防災活動に興味がないから』は「農林漁業」で 2 割半ばと、他の分類が 1 割以下～1 割台となっているのに対し比較的多い。



「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」の実施を知っていたら参加したか

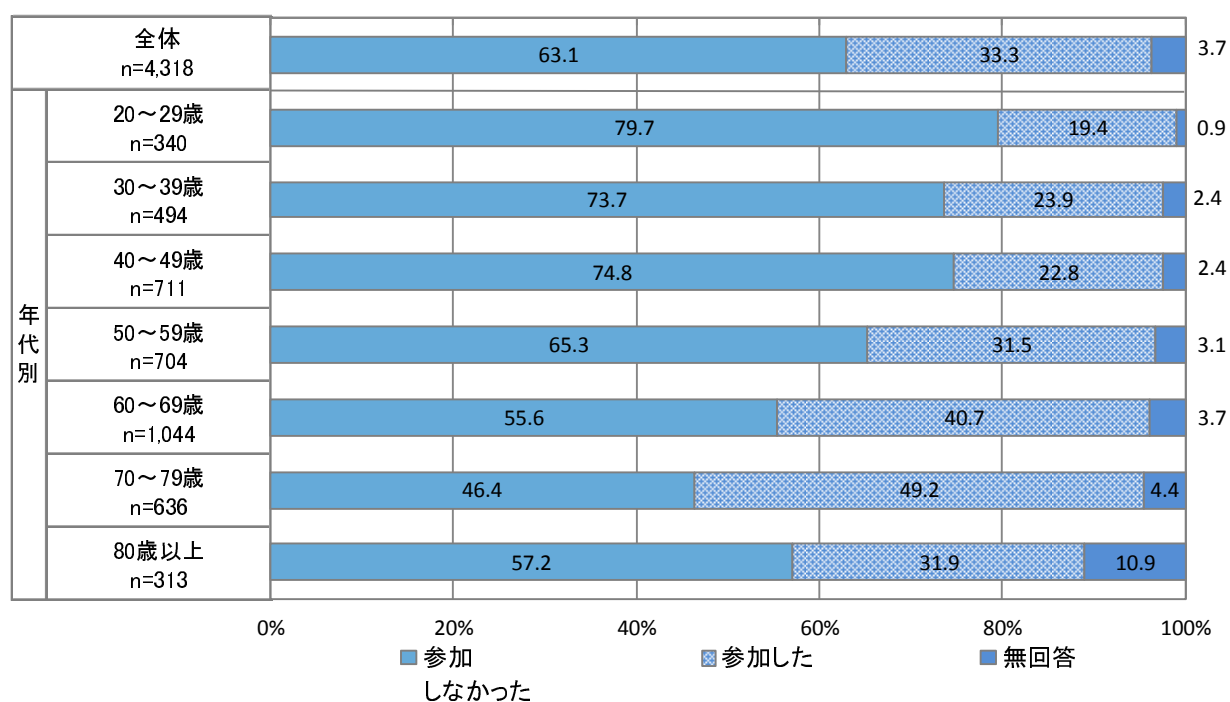
問 31.問 28 で「5 開催されることを知らなかったので、参加していない」を回答した人にお尋ねします。開催されることを知っていれば、参加されましたか。
(単一回答)

「参加しなかった」が 63.1%、「参加した」は 33.3%となっている。



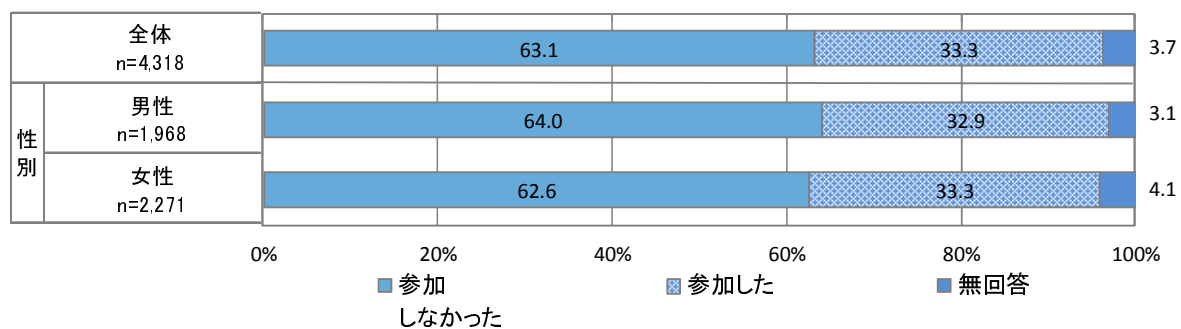
＜年代別＞

「参加しなかった」は「70～79 歳」を除き「参加した」を上回り、「40～49 歳」以下では 7 割を超えている。



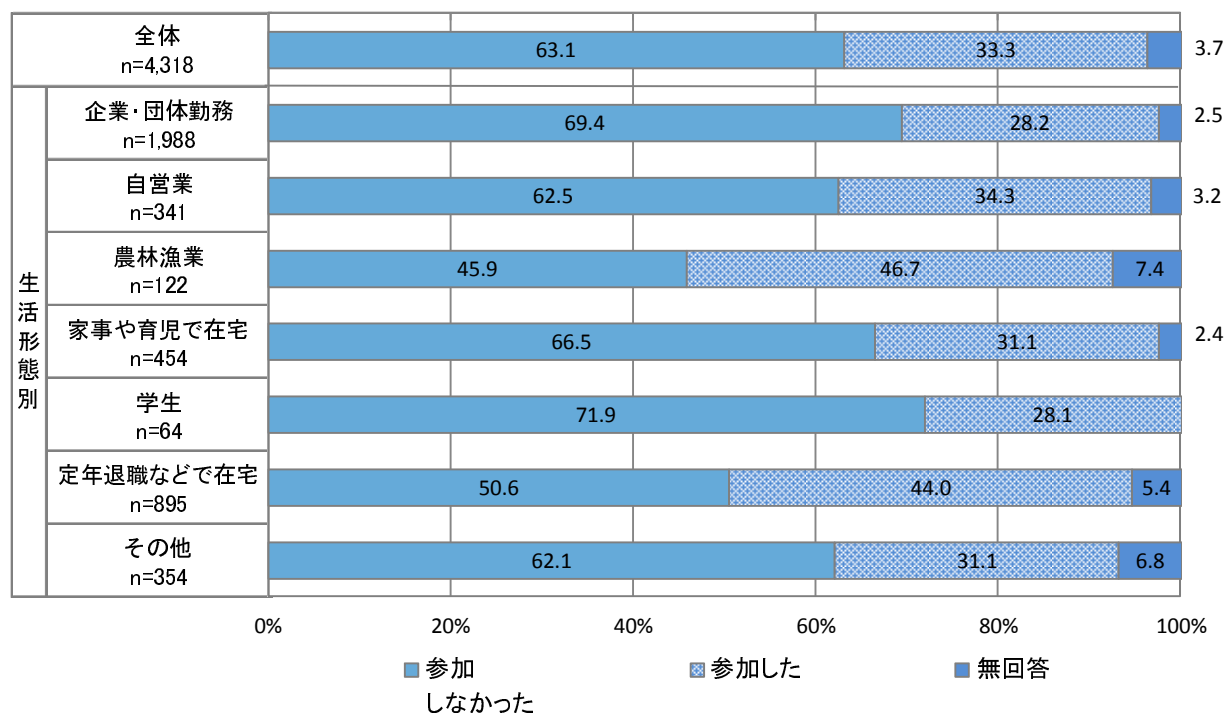
<性別>

性別による差はあまりみられない。



<生活形態別>

「農林漁業」のみ「参加した」が「参加しなかった」を上回っており、「参加した」の割合は 46.7%と最も多くなっている。



災害への備えについて

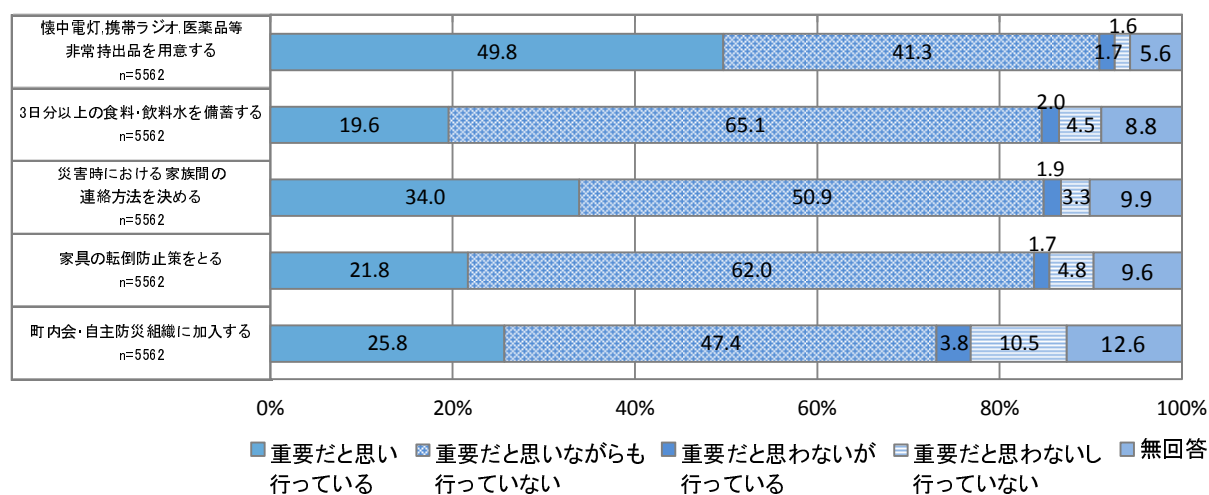
災害に備えて行う事柄の重要度

問 32. あなたは、災害に備えて次の各項目を行うことは重要であると思われますか。

(単一回答)

「重要だと思いながらも行っていない」は全ての項目で4割以上を占め、災害への備えが重要とは思いついても、行動に結びついていない状況にある。

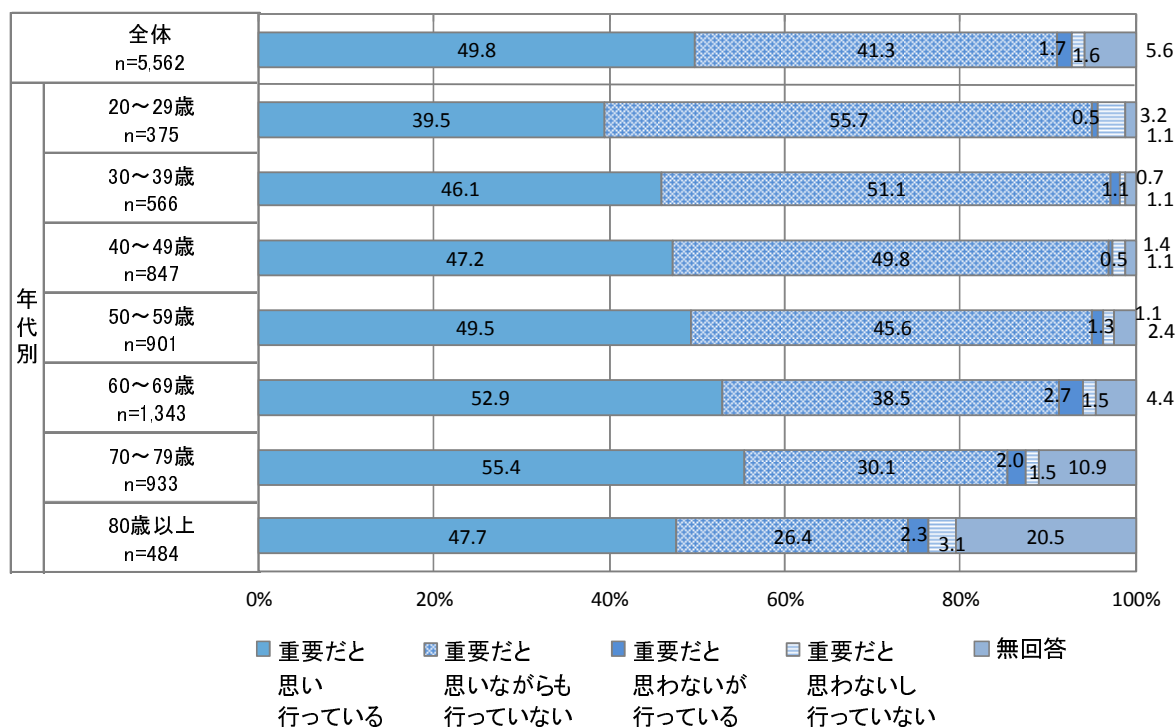
『備えを行っている』(「重要だと思い行っている」、「重要だと思わないが行っている」の合計)は「懐中電灯,携帯ラジオ,医薬品等非常持出品を用意する」で5割強、『備えを行っていない』(「重要だと思いながらも行っていない」、「重要だと思わないし行っていない」の合計)は「3日分以上の食料・飲料水を備蓄する」で7割弱と最も多くなっている。



（１）懐中電灯，携帯ラジオ，医薬品等非常持出品を用意する

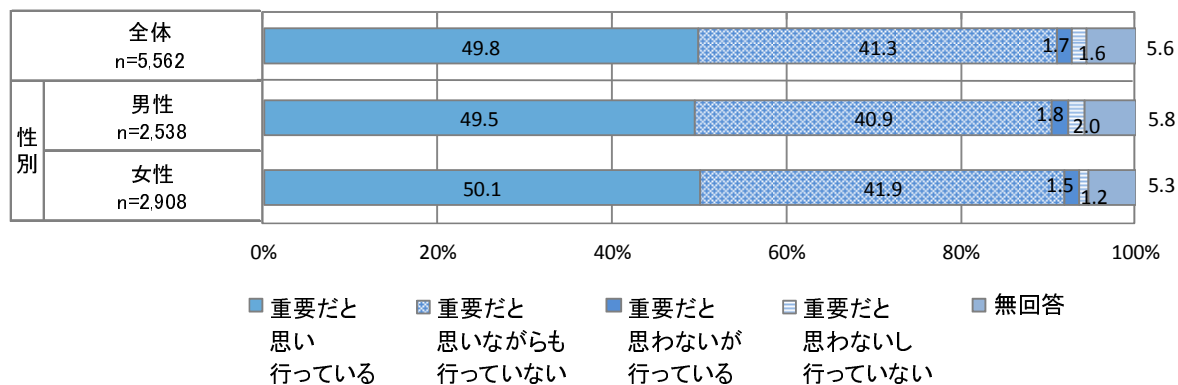
＜年代別＞

『備えを行っていない』は「20～29 歳」から年代が上がるにつれ少なくなっており、「80 歳以上」では 3 割弱となっている。「80 歳以上」を除き、「重要だと思い行っている」は年代が上がるにつれ多くなっている。



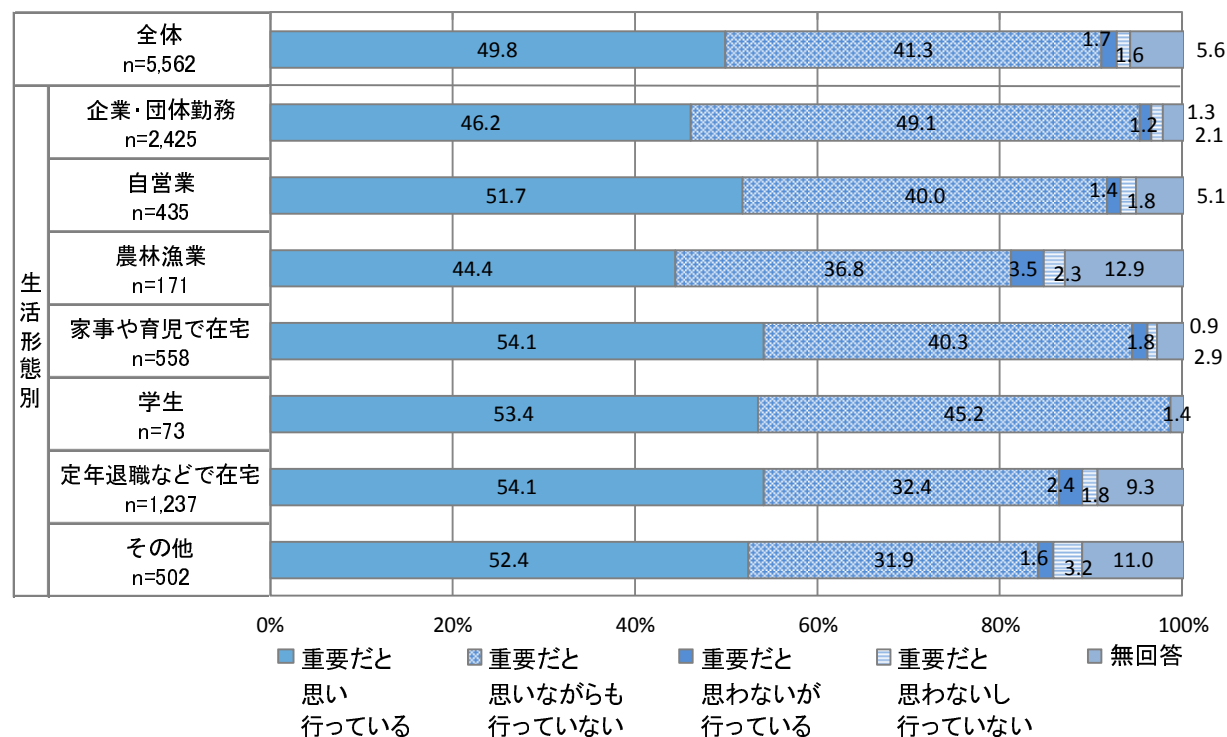
＜性別＞

性別による差はあまりみられない。



＜生活形態別＞

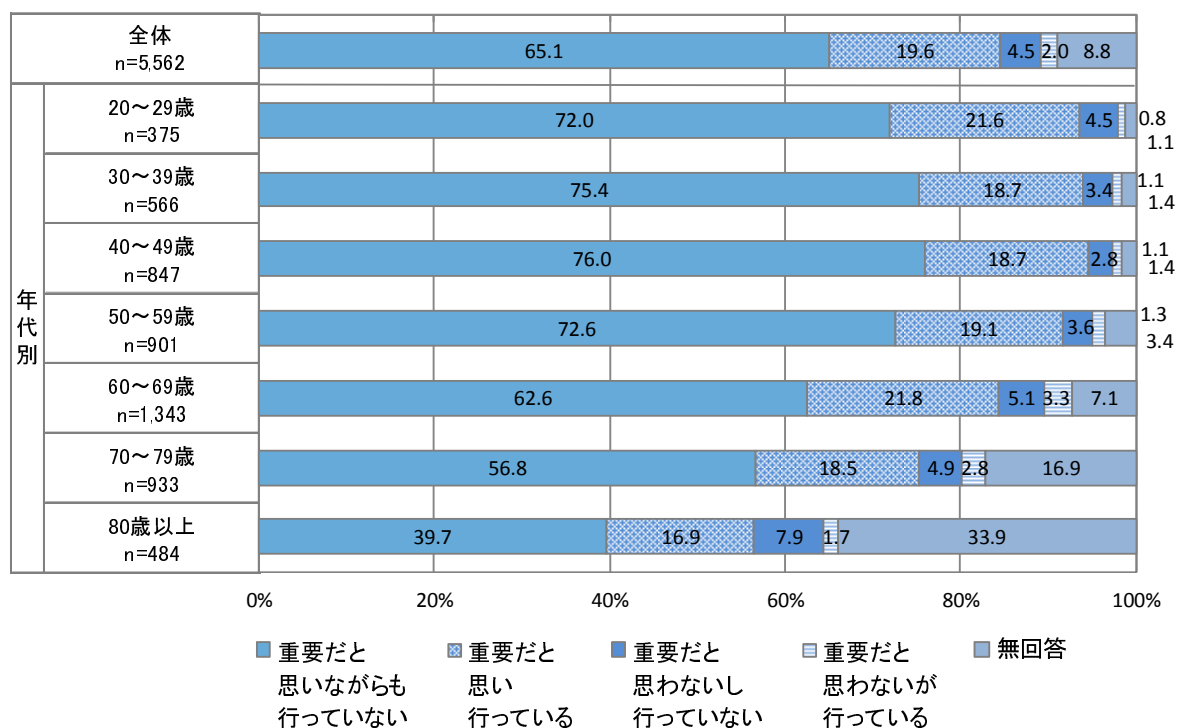
『備えを行っていない』は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」で少なく３割台となっている。特に「企業・団体勤務」は「重要だと思いながらも行っていない」が「重要だと思い行っている」を上回っている。



(2) 3 日分以上の食料・飲料水を備蓄する

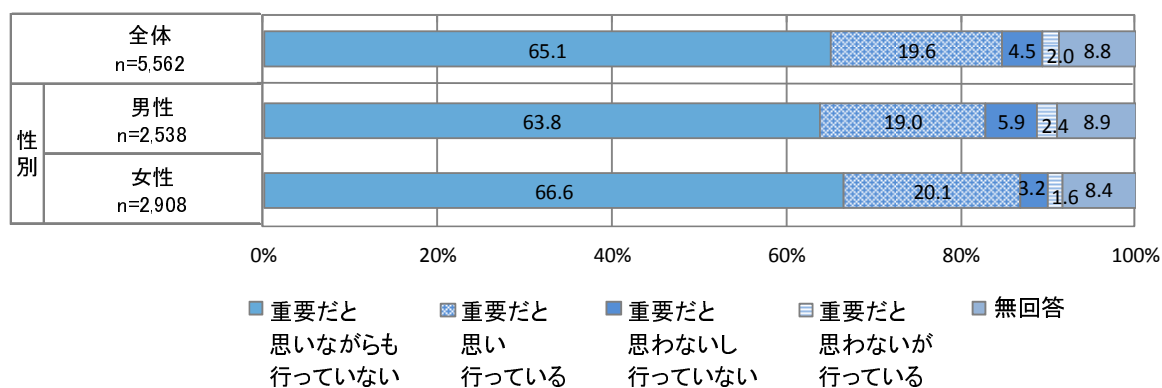
<年代別>

『備えを行っていない』は「20～29 歳」を除き年代が下がるにつれ少なくなっている。
全ての年代で「重要だと思いながらも行っていない」が最も多い。



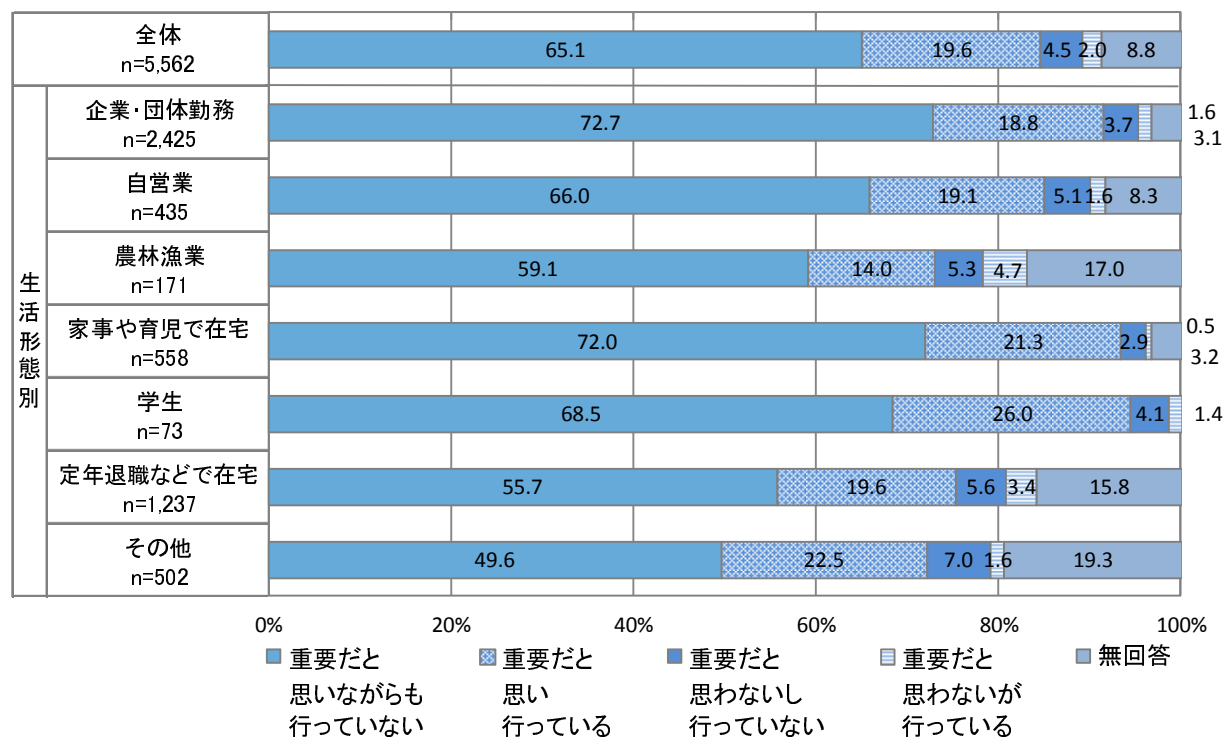
<性別>

性別による差はあまりみられない。



＜生活形態別＞

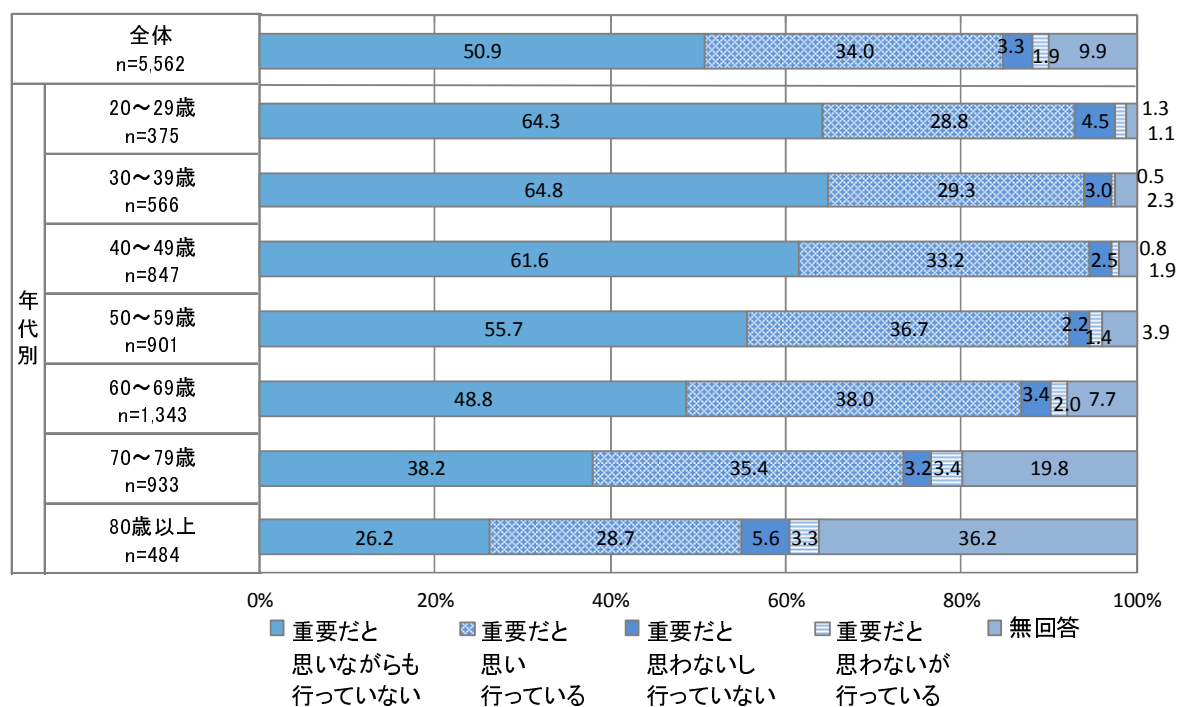
『備えを行っている』は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」で６割台、他の分類では７割台となっている。全ての分類で「重要だと思いながらも行っていない」が最も多くなっているが、特に「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」では７割を超えている。



(3) 災害時における家族間の連絡方法を決める

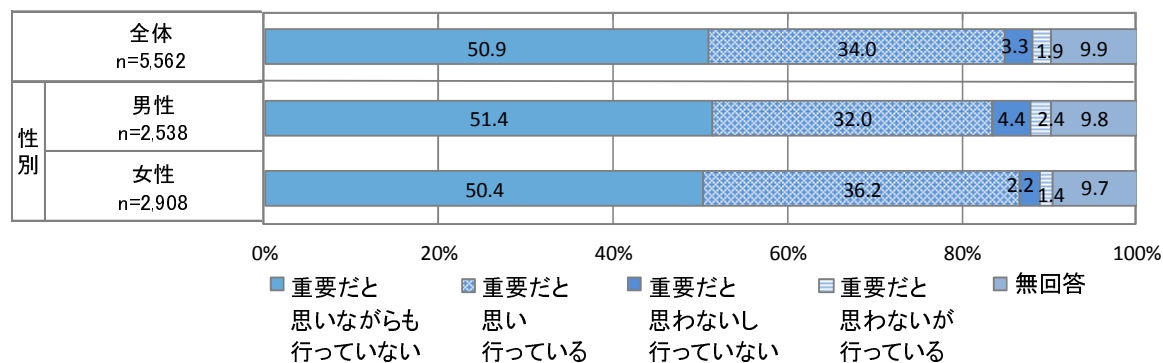
<年代別>

『備えを行っていない』は「20～29 歳」（68.8%）から年代が上がるにつれ少なくなっている。「80 歳以上」を除き全ての年代で「重要だと思いながらも行っていない」が最も多くなっているが、「30～39 歳」からは年代が上がるにつれ少なくなっている。



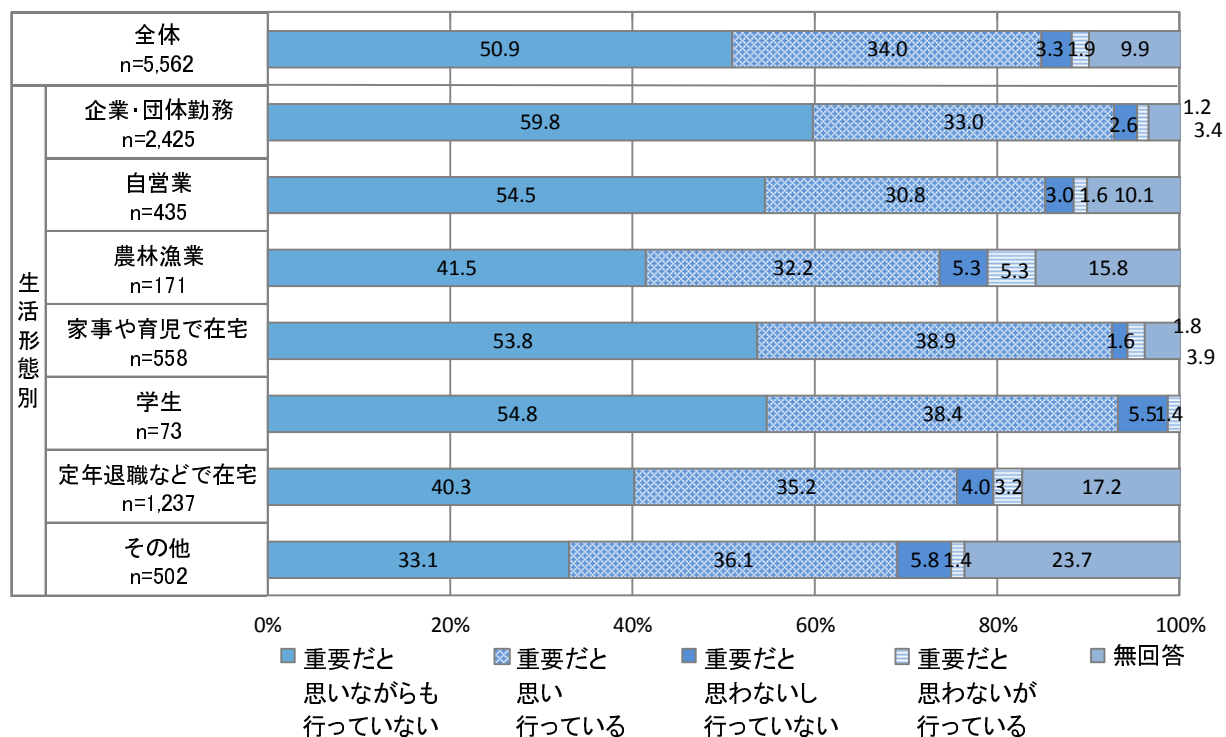
<性別>

『備えを行っていない』は男女とも5割台となっている。「重要だと思い行っている」は「女性」が「男性」を4.2ポイント上回っている。



＜生活形態別＞

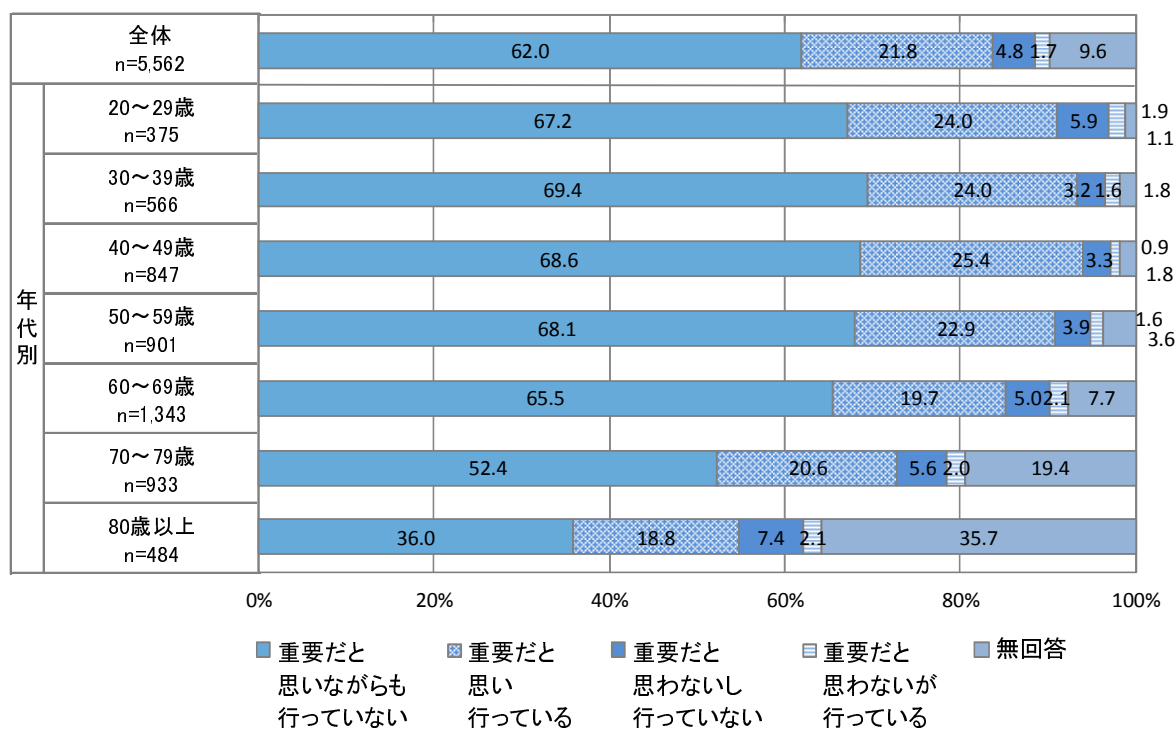
『備えを行っていない』は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」を除き 5 割を超えている。「重要だと思い行っている」は全ての分類で 3 割台となっている。「重要だと思いながらも行っていない」は「企業・団体勤務」、「自営業」、「家事や育児で在宅」、「学生」で 5 割を超えている。



(4) 家具の転倒防止策をとる

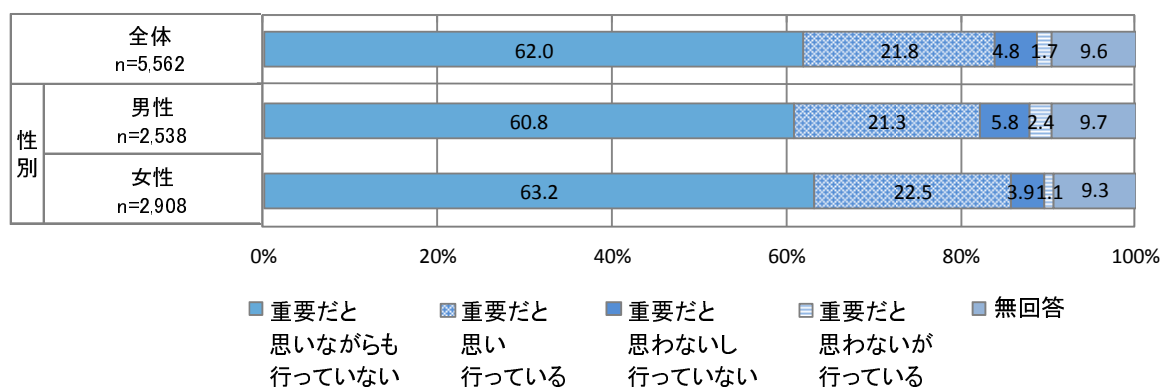
<年代別>

『備えを行っていない』は「80歳以上」で最も少なく4割強となっており、「20～29歳」から「60～69歳」では7割を超えている。全ての年代で「重要だと思いながらも行っていない」が最も多くなっているが、「20～29歳」を除き年代が上がるにつれ少なくなっている。



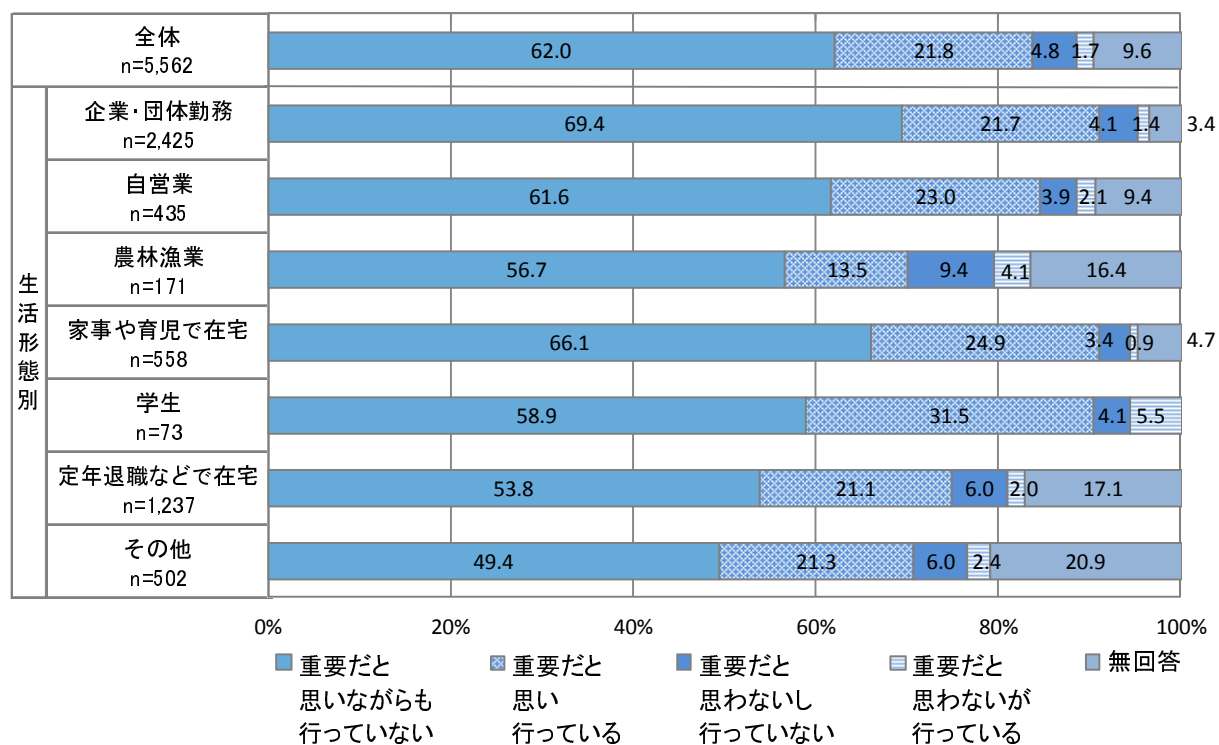
<性別>

性別による差はあまりみられない。



＜生活形態別＞

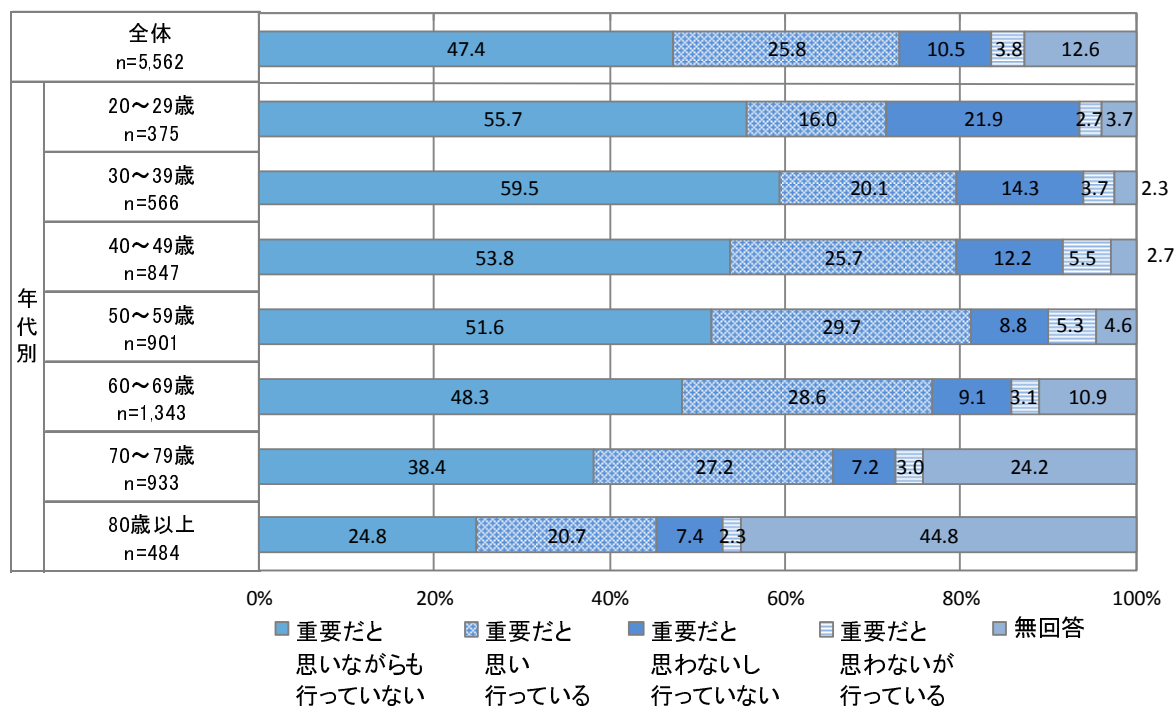
『備えを行っていない』は「定年退職などで在宅」を除き 6 割を超えている。全ての分類で「重要だと思いながらも行っていない」が最も多く、「その他」を除き 5 割を超えている。



(5) 町内会・自主防災組織に加入する

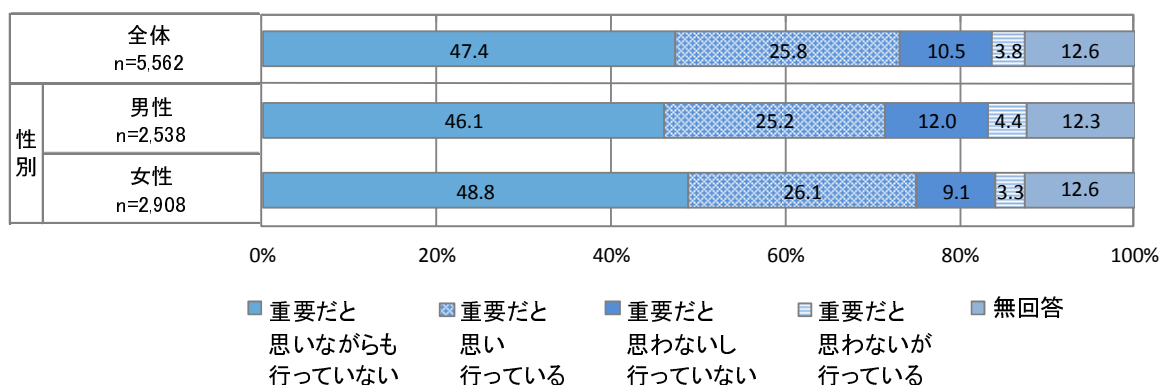
<年代別>

『備えを行っていない』は「20～29 歳」（77.6%）から年代が上がるにつれ少なくなっている。「80 歳以上」を除き「重要だと思いながらも行っていない」が最も多くなっている。「重要だと思い行っている」は「50～59 歳」から「70～79 歳」で比較的多く 3 割弱となっている。



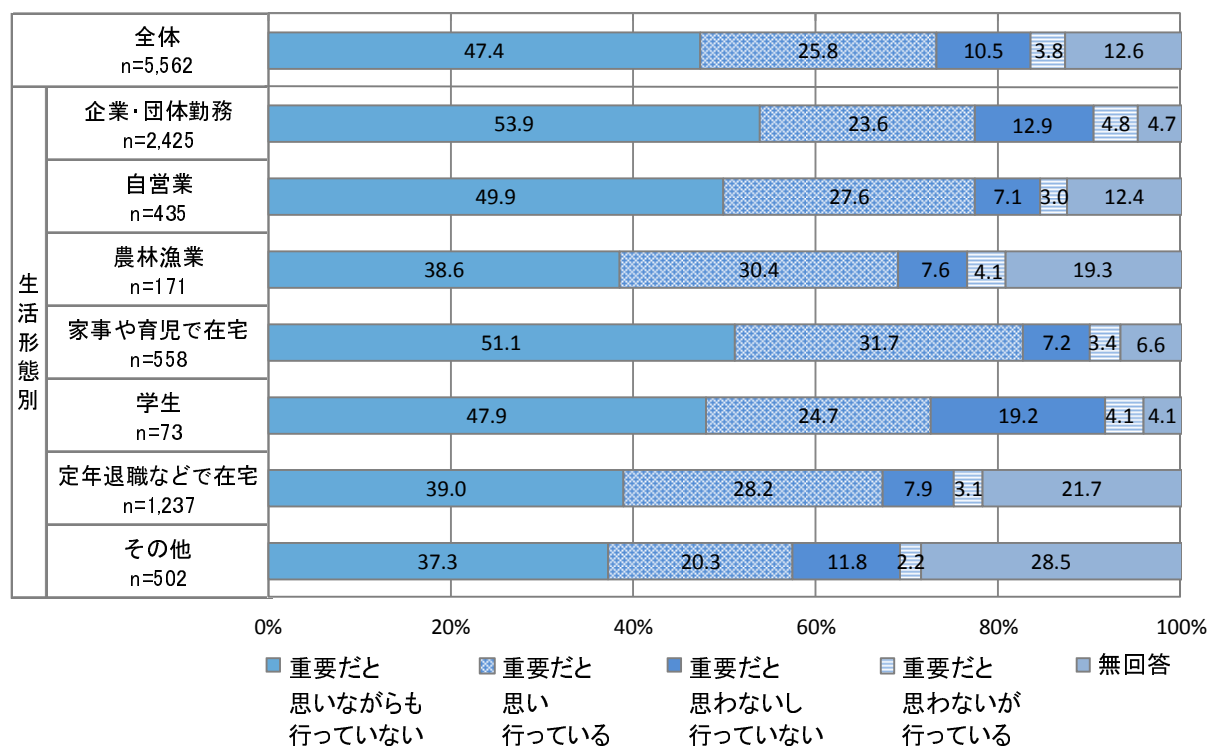
<性別>

性別による差はあまりみられない。



＜生活形態別＞

『備えを行っていない』は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」で少なく、他の分類の5割～6割台に比べ4割台となっている。全ての分類で「重要だと思いながらも行っていない」が最も多く、特に「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」で5割を超えている。

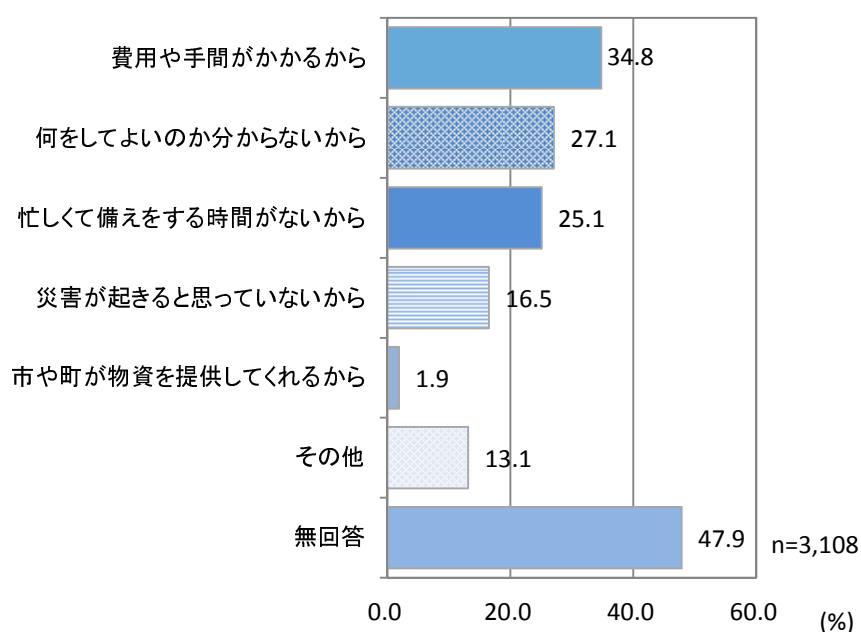


災害に備えての準備を行っていない理由

問 33.問 32 で「2 重要だと思いながらも行っていない」項目がひとつでもある場合、その理由は何ですか。（3つまでの複数回答）

（１）懐中電灯，携帯ラジオ，医薬品等非常持出品を用意する

「無回答」を除き、「費用や手間がかかるから」（34.8%）、「何をしてよいのか分からないから」（27.1%）、「忙しくて備えをする時間がないから」（25.1%）の順に多い。また、「災害が起きると思っていないから」は 16.5%となっている。

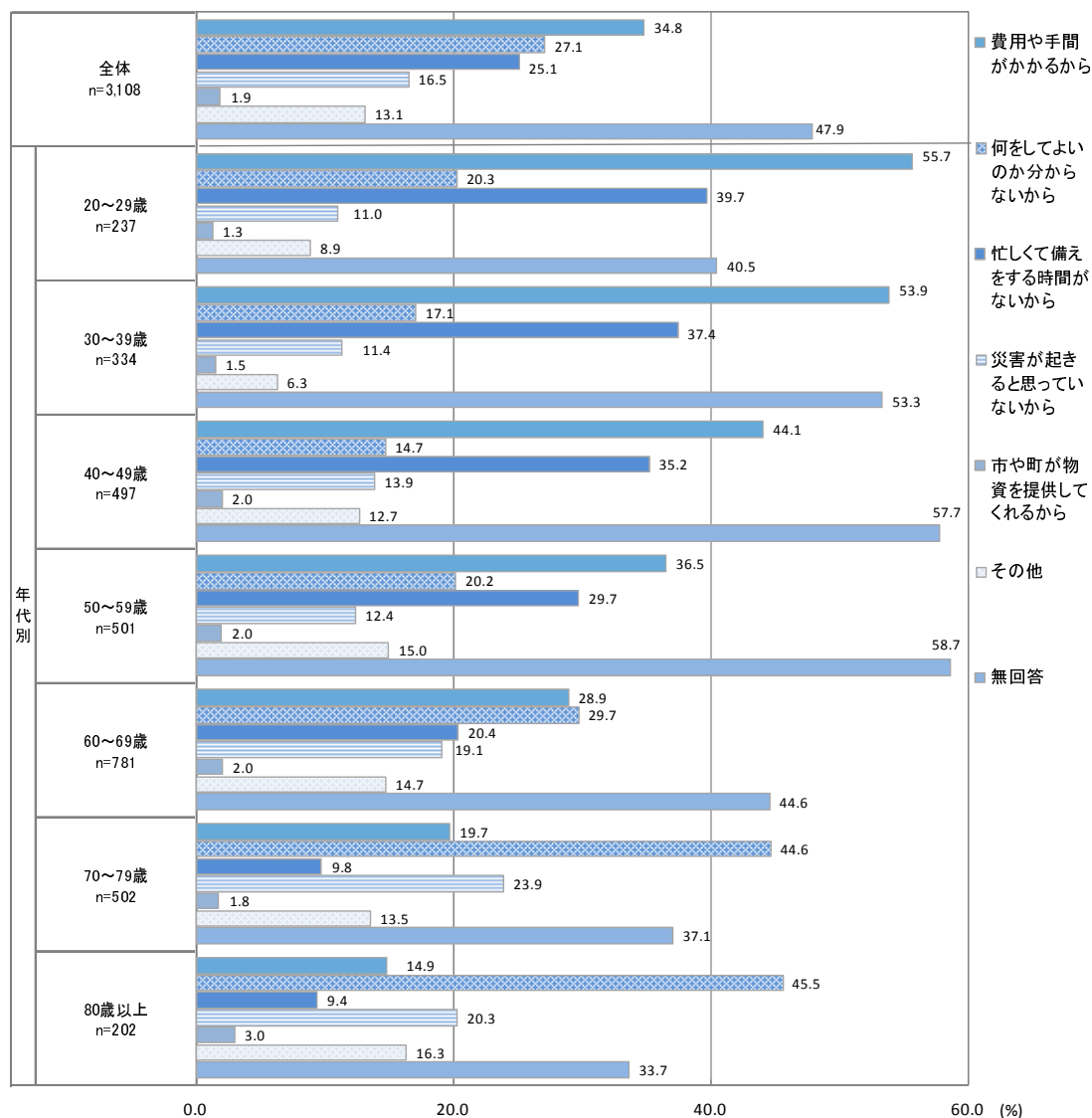


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・一部準備している・まとめていない（188 件）
- ・後回しにしている・意識が低い（91 件）
- ・持ち出さない・必要ない(18 件)
- ・高齢・体が不自由・体調不良（18 件）
- ・自分でできない・家族がやる（10 件）
- ・準備はしたが期限切れ・入れ替えをしていない(10 件)
- ・わからない（5 件）
- ・保管場所がない(3 件)
- ・災害が起こった時に考える
- ・ラジオはスマートフォンで代用する 等

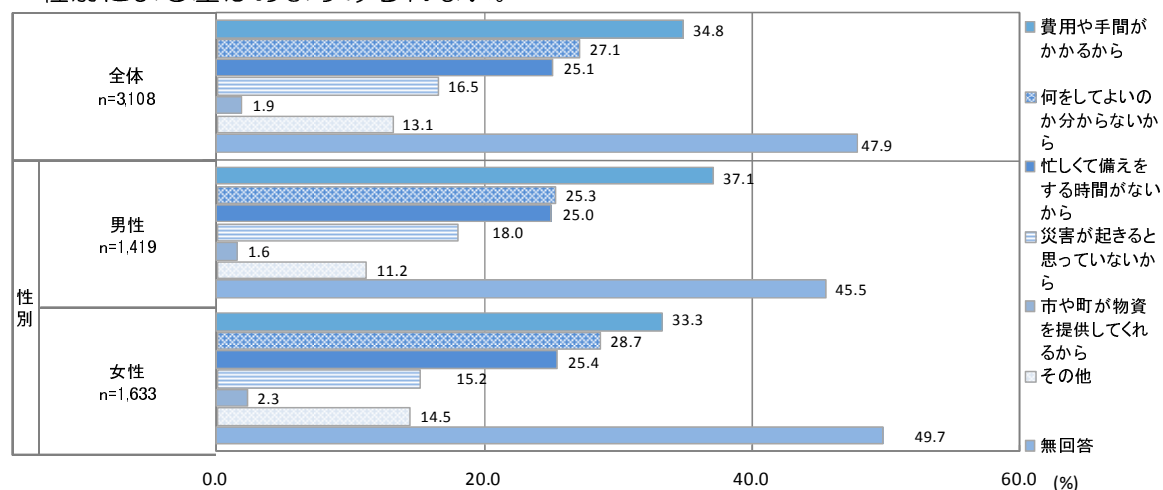
<年代別>

無回答を除き、「20～29 歳」から「50～59 歳」では「費用や手間がかかるから」が最も多い。「60～69 歳」より上の年代では「何をしてもいいのかわからないから」が最も多くなっている。「災害が起きると思っていないから」は「70～79 歳」以上で 2 割台と他の年代の 1 割台に比べ多い。



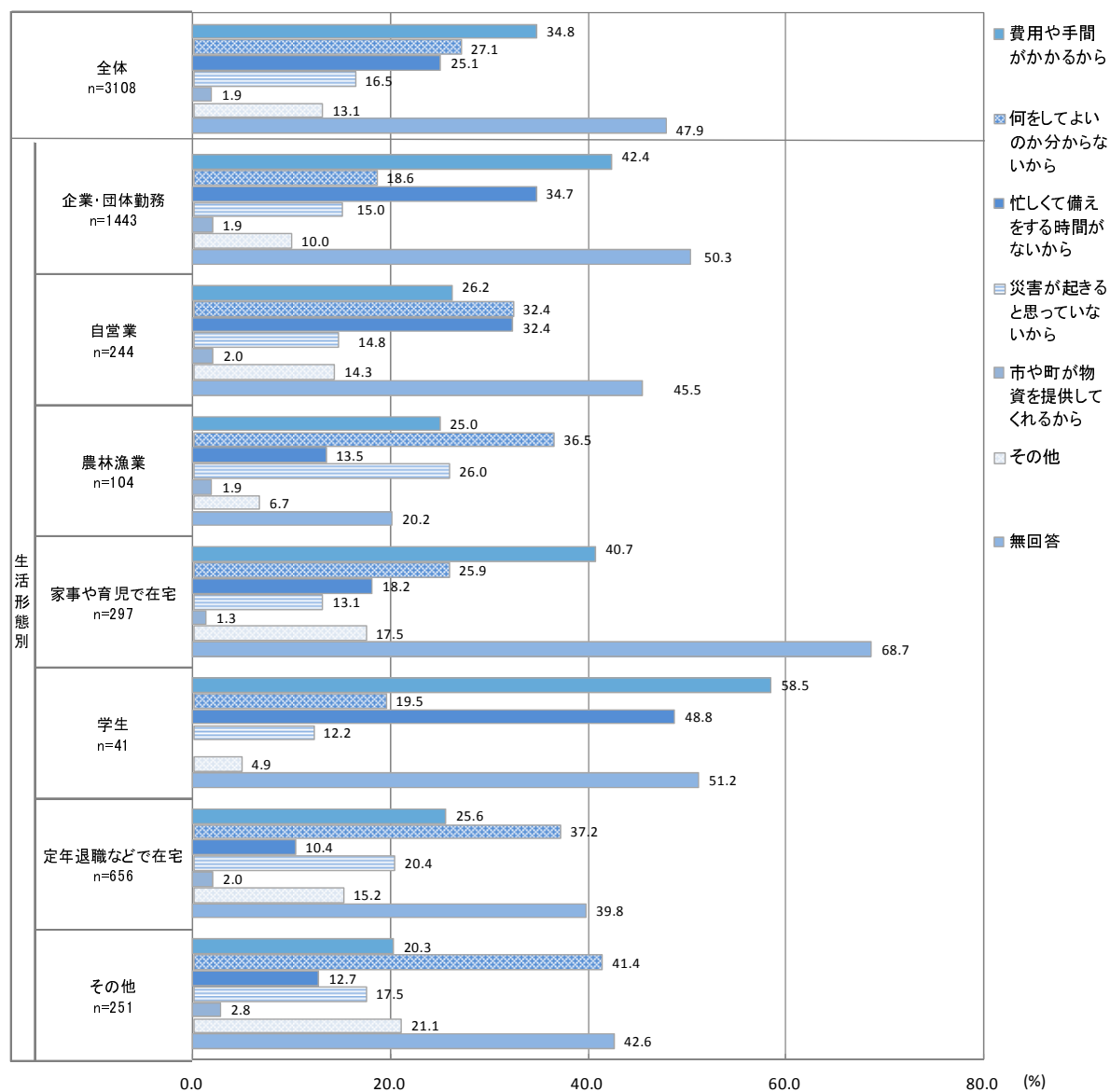
<性別>

性別による差はあまりみられない。



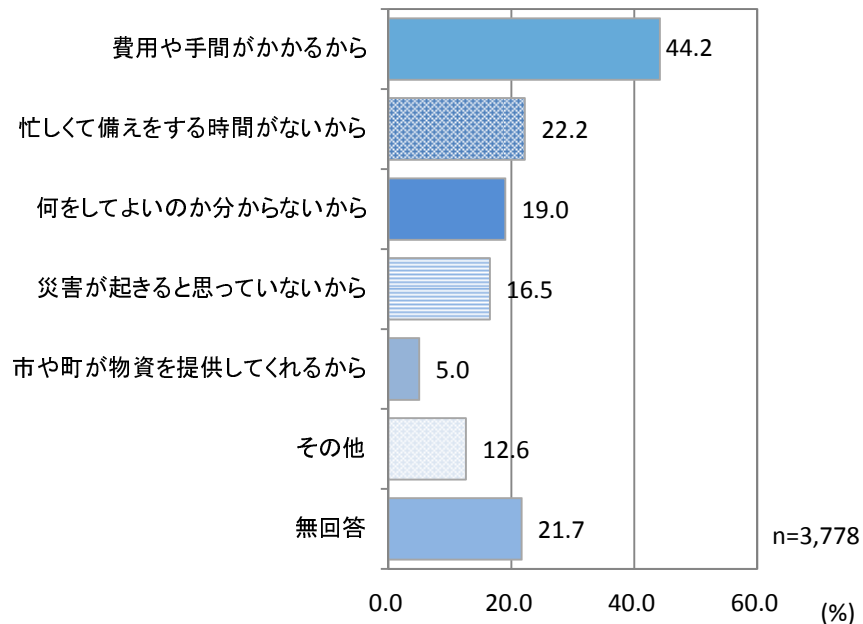
＜生活形態別＞

無回答を除き、「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」、「学生」で「費用や手間がかかるから」が最も多く 4 割を超えている。「災害が起きると思っていないから」は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」で 2 割を超え、他の分類の 1 割台に比べ多い。



(2) 3 日分以上の食料・飲料水を備蓄する

「無回答」を除き、「費用や手間がかかるから」(44.2%)、「忙しくて備えをする時間がないから」(22.2%)、「何をしてよいのか分からないから」(19.0%)の順に多い。また、「災害が起きると思っていないから」は16.5%となっている。

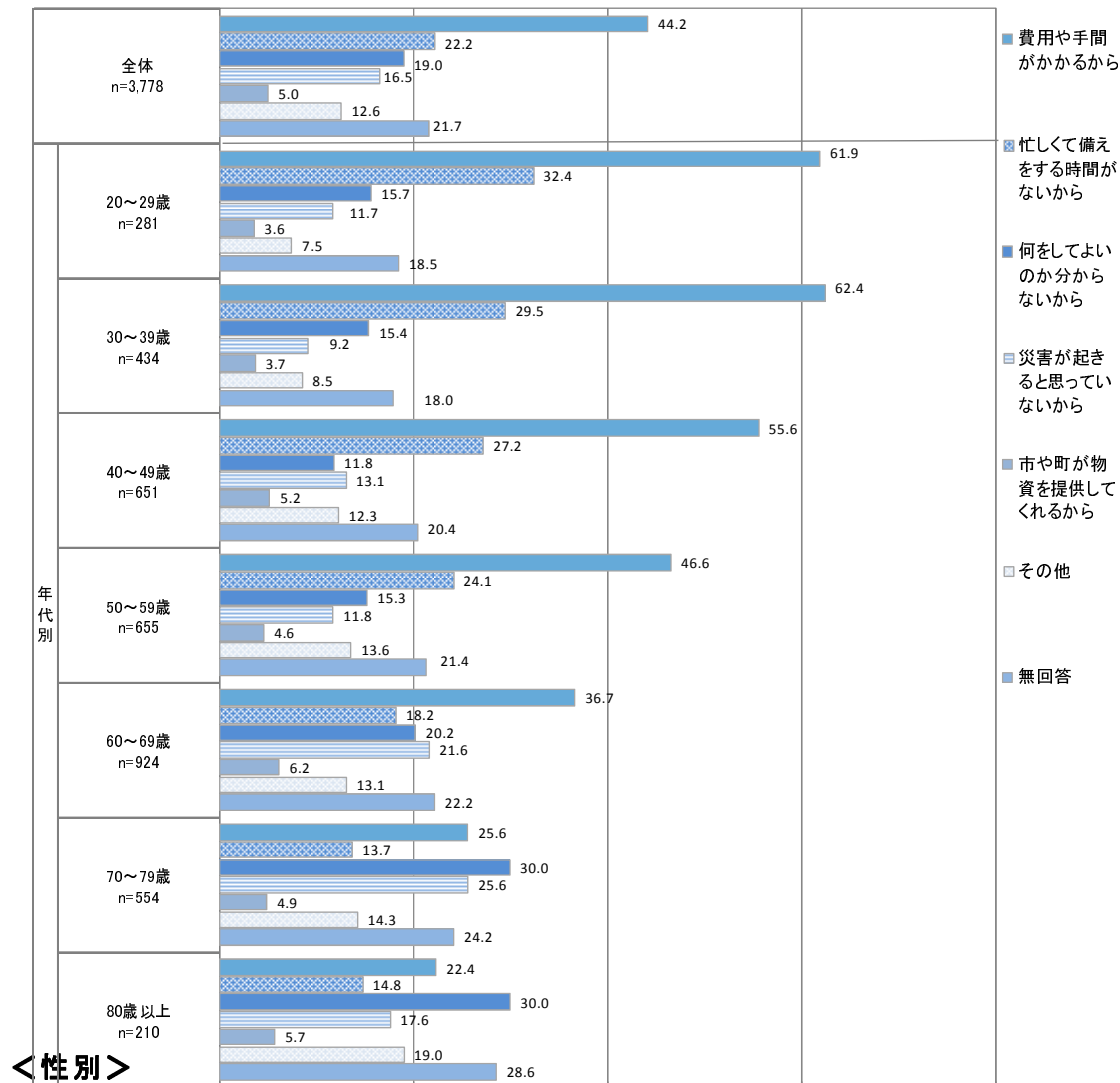


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・一部準備している・まとめていない (121 件)
- ・後回しにしている・意識が低い (98 件)
- ・持ち出さない・必要ない(53 件)
- ・準備はしたが期限切れ・入れ替えをしていない(53 件)
- ・保管場所がない(41 件)
- ・高齢・体が不自由・体調不良 (18 件)
- ・自分でできない・家族がやる (17 件)
- ・わからない (13 件)
- ・金銭的に余裕がない
- ・あると食してしまっている 等

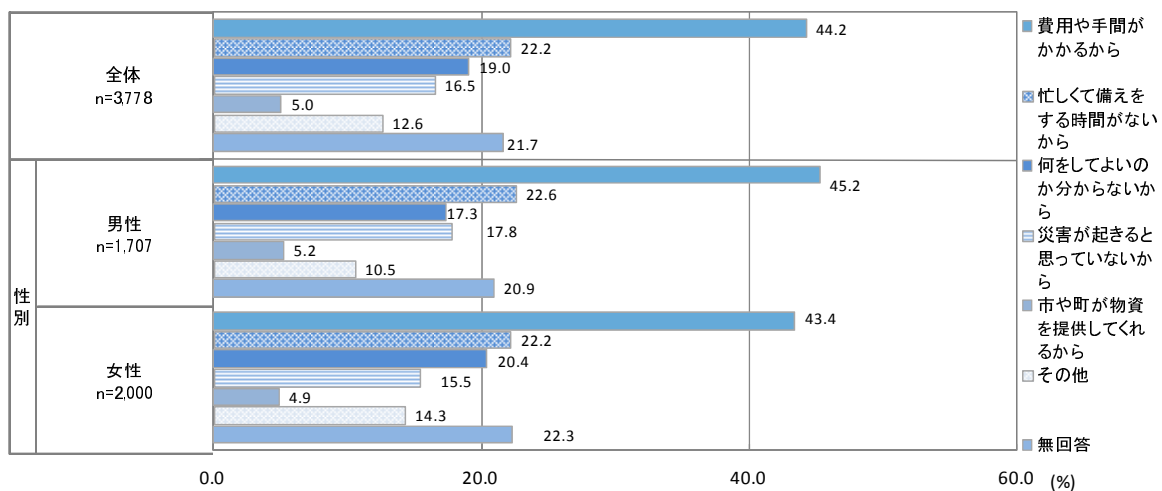
<年代別>

「20～29 歳」から「60～69 歳」までは「費用や手間がかかるから」が最も多いが、概ね年代が上がるごとにその割合は少なくなっている。「災害が起きると思っていないから」は「60～69 歳」以上で 2 割以上となり、他の年代の 1 割弱～1 割台半ばに比べ多い。



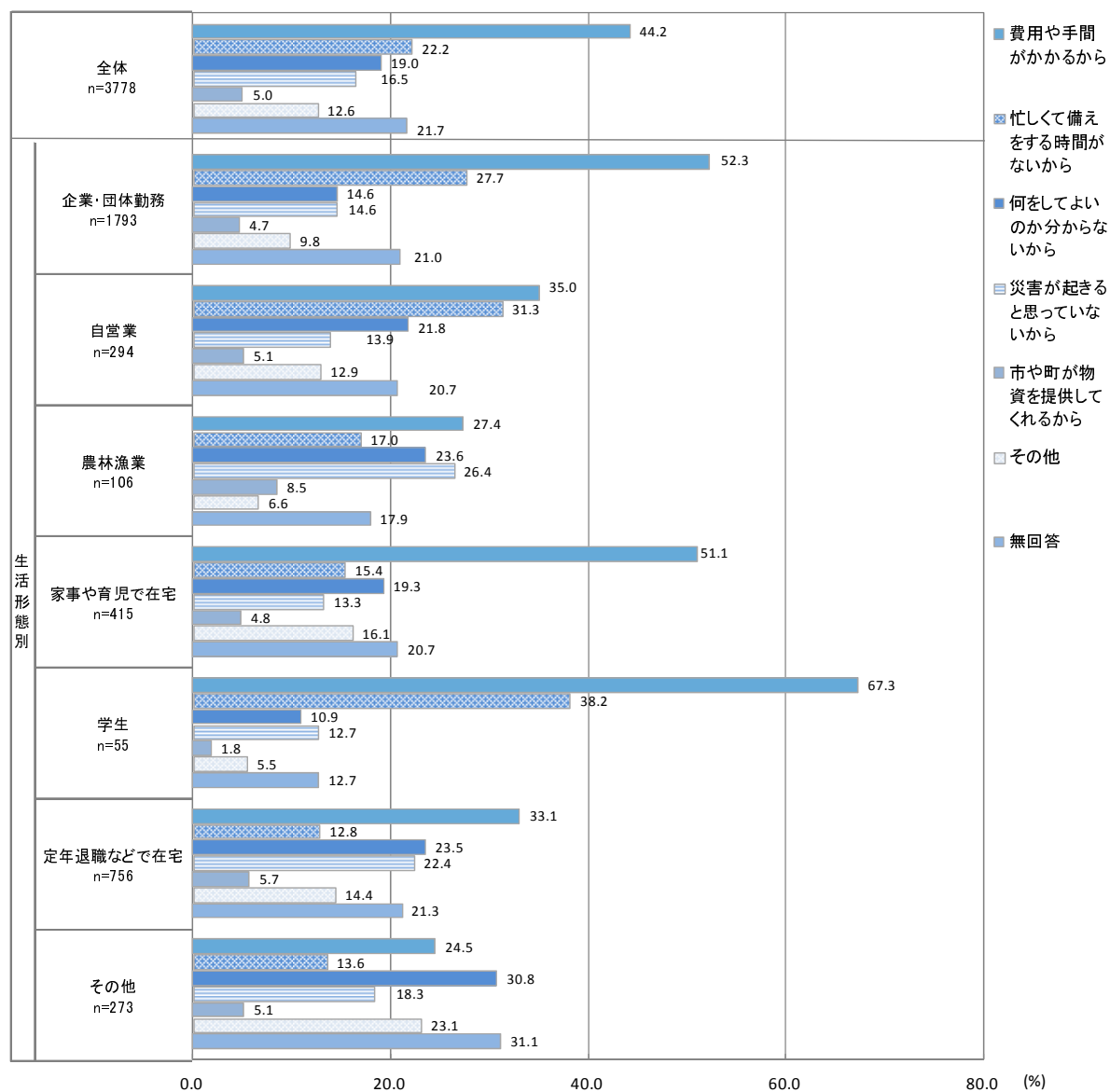
<性別>

性別による差はあまりみられない。



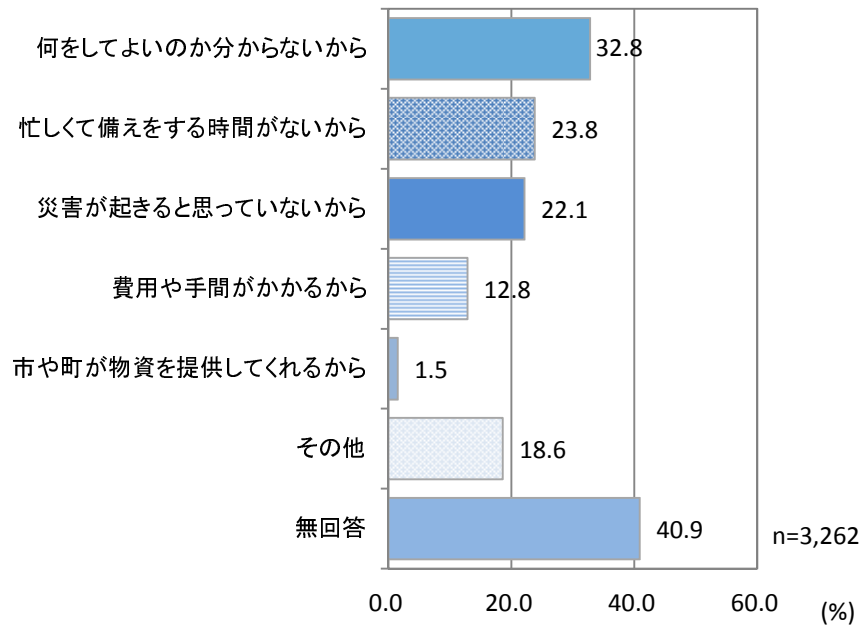
<生活形態別>

全ての分類で「費用や手間がかかるから」が最も多く、「企業・団体勤務」、「家事や育児で在宅」、「学生」では 5 割を超えている。「災害が起きると思っていないから」は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」で 2 割を超え、他の分類の 1 割台に比べ多い。



(3) 災害時における家族間の連絡方法を決める

「無回答」を除き、「何をしてもいいのかわからないから」(32.8%)、「忙しくて備えをする時間がないから」(23.8%)、「災害が起きると思っていないから」(22.1%)の順に多い。

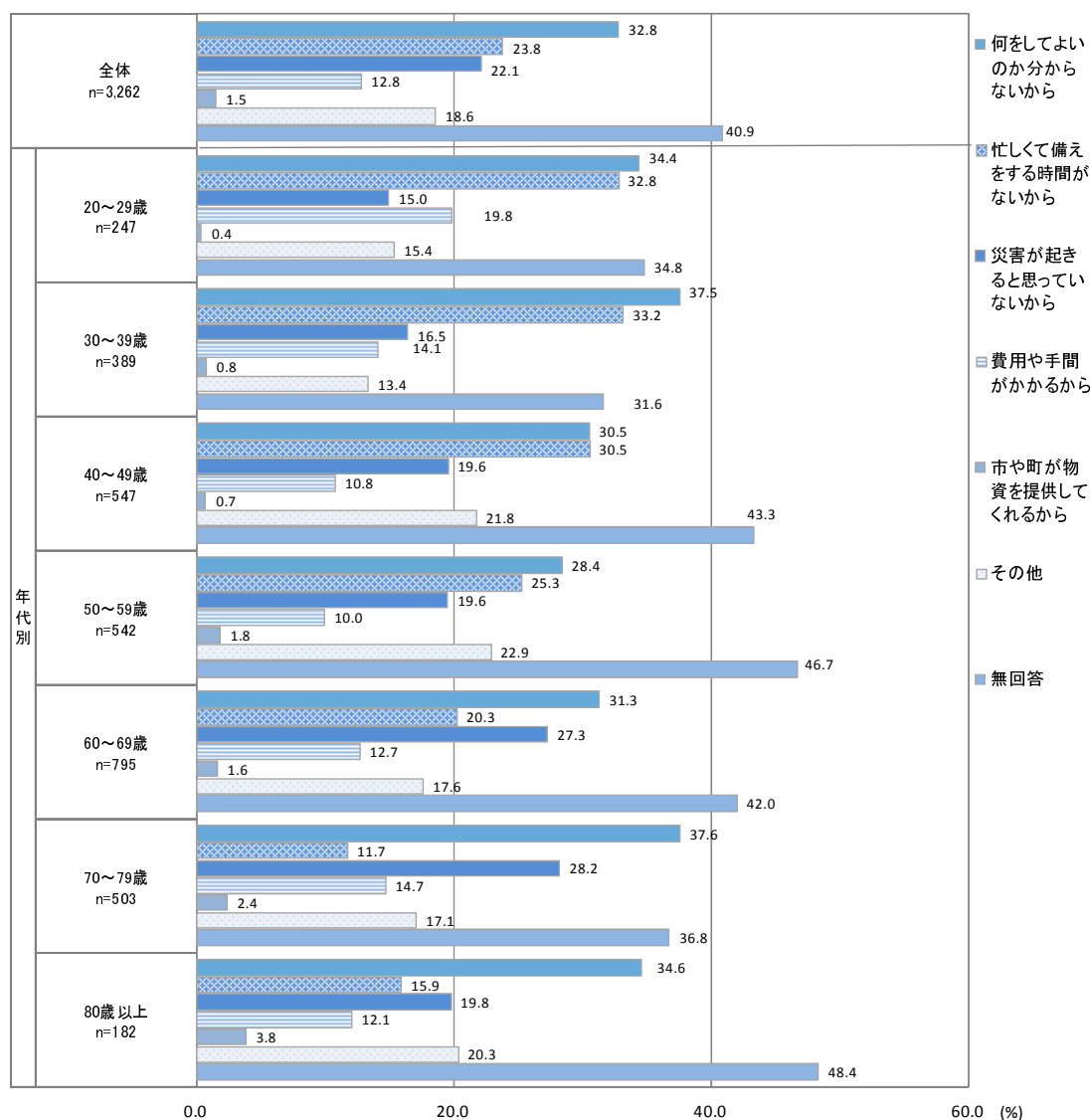


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・後回しにしている・意識が低い (165 件)
- ・携帯電話・メール(102 件)
- ・1人暮らし・家族とは別居・仲が悪い(38 件)
- ・状況による・なんとなくかなと思っている(32 件)
- ・家にいる・いつも近くにいる (25 件)
- ・高齢・体が不自由・体調不良 (20 件)
- ・わからない・できない (18 件)
- ・必要ない(12 件)
- ・子どもが小さい (12 件)
- ・携帯電話を保有していない
- ・学校に行っているから 等

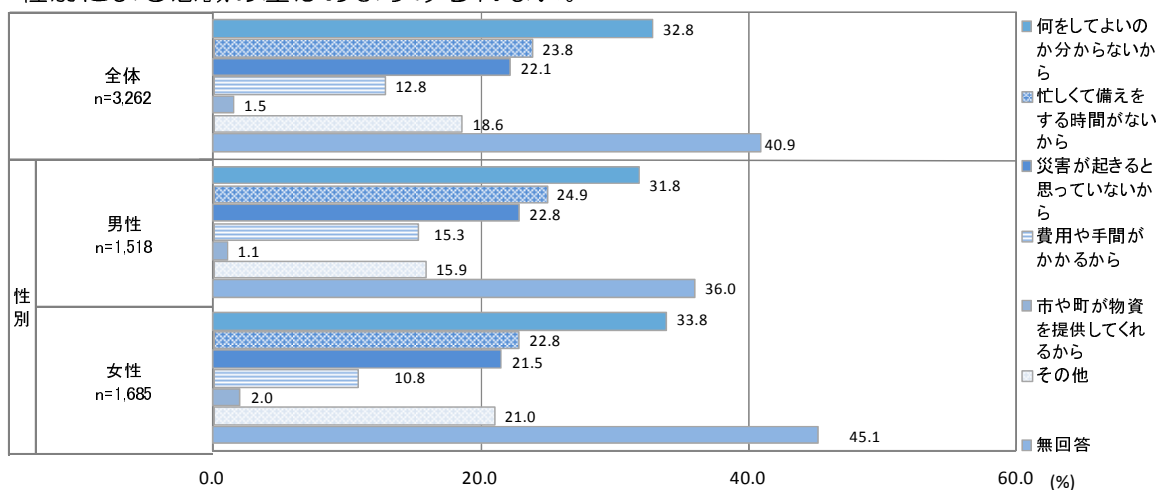
<年代別>

「無回答」を除き、「何をしてよいのか分からないから」が最も多くなっており、「40～49 歳」では「忙しくて備えをする時間がないから」も同率 1 位となっている。「災害が起きると思っていないから」は「60～69 歳」、「70～79 歳」で多く 3 割弱となっている。



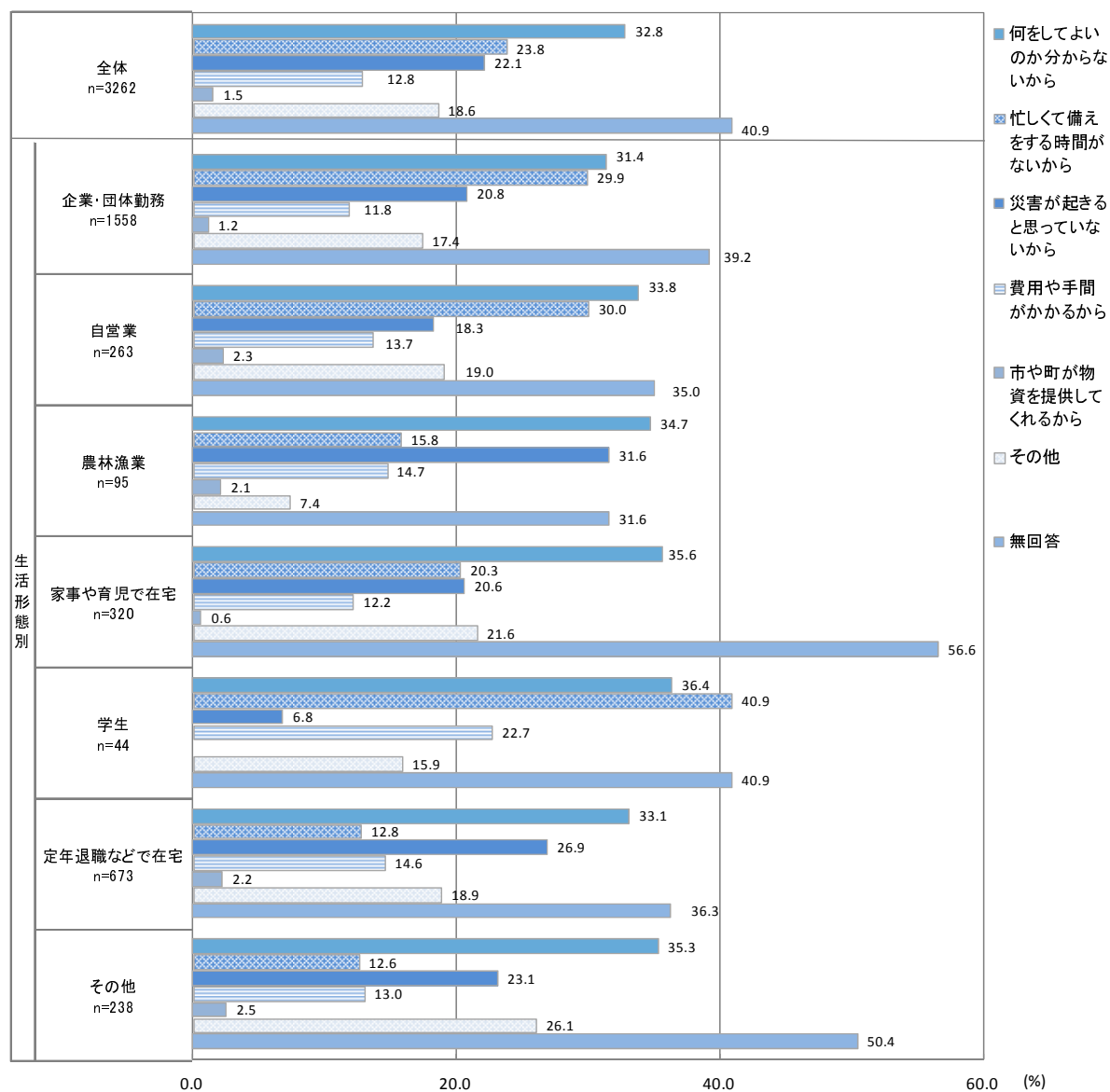
<性別>

性別による意識の差はあまりみられない。



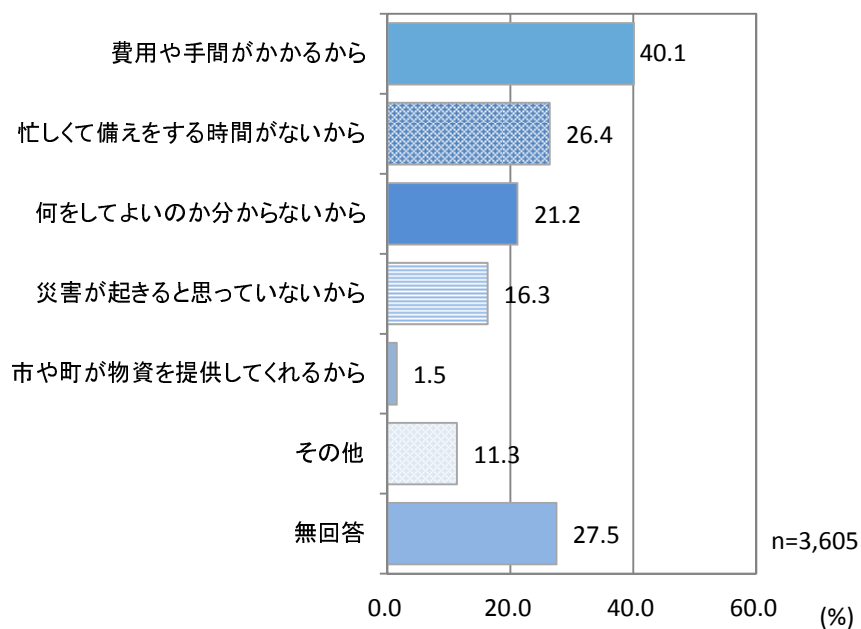
<生活形態別>

「無回答」を除き、「学生」以外の全ての分類で「何をしてよいのかわからないから」が最も多く 3 割を超えている。「災害が起きると思っていないから」は「農林漁業」で 3 割強と、他の分類が 1 割以下～2 割台半ばであるのに比べ多い。



(4) 家具の転倒防止策をとる

「無回答」を除き、「費用や手間がかかるから」(40.1%)、「忙しくて備えをする時間がないから」(26.4%)、「何をしてよいのか分からないから」(21.2%)の順に多い。また、「災害が起きると思っていないから」は16.3%となっている。

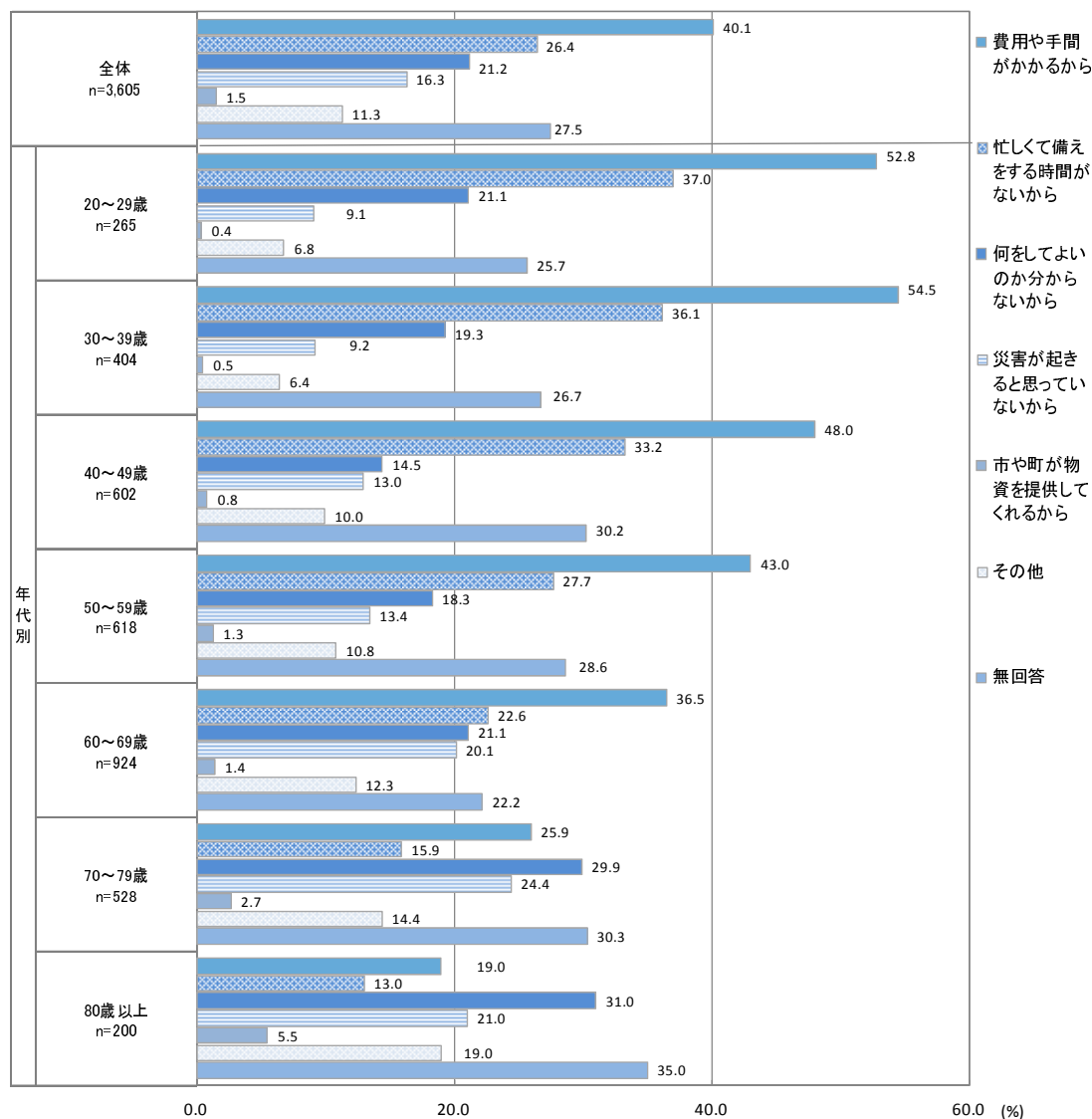


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・後回しにしている・意識が低い (111 件)
- ・何とかなる・しない(95 件)
- ・一部準備している(38 件)
- ・自分でできない・家族がやる(27 件)
- ・高齢・体が不自由・体調不良 (22 件)
- ・わからない (5 件) 等

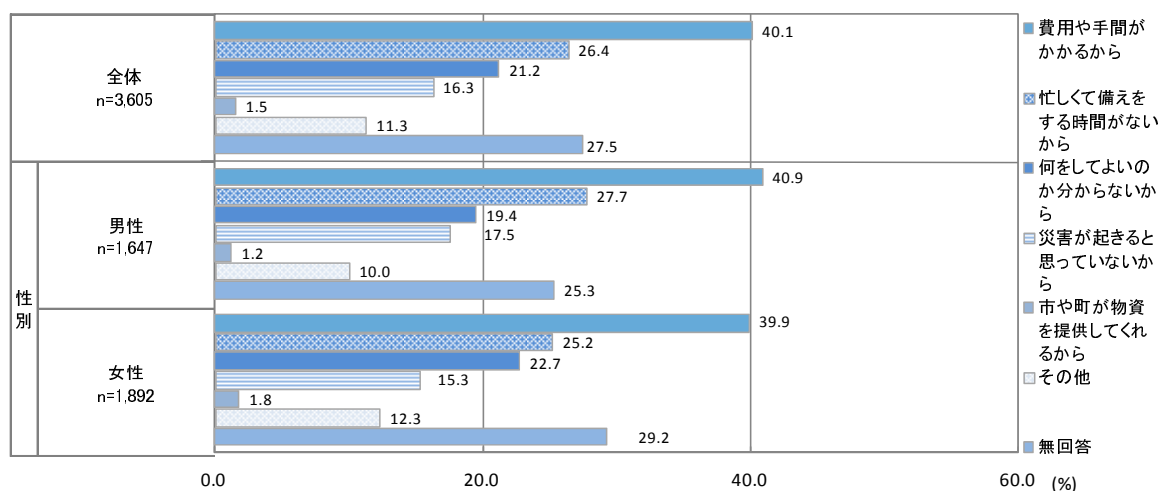
<年代別>

「20～29 歳」から「60～69 歳」までは「費用や手間がかかるから」が最も多いが、概ね年代が上がるごとにその割合は少なくなっている。「災害が起きると思っていないから」は「60～69 歳」以上で 2 割以上となり、他の年代の 1 割弱～1 割台半ばに比べ多い。



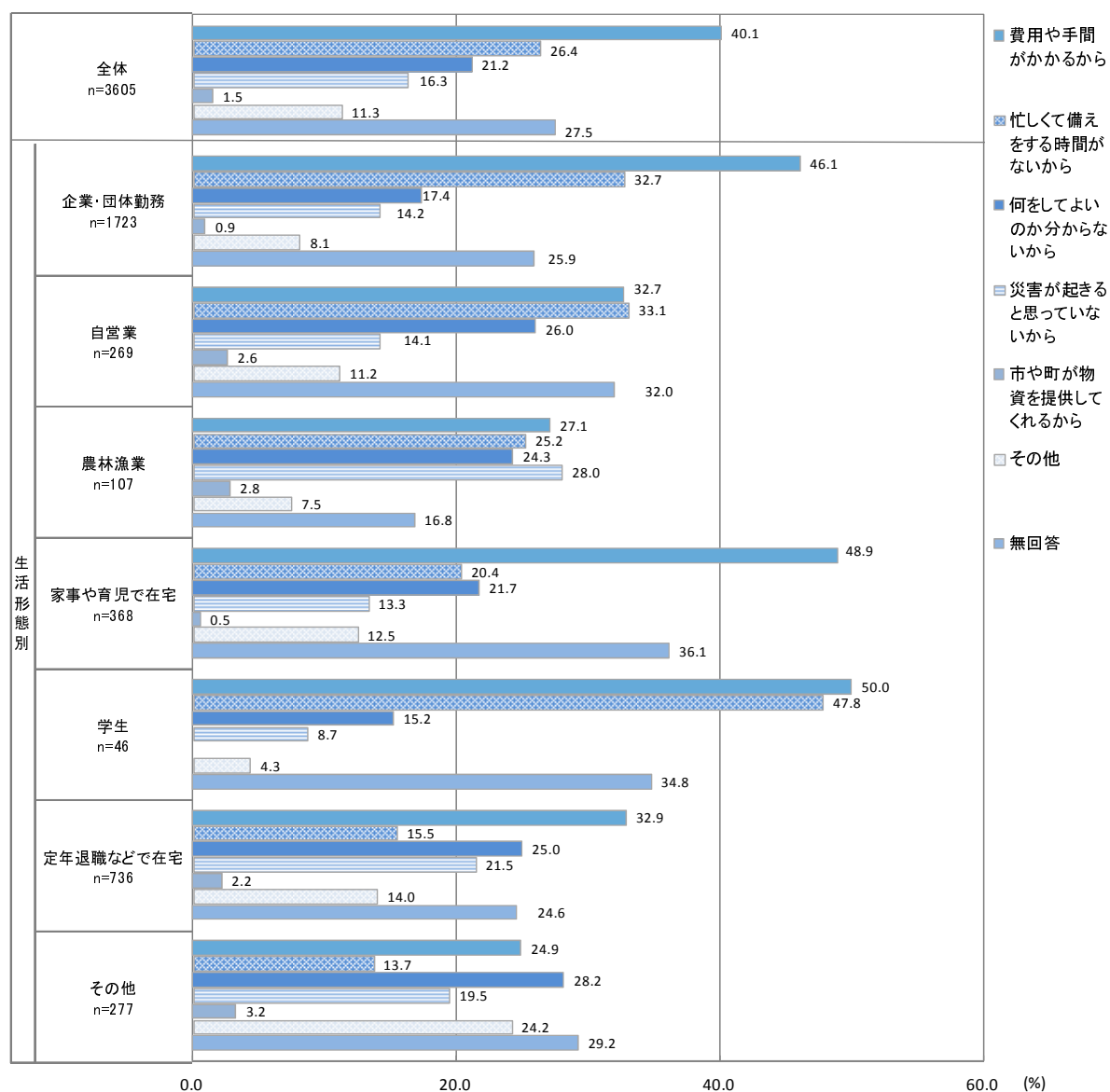
<性別>

性別による差はあまりみられない。



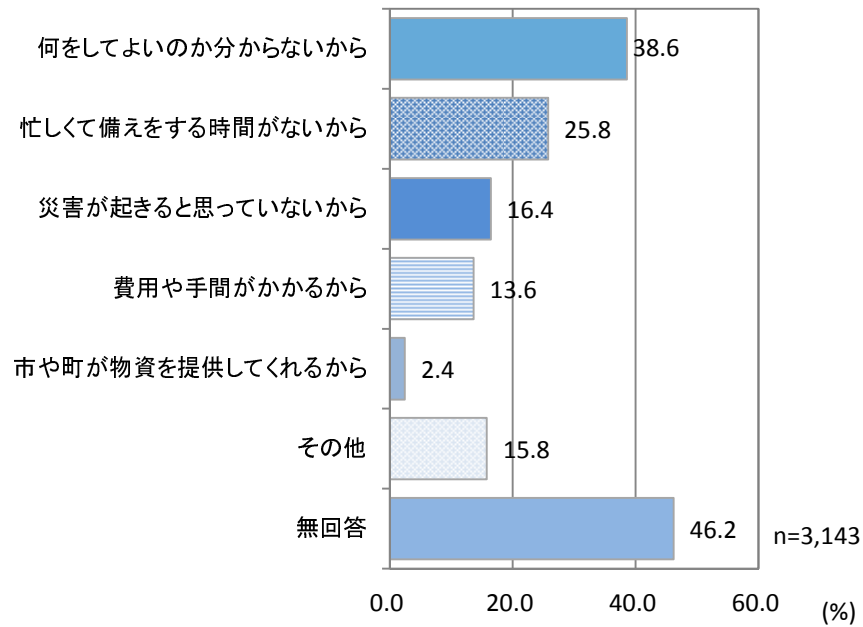
<生活形態別>

「自営業」、「農林漁業」、「その他」を除き全ての分類で「費用や手間がかかるから」が最も多くなっている。「自営業」では「忙しくて備えをする時間がないから」、「農林漁業」では「災害が起きると思っていないから」が最も多い。「災害が起きると思っていないから」は「学生」で1割を下回り、他の分類の1割～3割弱に比べ少ない。



(5) 町内会・自主防災組織に加入する

「無回答」を除き、「何をしてよいのか分からないから」(38.6%)、「忙しくて備えをする時間がないから」(25.8%)、「災害が起きると思っていないから」(16.4%)の順に多い。

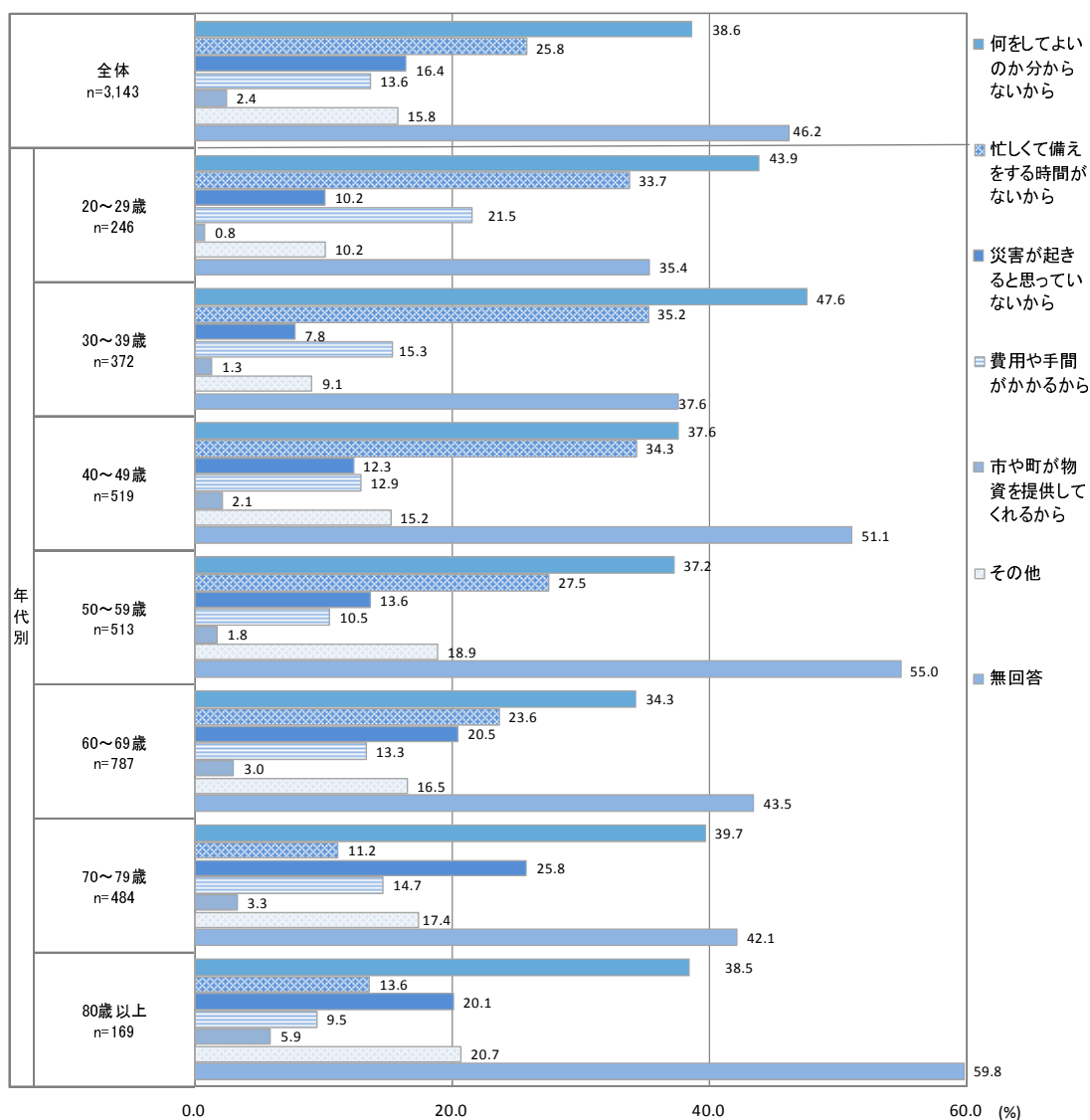


その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・後回しにしている・面倒・苦手（88件）
- ・わからない（62件）
- ・高齢・体が不自由・体調不良(35件)
- ・参加できない(29件)
- ・必要ない(26件)
- ・組織がない・活動していない（24件）
- ・家族が参加・加入している（15件）
- ・住んでいる地区が災害時について重要視していない傾向にある
- ・仕事の関係で災害の際は職場にいると思うから
- ・広島は災害があってもそこまでひどくないというイメージがあるから 等

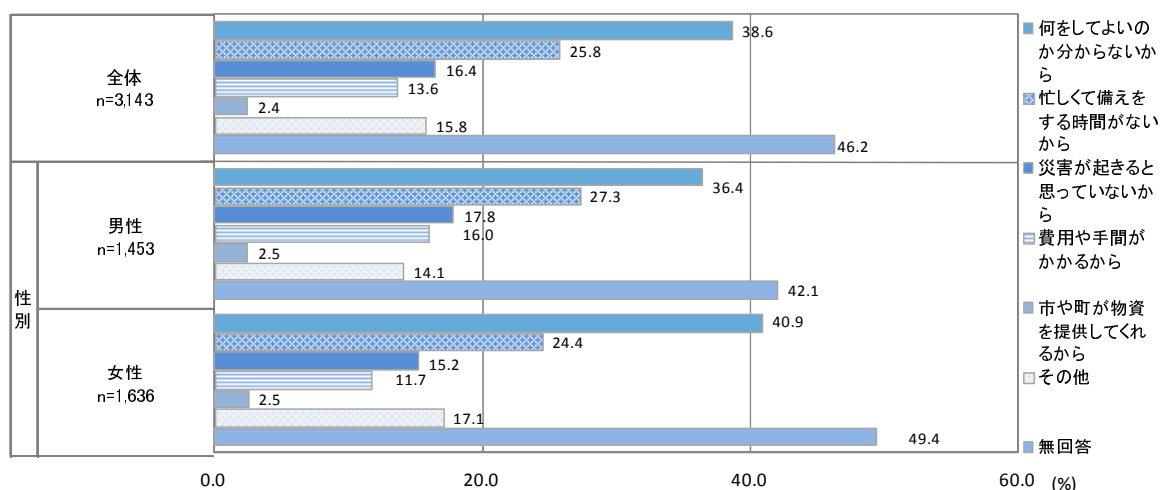
<年代別>

「無回答」を除き全ての年代で「何をしてよいのかわからないから」が最も多く、「20～29 歳」、「30～39 歳」では 4 割を超えている。「災害が起きると思っていないから」は「60～69 歳」以上で 2 割を超え、他の年代の 1 割以下～1 割台であるのに比べ多い。



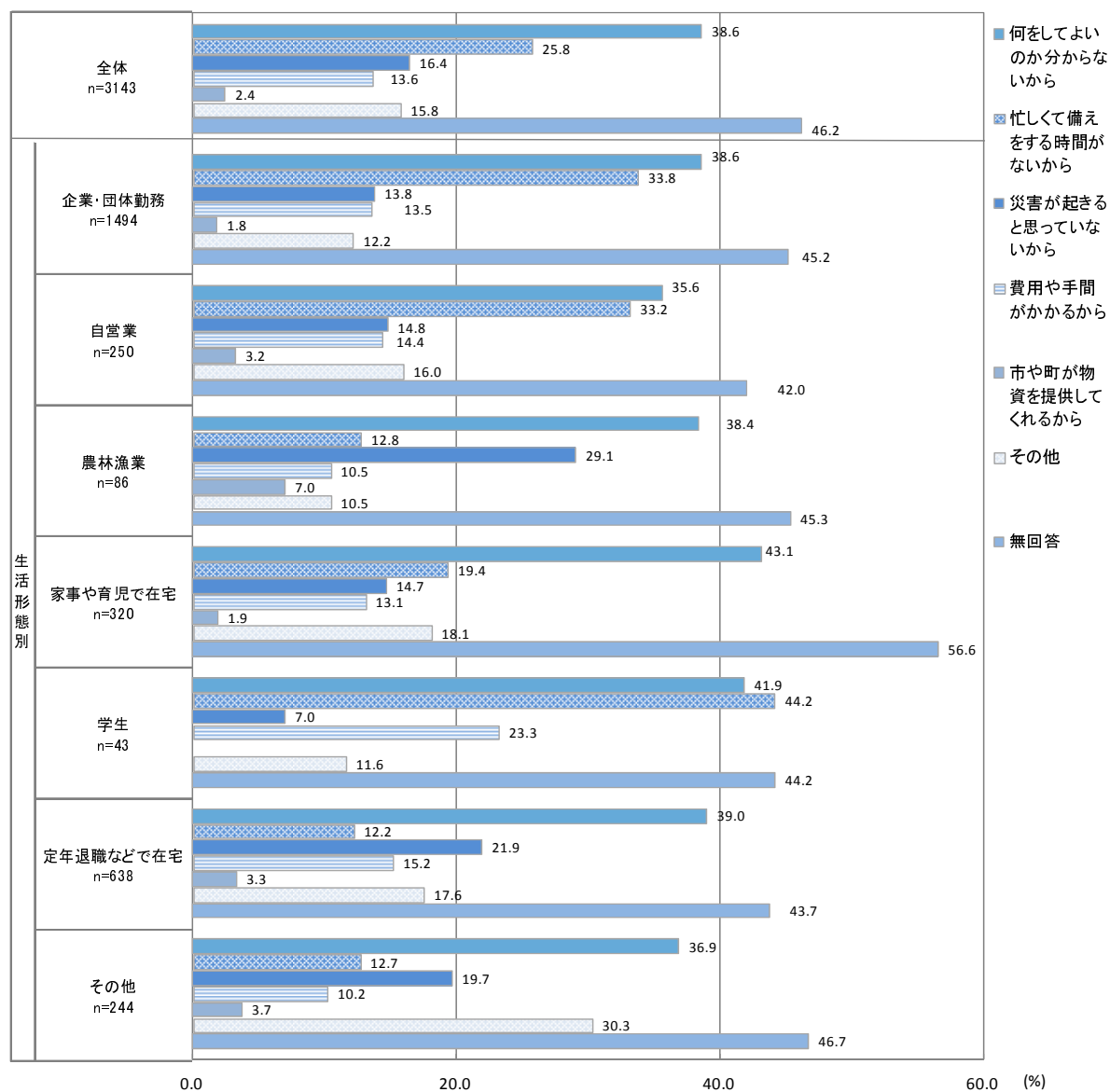
<性別>

性別による意識の差はあまりみられない。



<生活形態別>

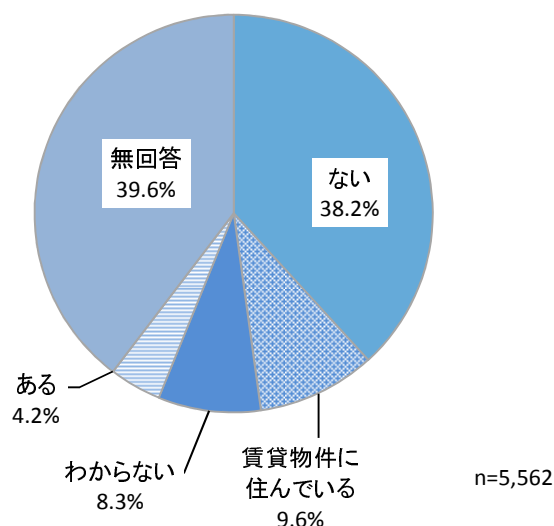
「無回答」を除き、「学生」、「その他」以外の全ての分類で「何をしてもいいかわからないから」が最も多くなっている。「災害が起きると思っていないから」は学生で 1 割を下回り、他の年代の 1 割台～3 割弱に比べ少ない。



自宅の耐震診断の実施の有無

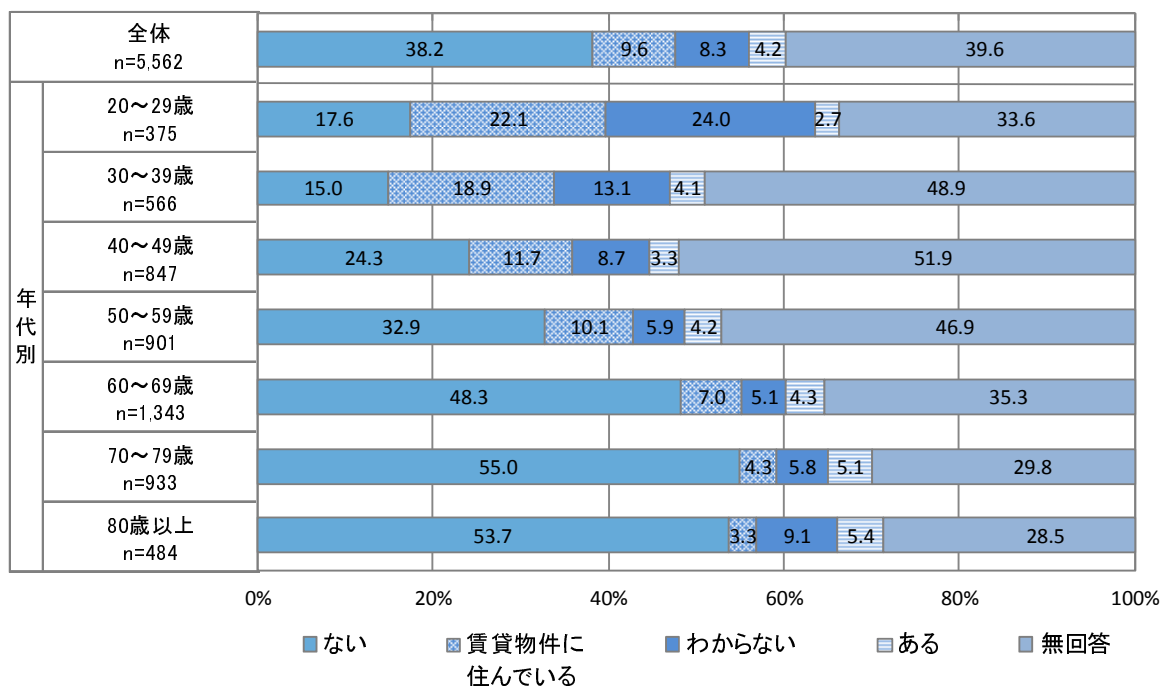
問 34.あなたが住まいの家屋（あなたが所有，又はあなたが同居する親族等が所有）が，建築基準法に基づく現行の耐震基準（昭和 56 年 6 月 1 日導入）以前に建築された方にお尋ねします。自宅の耐震診断を行ったことがありますか。（単一回答）

「ない」が 38.2%、「ある」が 4.2%となっている。



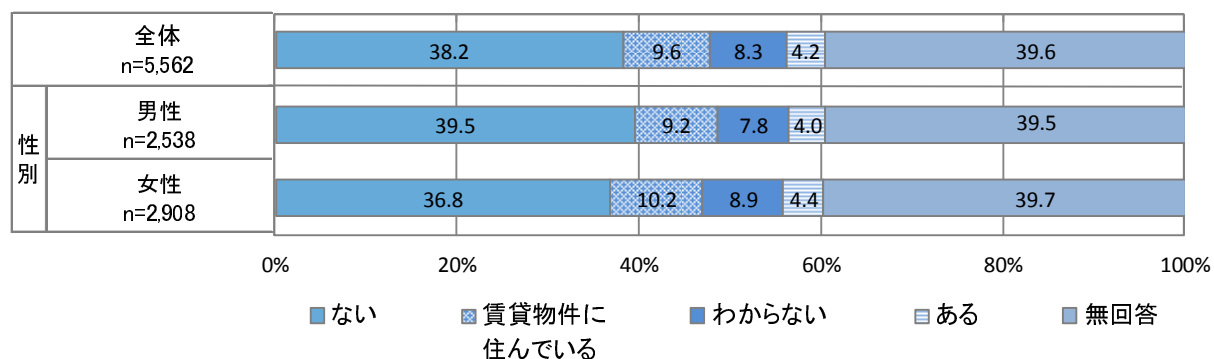
<年代別>

「ある」は全ての年代で 1 割以下だが、「40～49 歳」を除き年代が上がるにつれ多くなっている。



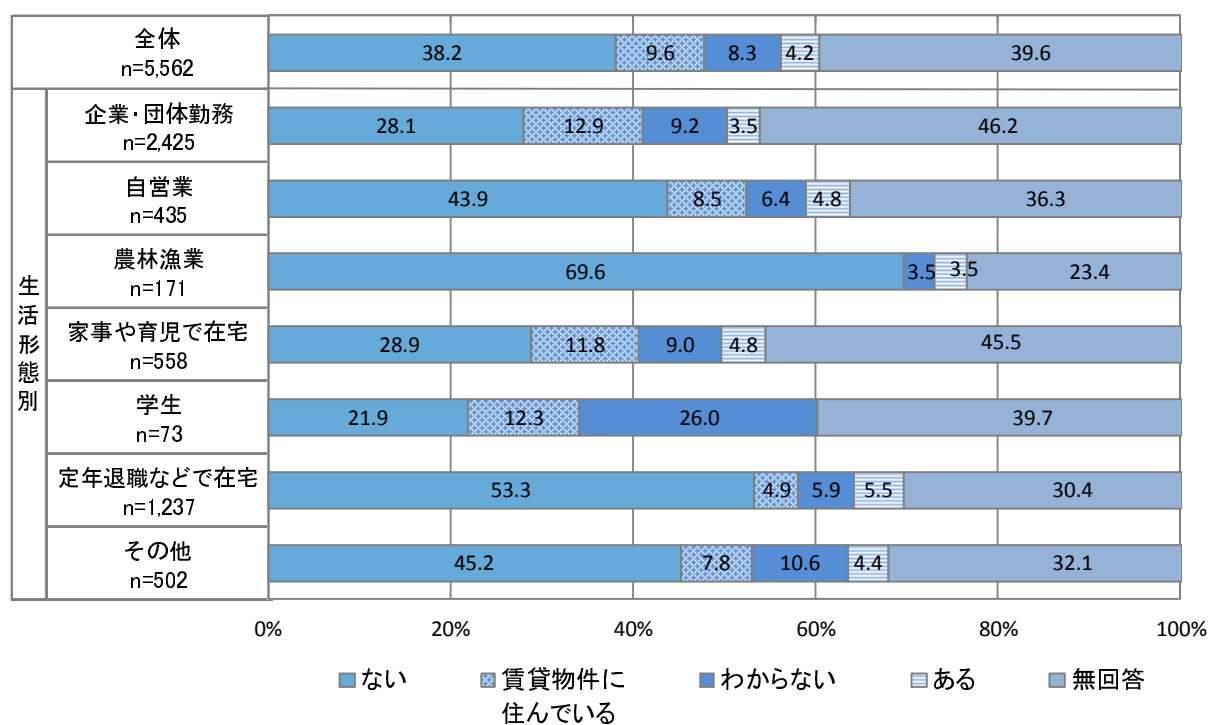
<性別>

性別による意識の差はあまりみられない。



<生活形態別>

「ない」は「農林漁業」で69.6%と最も多く、他の分類の5割台以下に比べ多い。

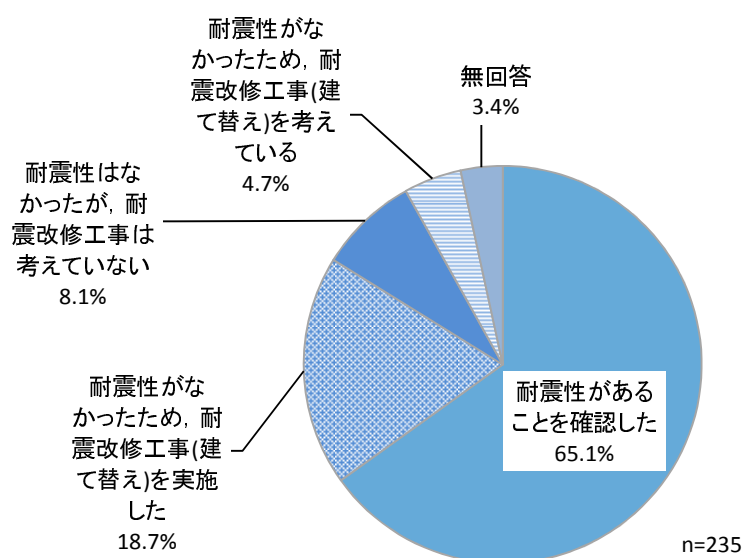


自宅の耐震診断の結果を受けた対策について

問 34 で「1 ある」を回答した人にお尋ねします。

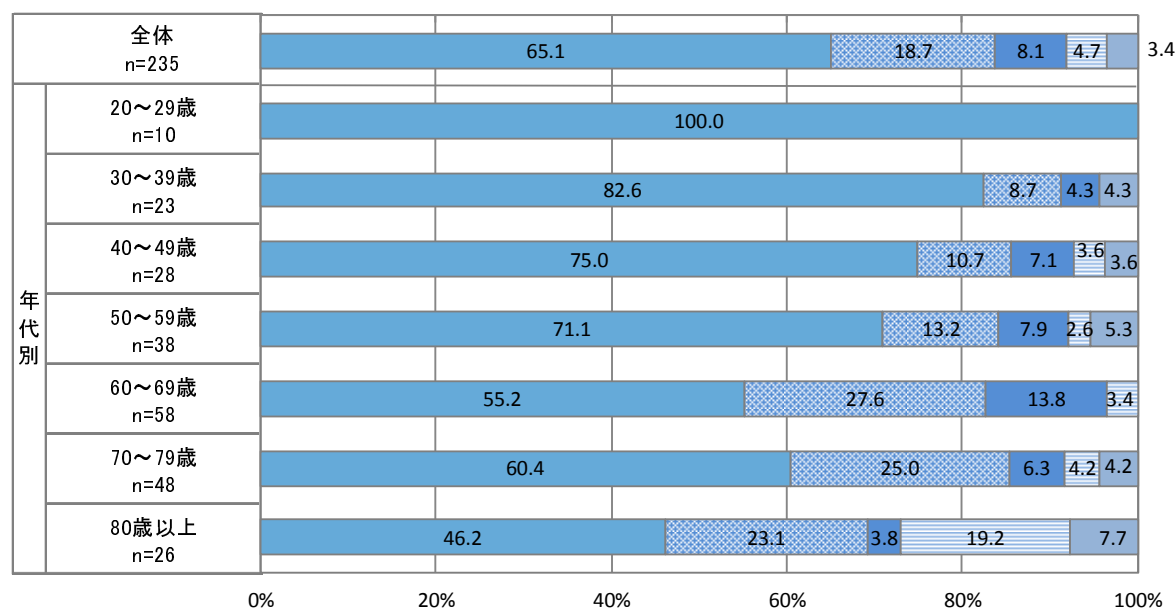
問 35.耐震診断の結果と、その結果を受けてどのような対策を講じた、あるいは講じようとされていますか（単一回答）

「耐震性があることを確認した」（65.1%）、「耐震性がなかったため、耐震改修工事（建て替え）を実施した」（18.7%）、「耐震性はなかったが、耐震改修工事は考えていない」（8.1%）の順に多い。



<年代別>

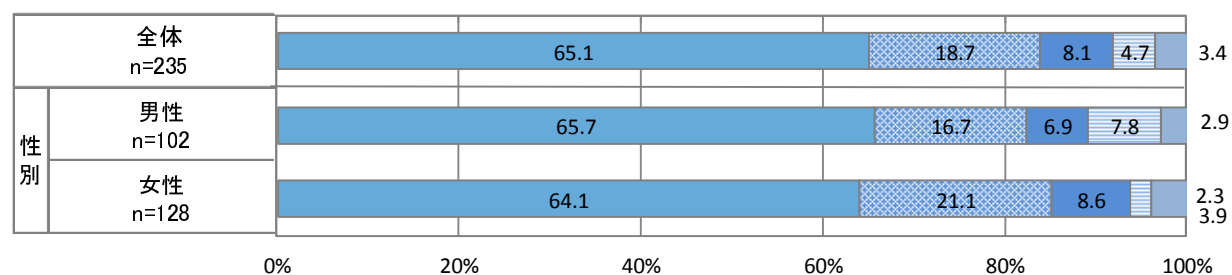
「耐震性があることを確認した」は「20～29 歳」では 100.0%となっており、「70～79 歳」を除き年代が上がるにつれ少なくなっている。



■ 耐震性があることを確認した
 ■ 耐震性がなかったため、耐震改修工事(建て替え)を実施した
 ■ 耐震性はなかったが、耐震改修工事は考えていない
 ■ 耐震性がなかったため、耐震改修工事(建て替え)を考えている
 ■ 無回答

<性別>

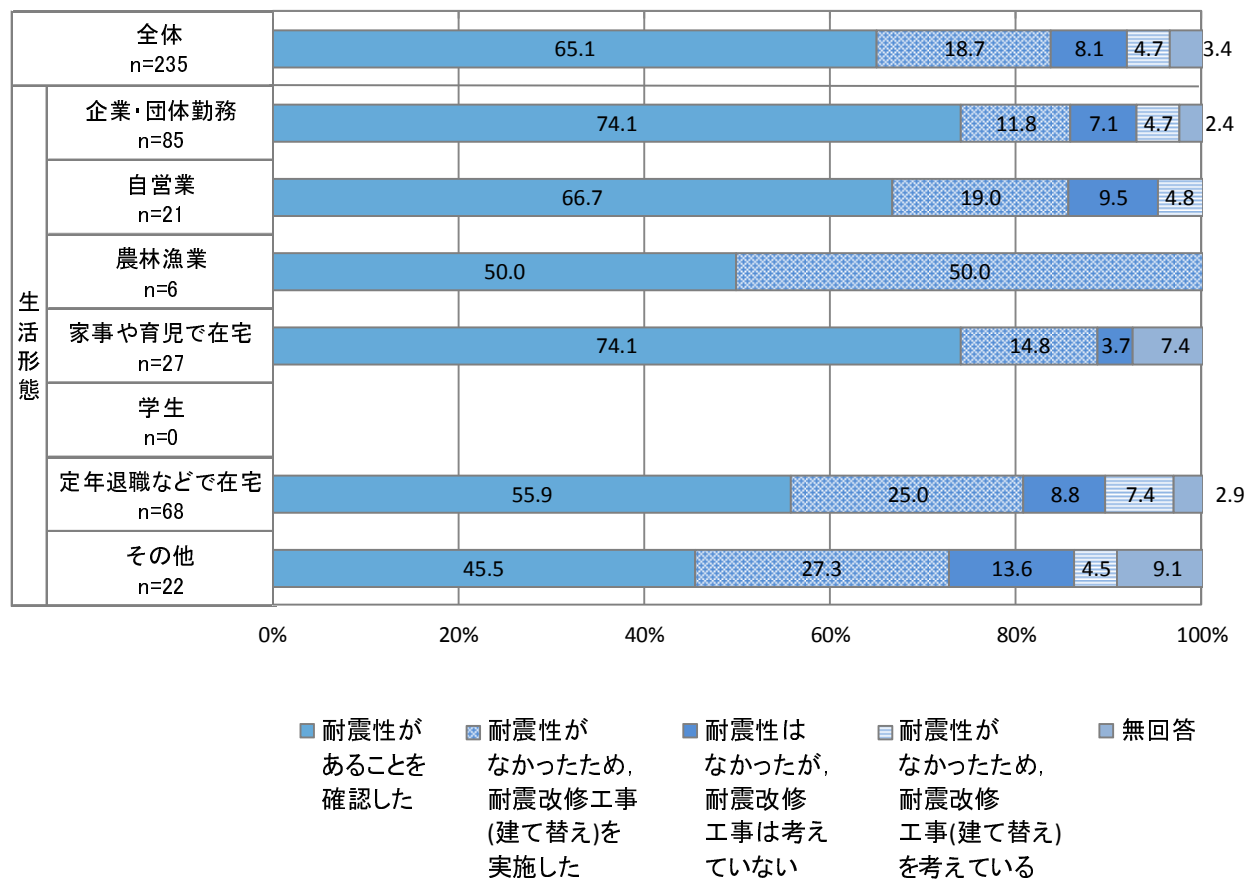
男女とも「耐震性があることを確認した」が最も多いが、「耐震性がなかったため、耐震改修工事(建て替え)を考えている」は「男性」が「女性」を 5.5 ポイント上回っている。



■ 耐震性があることを確認した
 ■ 耐震性がなかったため、耐震改修工事(建て替え)を実施した
 ■ 耐震性はなかったが、耐震改修工事は考えていない
 ■ 耐震性がなかったため、耐震改修工事(建て替え)を考えている
 ■ 無回答

＜生活形態別＞

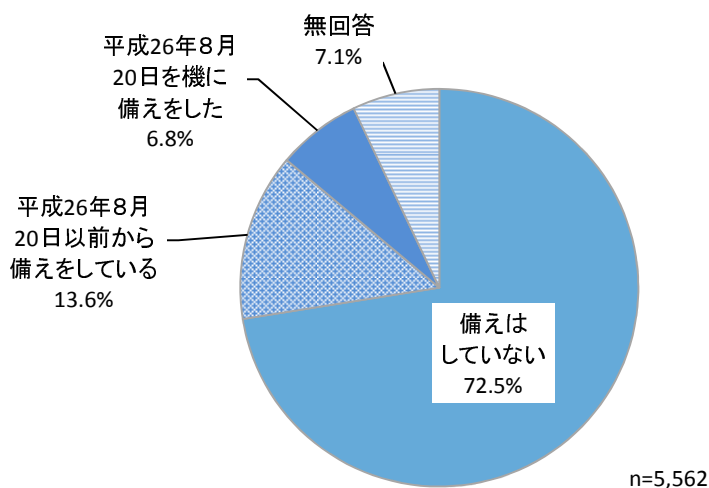
各分類で「耐震性があることを確認した」が最も多く、「家事や育児で在宅」では74.1%となっている。「農林漁業」では「耐震性がなかったため、耐震改修工事(建て替え)を実施した」も同率1位(50.0%)となっている。



平成 26 年 8 月 20 日の土砂災害以降の備えの有無

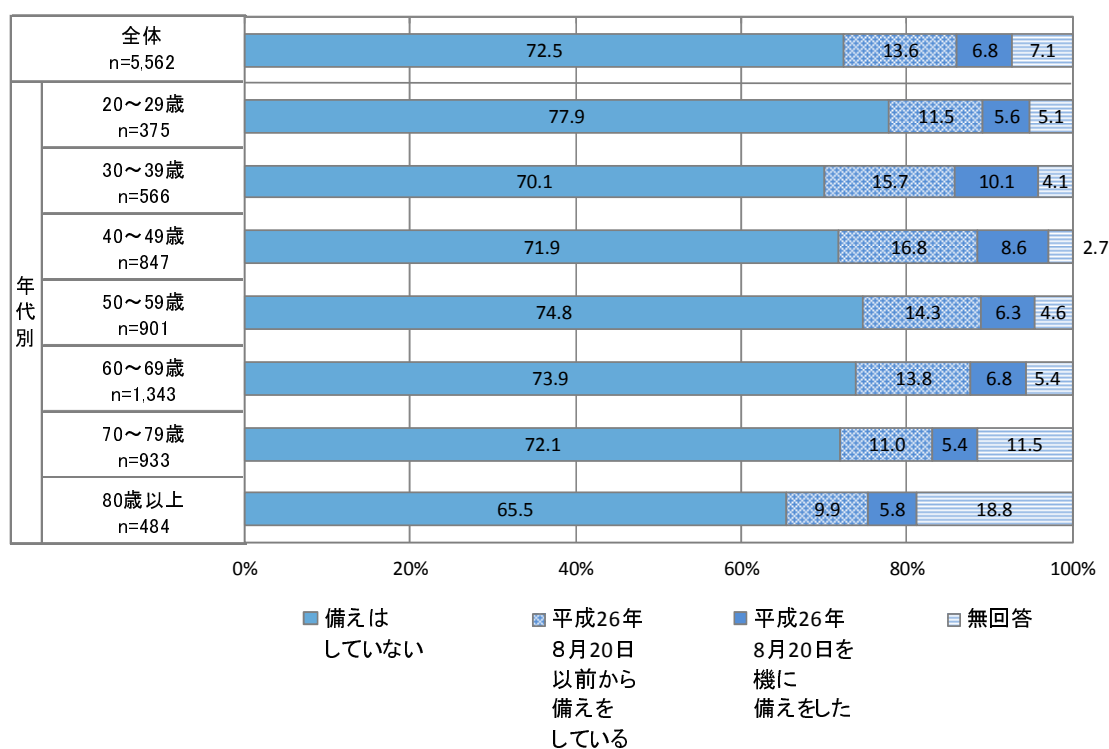
問 36.平成 26 年 8 月 20 日に広島市で発生した土砂災害以降、家庭、地域などで、災害への備えをされましたか。（単一回答）

「備えはしていない」（72.5%）、「平成 26 年 8 月 20 日以前から備えをしている」（13.6%）、「平成 26 年 8 月 20 日を機に備えをした」（6.8%）の順に多い。



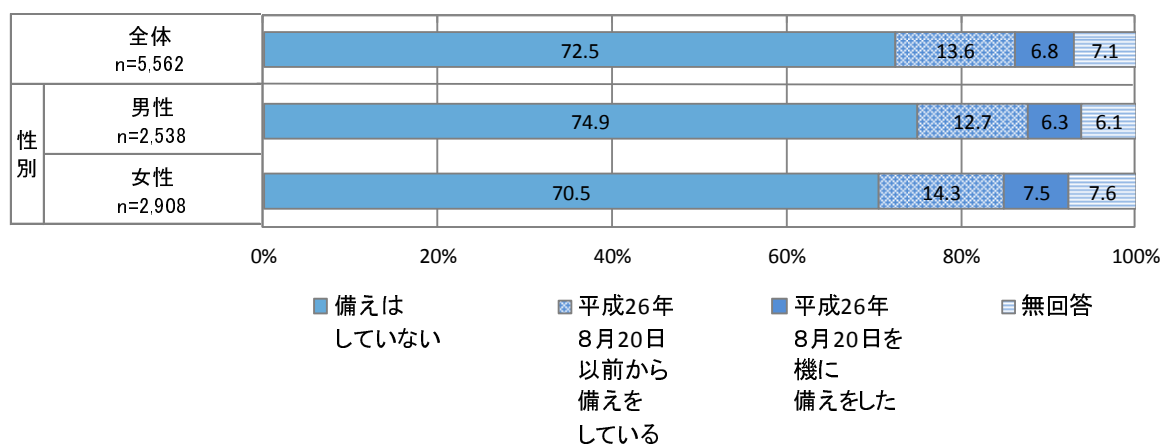
<年代別>

『備えをしている』（「平成 26 年 8 月 20 日以前から備えをしている」と「平成 26 年 8 月 20 日を機に備えをした」の合計）は「30～39 歳」で 25.8%と最も多く、年代が上がるにつれ少なくなっている。



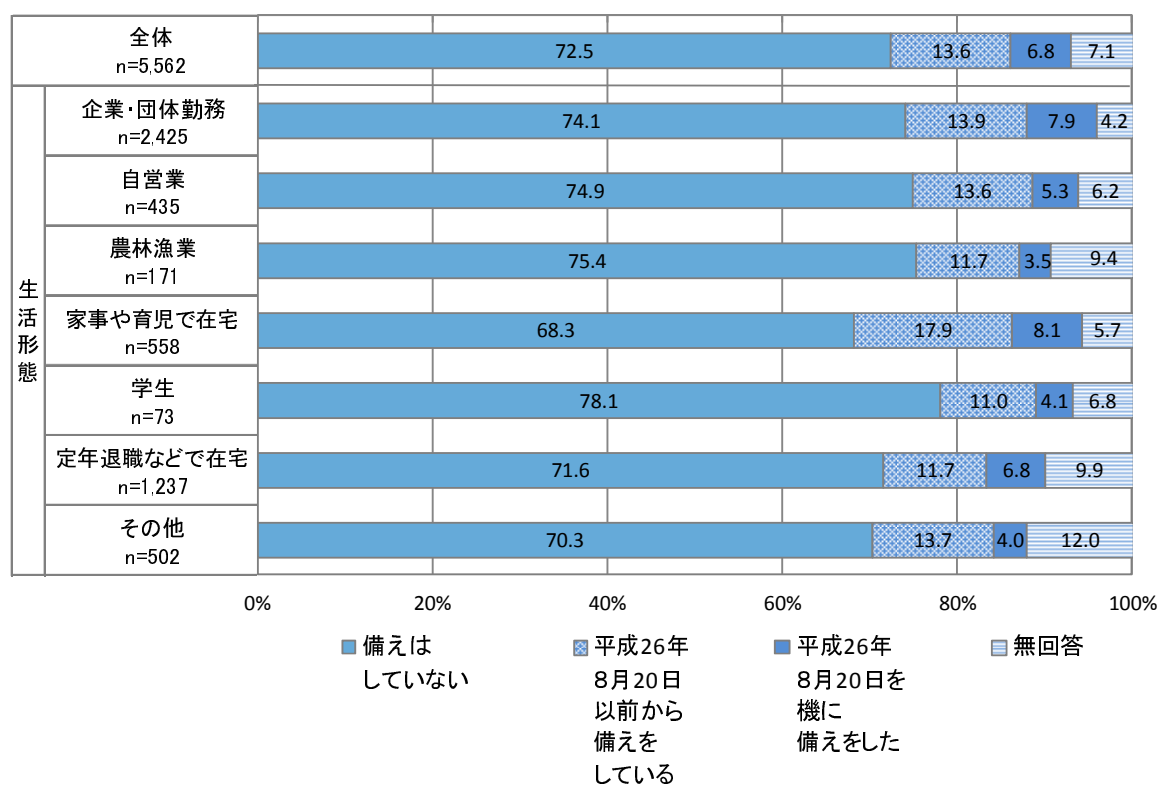
<性別>

男女とも「備えはしていない」が最も多く 7 割を超えており、「男性」が「女性」を 4.4 ポイント上回っている。



<生活形態別>

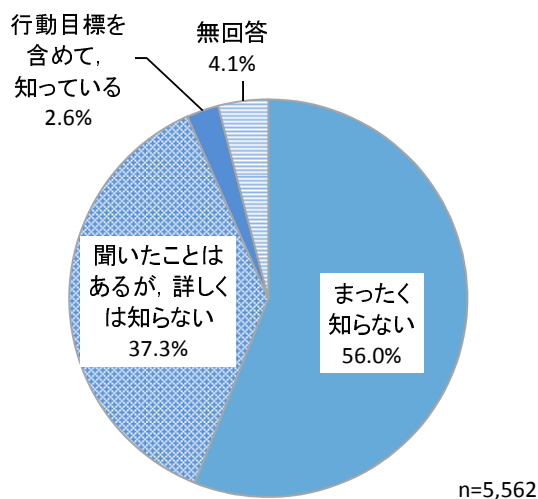
『備えをしている』は「家事や育児で在宅」(26.0%)、「企業・団体勤務」(21.8%)で多く、他の分類が 1 割台であるのに対し 2 割を超えている。



「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度

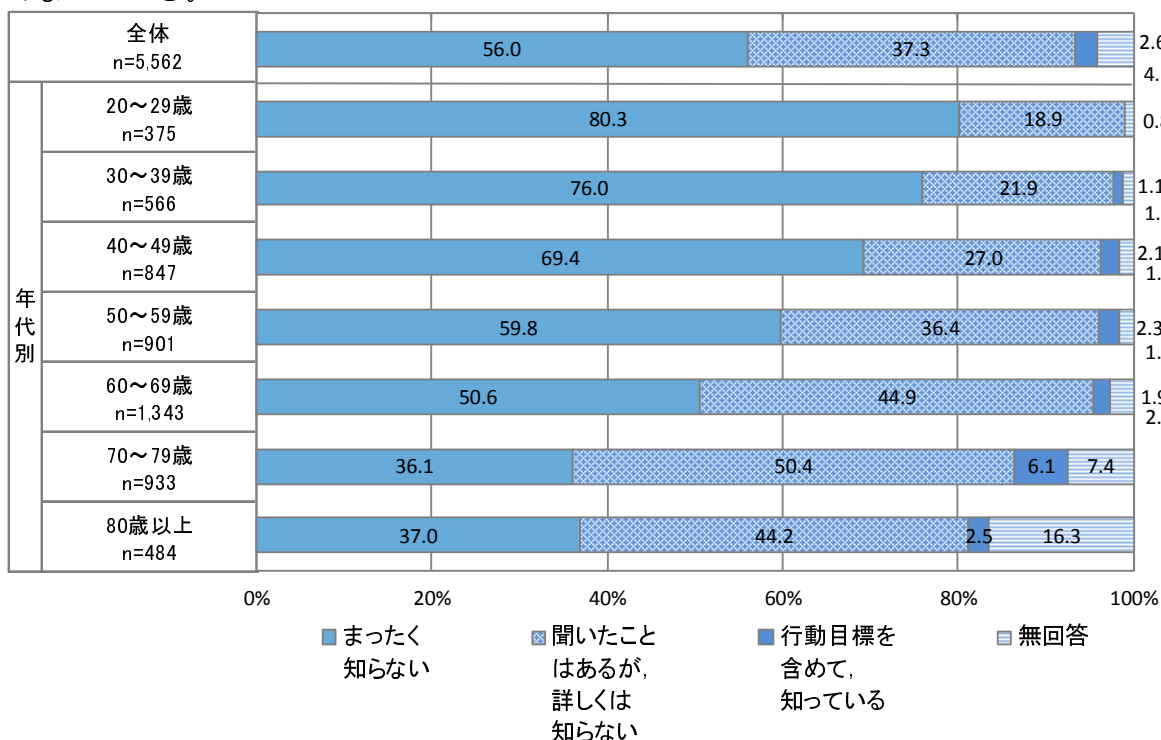
問 37.県では、平成 27 年 4 月から、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動を御存じですか。（単一回答）

「まったく知らない」(56.0%)、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」(37.3%)、「行動目標を含めて、知っている」(2.6%) の順に多い。



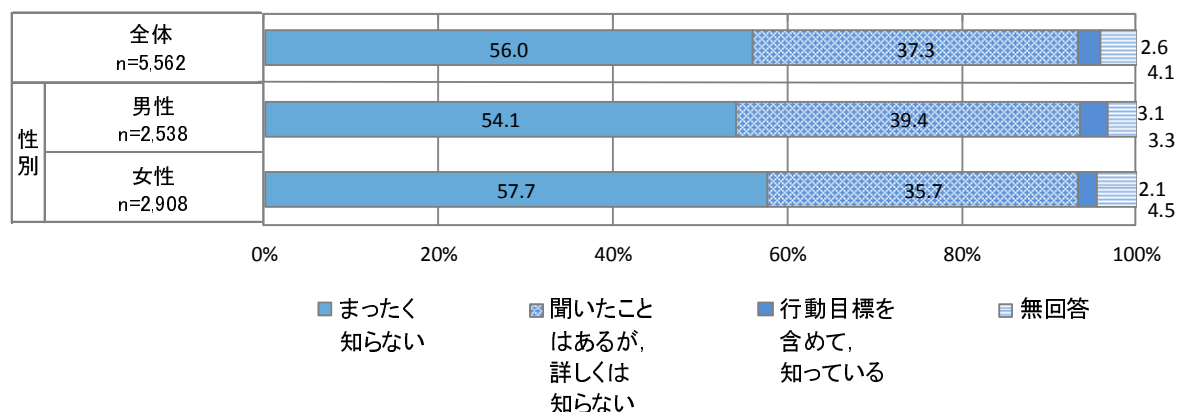
＜年代別＞

「80 歳以上」を除き「聞いたことはあるが詳しくは知らない」は年代が上がるにつれ多くなっている。



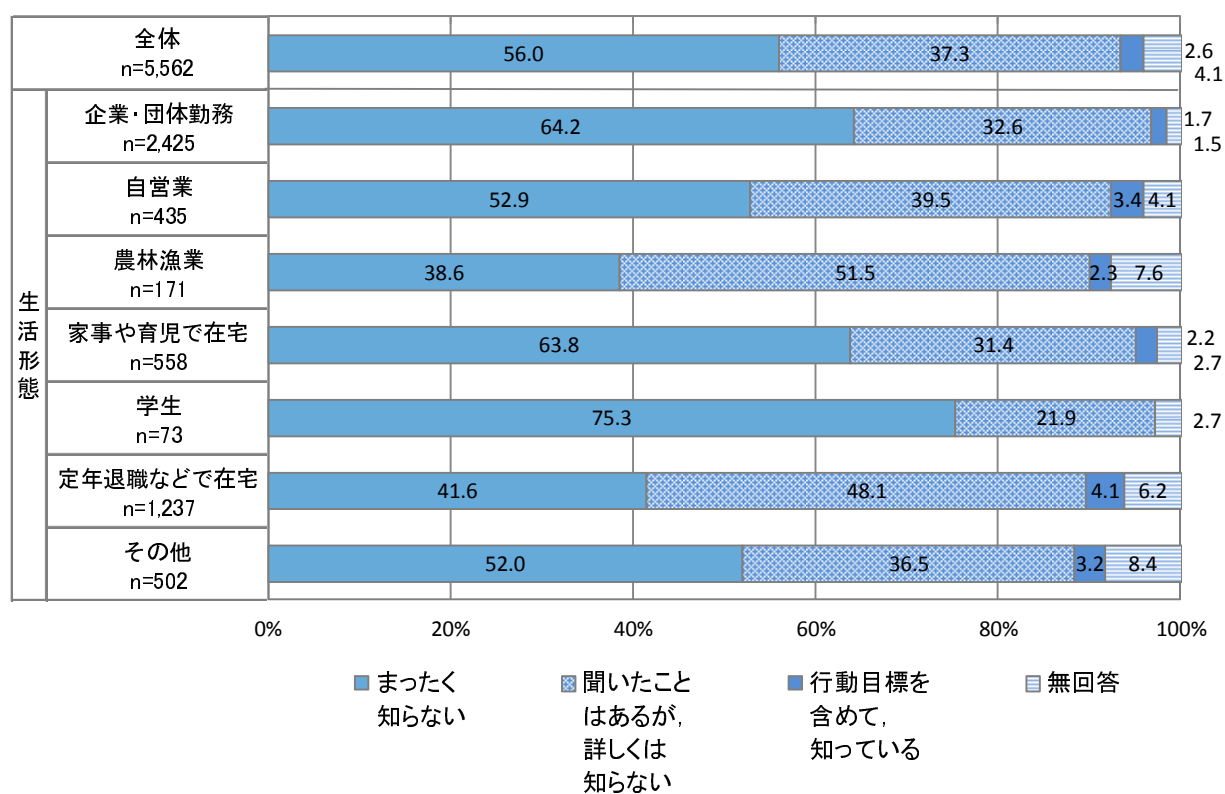
<性別>

性別による意識の差はあまりみられない。



<生活形態別>

「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」は「農林漁業」、「定年退職などで在宅」で5割前後となり、他の割合が2割～4割弱となっているのに対し多くなっている。

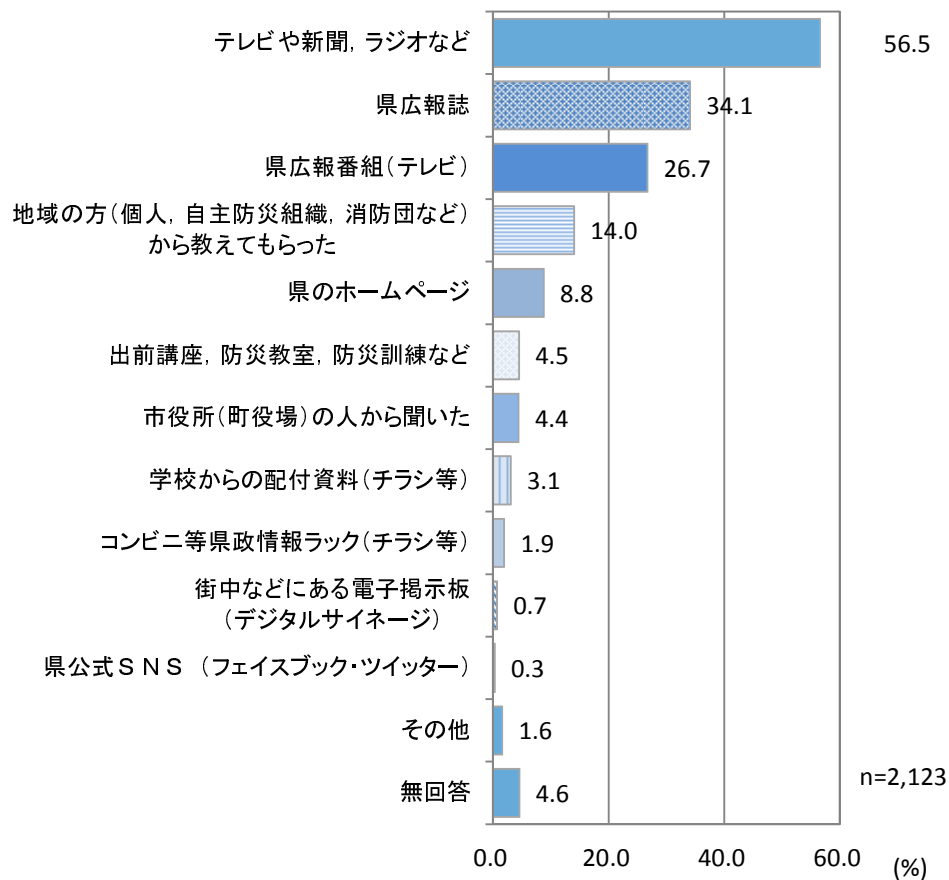


「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけ

問 37 で「1 行動目標を含めて、知っている」又は「2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない」を回答した人にお尋ねします。

問 38.この運動を何で知りましたか。（複数回答）

「テレビや新聞、ラジオなど」（56.5%）、「県広報誌」（34.1%）、「県広報番組（テレビ）」（26.7%）の順に多い。



その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- ・町内会・自治会（10 件）
- ・職場（8 件）
- ・覚えていない(4 件)
- ・今回のアンケートで(3 件)
- ・必要ない(26 件)
- ・高齢のため関心を持っていない
- ・入院中のため情報不足 等

<年代別>

全ての年代で上位 3 項目は同様であり、「テレビや新聞,ラジオなど」は最も多く 5 割弱～6 割台半ばとなっている。

		回答 件数 計	ら 主 地 域 の 方 （ 個 人 主 防 災 組 織 （ 教 育 防 火 自 ら た つ た ）	市 役 所 （ 町 役 場 ） の 人 か ら 聞 か れ た こ と	学 校 か ら の 配 付 資 料 （ チ ラ シ 等 ）	ラ ン ク ビ ニ （ チ ラ シ 等 ） （ チ ラ シ 等 ）	県 の ホ ー ム ペ ー ジ	出 前 講 座 、 防 災 訓 練 な ど	県 広 報 誌	県 広 報 番 組 （ テ レ ビ ）	県 公 式 ブ ッ ク ・ ツ ・ フ ェ イ ー ス （ ）	掲 示 板 な ど に あ る 電 子 メ ー ジ （ ）	街 中 な ど に あ る 電 子 メ ー ジ （ ）	オ ナ ン ド ビ ヤ 新 聞 ・ ラ ジ オ	そ の 他	無 回 答
全体		2,123	298 14.0	94 4.4	65 3.1	41 1.9	186 8.8	96 4.5	723 34.1	567 26.7	6 0.3	15 0.7	1,200 56.5	34 1.6	97 4.6	
年 代 別	20～29歳	71	7 9.9	1 1.4	6 8.5	8 11.3	7 9.9	5 7.0	19 26.8	18 25.4	0 0.0	3 4.2	36 50.7	2 2.8	0 0.0	
	30～39歳	127	7 5.5	3 2.4	11 8.7	9 7.1	21 16.5	2 1.6	27 21.3	35 27.6	0 0.0	3 2.4	58 45.7	1 0.8	3 2.4	
	40～49歳	239	14 5.9	5 2.1	25 10.5	4 1.7	32 13.4	6 2.5	64 26.8	56 23.4	4 1.7	1 0.4	113 47.3	8 3.3	8 3.3	
	50～59歳	341	36 10.6	8 2.3	10 2.9	3 0.9	40 11.7	7 2.1	120 35.2	102 29.9	1 0.3	2 0.6	176 51.6	5 1.5	8 2.3	
	60～69歳	605	73 12.1	36 6.0	7 1.2	7 1.2	50 8.3	23 3.8	231 38.2	173 28.6	1 0.2	4 0.7	348 57.5	7 1.2	24 4.0	
	70～79歳	497	109 21.9	27 5.4	5 1.0	5 1.0	22 4.4	37 7.4	179 36.0	127 25.6	0 0.0	1 0.2	321 64.6	7 1.4	30 6.0	
	80歳以上	206	43 20.9	12 5.8	1 0.5	4 1.9	11 5.3	14 6.8	68 33.0	48 23.3	0 0.0	1 0.5	132 64.1	4 1.9	20 9.7	

<性別>

男女とも全ての分類で上位 3 項目は同様であるが、「県のホームページ」は「男性」が「女性」を 5.4 ポイント上回っている。

		回答 件数 計	地域 の 防 災 組 織 （ 個 人 ・ 団 体 ） 主 な 防 災 活 動 の 実 施 状 況	市 役 所 （ 町 ・ 村 ・ 区 ） の 防 災 活 動 の 実 施 状 況	学 校 ・ 幼 児 園 ・ 保 育 園 （ 町 ・ 村 ・ 区 ） の 防 災 活 動 の 実 施 状 況	ラ ン ク ・ ビ ニ 等 の 防 災 活 動 の 実 施 状 況	県 の ホ ー ム ペ ー ジ	出 前 講 座 ・ 防 災 訓 練 な ど	県 広 報 誌	県 広 報 番 組 （ テ レ ビ ）	県 公 式 ブ ッ ク ・ Ｓ ・ Ｔ （ フ ェ ッ ク ）	街 中 な ど に あ る 電 子 掲 示 板 （ デ ジ タ ル サ イ ン ）	テ レ ビ や 新 聞 ・ ラ ジ オ	そ の 他	無 回 答
全体		2,123	298 14.0	94 4.4	65 3.1	41 1.9	186 8.8	96 4.5	723 34.1	567 26.7	6 0.3	15 0.7	1,200 56.5	34 1.6	97 4.6
性別	男性	1,036	140 13.5	53 5.1	23 2.2	20 1.9	119 11.5	41 4.0	352 34.0	281 27.1	5 0.5	5 0.5	589 56.9	15 1.4	43 4.2
	女性	1,049	148 14.1	39 3.7	42 4.0	20 1.9	64 6.1	52 5.0	356 33.9	277 26.4	1 0.1	10 1.0	593 56.5	19 1.8	50 4.8

＜生活形態別＞

全ての分類で上位 3 項目は同様であるが、「地域の方（個人、自主防災組織、消防団など）から教えてもらった」は「自営業」、「農林漁業」で 2 割弱（ともに 19.0%）となっており、他の分類と比較して多い。

		回答 件数 計	ら 主 な 地 域 の 方 （ 個 人 ・ 主 防 災 組 織 ） か ら 教 え て も な ど つ た	市 役 所 （ 町 役 場 ） の 人 か ら 聞 い た	学 校 か ら の 配 付 資 料 （ チ ラ シ 等 ）	ラ ン ク ビ ニ （ チ ラ シ 等 ） の 情 報	県 の ホ ー ム ペ ー ジ	出 前 講 座 、 防 災 訓 練 な ど	県 広 報 誌	県 広 報 番 組 （ テ レ ビ ）	県 公 式 サ イ ツ （ フ ェ イ ク ス ）	街 中 な ど に あ る 電 子 シ グ ナ ル	テ レ ビ や 新 聞 、 ラ ジ オ	そ の 他	無 回 答
全体		2,123	298 14.0	94 4.4	65 3.1	41 1.9	186 8.8	96 4.5	723 34.1	567 26.7	6 0.3	15 0.7	1,200 56.5	34 1.6	97 4.6
生活 形 態 別	企業・団体勤務	808	72 8.9	30 3.7	35 4.3	25 3.1	109 13.5	22 2.7	242 30.0	221 27.4	5 0.6	9 1.1	415 51.4	16 2.0	24 3.0
	自営業	179	34 19.0	12 6.7	10 5.6	2 1.1	5 2.8	7 3.9	62 34.6	49 27.4	0 0.0	2 1.1	96 53.6	4 2.2	8 4.5
	農林漁業	84	16 19.0	6 7.1	0 0.0	1 1.2	3 3.6	6 7.1	36 42.9	19 22.6	0 0.0	0 0.0	51 60.7	0 0.0	8 9.5
	家事や育児で在宅	183	25 13.7	5 2.7	9 4.9	2 1.1	12 6.6	9 4.9	80 43.7	51 27.9	1 0.5	1 0.5	95 51.9	0 0.0	4 2.2
	学生	16	1 6.3	0 0.0	3 18.8	0 0.0	3 18.8	0 0.0	6 37.5	5 31.3	0 0.0	0 0.0	8 50.0	0 0.0	0 0.0
	定年退職などで在宅	614	109 17.8	30 4.9	6 1.0	6 1.0	32 5.2	37 6.0	220 35.8	165 26.9	0 0.0	1 0.2	388 63.2	9 1.5	32 5.2
	その他	185	30 16.2	8 4.3	1 0.5	4 2.2	18 9.7	12 6.5	60 32.4	40 21.6	0 0.0	2 1.1	119 64.3	5 2.7	14 7.6

※下記 2 問に関しては、別途資料にて取りまとめを行ったため、本報告書からは割愛している。

問 39 あなたは、防災・減災についてどんなことから取り組んでみたいと思いますか。

問 40 防災・減災について自由な御意見をお願いします。

IV 調査票

防災・減災に関するアンケートへのご協力をお願い

日頃から県行政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

広島県では、平成 26 年 8 月の土砂災害の教訓を踏まえ、県民の皆様お一人お一人に、いつ、どこで起きるかも分からない自然災害から、ご自分の命を守るための行動をとっていただくことができるよう、本年 4 月から、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を展開しています。

この度、この運動の推進にあたり、防災・減災に関する県民のみなさまの意識や行動内容及び情報の入手手段などの実態を把握して、今後の防災・減災対策に活かすため、防災・減災に関するアンケートを行うことにいたしました。

このアンケートは県内にお住まいの 20 歳以上の方 10,000 人を選挙人名簿から無作為に選んで行うものです。調査で得た結果はすべて統計的に処理をし、調査以外の目的では使用いたしませんので、皆様にご迷惑がかかることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、自然災害による死者ゼロの実現をめざし、この取組を今後、さらに効果的に進めていくため、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成 27 年 10 月

広島県危機管理監減災対策推進担当

ご記入にあたってのお願い

- 質問は、全部で **40** 問あります。ご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。
ご本人の記入が難しい場合は、ご本人の意向を確認いただき、ご家族の方等がご記入ください。
 - 全体で **15** 分程度かかります。記入へのご協力をお願いします。
 - ご回答は、番号に○をしてください。「その他」は〔 〕内に内容を具体的にご記入ください。
 - ご回答は、設問ごとに〔○は 1 つ〕〔○はいくつでも〕など指定されていますので、ご注意ください。
 - お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、今回の目的以外に利用することは一切ありません。調査、分析は、株式会社東京商エリサーチに委託して実施しておりますが、同社におきましても個人情報の保護については徹底いたします。
 - ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒で **10 月 26 日（月）**までに投函してください。
- 切手は不要です。また、封筒にあなたのご住所、お名前を記入する必要はありません。

広島県危機管理監減災対策推進担当（担当：原田）
住 所：〒730-8511 広島市中区基町 10 番 52 号
電 話：082-513-2781
FAX：082-227-2122
Eメール：gensai@pref.hiroshima.jp

I あなたのことについてお尋ねします。

問1 お住まいの市区町名を教えてください。

(該当する番号に○を1つ)

- | | | | | | | | |
|-----------|---------|-----------|----------|-----------|----------|---------|--------|
| 1. 中区 | 2. 東区 | 3. 南区 | 4. 西区 | 5. 安佐南区 | 6. 安佐北区 | 7. 安芸区 | 8. 佐伯区 |
| 9. 呉市 | 10. 竹原市 | 11. 三原市 | 12. 尾道市 | 13. 福山市 | 14. 府中市 | 15. 三次市 | |
| 16. 庄原市 | 17. 大竹市 | 18. 東広島市 | 19. 廿日市市 | 20. 安芸高田市 | 21. 江田島市 | | |
| 22. 府中町 | 23. 海田町 | 24. 熊野町 | 25. 坂町 | 26. 安芸太田町 | 27. 北広島町 | | |
| 28. 大崎上島町 | 29. 世羅町 | 30. 神石高原町 | | | | | |

問2 お住まいのある場所は次のどれに当たりますか。

(1) お住まいは次のどの地域にありますか。(○は1つ)

- 1 沿岸部
- 2 島嶼部
- 3 内陸部・山間部
- 4 その他 ()

(2) お住まいの場所や周囲の状況について、お答えください。(○はいくつでも)

- 1 なだらかな山の裾野にある
- 2 近くに急峻な山がある
- 3 山に挟まれた谷間にある
- 4 川の側にある
- 5 市街地にある
- 6 海沿いにある
- 7 周囲の地形は平坦である

問 3 年齢はどれにあてはまりますか。(平成 27 年 4 月 1 日時点)(○は 1 つ)

- 1 20～29 歳
- 2 30～39 歳
- 3 40～49 歳
- 4 50～59 歳
- 5 60～69 歳
- 6 70～79 歳
- 7 80 歳以上

問 4 あなたの性別をお答えください。(○は 1 つ)

- 1 男性
- 2 女性

問 5 主としてどのような生活形態ですか。(○は 1 つ)

- 1 企業・団体等で勤務している（正規の従業員，パート，派遣社員など）
- 2 自営業を営んでいる
- 3 農・林・漁業を営んでいる
- 4 家事や育児などで在宅している
- 5 学生
- 6 定年退職などで在宅している
- 7 その他（ ）

問 6 あなたのお住まいは次のどれに当たりますか。(○は 1 つ)

3，4 の場合は（ ）欄に階数を数字で記入してください。

- 1 一戸建て住宅（木造住宅）
- 2 一戸建て住宅（鉄骨造住宅）
- 3 2 階建て以下の集合住宅の （ ） 階
- 4 3 階建て以上の集合住宅の （ ） 階

問7 現在、あなたと同居している方についてお尋ねします。

(1) 同居している方はどなたですか。(○はいくつでも)

- 1 配偶者
- 2 親
- 3 乳幼児（未就学児）
- 4 小学生の子ども
- 5 中学生以上の子ども
- 6 親戚や知り合いなど
- 7 同居している人はいない（一人暮らし）
- 8 その他（ ）

(2) 1～6に○をつけた方にお尋ねします。同居している方のうち、災害時に自力で避難することが困難な方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

- 1 いる
- 2 いない

問8 地域での防災活動への関わりについて教えてください。(○はいくつでも)

- 1 自主防災組織で活動している
- 2 自主防災組織で役員等をしている
- 3 消防団・水防団に所属している
- 4 関わりはない
- 5 その他（ ）

問9 あなたは、町内会・自治会に入っていますか。

また、町内の人々とどれくらい親しく付き合っていますか。(○は1つ)

- 1 町内会・自治会に入っていて、町内に親しく付き合っている人がいる。
- 2 町内会・自治会に入っていて、会えば挨拶をする程度の人がある。
- 3 町内会・自治会に入っているが、町内の人とつきあいがいい。
- 4 町内会・自治会に入っていない。

Ⅱ あなたの災害に対する意識等についてお尋ねします

【災害への関心について】

問1 自然災害についての考えをお答えください。(〇は1つ)

- 1 以前から身近に感じている
- 2 最近、身近に感じるようになった
- 3 身近なことだとは思いますが、普段は意識しない
- 4 身近なことと思っていない

問2 あなたは、どの災害について特に知りたいと思っていますか。(○はいくつでも)

- 1 地震 2 津波 3 台風(暴風雨) 4 豪雨
5 河川の氾濫 6 高潮 7 土砂災害 8 豪雪・雪崩
9 その他 ()

【災害危険性の認知度について】

問3 あなたの身の周りで、どのような災害の危険性が想定されているか御存知ですか。
(7又は8以外は○はいくつでも)

※県の防災 Web や、市町のハザードマップ※1などで災害危険箇所を公開しています。

- | | | | | |
|---|-----------------|---|------|---|
| 1 | 地震の危険性 | } | → 問4 | へ |
| 2 | 津波で浸水する危険性 | | | |
| 3 | 川の氾濫による浸水の危険性 | | | |
| 4 | 内水氾濫※2による浸水の危険性 | | | |
| 5 | 高潮による浸水の危険性 | | | |
| 6 | 土砂災害の危険性 | } | → 問5 | へ |
| 7 | 災害の危険性はない | | | |
| 8 | どんな危険性があるか知らない | | | |
| | | | → 問6 | へ |

※1 自然災害（地震・津波・洪水・土砂災害等）による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

※2 川の水位の上昇や流域内の多量の降雨などにより、河川外における住宅地などの排水が困難となり浸水すること

問 4 問 3 で「1～6」を回答した人にお尋ねします。

(1) 災害の危険性は、どのようなきっかけで知りましたか。(〇はいくつでも)

- | | | | |
|----|----------------------------------|-----------|---|
| 1 | 自分で調べた | → (2) へ | |
| 2 | 家族に聞いた (話し合った) | } → (3) へ | |
| 3 | 地域の方 (個人, 自主防災組織, 消防団) から教えてもらった | | |
| 4 | 地域の住民ではない友人や知人から教えてもらった | | |
| 5 | 市役所 (町役場) の人から聞いた | | |
| 6 | 職場で教えてもらった | | |
| 7 | 学校で教えてもらった | | |
| 8 | 自ら災害を体験した | | |
| 9 | 家族 (親戚)・知人が災害を体験した | | |
| 10 | その他 (| |) |

(2) 問 4 の (1) で「1 自分で調べた」を回答した人にお尋ねします。

災害の危険性を知ろうと思った大きなきっかけは何ですか。

(〇は 3 つまで)

- 1 昨年, 広島市で大規模災害があったから
- 2 近年, 各地で災害が起きているから
- 3 防災教室, 出前講座, 防災訓練, 防災イベントで教わったから
- 4 子どもが学校で確認するよう教わったから
- 5 テレビ, 新聞, ラジオなどで見聞きしたから
- 6 県・市町のホームページ, 広報誌, 広報番組で見聞きしたから
- 7 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を知ったから
- 8 自主防災組織や町内の人から勧められたから
- 9 市役所 (町役場) の人から勧められたから
- 10 自分が災害を経験したから
- 11 家族 (親戚)・知人が災害を体験したから
- 12 インターネット上の記事や情報を見たから
- 13 職場で勧められたから
- 14 地域の住民ではない友人や知人から勧められたから
- 15 その他 ()

(3) 災害の危険性を確認した方法を教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ
- 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ※
- 3 県の防災Web や市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所、
土砂災害警戒区域・特別警戒区域、洪水・高潮・津波浸水想定区域等
- 4 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 5 実際に地域を歩いてみた
- 6 その他 ()

→問7へすすんでください。

問5 問3で「7 災害の危険性はない」と回答した人にお尋ねします。

災害の危険性はないとされた理由は何ですか。(〇は1つ)

- 1 ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどした結果
- 2 ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどはしていないが、
危険性はないと思っている
- 3 ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどはしていないが、
地域でこれまで災害が起こっていないから
- 4 その他 ()

問 6 問3で「8 どんな危険性があるか知らない」と回答した人にお尋ねします。
危険性を知らない理由を教えてください。(○はいくつでも)

- 1 知りたいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない
- 2 知りたいが、忙しくて確認する時間がない
- 3 知りたいが、調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい
- 4 危険性を確認する必要性を感じない
- 5 災害が起きたらその時はその時だと思っている
- 6 その他（ ）

【避難場所等の確認状況について】

問 7 お住まいから最も近い避難場所を確認していますか。(○は1つ)

- 1 確認している → 問 8 へ
- 2 確認していない → 問 11 へ

問 8 問7で避難場所を「1 確認している」と回答した人にお尋ねします。
その避難場所は、どの災害（地震，津波，土砂災害，高潮，洪水）にも対応が可能ですか。(○は1つ)

- 1 対応できない災害がある → 問 9 へ
- 2 対応可能である → 問 10 へ
- 3 知らない（分からない） → 問 11 へ

問 9 問8で「1 対応できない災害がある」と回答した人にお尋ねします。
一か所の避難場所では対応できない場合、災害の種類に応じた避難場所を確認していますか。(○は1つ)

- 1 確認している → 問 10 へ
- 2 確認していない → 問 11 へ

問 10 避難場所は何で確認しましたか。(〇はいくつでも)

- 1 県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ
- 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ
- 3 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 4 実際に地域を歩いてみた
- 5 地域の方（個人、自主防災組織、消防団など）から避難場所を教えてもらった
- 6 市役所（町役場）の人から聞いた
- 7 その他（ ）

問 11 避難場所までの避難経路を災害の種類に応じて確認されていますか。(〇は1つ)

※ハザードマップなどをもとに避難経路上の危険箇所・迂回路の有無などを含めて確認しているかどうかお答えください。

- 1 実際に歩いて確認している
- 2 実際に歩いてはいないが、確認している
- 3 避難経路は確認しているが、災害の種類に応じてではない
- 4 確認していない

問 12 問 7 で避難場所を「2 確認していない」、問 11 で避難経路を「4 確認していない」を回答した人にお尋ねします。

避難場所・避難経路を確認していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 確認したいが、誰（どこに）に聞いたらよいか分からない
- 2 確認したいが、忙しくて確認する時間がない
- 3 確認したいが、県や市町などが提供する情報が分かりにくい
- 4 確認する必要性を感じない
- 5 災害が起きたらその時はその時だと思っている
- 6 その他（ ）

【気象情報や避難情報等の認知度について】

問 13 次の区分による名称とその意味を御存知ですか。

(該当する数字を○で囲んでください。)

区 分	知っている	名称は知っているが、意味は知らない	知らない
(1) (大雨・洪水などの) 注意報	1	2	3
(2) (大雨・洪水などの) 警報	1	2	3
(3) 土砂災害警戒情報	1	2	3
(4) (大雨・洪水などの) 特別警報	1	2	3

問 14 「避難準備情報」、「避難勧告」及び「避難指示」についてお尋ねします。

(1) 「避難準備情報」、「避難勧告」及び「避難指示」の情報の名称と、これらは、どんな時に発令されるか御存知ですか。下記 1～4 の中から、当てはまる数字をそれぞれ 1 つお選びください。

- 1 どのような時に発令されるのかよく知っている
- 2 どのような時に発令されるのか、だいたい知っている
- 3 名称は知っているが、内容は知らない
- 4 名称を知らない

区 分	防災情報の認知度
避難準備情報	
避難勧告	
避難指示	

(2) 「避難準備情報」、「避難勧告」及び「避難指示」が発令された場合、どのような行動が必要となりますか。下記 1～3 の中から、当てはまる数字をそれぞれ 1 つお選びください。

- 1 避難行動に時間を要する人は、避難行動を開始
- 2 避難行動を開始
- 3 避難中の人、避難行動を直ちに完了
又は、避難行動を行っていない人は、直ちに避難行動に移る

区 分	必要な行動
避難準備情報	
避難勧告	
避難指示	

問 15 土砂災害には、「土石流」、「がけ崩れ」、「地すべり」の３種類があります。これらの災害が発生するときには、前兆現象が現れることがあります。前兆現象にはどのようなものがあるか御存知ですか。下記１～４の中から、当てはまる数字をそれぞれ１つお選びください。

- 1 よく知っている
- 2 だいたい知っている
- 3 ほとんど知らない
- 4 まったく知らない

区 分	前兆現象の認知度
土 石 流	
がけ崩れ	
地すべり	

問 16 問 13で「気象情報の意味」を「知っている」、問 14で「避難準備情報、避難勧告、避難指示の意味」を「1 よく知っている」、「2 だいたい知っている」と回答した方にお尋ねします。これらは、どうやって知りましたか。(○は3つまで)

- 1 県又は市町のホームページ
- 2 出前講座，防災教室，防災訓練など
- 3 県の広報誌や広報番組など
- 4 テレビや新聞，ラジオなど
- 5 地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった
- 6 市役所（町役場）の人から聞いた
- 7 職場で教えてもらった
- 8 学校で教えてもらった
- 9 その他（ ）

問 17 大雨や台風の際に、自らの命を守るために、次の情報を、どこから入手しますか。下記 1～13の中から、当てはまる数字をお選びください。（それぞれ 3 つまで）

- 1 テレビ（天気予報を含む）
- 2 テレビのデータ放送※
- 3 ラジオ
- 4 インターネット（県防災 Web，気象庁ホームページ等）
- 5 県や市町の防災情報メール
- 6 防災行政無線
- 7 ツイッターやフェイスブックなど SNS
- 8 市町の広報車
- 9 町内会や自主防災組織から
- 10 消防署や消防団から
- 11 家族，友人，近所の方から
- 12 入手しない
- 13 その他（ ）

※テレビのリモコンの d ボタンを押すと，雨量・水位などの観測データや気象予警報，土砂災害警戒情報などの情報を見たいときにいつでも見ることができるサービス

情報の種類	第 1	第 2	第 3	その他（13）を選んだ場合，その内容
雨量や水位，風速に関する情報				（ ）
注意報，警報，土砂災害警戒情報				（ ）
避難に関する情報				（ ）

問 18 県及び市町では、登録者に防災情報メール※をお送りしています。

このことを、御存じですか。（○は一つ）

※大雨や洪水に関する注意報や警報，土砂災害警戒情報及び地域の雨量などの情報を防災情報メールで登録者の携帯電話，スマートフォンなどにお知らせしています。防災情報メールの登録方法については，県防災 Web に掲載しています。

- | | |
|-------------------|----------|
| 1 知っており，登録もしている | → 問 20 へ |
| 2 知っているが，登録しない | → 問 19 へ |
| 3 知らないが，今後登録したい | → 問 20 へ |
| 4 知らないし，登録も考えていない | → 問 19 へ |

問 19 問 18 で「2 知っているが，登録しない」，「4 知らないし，登録も考えていない」と回答した人にお尋ねします。その理由は何ですか。（○は 3 つまで）

- | | |
|-------------------------|---|
| 1 登録方法を知らないから | |
| 2 登録方法が複雑だから | |
| 3 防災情報アプリなど，他の入手方法があるから | |
| 4 生活圏は安全だから登録する必要性がない | |
| 5 パソコンや携帯電話を持っていないから | |
| 6 役に立たないから（情報が少ないから） | |
| 7 その他（ | ） |

【避難行動について】

問 20 大雨や台風による災害が想定されるとき，あなたはどの時点で避難行動を開始しますか。（○は一つ）

- | | | |
|----------------------|---|----------|
| 1 市町が避難準備情報を発令したとき | } | → 問 22 へ |
| 2 市町が避難勧告を発令したとき | | |
| 3 市町が避難指示を発令したとき | | |
| 4 近所の人が避難を始めたとき | | |
| 5 近所の人に避難を促されたとき | | |
| 6 1～3に関わらず，自分で判断したとき | } | → 問 21 へ |
| 7 その時になってみないとわからない | | |
| 8 行動をとらない | | |

問 21 問 20 で「7 その時になってみないとわからない」又は「8 行動をとらない」と回答した人にお尋ねします。その理由は何ですか。（〇はいくつでも）

- 1 自宅が安全だから、自宅内の退避で足りると思うから
- 2 避難する途中に災害にあうかもしれないから
- 3 どこに避難したらよいかわからないから
- 4 避難場所が遠いから
- 5 自分又は家族に高齢者や乳幼児、体が不自由な人がいるため避難が困難だから
- 6 理由は特にない
- 7 その他（ ）

問 22 避難行動のうち知っているものはどれですか。（〇はいくつでも）

- 1 避難場所への移動
- 2 （自宅等から移動しての）安全な場所への移動（公園、親戚や友人の家など）
- 3 近隣の高い建物、強度の強い建物等への移動
- 4 建物内の安全な場所での退避
- 5 知らない

問 23 あなたのお住まいの地域では、災害時にお互いに避難を呼びかけることなどについて、どのような体制が整えられていますか。（4 又は 5 以外は〇はいくつでも）

- 1 自ら避難することが困難な人の避難支援を行うこととしている
- 2 隣近所などで、お互いに避難を呼びかけることとしている
- 3 連絡網を作成している
- 4 地域で避難を呼びかける体制はない
- 5 どのような体制になっているか知らない

【防災教室・防災訓練への参加について】

問 24 あなたは、過去 1 年間に、地域や職場・学校で防災活動（防災教室や防災訓練等）に参加したことがありますか。（〇は 1 つ）

- 1 地域と職場・学校の両方の防災活動に参加した
- 2 地域の防災活動に参加したが、職場・学校の防災活動には参加していない
- 3 職場・学校の防災活動に参加したが、地域の防災活動には参加していない
- 4 防災活動が行われたのは知っているが、参加していない
- 5 防災活動が行われたかどうか知らない

問 24 で「1～3 防災活動に参加した」と回答した人は参加内容を、
「4, 5 参加していない」と回答した人は今後の参加意向をお答えください。
(○はいくつでも)

- 問 26 問 24 で「4 防災活動が行われたのは知っているが、参加していない」と回答した人にお尋ねします。

- 1 他に用事があったから
- 2 忙しいから
- 3 防災活動に参加する必要性を感じないから
- 4 防災活動に関心がないから
- 5 その他 ()

- 1 テレビ
- 2 新聞
- 3 フリーペーパー，タウン情報誌等
- 4 町内会の回覧
- 5 県又は市町のホームページ，広報誌
- 6 職場，学校を通じた周知
- 7 その他（ ）

問 28 広島県では、全県民を対象に、「一斉防災教室」・「一斉地震防災訓練」を実施しましたが、参加されましたか。(○は1つ)

※ 一斉防災教室：5月から6月にかけて行った、梅雨への備えとして、災害危険箇所、避難場所及び避難経路を確認するための教室

一斉地震防災訓練：9月に行った、地震から命を守るための行動をとる訓練

- | | | | | |
|---|--------------------------|---|--------|---|
| 1 | 両方とも参加した | } | → 問 29 | へ |
| 2 | 一斉防災教室のみ参加した | | | |
| 3 | 一斉地震防災訓練のみ参加した | | → 問 32 | へ |
| 4 | 開催されることは知っていたが、参加していない | | → 問 30 | へ |
| 5 | 開催されることを知らなかったので、参加していない | | → 問 31 | へ |

問 29 問 28 で「1 両方とも参加した」、「2 一斉防災教室のみ参加した」を回答した人にお尋ねします。

教室に参加したことをきっかけに取組まれたことはありますか。(○はいくつでも)

- 1 家族などで災害への備えについて話し合った
- 2 地域の災害危険箇所を歩いて確認した
- 3 地域などで行われる防災教室や防災訓練に参加した
- 4 自主防災組織の活動に参加してみたいと考えている
- 5 取り組んでいない
- 6 その他 ()

問 30 問 28 で「4 開催されることは知っていたが、参加していない」を回答した人にお尋ねします。

参加しなかった理由を教えてください。(○はいくつでも)

- 1 他に用事があったから
- 2 忙しいから
- 3 防災活動に参加する必要性を感じないから
- 4 防災活動に関心がないから
- 5 防災教室や防災訓練で何をすればよいのか分からなかったから
- 6 その他 ()

問 31 問 28 で「5 開催されることを知らなかったので、参加していない」を回答した人にお尋ねします。開催されることを知っていれば、参加されましたか。(○は 1 つ)

- 1 参加した
- 2 参加しなかった

【災害への備えについて】

問 32 あなたは、災害に備えて次の各項目を行うことは重要であると思われますか。

また、実際に行っていますか。(それぞれ該当する数字に○を 1 つ)

	重要だと思 行っている	重要だと思 行っていない	重要だと思 われないが 行っている	重要だと思 われないし 行っていない
1 懐中電灯, 携帯ラジオ, 医薬品等非常持出品を用意する	1	2	3	4
2 3 日分以上の食料・飲料水を備蓄する	1	2	3	4
3 災害時における家族間の連絡方法を定める	1	2	3	4
4 家具の転倒防止策をとる	1	2	3	4
5 町内会・自主防災組織に加入する	1	2	3	4



ひとつでも 2 と答えた方は問 33 へ
 ※それ以外の方は問 34 へ進んでください。

問 33 問 32 で「2 重要だと思いながらも行っていない」項目がひとつでもある場合、その理由は何ですか。（それぞれ○は3つまで）

- 1 何をしてよいのか分からないから
- 2 忙しくて備えをする時間がないから
- 3 費用や手間がかかるから
- 4 市や町が物資を提供してくれるから
- 5 災害が起きると思っていないから
- 6 その他 ()

(該当する数字を○で囲んでください。)

項 目	理 由					
1 懐中電灯, 携帯ラジオ, 医薬品等非常持出品を用意する	1	2	3	4	5	6 ()
2 3日分以上の食料・飲料水を備蓄する	1	2	3	4	5	6 ()
3 災害時における家族間の連絡方法を決める	1	2	3	4	5	6 ()
4 家具の転倒防止策をとる	1	2	3	4	5	6 ()
5 町内会・自主防災組織に加入する	1	2	3	4	5	6 ()

問 34 あなたがお住まいの家屋（あなたが所有，又はあなたが同居する親族等が所有）が，建築基準法に基づく現行の耐震基準（昭和 56 年 6 月 1 日導入）以前に建築された方にお尋ねします。

自宅の耐震診断を行ったことがありますか。(〇は1つ)

- 1 ある → 問 35 へ
2 ない → 問 36 へ
3 わからない
4 賃貸物件に住んでいる

問 35 問 34 で「1 ある」を回答した人にお尋ねします。

耐震診断の結果と、その結果を受けてどのような対策を講じた、あるいは講じようとされていますか（○は1つ）

- 1 耐震性があることを確認した
- 2 耐震性がなかったため、耐震改修工事(建て替え)を実施した
- 3 耐震性がなかったため、耐震改修工事(建て替え)を考えている
- 4 耐震性はなかったが、耐震改修工事は考えていない

【災害への意識の変化について】

問 36 平成 26 年 8 月 20 日に広島市で発生した土砂災害以降、家庭、地域などで、災害への備えをされましたか。（○は1つ）

- 1 平成 26 年 8 月 20 日以前から備えをしている
- 2 平成 26 年 8 月 20 日を機に備えをした
- 3 備えはしていない

【「みんなで減災」県民総ぐるみ運動について】

問 37 県では、平成 27 年 4 月から、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動を御存じですか。（○は1つ）

- 1 行動目標を含めて、知っている
 - 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
 - 3 まったく知らない
- 問 38 へ
- 問 39 へ

問 38 問 37 で「1 行動目標を含めて、知っている」又は「2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない」を回答した人にお尋ねします。

この運動を何で知りましたか。(○はいくつでも)

- 1 地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった
- 2 市役所（町役場）の人から聞いた
- 3 学校からの配付資料（チラシ等）
- 4 コンビニ等県政情報ラック（チラシ等）
- 5 県のホームページ
- 6 出前講座，防災教室，防災訓練など
- 7 県広報誌
- 8 県広報番組（テレビ）
- 9 県公式 SNS（フェイスブック・ツイッター）
- 10 街中などにある電子掲示板（デジタルサイネージ）
- 11 テレビや新聞，ラジオなど
- 12 その他（ ）

問 39 あなたは、防災・減災についてどんなことから取り組んでみたいと思いますか。

- (例)** ・災害危険箇所，避難場所，避難経路などの確認
- ・気象情報，防災情報の入手手段の確保（防災情報メールなど）
 - ・災害の種類に応じた早めの適切な避難行動，隣近所での避難の声掛け
 - ・防災教室や防災訓練への参加
 - ・非常持出品の準備，家具の転倒防止等

問 40 防災・減災について自由な御意見をお願いします。

質問は以上です。

御協力ありがとうございました。

防災・減災に関するアンケート調査

発行日 平成 28 年 2 月

発行 広島県危機管理監減災対策推進担当

〒730-8511 広島市中区基町 10 番 52 号

T E L : (082) 513-2781

F A X : (082) 227-2122

E-mail : gensai@pref.hiroshima.jp